

# Enterprise Vault™ PowerShell cmdlet

12.3

# Enterprise Vault™: PowerShell cmdlet

最終更新日: 2018-03-15。

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、Veritas がオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP.html](https://www.veritas.com/support/ja_JP.html)

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/vqa](https://www.veritas.com/support/en_US/vqa)

## マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100040095](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095)

## マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

[evdocs@veritas.com](mailto:evdocs@veritas.com)

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

# 目次

第 1 章	Enterprise Vault PowerShell cmdlet の概要 .....	8
	Enterprise Vault 管理シェルのについて .....	8
	Enterprise Vault PowerShell cmdlet のヘルプの使用方法 .....	9
	PowerShell 文字列のルール .....	9
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先 .....	9
	Enterprise Vault トレーニングモジュール .....	12
第 2 章	アーカイブ: Exchange .....	13
	Add-EVPstComputer .....	13
	Add-EVPstFile .....	14
	Get-EVExchangeMailboxPolicy .....	16
	New-EVExchangeMailboxPolicy .....	20
	Remove-EVExchangeFolderPolicy .....	27
	Remove-EVExchangeMailboxPolicy .....	29
	Set-EVExchangeMailboxPolicy .....	29
第 3 章	アーカイブ: FSA .....	38
	Get-EVFSAServer .....	38
	Get-EVFSASFolder .....	45
	Get-EVFSASVolume .....	48
	New-EVFSAServer .....	51
	New-EVFSASFolder .....	58
	New-EVFSASVolume .....	63
	Remove-EVFSAServer .....	66
	Remove-EVFSASFolder .....	68
	Remove-EVFSASVolume .....	70
	Set-EVFSAServer .....	72
	Set-EVFSASFolder .....	81
	Set-EVFSASVolume .....	87
第 4 章	アーカイブ: Skype for Business .....	91
	Get-EVSkypeForBusinessTarget .....	91
	New-EVSkypeForBusinessTarget .....	94
	Remove-EVSkypeForBusinessTarget .....	101

	Set-EVSkypeForBusinessTarget .....	103
第 5 章	アーカイブ: SMTP .....	114
	Get-EVSMTPHoldingFolder .....	114
	Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation .....	116
	Get-EVSMTPPolicy .....	117
	Get-EVSMTPServerSettings .....	120
	Get-EVSMTPTarget .....	122
	New-EVSMTPPolicy .....	127
	New-EVSMTPServerSettings .....	129
	New-EVSMTPTarget .....	135
	Remove-EVSMTPPolicy .....	143
	Remove-EVSMTPTarget .....	144
	Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation .....	145
	Set-EVSMTPPolicy .....	147
	Set-EVSMTPServerSettings .....	148
	Set-EVSMTPTarget .....	154
	Sync-EVSMTPServerSettings .....	162
第 6 章	バックアップ .....	164
	Clear-IndexLocationBackupMode .....	164
	Clear-VaultStoreBackupMode .....	166
	Get-IndexLocationBackupMode .....	169
	Get-VaultStoreBackupMode .....	171
	Set-IndexLocationBackupMode .....	173
	Set-VaultStoreBackupMode .....	174
第 7 章	分類 .....	177
	Disable-EVClassification .....	177
	Get-EVClassificationFCITags .....	179
	Get-EVClassificationPolicy .....	180
	Get-EVClassificationStatus .....	183
	Get-EVClassificationTestMode .....	184
	Get-EVClassificationVICTags .....	185
	Import-EVClassificationFCIRules .....	187
	Initialize-EVClassificationVIC .....	190
	New-EVClassificationPolicy .....	192
	Publish-EVClassificationFCIRules .....	196
	Remove-EVClassificationPolicy .....	200
	Set-EVClassificationPolicy .....	201
	Set-EVClassificationTestMode .....	204

第 8 章	データベース .....	206
	Get-EVDatabase .....	206
	Get-EVDatabaseDetail .....	207
	Get-EVDatabaseFileInfo .....	209
	Get-EVStorageDatabase .....	211
	Set-EVDatabaseDetail .....	213
	Start-EVDatabaseUpgrade .....	215
第 9 章	IMAP アクセス .....	217
	Get-EVIMAPUsers .....	217
	Get-EVIMAPUserSettings .....	219
	Set-EVIMAPServerDisabled .....	221
	Set-EVIMAPServerEnabled .....	222
第 10 章	インデックス .....	224
	Get-EVIndexLocation .....	224
	Get-EVMDSStatus .....	225
	Get-IndexServerForIndexLocation .....	227
	New-EVMDSBUILDTask .....	228
	Set-IndexMetadataSyncLevel .....	230
第 11 章	レコード管理 .....	233
	Export-EVNARAArchive .....	233
	Get-EVRecordSettings .....	238
第 12 章	保持計画 .....	241
	Get-EVRetentionPlan .....	241
	New-EVRetentionPlan .....	245
	Remove-EVRetentionPlan .....	250
	Set-EVRetentionPlan .....	251
第 13 章	役割ベースの管理 .....	258
	Add-EVRBARoleMember .....	258
	Get-EVRBAAzStoreXml .....	262
	Get-EVRBARole .....	263
	Get-EVRBARoleMember .....	265
	Remove-EVRBARoleMember .....	268
	Set-EVRBAAzStoreXml .....	271

第 14 章	サイトおよびサーバー .....	273
	Get-EVComputers .....	273
	Get-EVFileLocation .....	274
	Get-EVIlISWebsite .....	275
	Get-EVServer .....	276
	Get-EVSite .....	277
	Get-EVSiteInfo .....	278
第 15 章	タスクおよびサービス .....	280
	Get-EVDependencyService .....	280
	Get-EVDependencyServiceState .....	281
	Get-EVService .....	282
	Get-EVServiceState .....	283
	Get-EVTask .....	284
	Get-EVTaskState .....	285
第 16 章	ボルトストアおよびアーカイブ .....	287
	Export-EVArchive .....	287
	Get-EVArchive .....	291
	Get-EVVaultStore .....	294
	Get-EVVaultStorePartition .....	295
	Remove-EVArchive .....	298
	Set-EVArchive .....	301
	Start-PartitionRollover .....	304

# Enterprise Vault PowerShell cmdlet の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault 管理シェルについて](#)
- [Enterprise Vault PowerShell cmdlet のヘルプの使用方法](#)
- [PowerShell 文字列のルール](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

## Enterprise Vault 管理シェルについて

Enterprise Vault 管理シェルは、Windows PowerShell 技術で構築され、管理タスクを自動化する強力なコマンドラインインターフェースを備えています。Enterprise Vault 管理シェルを使用すると、さまざまな側面から Enterprise Vault を管理できます。Enterprise Vault 管理シェルを開くと、PowerShell セッションが作成され、Enterprise Vault スナップインが自動的にロードされます。これらのスナップインを使用すると、このマニュアルで説明する Enterprise Vault のすべての cmdlet をネイティブの PowerShell の cmdlet と共に利用できるようになります。

次の点に注意してください。

- 以前のバージョンの Enterprise Vault では、Enterprise Vault 管理シェルで自動的にロードされない PowerShell の cmdlet を使用する場合に、特定のモジュールをインポートする必要がありました。これは、Enterprise Vault 12.3 以降には当てはまりません。Enterprise Vault 12.3 以降では Enterprise Vault PowerShell のすべての cmdlet を管理シェルですぐに利用できます。
- デフォルトフォルダ (通常は C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) 以外のフォルダに Enterprise Vault をインストールすると、Enterprise Vault 管理シェルを開いたときに次のメッセージが表示されることがあります。



Do you want to run software from this untrusted publisher?

このメッセージが再び表示されないようにするには、**A (Always run の意味)** と入力します。このオプションにより、システムに Enterprise Vault PowerShell のすべての cmdlet をロードして実行できる Code Signing Certificate がインストールされます。

## Enterprise Vault PowerShell cmdlet のヘルプの使用方法

Enterprise Vault のすべての PowerShell cmdlet についてのヘルプが利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると Clear-VaultStoreBackupMode の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Clear-VaultStoreBackupMode -detailed
```

-examples パラメータを使ってヘルプから cmdlet の使用例のみを出力したり、-full パラメータを使って利用可能な詳細ヘルプを出力したりすることもできます。

PowerShell の Get-Help cmdlet の使用について詳しくは、次のコマンドを使ってください。

```
Get-Help Get-Help
```

## PowerShell 文字列のルール

PowerShell のすべての cmdlet では、ドル記号 (\$) またはバッククォート (`) を含む文字列は一重引用符 (') を使ってエスケープする必要があります。

文字列における引用符の使い方について詳しくは、次のコマンドを使って確認してください。

```
Get-Help about_Quoting_Rules
```

Microsoft ナレッジベースの次の記事にも引用符のルールに関する情報があります。

<https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh847740.aspx>

## Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

表 1-1 に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。</li> <li>■ 管理コンソールの[ヘルプ]メニューで[Enterprise Vault のヘルプ]をクリックします。</li> </ul>
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。

マニュアル	コメント
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

## Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

# アーカイブ: Exchange

この章では以下の項目について説明しています。

- [Add-EVPstComputer](#)
- [Add-EVPstFile](#)
- [Get-EVExchangeMailboxPolicy](#)
- [New-EVExchangeMailboxPolicy](#)
- [Remove-EVExchangeFolderPolicy](#)
- [Remove-EVExchangeMailboxPolicy](#)
- [Set-EVExchangeMailboxPolicy](#)

## Add-EVPstComputer

Add-EVPstComputer は、検索移行型 PST 移行のターゲットとしてコンピュータを追加します。設定に応じて、Enterprise Vault は Enterprise Vault に移行する PST ファイルをコンピュータで検索することができます。たとえば、個々のユーザーに属するコンピュータを追加することも、多くのユーザーに属する PST ファイルをホストにするファイルサーバーを追加することもできます。

Add-EVPstComputer は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できます。

### 構文

```
Add-EVPstComputer -Name <String> [-Mailbox <String>] [-EnableSearch]
[-SiteName <String>] [-DirectoryServer <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 2-1 Add-EVPstComputer パラメータ

パラメータ	説明
-Name (必須)	PST の移行先として追加するコンピュータの名前。
-Mailbox	Enterprise Vault がコンピュータ上で見つかった PST ファイルから移行されたアイテムのショートカットを配置するメールボックスの名前。メールボックスを指定しない場合、Add-EVPstComputer では各 PST ファイルが関連付けられているメールボックスが使用されます。通常、ファイルサーバーなど、異なるユーザーに属する PST ファイルをホストにするコンピュータに対してはメールボックスを指定しません。
-EnableSearch	Enterprise Vault で対象コンピュータの PST ファイルを検索する場合、-EnableSearch を使用します。
-SiteName	環境に複数の Enterprise Vault サイトがある場合、-SiteName を使用して、コンピュータを追加するサイトを指定します。
-DirectoryServer	Enterprise Vault サーバー以外のサーバーから Add-EVPstComputer を実行する場合、Add-EVPstComputer で接続する必要がある Enterprise Vault サーバーの名前を指定します。

## 例

- `Add-EVPstComputer -Name FileServer1 -EnableSearch`  
FileServer1 を PST 移行先として追加し、Enterprise Vault でサーバーの PST ファイルが検索されるように指定します。
- `Add-EVPstComputer -Name JohnDoeLaptop -Mailbox "John Doe" -EnableSearch`  
PST 移行先として John Doe のノートパソコンが追加され、また Enterprise Vault で移行されたアイテムのためのショートカットが配置される John のメールボックスが指定されます。

## 関連コマンドレット

- p.14 の「[Add-EVPstFile](#)」を参照してください。

# Add-EVPstFile

Add-EVPstFile は、内容を Enterprise Vault に移行する PST ファイルの UNC パスと名前を指定します。

Add-EVPstFile は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Add-EVPstFile -UNCPath <String> [-Mailbox <String>] [-Archive  
<String>] [-ArchiveType <String>] [-RetentionCategory <String>]  
[-PasswordProtected] [-Language <String>] [-Priority <String>]  
[-SiteName <String>] [-DirectoryServer <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 2-2 Add-EVPstFile パラメータ

パラメータ	説明
-UNCPath (必須)	PST ファイル自体の名前を含む、移行する PST ファイルへの完全 UNC パス。
-Mailbox	Enterprise Vault が移行されたアイテムのショートカットを配置するメールボックスの名前。メールボックスを指定しない場合、Add-EVPstFile は PST ファイルが関連付けられているメールボックスを使用します。
-Archive	PST ファイルの内容を移行するアーカイブの名前。アーカイブを指定しない場合、Add-EVPstFile はアイテムを PST ファイルを所有するメールボックスと関連付けられているアーカイブに移行します。
-ArchiveType	アーカイブの種類。[Exchange メールボックス]または[インターネットメール]のいずれかを指定できます。メールボックスを指定すると、PST は関連付けられた Exchange メールボックスアーカイブに移行されます。メールボックスを指定しない場合、Enterprise Vault では Exchange メールボックスアーカイブとインターネットメールアーカイブの両方でアーカイブが検索されます。アーカイブが 1 つのみ検出されると、Enterprise Vault ではそのアーカイブの種類がファイルのアーカイブの種類に設定され、検出されたアーカイブにファイルが移行されます。複数のエントリが検出された場合、Enterprise Vault では Exchange メールボックスアーカイブにファイルが移行されます。メールボックスはインターネットメールアーカイブに関連付けることができません。
-RetentionCategory	移行されたアイテムに適用される保持カテゴリ。保持カテゴリを指定しない場合、Add-EVPstFile は適用可能な PST 移行ポリシーの保持カテゴリセットを使用します。
-PasswordProtected	PST ファイルがパスワード保護されていることを示します。 -PasswordProtected を使用する場合、Add-EVPstFile によりパスワード入力を求めるメッセージが表示されます。
-Language	PST ファイルで使われる言語。言語を指定しない場合、Add-EVPstFile は適用可能な PST 移行ポリシーの言語セットを使用します。

パラメータ	説明
-Priority	PST ファイルの移行の優先度を設定します。次の優先度、またはかっこ内に示される関連付けられている数値のうちいずれかを指定できます: Critical (1)、Important (2)、High (3)、Medium (4)、Low (5)、Lowest (6) デフォルトの優先度は Medium (4) です。
-SiteName	環境に複数の Enterprise Vault サイトがある場合、-SiteName を使用して、PST ファイルを移行するサイトを指定します。
-DirectoryServer	Enterprise Vault サーバー以外のサーバーから Add-EVPstFile を実行する場合、Add-EVPstFile で接続する必要がある Enterprise Vault サーバーの名前を指定します。

## 例

- Add-EVPstFile -UNCPath  
¥¥FileServer1¥UserShares¥VIPs¥JohnDoe¥PSTs¥2012.pst  
移行に指定された PST ファイルが Enterprise Vault に追加されます。
- Add-EVPstFile -UNCPath ¥¥abc.xyz.com¥c\$¥user1.pst -Archive IMAP1  
-ArchiveType "Internet Mail"  
指定したインターネットメールアーカイブに PST ファイルを移行します。

## 関連コマンドレット

- p.13 の「[Add-EVPstComputer](#)」を参照してください。

# Get-EVExchangeMailboxPolicy

Get-EVExchangeMailboxPolicy は、Enterprise Vault サイトで設定されているすべての Exchange メールボックスポリシーの一覧を返します。-Name パラメータを使用して特定のポリシーのプロパティを返すこともできます。

Get-EVExchangeMailboxPolicy は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVExchangeMailboxPolicy [-Name <String>] [-SiteId <String>]  
[-EntryId <String>] [<CommonParameters>]
```



## パラメータ

表 2-3 Get-EVExchangeMailboxPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-Name	返される Exchange メールボックスポリシーの名前。
-SiteId	Exchange メールボックスポリシーの詳細を返す Enterprise Vault サイトの ID。 このパラメータを省略し、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、Get-EVExchangeMailboxPolicy は必要な ID の入力を求めます。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-EntryId	取得するポリシーのディレクトリエントリ ID。

## 例

- `Get-EVExchangeMailboxPolicy -Name "Default Exchange mailbox policy"`  
「Default Exchange mailbox policy」という Exchange メールボックスポリシーのプロパティを返します。
- `Get-EVExchangeMailboxPolicy -SiteId 198...example.com`  
指定したサイトで設定されているすべての Exchange メールボックスポリシーを一覧表示します。各ポリシーのプロパティも返されます。

## 出力

このコマンドは、表 2-4 の一覧に表示されているプロパティを含む `Symantec.EnterpriseVault.Admin.ExchangeMailboxPolicy` 型のオブジェクトを返します。

値が列挙値のパラメータもあります。Exchange メールボックスポリシーの列挙値について詳しくは、次のコマンドを入力してください。

```
get-help about_ExchMbxPolicyEnumerations.
```

表 2-4 Get-EVExchangeMailboxPolicy プロパティ

名前	種類	説明
ArchivingStrategy	列挙	Exchange メールボックスポリシーのアーカイブ戦略。 (ArchivingStrategyEnum)
LockArchivingStrategy	Boolean	ユーザーが Outlook を使用してこのポリシーのアーカイブ戦略を変更できないようにするかどうか。

名前	種類	説明
ArchiveItemsOlderThan	整数	<b>Exchange</b> メールボックスタスクで、設定した期間に修正されなかったアイテムをアーカイブします。
ArchiveItemsOlderThanUnits	列挙	ArchiveItemsOlderThan で使用する時間の単位。例: <b>Days</b> 、 <b>Weeks</b> 、 <b>Years</b> 。(AgeUnitsEnum)
PercentageOfQuota	整数	<b>Exchange</b> メールボックスタスクで、各メールボックスの空き容量が指定した割合に達するまで、アイテムをアーカイブします。
MinimumArchiveAge	整数	アーカイブするアイテムの最小経過期間。
MinimumArchiveAgeUnits	列挙	MinimumArchiveAge で使用する時間の単位。たとえば、 <b>Days</b> 、 <b>Weeks</b> 、 <b>Years</b> 。(AgeUnitsEnum)
SizePriority	Boolean	<b>Exchange</b> メールボックスタスクで、MinimumItemSizeKB より大きいアイテムを優先するかどうか。
MinimumItemSizeKB	整数	<b>Exchange</b> メールボックスタスクで、このサイズより大きいアイテムを優先します。
ArchiveMsgsWithAttachmentsOnly	Boolean	添付ファイルが存在する場合にのみメールボックスのアイテムをアーカイブするかどうか。
ShortcutInactivityPeriod	整数	アーカイブタスクで、指定した期間を経過したショートカットを削除します。
ShortcutInactivityUnits	列挙	ShortcutInactivityPeriod で使用する時間の単位。 (AgeUnitsEnum)
DeleteAfterArchive	Boolean	アーカイブにアイテムが正常に格納されたら、 <b>Enterprise Vault</b> でメールボックスからそのアイテムを削除するかどうか。
LockDeleteAfterArchive	Boolean	個人用設定でユーザーがこの設定を変更できないようにするかどうか。

名前	種類	説明
CreateShortcutAfterArchive	Boolean	Enterprise Vault で、新しくアーカイブされたアイテムのショートカットを追加するかどうか。
LockCreateShortcutAfterArchive	Boolean	個人用設定でユーザーがこの設定を変更できないようにするかどうか。
ArchiveUnreadItems	Boolean	Enterprise Vault で、読み込まれていないアイテムをアーカイブするかどうか。
LockArchiveUnreadItems	Boolean	個人用設定でユーザーがこの設定を変更できないようにするかどうか。
OverallLock	Boolean	ポリシーとアーカイブ先の設定をメールボックスのアーカイブに使用するようにユーザーに強制するかどうか。
IncludeRecipientInformation	Boolean	ショートカットに、宛先と CC の受信者の詳細を含めるかどうか。通常、ショートカットには差出人と件名の情報が含まれます。
ContentOfShortcutBody	列挙	ショートカットの本文として使用する内容。(ShortcutBodyContent)
IncludeBanner	Boolean	カスタマイズしたショートカットに、上部にある色付きのバナーを含めるかどうか。
IncludeLinkToArchivedItem	Boolean	カスタマイズしたショートカットに、アーカイブ済みアイテムのリンクを含めるかどうか。
MessageCharsToInclude	整数	カスタマイズしたショートカットに含めるメッセージの本文部分の文字数。
DisplayAttachmentsAs	列挙	カスタマイズしたショートカットの添付ファイル一覧の種類。(AttachmentsDisplay)
IndexLevel	列挙	ユーザーアーカイブのインデックスレベルの設定。(IndexingLevelEnum)
IndexPreviewLength	整数	Enterprise Vault が検索結果の一覧に表示する各アイテムのテキスト量。

名前	種類	説明
CreateAttachmentPreview	Boolean	Enterprise Vault で、添付ファイルの内容のプレビューを作成するかどうか。このプレビューは、このリリースの Enterprise Vault では表示できません。
PolicyType	列挙	ポリシーの種類。
Name	文字列	Exchange メールボックスポリシーの名前。
Description	文字列	Exchange メールボックスポリシーの説明。
IsADefaultPolicy	Boolean	ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。
SiteId	文字列	ポリシーが設定されている Enterprise Vault サイトの ID。
SiteNameOrId	文字列	ポリシーが設定されている Enterprise Vault サイトの名前または ID。
EntryId	文字列	ポリシーのディレクトリエントリ ID。

## 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.20 の「[New-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。
- p.29 の「[Remove-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。
- p.29 の「[Set-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。

# New-EVExchangeMailboxPolicy

New-EVExchangeMailboxPolicy は、新しい Exchange メールボックスポリシーを作成します。

New-EVExchangeMailboxPolicy は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

列挙値を使用するパラメータもあります。**Exchange** メールボックスポリシーの列挙値について詳しくは、`get-help about_ExchMbxPolicyEnumerations` と入力してください。

構文

```
New-EVExchangeMailboxPolicy -Name <String> [-ArchivingStrategy
<ArchivingStrategyEnum>] [-LockArchivingStrategy <Boolean>]
[-ArchiveItemsOlderThan <Integer>] [-ArchiveItemsOlderThanUnits
<AgeUnitsEnum>] [-PercentageOfQuota <Integer>] [-MinimumArchiveAge
<Integer>] [-MinimumArchiveAgeUnits <AgeUnitsEnum>] [-SizePriority
<Boolean>] [-MinimumItemSizeKB <Integer>]
[-ArchiveMsgsWithAttachmentsOnly <Boolean>] [-ShortcutInactivityPeriod
<Integer>] [-ShortcutInactivityUnits <AgeUnitsEnum>]
[-DeleteAfterArchive <Boolean>] [-LockDeleteAfterArchive <Boolean>]
[-CreateShortcutAfterArchive <Boolean>]
[-LockCreateShortcutAfterArchive <Boolean>] [-ArchiveUnreadItems
<Boolean>] [-LockArchiveUnreadItems <Boolean>] [-OverallLock
<Boolean>] [-IncludeRecipientInformation <Boolean>]
[-ContentOfShortcutBody <ShortcutBodyContent Enum>] [-IncludeBanner
<Boolean>] [-IncludeLinkToArchivedItem <Boolean>]
[-MessageCharsToInclude <Integer>] [-DisplayAttachmentsAs
<AttachmentsDisplay Enum>] [-IndexLevel <IndexingLevelEnum>]
[-IndexPreviewLength <Integer>] [-CreateAttachmentPreview <Boolean>]
[-IsADefaultPolicy <Boolean>] [-Description <String>] [-SiteId
<String>] [-EntryId <String>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 2-5 New-EVExchangeMailboxPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-Name (必須)	作成する <b>Exchange</b> メールボックスポリシーの名前。名前は一意である必要があり、最大 <b>40</b> 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。

パラメータ	説明
-ArchivingStrategy	<p><b>Exchange</b> メールボックスポリシーのアーカイブ戦略。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>BasedOnAge</b> または <b>0</b>。アイテムの経過期間に基づいてアーカイブされます。これはデフォルト値です。</li><li>■ <b>BasedOnQuota</b> または <b>1</b>。各ユーザーの <b>Exchange</b> メールボックスの空き容量の割合を確保するためにアーカイブされます。</li><li>■ <b>BasedOnAgeAndQuota</b> または <b>2</b>。アーカイブ戦略はアイテムの経過日数と、各ユーザーの <b>Exchange</b> メールボックスの空き容量の割合維持に基づきます。タスクは最初に経過日数に基づきアーカイブを実行します。経過日数に基づくアーカイブによってメールボックスの空き容量が必要な割合にならない場合、必要な割合に達するまでアーカイブが続行されます。</li></ul>
-LockArchivingStrategy	<p><b>Outlook</b> でユーザーがこのポリシーのアーカイブ戦略を変更できないようにするかどうか。デフォルトは <code>\$true</code> です。</p>
-ArchiveItemsOlderThan	<p><b>Exchange</b> メールボックスタスクで、指定した期間に修正されなかったアイテムをアーカイブします。</p>
-ArchiveItemsOlderThanUnits	<p>ArchiveItemsOlderThan で使用する時間の単位。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>Days</b> または <b>0</b>。</li><li>■ <b>Weeks</b> または <b>1</b>。</li><li>■ <b>Months</b> または <b>2</b>。これはデフォルト値です。</li><li>■ <b>Years</b> または <b>3</b>。</li></ul>
-PercentageOfQuota	<p>アーカイブ戦略に基づいたクォータを実装する場合に、各ユーザーの <b>Exchange</b> メールボックスで確保するストレージ空き容量の割合を指定します。<b>Exchange</b> メールボックスタスクで、各メールボックスのストレージ空き容量が指定した割合に達するまで、アイテムをアーカイブします。デフォルト値は <b>10</b> です。</p>
-MinimumArchiveAge	<p>アーカイブするアイテムの最小経過期間。デフォルト値は <b>2</b> です。</p>

パラメータ	説明
-MinimumArchiveAgeUnits	MinimumArchiveAge で使用する時間の単位。設定可能な列挙値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Days または 0。</li><li>■ Weeks または 1。これはデフォルト値です。</li><li>■ Months または 2。</li><li>■ Years または 3。</li></ul>
-SizePriority	Exchange メールボックスタスクで、MinimumItemSizeKB より大きいアイテムを優先するかどうか。デフォルトは \$false です。
-MinimumItemSizeKB	Exchange メールボックスタスクで、このサイズ (KB) より大きいアイテムを優先します。デフォルトのサイズは 10240 です。
-ArchiveMsgsWithAttachmentsOnly	添付ファイルが存在する場合にのみメールボックスのアイテムをアーカイブするかどうか。デフォルトは \$false です。
-ShortcutInactivityPeriod	指定した期間を経過したショートカットを削除します。デフォルト値は 0 です。
-ShortcutInactivityUnits	ShortcutInactivityPeriod で使用する時間の単位。設定可能な列挙値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Days または 0。これはデフォルト値です。</li><li>■ Weeks または 1。</li><li>■ Months または 2。</li><li>■ Years または 3。</li></ul>
-DeleteAfterArchive	アーカイブにアイテムが正常に格納されたら、Enterprise Vault でメールボックスからそのアイテムを削除するかどうか。デフォルトは \$true です。
-LockDeleteAfterArchive	個人用設定でユーザーが DeleteAfterArchive の設定を変更できないようにするかどうか。デフォルトは \$true です。
-CreateShortcutAfterArchive	Enterprise Vault で、新しくアーカイブされたアイテムのショートカットを作成するかどうか。デフォルトは \$true です。

パラメータ	説明
-LockCreateShortcutAfterArchive	個人用設定でユーザーが CreateShortcutAfterArchive の設定を変更できないようにするかどうか。デフォルトは \$true です。
-ArchiveUnreadItems	Enterprise Vault で、読み込まれていないアイテムをアーカイブするかどうか。
-LockArchiveUnreadItems	個人用設定でユーザーが ArchiveUnreadItems の設定を変更できないようにするかどうか。デフォルトは \$true です。
-OverallLock	<p>ユーザーが DeleteAfterArchive、CreateShortcutAfterArchive、ArchiveUnreadItems、ArchivingStrategy の設定を変更できないようにします。</p> <p>メールボックスのアーカイブにポリシーとアーカイブ先の設定を使用するようにユーザーに強制するには、\$true (デフォルト) の値を指定します。</p>
-IncludeRecipientInformation	ショートカットに、宛先と CC の受信者の詳細を含めるかどうか。通常、ショートカットには差出人と件名の情報が含まれます。デフォルトは \$true です。



パラメータ	説明
-ContentOfShortcutBody	<p>ショートカットの本文として使う内容。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>None</b> または <b>0</b>。Enterprise Vault は、元のメッセージ本文を含まないショートカットを生成します。</li><li>■ <b>UseMessageBody</b> または <b>1</b>。Enterprise Vault は、元のメッセージ本文すべてを含むショートカットを生成します。メッセージテキストを Outlook 内で検索して、Outlook のプレビューペインに表示できます。Enterprise Vault は添付ファイルを含む完全なメッセージをアーカイブします。メッセージの本文を保持する場合、ショートカットの容量は本文を保持しない場合よりも大きくなります。添付ファイルがないメッセージの場合、ショートカットの容量は元のメッセージよりも少し大きくなります。</li><li>■ <b>Customize</b> または <b>2</b>。IncludeBanner、IncludeLinkToArchivedItem、MessageCharsToInclude、DisplayAttachmentsAs を使用して、ショートカットの内容を厳密に制御します。<b>Customize</b> を指定する場合は、Languages フォルダにある適切な ShortcutText.txt ファイルを Enterprise Vault のインストール先フォルダにコピーする必要があります。</li></ul> <p>デフォルト値は <b>Customize</b> です。</p>
-IncludeBanner	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、上部にある色付きのバナーをショートカットに含めるかどうかを指定します。ShortcutText.txt ファイルを編集すると、バナーに表示するテキストを修正できます。デフォルトは \$false です。</p>
-IncludeLinkToArchivedItem	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、ショートカットにアーカイブ済みアイテムのリンクを含めるように選択しているかどうか。デフォルトは \$false です。</p>
MessageCharsToInclude	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、ショートカットに含めるメッセージの本文部分の文字数を指定します。デフォルトは <b>1000</b> です。</p>

パラメータ	説明
-DisplayAttachmentsAs	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、<b>Enterprise Vault</b> でショートカットに含める添付ファイル一覧の種類。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>None</b> または <b>0</b>。添付ファイルは、ショートカットに一覧表示されません。</li><li>■ <b>Text</b> または <b>1</b>。各添付ファイルの件名テキストが一覧表示されます。ユーザーは完全なアーカイブ済みアイテムを開いて、添付ファイルにアクセスする必要があります。</li><li>■ <b>Links</b> または <b>2</b>。アーカイブ済み添付ファイルのリンクの一覧が表示されます。ユーザーは個々の添付ファイルを直接開くことができます。</li></ul> <p>デフォルト値は <b>None</b> です。</p>
-IndexLevel	<p>アーカイブのインデックスに割り当てるインデックスレベル。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>Brief</b> または <b>0</b>。<b>Enterprise Vault</b> は、コンテンツではなくアーカイブ済みアイテムのメタデータにインデックス付けします。たとえば、<b>Enterprise Vault</b> は送信者とアイテムの日付をインデックス付けします。ユーザーはこれらのアイテムの内容を検索できません。</li><li>■ <b>Full</b> または <b>2</b>。<b>Enterprise Vault</b> は、アーカイブ済みアイテムおよびその添付ファイルの内容とメタデータにインデックス付けします。ユーザーはアイテムと添付ファイルの内容を検索できます。</li></ul> <p>デフォルト値は <b>Full</b> です。</p>
-IndexPreviewLength	<p><b>Enterprise Vault</b> が検索結果に表示する各アイテムのテキスト量。</p> <p>デフォルト値は <b>128</b> です。</p>
-CreateAttachmentPreview	<p><b>Enterprise Vault</b> で、添付ファイルの内容のプレビューを作成するかどうか。このプレビューは、このリリースの <b>Enterprise Vault</b> では表示できません。デフォルトは <code>\$false</code> です。</p>
-IsADefaultPolicy	<p>ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。デフォルトは <code>\$false</code> です。</p>

パラメータ	説明
-Description	Exchange メールボックスポリシーの説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。
-SiteId	ポリシーが設定されている Enterprise Vault サイトのディレクトリエントリ ID。
-EntryId	ポリシーのディレクトリエントリ ID。

## 例

- `New-EVExchangeMailboxPolicy -Name "Test Policy" -Description "Test policy created using PowerShell"`  
「Test Policy created using PowerShell」という説明を加えて、Test Policy という新しい Exchange メールボックスポリシーを作成します。
- `New-EVExchangeMailboxPolicy -Name "Test Policy" -ArchivingStrategy BASEDONAGE -ArchiveItemsOlderThan 3 -ArchiveItemsOlderThanUnits YEARS`  
「Test Policy」という新しい Exchange メールボックスポリシーを作成します。アーカイブは経過期間に基づいて実行されます。Enterprise Vault は、3 年以上経過したアイテムをアーカイブします。

## 出力

なし。

## 関連コマンドレット

- p.16 の「[Get-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。
- p.29 の「[Remove-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。
- p.29 の「[Set-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。

# Remove-EVExchangeFolderPolicy

Remove-EVExchangeFolderPolicy は、メールボックス内のフォルダから Enterprise Vault フィルタ設定を削除します。影響を受けるフォルダは、Exchange 管理フォルダのみが含まれるように制限することができます。

Remove-EVExchangeFolderPolicy は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できません。

## 構文

```
Remove-EVExchangeFolderPolicy -PrimarySMTPAddress <String>  
[-DomainController <String>] [-DontUseSSL] [-Credential  
<PSCredential>] [-ManagedFolders] [-MailServer <String>] [-LogFile  
<String>] [-ExchangeWebServicesURL <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 2-6 Remove-EVExchangeFolderPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-PrimarySMTPAddress (必須)	使用されるメールボックスのプライマリ SMTP アドレスを指定します。
-DomainController	LDAP ルックアップクエリーを実行する必要があるドメインコントローラを指定します。
-DontUseSSL	Exchange Server への接続時に SSL が使用されないように指定します。
-Credential	Exchange Server への接続に使用する必要がある PSCredential を指定します。これは Enterprise Vault 管理者アカウントである必要があります。
-ManagedFolders	Exchange 管理フォルダポリシーが設定されているフォルダのみ削除を制限します。
-MailServer	メールボックスと関連付けられているメールボックスサーバー値を上書きし、指定されたサーバーの使用を試行します。
-LogFile	出力をコンソールではなく指定されたファイルに記録します。
-ExchangeWebServicesURL	Exchange 2010 環境の Exchange Web サービス URL を指定します。このパラメータは、Remove-EVExchangeFolderPolicy が Exchange Web サービス URL の自動決定に失敗した場合に使用します。

## 例

- `Remove-EVExchangeFolderPolicy -PrimarySMTPAddress user1@example.com -ManagedFolders`  
SMTP アドレスが `user1@example.com` のメールボックスにある Exchange 管理フォルダから Enterprise Vault フィルタ設定を削除します。

# Remove-EVExchangeMailboxPolicy

Remove-EVExchangeMailboxPolicy は、Exchange メールボックスポリシーを削除します。

Remove-EVExchangeMailboxPolicy は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Remove-EVExchangeMailboxPolicy -Name <String> [-SiteId <String>]
[-EntryId <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 2-7 Remove-EVExchangeMailboxPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-Name (必須)	削除する Exchange メールボックスポリシーの名前。
-SiteId	ポリシーが設定されている Enterprise Vault サイトのディレクトリエントリ ID。
-EntryId	ポリシーのディレクトリエントリ ID。

## 例

- Remove-EVExchangeMailboxPolicy -Name "Test Policy"  
「Test Policy」という Exchange メールボックスポリシーを削除します。

## 出力

なし。

## 関連コマンドレット

- p.16 の「Get-EVExchangeMailboxPolicy」を参照してください。
- p.20 の「New-EVExchangeMailboxPolicy」を参照してください。
- p.29 の「Set-EVExchangeMailboxPolicy」を参照してください。

# Set-EVExchangeMailboxPolicy

Set-EVExchangeMailboxPolicy は、既存の Exchange メールボックスポリシーのプロパティを設定または更新します。

Set-EVExchangeMailboxPolicy は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

列挙値を使用するパラメータもあります。**Exchange** メールボックスポリシーの列挙値について詳しくは、`get-help about_ExchMbxPolicyEnumerations` と入力してください。

## 構文

```
Set-EVExchangeMailboxPolicy -Name <String> [-ArchivingStrategy  
<ArchivingStrategyEnum>] [-LockArchivingStrategy <Boolean>]  
[-ArchiveItemsOlderThan <Integer>] [-ArchiveItemsOlderThanUnits  
<AgeUnitsEnum>] [-PercentageOfQuota <Integer>] [-MinimumArchiveAge  
<Integer>] [-MinimumArchiveAgeUnits <AgeUnitsEnum>] [-SizePriority  
<Boolean>] [-MinimumItemSizeKB <Integer>]  
[-ArchiveMsgsWithAttachmentsOnly <Boolean>] [-ShortcutInactivityPeriod  
<Integer>] [-ShortcutInactivityUnits <AgeUnitsEnum>]  
[-DeleteAfterArchive <Boolean>] [-LockDeleteAfterArchive <Boolean>]  
[-CreateShortcutAfterArchive <Boolean>]  
[-LockCreateShortcutAfterArchive <Boolean>] [-ArchiveUnreadItems  
<Boolean>] [-LockArchiveUnreadItems <Boolean>] [-OverallLock  
<Boolean>] [-IncludeRecipientInformation <Boolean>]  
[-ContentOfShortcutBody <ShortcutBodyContent Enum>] [-IncludeBanner  
<Boolean>] [-IncludeLinkToArchivedItem <Boolean>]  
[-MessageCharsToInclude <Integer>] [-DisplayAttachmentsAs  
<AttachmentsDisplay Enum>] [-IndexLevel <IndexingLevelEnum>]  
[-IndexPreviewLength <Integer>] [-CreateAttachmentPreview <Boolean>]  
[-IsADefaultPolicy <Boolean>] [-Description <String>] [-SiteId  
<String>] [-EntryId <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 2-8 Set-EVExchangeMailboxPolicy パラメータ

パラメータ	説明
-Name (必須)	既存の Exchange メールボックスポリシーの名前。

パラメータ	説明
-ArchivingStrategy	<p><b>Exchange</b> メールボックスポリシーのアーカイブ戦略。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>BasedOnAge</b> または <b>0</b>。アイテムの経過期間に基づいてアーカイブされます。これはデフォルト値です。</li><li>■ <b>BasedOnQuota</b> または <b>1</b>。各ユーザーの <b>Exchange</b> メールボックスの空き容量の割合を確保するためにアーカイブされます。</li><li>■ <b>BasedOnAgeAndQuota</b> または <b>2</b>。アーカイブ戦略はアイテムの経過日数と、各ユーザーの <b>Exchange</b> メールボックスの空き容量の割合維持に基づきます。タスクは最初に経過日数に基づきアーカイブを実行します。経過日数に基づくアーカイブによってメールボックスの空き容量が必要な割合にならない場合、必要な割合に達するまでアーカイブが続行されます。</li></ul>
-LockArchivingStrategy	<p><b>Outlook</b> でユーザーがこのポリシーのアーカイブ戦略を変更できないようにするかどうか。デフォルトは <code>\$true</code> です。</p>
-ArchiveItemsOlderThan	<p><b>Exchange</b> メールボックスタスクで、指定した期間に修正されなかったアイテムをアーカイブします。</p>
-ArchiveItemsOlderThanUnits	<p>ArchiveItemsOlderThan で使用する時間の単位。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>Days</b> または <b>0</b>。</li><li>■ <b>Weeks</b> または <b>1</b>。</li><li>■ <b>Months</b> または <b>2</b>。これはデフォルト値です。</li><li>■ <b>Years</b> または <b>3</b>。</li></ul>
-PercentageOfQuota	<p>アーカイブ戦略に基づいたクォータを実装する場合に、各ユーザーの <b>Exchange</b> メールボックスで確保するストレージ空き容量の割合を指定します。<b>Exchange</b> メールボックスタスクで、各メールボックスのストレージ空き容量が指定した割合に達するまで、アイテムをアーカイブします。デフォルト値は <b>10</b> です。</p>
-MinimumArchiveAge	<p>アーカイブするアイテムの最小経過期間。デフォルト値は <b>2</b> です。</p>

パラメータ	説明
-MinimumArchiveAgeUnits	MinimumArchiveAge で使用する時間の単位。設定可能な列挙値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Days または 0。</li><li>■ Weeks または 1。これはデフォルト値です。</li><li>■ Months または 2。</li><li>■ Years または 3。</li></ul>
-SizePriority	Exchange メールボックスタスクで、MinimumItemSizeKB より大きいアイテムを優先するかどうか。デフォルトは \$false です。
-MinimumItemSizeKB	Exchange メールボックスタスクで、このサイズ (KB) より大きいアイテムを優先します。デフォルトのサイズは 10240 です。
-ArchiveMsgsWithAttachmentsOnly	添付ファイルが存在する場合にのみメールボックスのアイテムをアーカイブするかどうか。デフォルトは \$false です。
-ShortcutInactivityPeriod	指定した期間を経過したショートカットを削除します。デフォルト値は 0 です。
-ShortcutInactivityUnits	ShortcutInactivityPeriod で使用する時間の単位。設定可能な列挙値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Days または 0。これはデフォルト値です。</li><li>■ Weeks または 1。</li><li>■ Months または 2。</li><li>■ Years または 3。</li></ul>
-DeleteAfterArchive	アーカイブにアイテムが正常に格納されたら、Enterprise Vault でメールボックスからそのアイテムを削除するかどうか。デフォルトは \$true です。
-LockDeleteAfterArchive	個人用設定でユーザーが DeleteAfterArchive の設定を変更できないようにするかどうか。デフォルトは \$true です。
-CreateShortcutAfterArchive	Enterprise Vault で、新しくアーカイブされたアイテムのショートカットを作成するかどうか。デフォルトは \$true です。



パラメータ	説明
-LockCreateShortcutAfterArchive	個人用設定でユーザーが CreateShortcutAfterArchive の設定を変更できないようにするかどうか。デフォルトは \$true です。
-ArchiveUnreadItems	Enterprise Vault で、読み込まれていないアイテムをアーカイブするかどうか。
-LockArchiveUnreadItems	個人用設定でユーザーが ArchiveUnreadItems の設定を変更できないようにするかどうか。デフォルトは \$true です。
-OverallLock	<p>ユーザーが DeleteAfterArchive、CreateShortcutAfterArchive、ArchiveUnreadItems、ArchivingStrategy の設定を変更できないようにします。</p> <p>メールボックスのアーカイブにポリシーとアーカイブ先の設定を使用するようにユーザーに強制するには、\$true (デフォルト) の値を指定します。</p>
-IncludeRecipientInformation	ショートカットに、宛先と CC の受信者の詳細を含めるかどうか。通常、ショートカットには差出人と件名の情報が含まれます。デフォルトは \$true です。

パラメータ	説明
-ContentOfShortcutBody	<p>ショートカットの本文として使う内容。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>None</b> または <b>0</b>。Enterprise Vault は、元のメッセージ本文を含まないショートカットを生成します。</li><li>■ <b>UseMessageBody</b> または <b>1</b>。Enterprise Vault は、元のメッセージ本文すべてを含むショートカットを生成します。メッセージテキストを Outlook 内で検索して、Outlook のプレビューペインに表示できます。Enterprise Vault は添付ファイルを含む完全なメッセージをアーカイブします。メッセージの本文を保持する場合、ショートカットの容量は本文を保持しない場合よりも大きくなります。添付ファイルがないメッセージの場合、ショートカットの容量は元のメッセージよりも少し大きくなります。</li><li>■ <b>Customize</b> または <b>2</b>。IncludeBanner、IncludeLinkToArchivedItem、MessageCharsToInclude、DisplayAttachmentsAs を使用して、ショートカットの内容を厳密に制御します。<b>Customize</b> を指定する場合は、Languages フォルダにある適切な ShortcutText.txt ファイルを Enterprise Vault のインストール先フォルダにコピーする必要があります。</li></ul> <p>デフォルト値は <b>Customize</b> です。</p>
-IncludeBanner	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、上部にある色付きのバナーをショートカットに含めるかどうかを指定します。ShortcutText.txt ファイルを編集すると、バナーに表示するテキストを修正できます。デフォルトは \$false です。</p>
-IncludeLinkToArchivedItem	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、ショートカットにアーカイブ済みアイテムのリンクを含めるように選択しているかどうか。デフォルトは \$false です。</p>
MessageCharsToInclude	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、ショートカットに含めるメッセージの本文部分の文字数を指定します。デフォルト値は <b>1000</b> です。</p>

パラメータ	説明
-DisplayAttachmentsAs	<p>ショートカットをカスタマイズする場合は、<b>Enterprise Vault</b> でショートカットに含める添付ファイル一覧の種類。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>None</b> または <b>0</b>。添付ファイルは、ショートカットに一覧表示されません。</li><li>■ <b>Text</b> または <b>1</b>。各添付ファイルの件名テキストが一覧表示されます。ユーザーは完全なアーカイブ済みアイテムを開いて、添付ファイルにアクセスする必要があります。</li><li>■ <b>Links</b> または <b>2</b>。アーカイブ済み添付ファイルのリンクの一覧が表示されます。ユーザーは個々の添付ファイルを直接開くことができます。</li></ul> <p>デフォルト値は <b>None</b> です。</p>
-IndexLevel	<p>アーカイブのインデックスに割り当てるインデックスレベル。設定可能な列挙値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>Brief</b> または <b>0</b>。<b>Enterprise Vault</b> は、コンテンツではなくアーカイブ済みアイテムのメタデータにインデックス付けします。たとえば、<b>Enterprise Vault</b> は送信者とアイテムの日付をインデックス付けします。ユーザーはこれらのアイテムの内容を検索できません。</li><li>■ <b>Full</b> または <b>2</b>。<b>Enterprise Vault</b> は、アーカイブ済みアイテムおよびその添付ファイルの内容とメタデータにインデックス付けします。ユーザーはアイテムと添付ファイルの内容を検索できます。</li></ul> <p>デフォルト値は <b>Full</b> です。</p>
-IndexPreviewLength	<p><b>Enterprise Vault</b> が検索結果に表示する各アイテムのテキスト量。デフォルト値は <b>128</b> です。</p>
-CreateAttachmentPreview	<p><b>Enterprise Vault</b> で、添付ファイルの内容のプレビューを作成するかどうか。このプレビューは、このリリースの <b>Enterprise Vault</b> では表示できません。デフォルトは <code>\$false</code> です。</p>
-IsADefaultPolicy	<p>ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。デフォルトは <code>\$false</code> です。</p>

パラメータ	説明
-Description	<b>Exchange</b> メールボックスポリシーの説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。
-SiteId	ポリシーが設定されている <b>Enterprise Vault</b> サイトのディレクトリエントリ ID。
-EntryId	ポリシーのディレクトリエントリ ID。

## 例

- `Set-EVExchangeMailboxPolicy -Name "Default Exchange Mailbox Policy" -DisplayAttachmentsAs LINKS`

**Default Exchange Mailbox Policy** というポリシーのプロパティを設定します。カスタマイズしたショートカットを使用するようにデフォルトの **Exchange** メールボックスポリシーを設定していることを前提にします。

この例では、添付ファイルのリンクの一覧をカスタマイズしたショートカットに含めるように `DisplayAttachmentsAs` プロパティを設定します。

- `Set-EVExchangeMailboxPolicy -Name "Default Exchange Mailbox Policy" -ArchivingStrategy BASEDONAGE -ArchiveItemsOlderThan 3 -ArchiveItemsOlderThanUnits YEARS MinimumArchiveAge 2 MinimumArchiveAgeUnits MONTHS SizePriority $true MinimumItemSizeKB 5000`

**Default Exchange Mailbox Policy** というポリシーのアーカイブ戦略プロパティを変更します。経過期間を基準にするように、アーカイブ戦略を変更します。5 MB より大きく (`SizePriority/MinimumItemSizeKB`)、2 カ月以上経過した (`MinimumArchiveAge/MinimumArchiveAgeUnits`) アイテムを最初にアーカイブします。3 年の経過期間の上限 (`ArchiveItemsOlderThan` と `ArchiveItemsOlderThanUnits`) はこのような大きいアイテムには適用されません。MinimumArchiveAge と MinimumArchiveAgeUnits を指定すると、**Enterprise Vault** は 2 カ月経過していないアイテムをアーカイブできません。

新しいアーカイブ戦略を有効にするには、**Exchange** メールボックスタスクのプロパティの[同期]タブを使用して、対象のメールボックスを同期します。

## 出力

なし。

## 関連コマンドレット

- p.16 の「[Get-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。
- p.20 の「[New-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。

- p.29 の「[Remove-EVExchangeMailboxPolicy](#)」を参照してください。

# アーカイブ: FSA

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVFSAServer](#)
- [Get-EVFSAShare](#)
- [Get-EVFSASpace](#)
- [New-EVFSAServer](#)
- [New-EVFSAShare](#)
- [New-EVFSASpace](#)
- [Remove-EVFSAServer](#)
- [Remove-EVFSAShare](#)
- [Remove-EVFSASpace](#)
- [Set-EVFSAServer](#)
- [Set-EVFSAShare](#)
- [Set-EVFSASpace](#)

## Get-EVFSAServer

`Get-EVFSAServer` は、指定した **Enterprise Vault** サイトに設定されているすべてのファイルサーバーの詳細を取得します。ファイルサーバーの種類に基づいて、この一覧をフィルタ処理できます。

`Get-EVFSAServer` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVFSAServer [-SiteId <String>][[-Type] <FileServerType>]  
[<CommonParameters>]
```

```
Get-EVFSAServer [-SiteId <String>] [-Identifier] <String>  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-1 Get-EVFSAServer パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーを設定した <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略すると、Get-EVFSAServer で、コマンドを実行している <b>Enterprise Vault</b> サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Type	ファイルサーバーの種類です。指定可能な値は <b>WindowsFileServer</b> 、 <b>NetApp7ModeFileServer</b> 、 <b>NetAppCModeFileServer</b> 、および <b>EMCCelerraOrVNXFileServer</b> です。。
-Identifier (必須)	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定されている対象ファイルサーバーの完全修飾 <b>DNS</b> 名、 <b>UNC</b> 名、またはエントリ ID。名前は、ファイルサーバーを追加したときに使った名前または管理コンソールに表示される名前と同じにする必要があります。  パラメータエイリアス: <b>FileServerDNSName</b> 、 <b>FileServerName</b> 、 <b>FileServerId</b> 。

## 例

- Get-EVFSAServer  
**Enterprise Vault** サイトのファイルシステムアーカイブに設定されているすべてのファイルサーバーの詳細を取得します。
- Get-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -Type WindowsFileServer  
指定した **Enterprise Vault** サイトのファイルシステムアーカイブに設定されているすべての **Windows** ファイルサーバーの詳細を取得します。
- Get-EVFSAServer -Type NetApp7ModeFileServer  
**Enterprise Vault** サイトのファイルシステムアーカイブに設定されているすべての **NetApp 7-Mode** ファイルサーバーの詳細を取得します。
- Get-EVFSAServer -Identifier abc.example.com  
または  
Get-EVFSAServer -FileServerDNSName abc.example.com

Enterprise Vault サイト内の完全修飾ドメイン名が「abc.example.com」のファイルサーバーの詳細を取得します。

- `Get-EVFSAServer -Identifier ¥¥abc`

または

```
Get-EVFSAServer -FileServername ¥¥abc
```

Enterprise Vault サイトに設定されている UNC 名が「¥¥abc」のファイルサーバーの詳細を取得します。

- `Get-EVFSAServer -Identifier 198...example.com`

または

```
Get-EVFSAServer - FileServerId 198...example.com
```

Enterprise Vault サイトに設定されているエントリ ID が「198...example.com」のファイルサーバーの詳細を取得します。

## 出力

次の表に利用可能なプロパティを示します。

- 表 3-2 は、利用可能な `WindowsFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-3 は、利用可能な `NetAppCModeFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-4 は、利用可能な `NetApp7ModeFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-5 は、利用可能な `EMCCelerraOrVNXFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-6 は、利用可能な `DHSMServiceConfiguration` プロパティを一覧表示します。

表 3-2 Get-EVFSAServer - WindowsFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は <code>WindowsFileServer</code> です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。



名前	種類	説明
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
PassthroughRecall	Boolean	パススルー呼び戻しを設定するかどうかを指定します。
PassthroughRecall CacheLocation	文字列	パススルー呼び戻しのキャッシュの場所を指定します。
PassthroughRecall CacheSizeInGB	整数	パススルー呼び戻しのキャッシュの場所のサイズをギガバイト単位で指定します。
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOn PlaceholderDelete	プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には <b>RetainArchivedFile</b> または <b>DeleteArchivedFile</b> を指定できます。

表 3-3 Get-EVFSAServer - NetAppCModeFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は <b>NetAppCModeFileServer</b> です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。

名前	種類	説明
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOnPlaceholderDelete	プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には <b>RetainArchivedFile</b> または <b>DeleteArchivedFile</b> を指定できます。
PlaceholderRecallsEnabled	Boolean	<b>NetApp Filer</b> のプレースホルダの呼び戻しの処理を有効にするかどうかを指定します。
MaxRecallThreads	整数	アイテムを呼び戻すときに使われる呼び戻しスレッドの最大数。この値は同時呼び戻し数と同じです。
RecallLimitMaxRecalls	整数	ユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
RecallLimitTimeInterval	整数	指定した時間内にユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators	Boolean	<b>NetApp Filer</b> のローカル <b>Administrators</b> グループのメンバーに、呼び戻し限度を適用するかどうかを指定します。

表 3-4 Get-EVFSAServer - NetApp7ModeFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定されているファイルサーバーの <b>UNC</b> 名。
FileServerDNSName	文字列	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 <b>DNS</b> 名。
FileServerId	文字列	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定されているファイルサーバーの <b>ID</b> 。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は <b>NetApp7ModeFileServer</b> です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。

名前	種類	説明
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOnPlaceholderDelete	プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には <b>RetainArchivedFile</b> または <b>DeleteArchivedFile</b> を指定できます。
PassthroughRecall	Boolean	パススルー呼び戻しを設定するかどうかを指定します。
PlaceholderRecallsEnabled	Boolean	NetApp Filer のプレースホルダの呼び戻しの処理を有効にするかどうかを指定します。
MaxRecallThreads	整数	アイテムを呼び戻すときに使われる呼び戻しスレッドの最大数。この値は同時呼び戻し数と同じです。
RecallLimitMaxRecalls	整数	ユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
RecallLimitTimeInterval	整数	指定した時間内にユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators	Boolean	NetApp Filer のローカル Administrators グループのメンバーに、呼び戻し限度を適用するかどうかを指定します。

表 3-5 Get-EVFSAServer - EMC Celerra or VNX File Server プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。

名前	種類	説明
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。Celerra または VNX の場合は、値は <b>EMCCelerraOrVNXFileServer</b> です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。
PlaceholdersEnabled	Boolean	ショートカットを作成するポリシーが有効になっている場合、プレースホルダをファイルサーバーの共有で作成するかどうかを指定します。
DHSMServiceConfiguration	DHSMService Configuration	プレースホルダの作成に必要な <b>DHSM</b> サービスの設定を指定します。

表 3-6 Get-EVFSAServer - DHSMServiceConfiguration のプロパティ

名前	種類	説明
UserName	文字列	<b>Enterprise Vault</b> が <b>DHSM</b> サービスの認証に使う <b>Data Mover</b> のユーザー名を指定します。
Password	SecureString	<b>Enterprise Vault</b> が <b>DHSM</b> サービスの認証に使う <b>Data Mover</b> アカウントのパスワードを指定します。このパスワードは暗号化形式で、 <b>Enterprise Vault</b> ディレクトリデータベースに格納されます。
PortNumber	整数	<b>DHSM</b> が設定されているポート番号を指定します。
SSLRequired	Boolean	<b>DHSM</b> サービスで <b>SSL</b> 接続を必要とするかどうかを指定します。

## 関連 cmdlet

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.51 の「[New-EVFSAServer](#)」を参照してください。

- p.66 の「[Remove-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.72 の「[Set-EVFSAServer](#)」を参照してください。

## Get-EVFSAFolder

Get-EVFSAFolder は、Enterprise Vault サイト内の指定したファイルサーバーとボリュームのファイルシステムアーカイブに設定されているすべてのフォルダの詳細を取得します。この一覧をフォルダの相対パスに基づいてフィルタ処理すると 1 つのフォルダの詳細を取得できます。

Get-EVFSAFolder は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

### 構文

```
Get-EVFSAFolder [-FileServer] <String> [-Volume] <String>  
[[-FolderRelativePath] <String>] [-SiteId <String>]  
[-IncludeRetentionFolders [<SwitchParameter>]] [<CommonParameters>]
```

```
Get-EVFSAFolder -Identifier <String> [-SiteId <String>]  
[-IncludeRetentionFolders [<SwitchParameter>]] [<CommonParameters>]
```

### パラメータ

表 3-7 Get-EVFSAFolder パラメータ

パラメータ	説明
-FileServer (必須)	フォルダをホストするファイルサーバーの完全修飾 DNS 名、UNC 名、エイリアス名、またはエントリ ID。名前は、ファイルサーバーを追加したときに使った名前または管理コンソールに表示される名前と同じにする必要があります。ファイルサーバー名は、Get-EVFSAServer を使って取得できます。UNC 名は「 <b>\\</b> 」接頭辞を付けても付けなくても指定できます。また、ホスト名とエイリアスのいずれかを UNC 名として指定できます。  パラメータエイリアス: FileServerDNSName、FileServerName、FileServerId。
-Identifier (必須)	次の形式で詳細を追加するフォルダのパスを示します。  <b>\\file server name\volume name\folder relative path</b>
-Volume (必須)	フォルダをホストするファイルサーバーのボリュームの名前またはエントリ ID。  パラメータエイリアス: VolumeId、VolumeName

パラメータ	説明
-FolderRelativePath	詳細を取得するフォルダの相対パス。フォルダの対象が共有である場合は、「¥」を指定します。 パラメータエイリアス: FolderName
-SiteId	ファイルサーバーボリュームを設定している Enterprise Vault サイトの ID。このパラメータを省略すると、Get-EVFSFolder で、cmdlet を実行している Enterprise Vault サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-IncludeRetentionFolders	Enterprise Vault が、保持フォルダを含むすべてのフォルダの詳細を取得するかどうかを指定します。

## 例

- `Get-EVFSFolder ¥¥abc volume1 folder1`  
または  
`Get-EVFSFolder -FileServer ¥¥abc -Volume volume1 -FolderRelativePath folder1`  
または  
`Get-EVFSFolder -FileServerName ¥¥abc -VolumeName volume1 -FolderRelativePath folder1`  
または  
`Get-EVFSFolder -Identifier ¥¥abc¥volume1¥folder1`  
UNC パスが「¥¥abc」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「volume1」のフォルダ「folder1」の詳細を取得します。
- `Get-EVFSFolder abc.example.com volume1 folder1`  
または  
`Get-EVFSFolder -FileServer abc.example.com -Volume volume1 -FolderRelativePath folder1`  
または  
`Get-EVFSFolder -FileServerDNSName abc.example.com -VolumeName volume1 -FolderRelativePath folder1`  
完全修飾ドメイン名が「abc.example.com」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「volume1」のフォルダ「folder1」の詳細を取得します。
- `Get-EVFSFolder -FileServer '123...example.com' -Volume 56...example.com' -FolderRelativePath folder1`  
または  
`Get-EVFSFolder -FileServerId '123...example.com' -VolumeId '456...example.com' -FolderRelativePath folder1`

または

```
Get-EVFSAFolder '123...example.com' '456...example.com' folder1
```

エントリ ID が「123...example.com」のファイルサーバーに設定された、エントリ ID が「456...example.com」のファイルサーバーボリュームにあるフォルダ「folder1」の詳細を取得します。

- `Get-EVFSAFolder ¥¥abc volume1 folder1 -IncludeRetentionFolders`

または

```
Get-EVFSAFolder -FileServer ¥¥abc -Volume volume1
-FolderRelativePath folder1 -IncludeRetentionFolders
```

または

```
Get-EVFSAFolder -FileServerName ¥¥abc -VolumeName volume1
-FolderRelativePath folder1 -IncludeRetentionFolders
```

または

```
Get-EVFSAFolder -Identifier ¥¥abc¥volume1¥folder1
-IncludeRetentionFolders
```

UNC パスが「¥¥abc」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「volume1」の保持フォルダ「folder1」の詳細を取得します。

## 出力

次の表に、利用可能な `Get-EVFSAFolder` のプロパティを示します。

**表 3-8** Get-EVFSAFolder properties

名前	種類	説明
FolderPath	文字列	ファイルシステムアーカイブ用に有効になるフォルダのフルパス。パスは <code>¥¥file server name¥volume name¥folder relative path</code> の形式にする必要があります。
FolderName	文字列	フォルダの相対パス。
IsRetentionFolder	ブール値	フォルダが保持フォルダであるかどうかを指定します。
FolderPolicyName	文字列	Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブするのに使うフォルダポリシーの名前。
VolumePolicyName	文字列	Enterprise Vault がボリュームからアイテムをアーカイブするのに使うボリュームポリシーの名前。

名前	種類	説明
IgnoreVolumeRules	文字列	Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブする際にボリュームポリシールールを無視するように指定します。
ArchivingEnabled OnFolder	Boolean	ファイルシステムアーカイブをフォルダで有効にするかどうかを指定します。
ArchivingEnabled OnSubfolders	Boolean	ファイルシステムアーカイブをフォルダのサブフォルダで有効にするかどうかを指定します。
FileServerName	文字列	フォルダをホストするファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	フォルダをホストするファイルサーバーの ID。
VolumeName	文字列	フォルダをホストするボリュームの名前。
VolumeId	文字列	フォルダをホストするボリュームの ID。
FolderId	文字列	フォルダの ID。
FolderPolicyId	文字列	Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブするのに使うフォルダポリシーの ID。
VolumePolicyId	文字列	Enterprise Vault がボリュームからアイテムをアーカイブするのに使うボリュームポリシーの ID。

## 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.58 の「[New-EVFSAFolder](#)」を参照してください。
- p.68 の「[Remove-EVFSAFolder](#)」を参照してください。
- p.81 の「[Set-EVFSAFolder](#)」を参照してください。

# Get-EVFSAVolume

Get-EVFSAVolume は、Enterprise Vault サイトのファイルシステムアーカイブに設定されたすべてのボリュームの詳細を取得します。この一覧はファイルサーバーとボリューム名を基準にフィルタ処理できます。



Get-EVFSAVolume は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVFSAVolume [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]
```

```
Get-EVFSAVolume [-SiteId <String>] [-FileServerName] <String> [[-Name]  
<String>] [<CommonParameters>]
```

```
Get-EVFSAVolume [-SiteId <String>] -FileServerId <String> [[-Name]  
<String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-9 Get-EVFSAVolume パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーを設定している Enterprise Vault サイトの ID。このパラメータを省略すると、Get-EVFSAVolume で、cmdlet を実行している Enterprise Vault サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-FileServerName (必須)	Enterprise Vault サイトで設定されている、ボリューム共有をホストする対象ファイルサーバーの完全修飾 DNS 名またはエイリアス。
-FileServerId (必須)	ボリューム共有をホストするファイルサーバーの ID。
-Name	FSA ボリュームとして追加する共有フォルダの名前。

## 例

- `Get-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com`  
指定した Enterprise Vault サイトのすべてのファイルサーバーでホストされているすべてのボリュームを取得します。
- `Get-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -FileServerId 1FB...example.com`  
ID が「1FB...example.com」のファイルサーバーでホストするすべてのボリュームを取り込みます。
- `Get-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -FileServerId 1FB...example.com -Name Sales`  
ID が「1FB...example.com」のファイルサーバーでホストする「Sales」ボリュームのプロパティを取り込みます。

- `Get-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -FileServerName 'WindowsFiler.example.com'`  
「WindowsFiler.example.com」という名前のファイルサーバーでホストするすべてのボリュームを取り込みます。
- `Get-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -FileServerName ¥¥WindowsFiler`  
「¥¥WindowsFiler」という名前のファイルサーバーでホストするすべてのボリュームを取り込みます。
- `Get-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -FileServerName 'WindowsFiler.example.com' -Name Marketing`  
「WindowsFiler.example.com」という名前のファイルサーバーでホストする「Marketing」ボリュームのプロパティを取り込みます。

## 出力

表 3-10 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 3-10 Get-EVFSAVolume のプロパティ

名前	種類	説明
VolumeName	文字列	FSA ボリュームの名前。
VolumeId	文字列	FSA ボリュームの ID。
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているボリュームをホストするファイルサーバーの名前。
FileServerId	文字列	ボリューム共有をホストするファイルサーバーの ID。
VaultStoreName	文字列	ボリュームからアーカイブしたファイルの格納に使用するボルトストアの名前。
VaultStoreId	文字列	ボリュームからアーカイブしたファイルの格納に使用するボルトストアの ID。
TaskName	文字列	ボリュームの処理に使用するファイルシステムアーカイブタスクの名前。
TaskId	文字列	ボリュームの処理に使用するファイルシステムアーカイブタスクの ID。
PolicyName	文字列	ボリュームからアーカイブするときに使用するファイルシステムのボリュームアーカイブポリシーの名前。

名前	種類	説明
PolicyId	文字列	ボリュームからアーカイブするときに使用するファイルシステムのアーカイブポリシーの ID。
DisableArchiving	SwitchParameter	ボリュームのファイルアーカイブを無効にするかどうかを指定する。
PassthroughRecall	SwitchParameter	ボリュームのパススルー呼び戻しを有効にするかどうかを指定する。
SiteId	文字列	ボリュームが設定されている Enterprise Vault サイトの ID。

### 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.63 の「[New-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.70 の「[Remove-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.87 の「[Set-EVFSAServer](#)」を参照してください。

## New-EVFSAServer

New-EVFSAServer は指定したファイルサーバーをファイルシステムアーカイブ対象として追加します。

cmdlet は、ユーザーが -Type パラメータを使ってファイルサーバーの種類を指定するかどうかに関係なく、指定したファイルサーバーの種類を識別を試みます。

ファイルサーバーの種類を指定しない場合:

- cmdlet がファイルサーバーの種類を判別できる場合は、ファイルサーバーは正常に追加されます。
- cmdlet がファイルサーバーの種類を判別できない場合は、パラメータ -Type を使ってファイルサーバーの種類を指定して cmdlet を再実行するよう求められます。

ファイルサーバーの種類を指定する場合:

- 指定した種類が cmdlet が判別した種類と一致する場合は、ファイルサーバーは正常に追加されます。
- 指定した種類が cmdlet が判別した種類と一致しない場合は、ファイルサーバーを cmdlet が判別した種類で追加するよう求められます。
- cmdlet が種類を判別できない場合は、指定したファイルサーバーの種類でファイルサーバーを追加するよう求められます。

NetApp C-Mode Vserverを追加するには、-Management パラメータを使用して Vserver の管理 LIF の DNS 名を入力し、-Identifier パラメータを使用して Vserver のデータ LIF の DNS 名を入力する必要があります。単一の LIF にデータと管理の役割が設定されている場合は、両方のパラメータで同じ値を指定する必要があります。

New-EVFSFileServer は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
New-EVFSFileServer [-SiteId <String>] [-Identifier] <String>
[-ManagementLIF <String>] [[-Type] <EVFileServerType>] [-Confirm
[<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-11 New-EVFSFileServer パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーが設定されている Enterprise Vault サイトの ID。このパラメータを省略すると、New-EVFSFileServer で、コマンドを実行している Enterprise Vault サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Identifier (必須)	<p>Enterprise Vault サイトに設定されるファイルサーバーターゲットの完全修飾 DNS 名、UNC 名、またはエイリアス名。UNC 名は「¥¥」接頭辞を付けても付けなくても指定できます。また、ホスト名とエイリアスのいずれかを UNC 名として指定できます。</p> <p>NetApp C-Mode Vserver を追加するには、Vserver のデータ LIF の完全修飾 DNS 名、UNC 名、またはエイリアス名を指定する必要があります。</p> <p>パラメータエイリアス: FileServerDNSName、FileServerName、FileServerId。</p>
-ManagementLIF	<p>Enterprise Vault サイトで設定されている NetApp C-Mode Vserver の管理 LIF の完全修飾 DNS 名、UNC 名、またはエイリアス名。UNC 名は「¥¥」接頭辞を付けても付けなくても指定できます。また、エイリアスは UNC 名として指定できます。</p> <p>NetApp C-Mode Vserver をファイルシステムアーカイブのターゲットとして追加する場合、このパラメータは必須です。</p>
-Type	ファイルサーバーの種類です。指定可能な値は WindowsFileServer、NetApp7ModeFileServer、NetAppCModeFileServer、および EMCCElerraOrVNXFileServer です。。

パラメータ	説明
-Confirm	<code>cmdlet</code> を実行する前に確認するように求められます。プロンプトを表示しないようにするには、 <code>-Confirm:\$false</code> と入力します。
-WhatIf	<code>cmdlet</code> の実行結果のプレビューが表示されます。 <code>cmdlet</code> は実際には実行されません。

例

- ```
New-EVFSAServer -Identifier ¥¥abc
```

または

```
New-EVFSAServer -FileServername ¥¥abc
```

UNC 名が「¥¥abc」のファイルサーバーの種類を判別し、ファイルシステムアーカイブの対象として追加します。
- ```
New-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -Identifier abc.example.com
```

または

```
New-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -FileServerDNSName abc.example.com
```

完全修飾ドメイン名が「abc.example.com」のファイルサーバーの種類を判別し、指定した Enterprise Vault サイトにファイルシステムアーカイブの対象として追加します。
- ```
New-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -Identifier abc.example.com -Type WindowsFileServer
```

または

```
New-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -FileServerDNSName abc.example.com -Type WindowsFileServer
```

ファイルサーバーの種類を判別します。入力の種類がコマンドレットで判別した種類と一致する場合、コマンドレットはファイルサーバーをファイルシステムアーカイブの対象として Enterprise Vault サイトに追加します。コマンドレットが判別したファイルサーバーの種類が指定したファイルサーバーの種類と一致しない場合は、コマンドレットにより、ファイルサーバーをコマンドレットが判別した種類で追加することを求めるメッセージが表示されます。
- ```
New-EVFSAServer -ManagementLIF managelif.example.com -Identifier datalif.example.com
```

完全修飾ドメイン名が「managelif.example.com」のファイルサーバーの種類を判別し、指定した値が有効な管理 LIF であり、datalif.example.com が有効なデータ LIF である場合は、関連付けられた NetApp C-Mode Vserver をファイルシステムアーカイブのターゲットとして追加します。

## 出力

次の表に利用可能なプロパティを示します。

- 表 3-12 は、利用可能な `WindowsFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-13 は、利用可能な `NetAppCModeFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-14 は、利用可能な `NetApp7ModeFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-15 は、利用可能な `EMCCelerraOrVNXFileServer` プロパティを一覧表示します。
- 表 3-16 は、利用可能な `DHSMServiceConfiguration` プロパティを一覧表示します。

**表 3-12** New-EVFSAServer - WindowsFileServer プロパティ

名前	種類	説明
<code>FileServerName</code>	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
<code>FileServerDNSName</code>	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
<code>FileServerId</code>	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
<code>FileServerType</code>	<code>FileServerType</code>	ファイルサーバーの種類。この場合の値は <code>WindowsFileServer</code> です。
<code>Archiving</code>	<code>Boolean</code>	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
<code>SiteId</code>	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
<code>PassthroughRecall</code>	<code>Boolean</code>	パススルー呼び戻しを設定するかどうかを指定します。
<code>PassthroughRecallCacheLocation</code>	文字列	パススルー呼び戻しのキャッシュの場所を指定します。
<code>PassthroughRecallCacheSizeInGB</code>	整数	パススルー呼び戻しのキャッシュの場所のサイズをギガバイト単位で指定します。

名前	種類	説明
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOnPlaceholderDelete	ブレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には RetainArchivedFile または DeleteArchivedFile を指定できます。

表 3-13 New-EVFSFileServer - NetAppCModeFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は NetAppCModeFileServer です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOnPlaceholderDelete	ブレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には RetainArchivedFile または DeleteArchivedFile を指定できます。
PlaceholderRecallsEnabled	Boolean	NetApp Filer のブレースホルダの呼び戻しの処理を有効にするかどうかを指定します。
MaxRecallThreads	整数	アイテムを呼び戻すときに使われる呼び戻しスレッドの最大数。この値は同時呼び戻し数と同じです。
RecallLimitMaxRecalls	整数	ユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。

名前	種類	説明
RecallLimitTimeInterval	整数	指定した時間内にユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators	Boolean	NetApp Filer のローカル Administrators グループのメンバーに、呼び戻し限度を適用するかどうかを指定します。

表 3-14 New-EVFSFileServer - NetApp7ModeFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は NetApp7ModeFileServer です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOnPlaceholderDelete	プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には RetainArchivedFile または DeleteArchivedFile を指定できます。
PassthroughRecall	Boolean	パススルー呼び戻しを設定するかどうかを指定します。
PlaceholderRecallsEnabled	Boolean	NetApp Filer のプレースホルダの呼び戻しの処理を有効にするかどうかを指定します。



名前	種類	説明
MaxRecallThreads	整数	アイテムを呼び戻しするときに使われる呼び戻しスレッドの最大数。この値は同時呼び戻し数と同じです。
RecallLimitMaxRecalls	整数	ユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
RecallLimitTimeInterval	整数	指定した時間内にユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators	Boolean	NetApp Filer のローカル Administrators グループのメンバーに、呼び戻し限度を適用するかどうかを指定します。

表 3-15 New-EVFSFileServer - EMC Celerra Or VNX FileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。Celerra または VNX の場合は、値は EMC Celerra Or VNX FileServer です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
PlaceholdersEnabled	Boolean	ショートカットを作成するポリシーが有効になっている場合、プレースホルダをファイルサーバーの共有で作成するかどうかを指定します。

名前	種類	説明
DHSMServiceConfiguration	DHSMServiceConfiguration	プレースホルダの作成に必要な DHSM サービスの設定を指定します。

表 3-16 New-EVFSAServer - DHSMServiceConfiguration のプロパティ

名前	種類	説明
UserName	文字列	Enterprise Vault が DHSM サービスの認証に使う Data Mover のユーザー名を指定します。
Password	SecureString	Enterprise Vault が DHSM サービスの認証に使う Data Mover アカウントのパスワードを指定します。このパスワードは暗号化形式で、Enterprise Vault ディレクトリデータベースに格納されます。
PortNumber	整数	DHSM が設定されているポート番号を指定します。
SSLRequired	Boolean	DHSM サービスで SSL 接続を必要とするかどうかを指定します。

## 関連 cmdlet

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.38 の「[Get-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.66 の「[Remove-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.72 の「[Set-EVFSAServer](#)」を参照してください。

# New-EVFSAFolder

New-EVFSAFolder は指定したフォルダをファイルシステムアーカイブのターゲットとして追加します。

New-EVFSAFolder は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
New-EVFSFolder [-SiteId <String>] [-FileServer] <String> [-Volume]
<String> [-FolderRelativePath] <String> [-Policy <String>]
[-IgnoreVolumeRules [<SwitchParameter>]] [-DisableArchivingOnFolder
<SwitchParameter>]] [-DisableArchivingOnSubFolders
<SwitchParameter>]] [-Confirm [<SwitchParameter>]] [-WhatIf
<SwitchParameter>]]
```

```
New-EVFSFolder [-SiteId <String>] -Identifier <String> [-Policy
<String>] [-IgnoreVolumeRules [<SwitchParameter>]]
[-DisableArchivingOnFolder [<SwitchParameter>]]
[-DisableArchivingOnSubFolders [<SwitchParameter>]] [-Confirm
<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]
```

## パラメータ

表 3-17 New-EVFSFolder のパラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーボリュームを設定している Enterprise Vault サイトの ID。このパラメータを省略すると、New-EVFSFolder で、cmdlet を実行している Enterprise Vault サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-FileServer (必須)	フォルダをホストするファイルサーバーの完全修飾 DNS 名、UNC 名、エイリアス名、またはエントリ ID。名前は、ファイルサーバーを追加したときに使った名前または管理コンソールに表示される名前と同じにする必要があります。ファイルサーバー名は、Get-EVFSFileServer を使って取得できます。UNC 名は「 <del>¥¥</del> 」接頭辞を付けても付けなくても指定できます。また、ホスト名とエイリアスのいずれかを UNC 名として指定できます。  パラメータエイリアス: FileServerDNSName、FileServerName、FileServerId。
-Identifier (必須)	次の形式で追加するフォルダのパスを示します。  <del>¥¥</del> file server name¥volume name¥folder relative path

パラメータ	説明
-Volume (必須)	<p>フォルダをホストするファイルサーバーのボリュームの名前またはエントリ ID。</p> <p>パラメータエイリアス: <b>Volumeld、VolumeName</b></p>
-FolderRelativePath (必須)	<p>追加するフォルダの相対パス。</p> <p>パラメータエイリアス: <b>FolderName</b></p>
-Policy	<p><b>Enterprise Vault</b> がフォルダからアイテムをアーカイブする際に使う必要があるフォルダポリシーの名前またはエントリ ID。指定したフォルダが <b>Celerra/VNX</b> ファイルサーバーにある場合で、ポリシーの[プレースホルダが削除されたときにアーカイブアイテムを削除]設定が有効になっている場合は、確認を求めるメッセージが表示されます。</p> <p>パラメータエイリアス: <b>PolicyId、PolicyName</b></p>
-IgnoreVolumeRules	<p><b>Enterprise Vault</b> がフォルダをアーカイブする際にボリュームポリシールールを無視するように指定します。フォルダポリシーを指定していない場合は、このオプションは利用できません。</p>
-DisableArchivingOnFolder	<p>指定したフォルダでファイルシステムアーカイブを無効にします。</p>
-DisableArchivingOnSubFolders	<p>指定したフォルダのサブフォルダでファイルシステムアーカイブを無効にします。</p>
-Confirm	<p><b>cmdlet</b>を実行する前に確認するように求められます。これを使用すると、この <b>cmdlet</b> を <b>Celerra/VNX</b> ファイルサーバーのフォルダに対して実行するときに表示される確認プロンプトの表示を抑止できます。プロンプトを表示しないようにするには、<b>-Confirm:\$false</b> と入力します。</p>
-WhatIf	<p><b>cmdlet</b> の実行結果のプレビューが表示されます。<b>cmdlet</b> は実際には実行されません。</p>

例

■ New-EVFSAFolder ¥¥abc volume1 folder1

または

New-EVFSAFolder -FileServer ¥¥abc -Volume volume1

-FolderRelativePath folder1

または

```
New-EVFSAFolder -FileName ¥¥abc -VolumeName volume1  
-FolderRelativePath folder1
```

または

```
New-EVFSAFolder -Identifier ¥¥abc¥volume1¥folder1
```

または

```
New-EVFSAFolder -FolderPath ¥¥abc¥volume1¥folder1
```

UNC 名が「¥¥abc」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「volume1」にあるフォルダ「folder1」のファイルシステムアーカイブを有効にします。**cmdlet**はこのフォルダからアーカイブする際にボリュームポリシーを使います。

- ```
New-EVFSAFolder abc.example.com volume1 folder1 -Policy 'office files'
```

または

```
New-EVFSAFolder -FileServer abc.example.com -Volume volume1  
-FolderRelativePath folder1 -Policy 'office files'
```

または

```
New-EVFSAFolder -FileServerDNSName abc.example.com -VolumeName  
volume1 -FolderRelativePath folder1 -PolicyName 'office files'
```

または

```
New-EVFSAFolder -FolderPath ¥¥abc.example.com¥volume1¥folder1
```

完全修飾ドメイン名が「abc.example.com」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「volume1」にあるフォルダ「folder1」のファイルシステムアーカイブを有効にします。**cmdlet**は、このフォルダをアーカイブする際に「office files」というフォルダポリシーを使います。

- ```
New-EVFSAFolder '123...example.com' '456...example.com' folder1  
-Policy '789...example.com' -DisableArchivingOnFolder  
-DisableArchivingOnSubFolders
```

または

```
New-EVFSAFolder -FileServer '123...example.com' -Volume  
'456...example.com' -FolderRelativePath folder1 -Policy  
'789...example.com' -DisableArchivingOnFolder  
-DisableArchivingOnSubFolders
```

または

```
New-EVFSAFolder -FileServerId '123...example.com' -VolumeId  
'456...example.com' -FolderRelativePath folder1 -PolicyId  
'789...example.com' -DisableArchivingOnFolder  
-DisableArchivingOnSubFolders
```

エントリ ID が「123...example.com」のファイルサーバーに設定された、エントリ ID が「456...example.com」のファイルサーバーボリュームにあるフォルダ「folder1」のファイルシステムアーカイブを有効にします。**cmdlet**は、エントリ ID が

「789...example.com」のフォルダポリシーを使い、フォルダとサブフォルダからのアーカイブを無効にします。

## 出力

次の表に、利用可能な New-EVFSAFolder のプロパティを示します。

表 3-18 New-EVFSAFolder のプロパティ

名前	種類	説明
FolderPath	文字列	ファイルシステムアーカイブ用に有効になるフォルダのフルパス。パスは <b>¥¥file server name¥volume name¥folder relative path</b> の形式にする必要があります。
FolderName	文字列	フォルダの相対パス。
FolderPolicyName	文字列	Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブするのに使うフォルダポリシーの名前。
VolumePolicyName	文字列	Enterprise Vault がボリュームからアイテムをアーカイブするのに使うボリュームポリシーの名前。
IgnoreVolumeRules	文字列	Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブする際にボリュームポリシールールを無視するように指定します。
ArchivingEnabledOnFolder	Boolean	ファイルシステムアーカイブをフォルダで有効にするかどうかを指定します。
ArchivingEnabledOnSubfolders	Boolean	ファイルシステムアーカイブをフォルダのサブフォルダで有効にするかどうかを指定します。
FileServerName	文字列	フォルダをホストするファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	フォルダをホストするファイルサーバーの ID。
VolumeName	文字列	フォルダをホストするボリュームの名前。
VolumeId	文字列	フォルダをホストするボリュームの ID。
FolderId	文字列	フォルダの ID。

名前	種類	説明
FolderPolicyId	文字列	Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブするのに使うフォルダポリシーの ID。
VolumePolicyId	文字列	Enterprise Vault がボリュームからアイテムをアーカイブするのに使うボリュームポリシーの ID。

## 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.45 の「[Get-EVFSAFolder](#)」を参照してください。
- p.68 の「[Remove-EVFSAFolder](#)」を参照してください。
- p.81 の「[Set-EVFSAFolder](#)」を参照してください。

# New-EVFSAVolume

New-EVFSAVolume を使用して、選択したファイルサーバーのボリュームにファイルシステムアーカイブを設定できます。追加する共有が安全なフォルダとして定義される場合、プレースホルダが削除されるとアーカイブされたアイテムを削除できません。Celerra 共有の場合にボリュームポリシーでパススルーと[プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを削除]の両方が有効になっていると、データが失われる可能性があるため、処理の確認メッセージが表示されます。

New-EVFSAVolume は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
New-EVFSAVolume [-SiteId <String>] [-Name] <String> [-FileName] <String> [-VaultStoreName] <String> [-TaskName] <String> [-PolicyName] <String> [-DisableArchiving [<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]] [-Confirm [<SwitchParameter>]] [  
CommonParameters>]
```

```
New-EVFSAVolume [-SiteId <String>] [-Name] <String> -FileServerId <String> -VaultStoreId <String> -TaskId <String> -PolicyId <String> [-DisableArchiving [<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]] [-Confirm [<SwitchParameter>]] [  
CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-19 New-EVFSAVolume パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーを設定している <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略すると、New-EVFSAVolume はコマンドレットを実行している <b>Enterprise Vault</b> サーバーのサイトの ID を使用します。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name (必須)	対象ボリュームとして設定したい共有の名前。
-FileName (必須)	ボリュームを取り込みたいファイルサーバーの名前。
-FileServerId (必須)	ボリュームを取り込みたいファイルサーバーの ID。
-VaultStoreName (必須)	新しいボリュームからファイルをアーカイブするために使用するボルトストアの名前。
VaultStoreId (必須)	新しいボリュームからファイルをアーカイブするために使用するボルトストアの ID。
-TaskName (必須)	ボリュームに使用するファイルシステムアーカイブタスクの名前。このタスクはボルトストアと同じコンピュータに存在する必要があります。
-TaskId (必須)	ボリュームに使用するファイルシステムアーカイブタスクの ID。このタスクはボルトストアと同じコンピュータに存在する必要があります。
-PolicyName (必須)	新しいボリュームに使用する <b>FSA</b> ボリュームポリシーの名前。
-PolicyId (必須)	新しいボリュームに使用する <b>FSA</b> ボリュームポリシーの ID。
-DisableArchiving	指定すると、ボリュームのファイルアーカイブが無効になります。

## 例

- New-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -Name Sales -FileServerId 1FB...example.com -PolicyId 10C...example.com -VaultStoreId 1AC...example.com -TaskId 120...example.com  
ID が「1FB...example.com」のファイルサーバーで指定したプロパティとともにアーカイブするボリュームとして既存の共有「Sales」を追加します。
- New-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -Name Marketing -FileServerId 1FB...example.com -PolicyId 10C...example.com



```
-VaultStoreId 1AC...example.com -TaskId 120...example.com  
-DisableArchiving
```

ID が「1FB...example.com」のファイルサーバーで、指定したプロパティとともにボリュームとして既存の共有「Marketing」を追加してボリュームのアーカイブを阻止します。

- New-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -Name Finance  
-FileName WindowsFiler.example.com -PolicyName 'FSA Volume Policy'  
-VaultStoreName VSForShares -TaskName 'File System Archiving Task'

完全修飾 DNS 名が「WindowsFiler.example.com」のファイルサーバーで、指定したプロパティとともにアーカイブするボリュームとして既存の共有「Finance」を追加します。

- New-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -Name HumanResources  
-FileName ¥¥WindowsFiler -PolicyName Name 'FSA Volume Policy'  
-VaultStoreName VSForShares -TaskName 'File System Archiving Task'  
エイリアスが「¥¥WindowsFiler」のファイルサーバーで、指定したプロパティとともにアーカイブするボリュームとして既存の共有「HumanResources」を追加します。

## 出力

表 3-20 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 3-20 New-EVFSAVolume プロパティ

名前	種類	説明
VolumeName	文字列	FSA ボリュームの名前。
VolumeId	文字列	FSA ボリュームの ID。
FileName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているボリュームをホストするファイルサーバーの名前。
FileServerId	文字列	ボリューム共有をホストするファイルサーバーの ID。
VaultStoreName	文字列	ボリュームからアーカイブしたファイルの格納に使用するボルトストアの名前。
VaultStoreId	文字列	ボリュームからアーカイブしたファイルの格納に使用するボルトストアの ID。
TaskName	文字列	ボリュームの処理に使用するファイルシステムアーカイブタスクの名前。

名前	種類	説明
TaskId	文字列	ボリュームの処理に使用するファイルシステムアーカイブタスクの ID。
PolicyName	文字列	ボリュームからアーカイブするときに使用するファイルシステムのボリュームアーカイブポリシーの名前。
PolicyId	文字列	ボリュームからアーカイブするときに使用するファイルシステムのアーカイブポリシーの ID。
DisableArchiving	SwitchParameter	ボリュームのファイルアーカイブを無効にするかどうかを指定する。
PassthroughRecall	SwitchParameter	ボリュームのパススルー呼び戻しを有効にするかどうかを指定する。
SiteId	文字列	ボリュームが設定されている Enterprise Vault サイトの ID。

## 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.48 の「[Get-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.70 の「[Remove-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.87 の「[Set-EVFSAServer](#)」を参照してください。

# Remove-EVFSAServer

Remove-EVFSAServer は、Enterprise Vault サイトから指定したファイルサーバーを削除します。ファイルサーバーの削除を確認するよう促すプロンプトが表示されます。この cmdlet を実行する前に、ファイルサーバーボリュームを処理するファイルシステムアーカイブタスクを停止してください。

Remove-EVFSAServer は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Remove-EVFSAServer [-SiteId <String>] [-Identifier] <String>  
[-Confirm [<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-21 Remove-EVFSAServer パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーを設定した <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略すると、Remove-EVFSAServer で、コマンドを実行している <b>Enterprise Vault</b> サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Identifier (必須)	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定されている対象ファイルサーバーの完全修飾 DNS 名、UNC 名、またはエントリ ID。名前は、ファイルサーバーを追加したときに使った名前または管理コンソールに表示される名前と同じにする必要があります。ファイルサーバー名は、Get-EVFSAServer を使って取得できます。  パラメータエイリアス: FileServerDNSName、FileServerName、FileServerId。
-Confirm	cmdlet を実行する前に確認するように求められます。確認プロンプトが表示されないようにするには、-Confirm:\$false と入力します。
-WhatIf	cmdlet の実行結果のプレビューが表示されます。cmdlet は実際には実行されません。

## 例

- Remove-EVFSAServer -Identifier ¥¥abc  
または  
Remove-EVFSAServer -FileServerName ¥¥abc  
UNC 名が「¥¥abc」のファイルサーバーを削除します。
- Remove-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -Identifier abc.example.com  
または  
Remove-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -FileServerDNSName abc.example.com  
指定した **Enterprise Vault** サイトから完全修飾ドメイン名が「abc.example.com」のファイルサーバーを削除します。
- Remove-EVFSAServer -Identifier 198...example.com  
または  
Remove-EVFSAServer -FileServerId 198...example.com  
エントリ ID が「198...example.com」のファイルサーバーを削除します。
- "abc.example.com" | Remove-EVFSAServer  
完全修飾ドメイン名が「abc.example.com」のファイルサーバーを削除します。

- `Get-EVFSAServer | Remove-EVFSAServer`  
ローカルの Enterprise Vault サーバーを設定している Enterprise Vault サイトに設定されているすべてのファイルサーバーを削除します。

## 出力

この cmdlet は出力を返しません。

## 関連 cmdlet

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.38 の「[Get-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.51 の「[New-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.72 の「[Set-EVFSAServer](#)」を参照してください。

# Remove-EVFSAFolder

`Remove-EVFSAFolder` は、Enterprise Vault の設定から指定したフォルダを削除します。フォルダの削除を確認するよう促すプロンプトが表示されます。この cmdlet を実行する前に、ファイルサーバーボリュームを処理するファイルシステムアーカイブタスクを停止してください。

`Remove-EVFSAFolder` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

## 構文

```
Remove-EVFSAFolder [-SiteId <String>] [-FileServer] <String> [-Volume]
<String> [-FolderRelativePath] <String> [-Confirm [<SwitchParameter>]]
[-WhatIf [<SwitchParameter>]] [<CommonParameters>]
```

```
Remove-EVFSAFolder [-SiteId <String>] -Identifier <String> [-Confirm
[<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-22 Remove-EVFSAFolder のパラメータ

パラメータ	説明
-FileServer (必須)	<p>フォルダをホストするファイルサーバーの完全修飾 DNS 名、UNC 名、エイリアス名、またはエントリ ID。名前は、ファイルサーバーを追加したときに使った名前または管理コンソールに表示される名前と同じにする必要があります。ファイルサーバー名は、Get-EVFSAServer を使って取得できます。UNC 名は「<del>\\\\</del>」接頭辞を付けても付けなくても指定できます。また、ホスト名とエイリアスのいずれかを UNC 名として指定できます。</p> <p>パラメータエイリアス: <code>FileServerDNSName</code>、<code>FileServerName</code>、<code>FileServerId</code>。</p>
-Identifier (必須)	<p>次の形式で削除するフォルダのパスを示します。</p> <p><del>\\\\</del><i>file server name</i><del>\\\\</del><i>volume name</i><del>\\\\</del><i>folder relative path</i></p>
-Volume (必須)	<p>フォルダをホストするファイルサーバーのボリュームの名前またはエントリ ID。</p> <p>パラメータエイリアス: <code>VolumeId</code>、<code>VolumeName</code></p>
-FolderRelativePath (必須)	<p>削除するフォルダの相対パス。</p> <p>パラメータエイリアス: <code>FolderName</code></p>
-SiteId	<p>ファイルサーバーボリュームを設定している Enterprise Vault サイトの ID。このパラメータを省略すると、Remove-EVFSAFolder で、cmdlet を実行している Enterprise Vault サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>
-Confirm	<p>cmdlet を実行する前に確認するように求められます。プロンプトを表示しないようにするには、<code>-Confirm:\$false</code> と入力します。</p>
-WhatIf	<p>cmdlet の実行結果のプレビューが表示されます。cmdlet は実際には実行されません。</p>

## 例

- Remove-EVFSAFolder -FileServer ~~\\\\~~abc -Volume volume1

-FolderRelativePath folder1

または

Remove-EVFSAFolder -FileServerName ~~\\\\~~abc -VolumeName volume1

-FolderRelativePath folder1

または

```
Remove-EVFSASFolder ¥¥abc volume1 folder1
```

または

```
Remove-EVFSASFolder -FolderPath ¥¥abc¥volume1¥folder1
```

または

```
Remove-EVFSASFolder -Identifier ¥¥abc¥volume1¥folder1
```

UNC 名「¥¥abc」のファイルサーバーで設定されるファイルサーバーボリューム「volume1」からフォルダ「folder1」を削除します。

## 出力

Remove-EVFSASFolder は出力を返しません。

## 関連 cmdlet

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.45 の「[Get-EVFSASFolder](#)」を参照してください。
- p.58 の「[New-EVFSASFolder](#)」を参照してください。
- p.81 の「[Set-EVFSASFolder](#)」を参照してください。

# Remove-EVFSASVolume

Remove-EVFSASVolume は、Enterprise Vault の設定から指定したボリュームを削除します。ボリュームの削除を確認するメッセージが表示されます。ボリュームの処理に使うファイルシステムアーカイブタスクが停止状態でない場合にはボリュームは削除できません。

Remove-EVFSASVolume は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Remove-EVFSASVolume [-SiteId <String>] [-Name] <String>  
[-FileName] <String> [-WhatIf [<SwitchParameter>]] [-Confirm  
[<SwitchParameter>]] [<CommonParameters>]
```

```
Remove-EVFSASVolume [-SiteId <String>] [-Name] <String> -FileServerId  
<String> [-WhatIf [<SwitchParameter>]] [-Confirm [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-23 Remove-EVFSASVolume パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーを設定している <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略すると、Remove-EVFSASVolume で、cmdlet を実行している <b>Enterprise Vault</b> サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-FileServerName (必須)	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定している、ボリュームをホストする対象ファイルサーバーの完全修飾 DNS 名またはエイリアス。
-FileServerId (必須)	ボリューム共有を提供する対象ファイルサーバーの ID。
-Name (必須)	削除するボリュームの名前。

## 例

- Remove-EVFSASVolume -SiteId 198...example.com -Name Sales  
-FileServerId 1FB...example.com  
ID が「1FB...example.com」のファイルサーバーのボリューム「Sales」を削除します。
- Remove-EVFSASVolume -SiteId 198...example.com -Name Finance  
-FileServerName WindowsFiler.example.com  
ファイルサーバー「WindowsFiler.example.com」のボリューム「Finance」を削除します。

## 出力

Remove-EVFSASVolume は出力を返しません。

## 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.48 の「[Get-EVFSASVolume](#)」を参照してください。
- p.63 の「[New-EVFSASVolume](#)」を参照してください。
- p.87 の「[Set-EVFSASVolume](#)」を参照してください。

# Set-EVFSFileServer

Set-EVFSFileServer は、ファイルシステムアーカイブのターゲットとして追加される既存のファイルサーバーの指定した設定を更新します。ファイルサーバーは、-Identifier または -FileServer を使って指定できます。

この cmdlet には、異なるファイルサーバーを更新する際に使うことができる各種のオプションパラメータがあります。

- **Windows** ファイルサーバーの場合は、-EnableArchiving、-ActionOnPlaceholderDelete、-EnablePassthroughRecall、-PassthroughRecallCacheLocation、および -PassthroughRecallCacheSizeInGB を使うことができます。
- **NetApp 7-mode** ファイルサーバーの場合は、-EnableArchiving、-EnablePassthroughRecall、-ActionOnPlaceholderDelete、-EnablePlaceholderRecalls、-MaxRecallThreads、-RecallLimitMaxRecalls、-RecallLimitTimeInterval、および -IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators を使うことができます。
- **C-Mode** ファイルサーバーの場合は、-EnableArchiving、-ActionOnPlaceholderDelete、-EnablePlaceholderRecalls、-MaxRecallThreads、-RecallLimitMaxRecalls、-RecallLimitTimeInterval、および -IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators を使うことができます。
- **Celerra/VNX** ファイルサーバーの場合、-EnableArchiving、-UsePlaceholderShortcuts、-DataMoverAccountDetails、-PortNumber、-SSLRequired を使用できます。

Set-EVFSFileServer は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Set-EVFSFileServer [-SiteId <String>] [-Identifier] <String>
[-EnableArchiving [<SwitchParameter>]] [-ActionOnPlaceholderDelete
{RetainArchivedFile | DeleteArchivedFile}] [-EnablePassthroughRecall
[<SwitchParameter>]] [-PassthroughRecallCacheLocation [<String>]]
[-PassthroughRecallCacheSizeInGB [<Integer>]]
[-EnablePlaceholderRecalls [<SwitchParameter>]] [-MaxRecallThreads
<Integer>]] [-RecallLimitMaxRecalls [<Integer>]]
[-RecallLimitTimeInterval [<Integer>]]
[-IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators [<SwitchParameter>]]
[-UsePlaceholderShortcuts [<SwitchParameter>]]
[-DataMoverAccountDetails [<PSCredential>]] [-PortNumber [<Integer>]]
[-SSLRequired [<SwitchParameter>]] [<CommonParameters>]
```



```
Set-EVFSAServer [-SiteId <String>] [-FileServer] <-FileServer>
[-EnableArchiving [<SwitchParameter>]] [-ActionOnPlaceholderDelete
{RetainArchivedFile | DeleteArchivedFile}] [-EnablePassthroughRecall
[<SwitchParameter>]] [-PassthroughRecallCacheLocation [<String>]]
[-PassthroughRecallCacheSizeInGB [<Integer >]]
[-EnablePlaceholderRecalls [<SwitchParameter>]] [-MaxRecallThreads
[<Integer>]] [-RecallLimitMaxRecalls [<Integer>]]
[-RecallLimitTimeInterval [<Integer>]]
[-IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators [<SwitchParameter>]]
[-UsePlaceholderShortcuts [<SwitchParameter>]]
[-DataMoverAccountDetails [<PSCredential>]] [-PortNumber [<Integer>]]
[-SSLRequired [<SwitchParameter>]] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-24 Set-EVFSAServer パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーを設定した <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略すると Set-EVFSAServer で、コマンドを実行している <b>Enterprise Vault</b> サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Identifier (必須)	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定されている対象ファイルサーバーの完全修飾 DNS 名、UNC 名、またはエントリ ID。名前は、ファイルサーバーを追加したときに使った名前または管理コンソールに表示される名前と同じにする必要があります。ファイルサーバー名は、Get-EVFSAServer を使って取得できます。  パラメータエイリアス: <b>FileServerDNSName</b> 、 <b>FileServerName</b> 、 <b>FileServerId</b> 。
-FileServer	<b>FileServer</b> オブジェクトを指定します。cmdlet は、ファイルサーバーのターゲットを識別するために、指定されたオブジェクトの <b>FileServerId</b> プロパティのみを使うことに注意してください。更新する必要があるパラメータは指定する必要があります。
-EnableArchiving	ファイルサーバーでのファイルシステムアーカイブを有効にします。無効にするには、 -EnableArchiving:\$false を入力します。

パラメータ	説明
-ActionOnPlaceholderDelete	プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。可能な値は <b>RetainArchivedFile</b> と <b>DeleteArchivedFile</b> です。
-EnablePassthroughRecall	<b>Windows</b> と <b>NetApp 7-mode</b> のファイルサーバー上のパススルー呼び戻しを有効にします。 <b>NetApp Filer</b> のパススルー呼び戻しは <b>Enterprise Vault</b> サーバーのプロパティで定義されるキャッシュの場所を使います。このキャッシュが存在しない場合は、手動で設定する必要があります。
-PassthroughRecall CacheLocation	<b>Windows</b> ファイルサーバーのパススルー呼び戻しのキャッシュの場所を指定します。
-PassthroughRecall CacheSizeInGB	<b>Windows</b> ファイルサーバーのパススルー呼び戻しのキャッシュの場所のサイズをギガバイト単位で指定します。
-EnablePlaceholderRecalls	<b>NetApp</b> ファイルサーバーでのプレースホルダの呼び戻しを有効にします。
-MaxRecallThreads	<b>NetApp</b> ファイルサーバーでアイテムを呼び戻すときに使用する、呼び戻しスレッドの最大数を指定します。この値は同時呼び戻し数と同じです。
-RecallLimitMaxRecalls	<b>NetApp</b> ファイルサーバーで指定した時間内にユーザーが呼び戻しできるアイテムの最大数を指定します。
-RecallLimitTimeInterval	<b>NetApp</b> ファイルサーバーでのアイテムの呼び戻しの速度を制御するために「 <b>RecallLimitMaxRecalls</b> 」とともに使われる秒単位の時間間隔を指定します。
-IgnoreRecallLimit ForLocalAdministrators	<b>NetApp</b> ファイルサーバーのローカル <b>Administrators</b> グループのメンバーに、呼び戻し限度を適用するかどうかを制御します。
-UsePlaceholderShortcuts	<b>Celerra/VNX</b> ファイルサーバーでプレースホルダショートカットを有効にします。
-DataMoverAccountDetails	<b>Enterprise Vault</b> が認証に使用できる <b>Celerra/VNX Data Mover</b> のアカウントのユーザー名とパスワードを指定します。
-PortNumber	データ移動サービス (DHSM) を設定する <b>Celerra/VNX</b> のポート番号を指定します。
-SSLRequired	プレースホルダショートカットが有効なときに <b>Celerra/VNX Data Mover HTTP</b> サーバーが <b>SSL (Secure Sockets Layer)</b> を使うかどうかを指定します。

## 例

- `Set-EVFSAServer -Identifier ¥¥abc -EnableArchiving`  
または  
`Set -EVFSAServer -FileName ¥¥abc -EnableArchiving`  
UNC 名が「¥¥abc」のファイルサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にします。
- `Set-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -Identifier abc.example.com -EnableArchiving:$false`  
または  
`Set-EVFSAServer -SiteId 198...example.com -FileServerDNSName abc.example.com -EnableArchiving:$false`  
完全修飾ドメイン名が「abc.example.com」のファイルサーバーのファイルシステムアーカイブを無効にします。
- `Set-EVFSAServer -Identifier ¥¥NetAppFS -EnablePlaceholderRecalls -MaxRecallThreads 10 -RecallLimitMaxRecalls 20 -RecallLimitTimeInterval 30 -IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators`  
UNC 名が「¥¥NetAppFS」の NetApp ファイルサーバーにおけるプレースホルダの呼び戻しを有効にし、呼び戻スレッドの最大数と管理者がファイルを呼び戻すことができる速度を更新します。このコマンドはローカル管理者グループで呼び戻し限度を無視するかについても指定します。
- `Set-EVFSAServer -Identifier ¥¥VNXFS -UsePlaceHolderShortcuts -PortNumber 5080 -SSLRequired:$false -DataMoverAccountDetails (Get-Credential)`  
UNC 名が「¥¥VNXFS」の Celerra/VNX ファイルサーバーのプレースホルダショートカットを有効にし、Data Mover アカウントの詳細を更新します。
- `Set-EVFSAServer ¥¥abc -ActionOnPlaceholderDelete RetainArchivedFile`  
UNC 名が「¥¥abc」のファイルサーバーのプレースホルダ削除設定の処理を「アーカイブファイルを保持」に更新します。
- `Set-EVFSAServer ¥¥abc -EnablePassthroughRecall -PassthroughRecallCacheLocation "C:¥¥CacheLocation" -PassthroughRecallCacheSizeInGB 5`  
UNC 名「¥¥abc」を持つ Windows ファイルサーバーのパススルー呼び戻しを有効にします。このコマンドは、パススルー呼び戻しのキャッシュの場所とサイズも更新します。
- `Set-EVFSAServer -FileServer $obj -EnableArchiving`

入力 **FileServer** オブジェクトを使って識別されるファイルサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にします。

---

**メモ:** **FileServer** オブジェクトを作成するには、次のコマンドを実行します: `$obj = Get-EVFSAServer -FileName ¥¥abc`

---

- `Get-EVFSAServer -FileName ¥¥abc | Set-EVFSAServer -EnableArchiving`  
`Get-EVFSAServer` から取得した **FileServer** オブジェクトを `Set-EVFSAServer` にパイプし、アーカイブ対象のファイルサーバーを有効にします。
- `Set-EVFSAServer ¥¥NetAppFS -EnablePassthroughRecall`  
UNC 名「¥¥NetAppFS」を持つ **NetApp 7-mode** ファイルサーバーのパススルー呼び出しを有効にします。

## 出力

次の表に利用可能なプロパティを示します。

- 表 3-25 は、利用可能な **WindowsFileServer** プロパティを一覧表示します。
- 表 3-26 は、利用可能な **NetAppCModeFileServer** プロパティを一覧表示します。
- 表 3-27 は、利用可能な **NetApp7ModeFileServer** プロパティを一覧表示します。
- 表 3-28 は、利用可能な **EMCCelerraOrVNXFileServer** プロパティを一覧表示します。
- 表 3-29 は、利用可能な **DHSMServiceConfiguration** プロパティを一覧表示します。
- 表 3-30 は、利用可能なファイルサーバープロパティを一覧表示します。

**表 3-25** Set-EVFSAServer - WindowsFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は WindowsFileServer です。

名前	種類	説明
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
PassthroughRecall	Boolean	パススルー呼び戻しを設定するかどうかを指定します。
PassthroughRecall CacheLocation	文字列	パススルー呼び戻しのキャッシュの場所を指定します。
PassthroughRecall CacheSizeInGB	整数	パススルー呼び戻しのキャッシュの場所のサイズをギガバイト単位で指定します。
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOn PlaceholderDelete	ブレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には <b>RetainArchivedFile</b> または <b>DeleteArchivedFile</b> を指定できます。

表 3-26 Set-EVFSAServer - NetAppCModeFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は <b>NetAppCModeFileServer</b> です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOn PlaceholderDelete	ブレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には <b>RetainArchivedFile</b> または <b>DeleteArchivedFile</b> を指定できます。

名前	種類	説明
PlaceholderRecallsEnabled	Boolean	NetApp Filer のプレースホルダの呼び戻しの処理を有効にするかどうかを指定します。
MaxRecallThreads	整数	アイテムを呼び戻しするときに使われる呼び戻しスレッドの最大数。この値は同時呼び戻し数と同じです。
RecallLimitMaxRecalls	整数	ユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
RecallLimitTimeInterval	整数	指定した時間内にユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators	Boolean	NetApp Filer のローカル Administrators グループのメンバーに、呼び戻し限度を適用するかどうかを指定します。

表 3-27 Set-EVFSFileServer - NetApp7ModeFileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は NetApp7ModeFileServer です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
ActionOnPlaceholderDelete	ActionOnPlaceholderDelete	プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを保持するか削除するかを指定します。値には RetainArchivedFile または DeleteArchivedFile を指定できます。
PassthroughRecall	Boolean	パススルー呼び戻しを設定するかどうかを指定します。

名前	種類	説明
PlaceholderRecallsEnabled	Boolean	NetApp Filer のプレースホルダの呼び戻しの処理を有効にするかどうかを指定します。
MaxRecallThreads	整数	アイテムを呼び戻しするときに使われる呼び戻しスレッドの最大数。この値は同時呼び戻し数と同じです。
RecallLimitMaxRecalls	整数	ユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
RecallLimitTimeInterval	整数	指定した時間内にユーザーが呼び戻すことができるアイテムの最大数を指定します。
IgnoreRecallLimitForLocalAdministrators	Boolean	NetApp Filer のローカル Administrators グループのメンバーに、呼び戻し限度を適用するかどうかを指定します。

表 3-28 Set-EVFSFileServer - EMC Celerra Or VNX FileServer プロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。Celerra または VNX の場合は、値は EMC Celerra Or VNX FileServer です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。
PlaceholdersEnabled	Boolean	ショートカットを作成するポリシーが有効になっている場合、プレースホルダをファイルサーバーの共有で作成するかどうかを指定します。

名前	種類	説明
DHSMServiceConfiguration	DHSMServiceConfiguration	プレースホルダの作成に必要な DHSM サービスの設定を指定します。

表 3-29 Set-EVFSFileServer - DHSMServiceConfiguration のプロパティ

名前	種類	説明
UserName	文字列	Enterprise Vault が DHSM サービスの認証に使う Data Mover のユーザー名を指定します。
Password	SecureString	Enterprise Vault が DHSM サービスの認証に使う Data Mover アカウントのパスワードを指定します。このパスワードは暗号化形式で、Enterprise Vault ディレクトリデータベースに格納されます。
PortNumber	整数	DHSM が設定されているポート番号を指定します。
SSLRequired	Boolean	DHSM サービスで SSL 接続を必要とするかどうかを指定します。

表 3-30 Set-EVFSFileServer - FileServer のプロパティ

名前	種類	説明
FileServerName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの UNC 名。
FileServerDNSName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているファイルサーバーの ID。
FileServerType	FileServerType	ファイルサーバーの種類。この場合の値は OtherCIFSFileServer です。
Archiving	Boolean	このサーバーのファイルシステムアーカイブを有効にするかどうかを指定します。
SiteId	文字列	ファイルサーバーを設定した Enterprise Vault サイトの ID。



## 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.38 の「[Get-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.51 の「[New-EVFSAServer](#)」を参照してください。
- p.66 の「[Remove-EVFSAServer](#)」を参照してください。

# Set-EVFSAFolder

Set-EVFSAFolder は既存フォルダの指定された設定を更新します。

Set-EVFSAFolder は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Set-EVFSAFolder [-SiteId <String>] [-FileServer] <String> [-Volume]
<String> [-FolderRelativePath] <String> [-Policy <String>]
[-IgnoreVolumeRules [<SwitchParameter>]] [-UseVolumePolicy
<SwitchParameter>]] [-DisableArchivingOnFolder [<SwitchParameter>]]
[-DisableArchivingOnSubFolders [<SwitchParameter>]]
[-IncludeRetentionFolders [<SwitchParameter>]] [-Confirm
<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]
```

```
Set-EVFSAFolder [-SiteId <String>] -Identifier <String> [-Policy
<String>] [-IgnoreVolumeRules [<SwitchParameter>]] [-UseVolumePolicy
<SwitchParameter>]] [-DisableArchivingOnFolder [<SwitchParameter>]]
[-DisableArchivingOnSubFolders [<SwitchParameter>]]
[-IncludeRetentionFolders [<SwitchParameter>]] [-Confirm
<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]
```

```
Set-EVFSAFolder [-SiteId <String>] [-FsaFolder] <FSAFolder> [-Policy
<String>] [-IgnoreVolumeRules [<SwitchParameter>]] [-UseVolumePolicy
<SwitchParameter>]] [-DisableArchivingOnFolder [<SwitchParameter>]]
[-DisableArchivingOnSubFolders [<SwitchParameter>]]
[-IncludeRetentionFolders [<SwitchParameter>]] [-Confirm
<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-31 Set-EVFSFolder パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーボリュームを設定している Enterprise Vault サイトの ID。このパラメータを省略すると、Set-EVFSFolder で、cmdlet を実行している Enterprise Vault サーバーのサイトの ID が使用されます。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-FileServer (必須)	フォルダをホストするファイルサーバーの完全修飾 DNS 名、UNC 名、エイリアス名、またはエントリ ID。名前は、ファイルサーバーを追加したときに使った名前または管理コンソールに表示される名前と同じにする必要があります。ファイルサーバー名は、Get-EVFSFileServer を使って取得できます。UNC 名は「\\」接頭辞を付けても付けなくても指定できます。また、ホスト名とエイリアスのいずれかを UNC 名として指定できます。  パラメータエイリアス: FileServerDNSName、FileServerName、FileServerId。
-Identifier (必須)	次の形式の、更新するフォルダのパス:  \\file server name\volume name\folder relative path
-FsaFolder (必須)	FSAFolder オブジェクトを指定します。cmdlet は指定したオブジェクトから FileServerName、VolumeName、FolderName プロパティを指定してフォルダターゲットを識別します。更新する必要があるパラメータは指定する必要もあります。
-Volume (必須)	フォルダをホストするファイルサーバーのボリュームの名前またはエントリ ID。  パラメータエイリアス: VolumeId、VolumeName
-FolderRelativePath (必須)	更新するフォルダの相対パス。  パラメータエイリアス: FolderName

パラメータ	説明
-Policy	<p>Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブする際に使う必要があるフォルダポリシーの名前またはエントリ ID。指定したフォルダが <b>Celerra/VNX</b> ファイルサーバーにある場合で、ポリシーの[プレースホルダが削除されたときにアーカイブアイテムを削除]設定が有効になっている場合は、確認を求めるメッセージが表示されます。</p> <p>パラメータエイリアス: PolicyId、PolicyName</p>
-IgnoreVolumeRules	<p>Enterprise Vault がフォルダをアーカイブする際にボリュームポリシールールを無視するように指定します。フォルダポリシーを指定していない場合は、このオプションは利用できません。</p>
-UseVolumePolicy	<p>Enterprise Vault がフォルダからアイテムをアーカイブするときにボリュームポリシーを使用するように指定します。-UseVolumePolicy と -Policy の両方のパラメータを使用することはできません。</p>
-DisableArchivingOnFolder	<p>指定したフォルダでファイルシステムアーカイブを無効にします。</p>
-DisableArchivingOnSubFolders	<p>指定したフォルダのサブフォルダでファイルシステムアーカイブを無効にします。</p>
-IncludeRetentionFolders	<p>Enterprise Vault が保持フォルダを更新するかどうかを指定します。指定したフォルダまたはサブフォルダでファイルシステムアーカイブを無効にするには、-DisableArchivingOnFolder および -DisableArchivingOnSubFolders とともに使用します。</p>
-Confirm	<p>cmdlet を実行する前に確認するように求められます。これを使用すると、この cmdlet を <b>Celerra/VNX</b> ファイルサーバーのフォルダに対して実行するときに表示される確認プロンプトの表示を抑制できます。プロンプトを表示しないようにするには、-Confirm:\$false と入力します。</p>
-WhatIf	<p>cmdlet の実行結果のプレビューが表示されます。cmdlet は実際には実行されません。</p>

## 例

- Set-EVFSAFolder ¥¥abc volume1 folder1 -Policy 'office files'  
または

```
Set-EVFSAFolder -FileServer ¥¥abc -Volume volume1  
-FolderRelativePath folder1 -Policy 'office files'
```

または

```
Set-EVFSAFolder -FileServerName ¥¥abc -VolumeName volume1  
-FolderRelativePath folder1 -Policy 'office files'
```

または

```
Set-EVFSAFolder -Identifier ¥¥abc¥volume1¥folder1 -Policy 'office  
files'
```

または

```
Set-EVFSAFolder -FolderPath ¥¥abc¥volume1¥folder1 -Policy 'office  
files'
```

UNC 名が「¥¥abc」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「volume1」のフォルダ「folder1」に「office files」というフォルダポリシーを適用します。

- Set-EVFSAFolder '123...example.com' '456...example.com' folder1  
-Policy '789...example.com' -DisableArchivingOnFolder  
-DisableArchivingOnSubFolders -IgnoreVolumeRules

または

```
Set-EVFSAFolder -FileServer '123...example.com' -Volume  
'456...example.com' -FolderRelativePath folder1 -Policy  
'789...example.com' -DisableArchivingOnFolder  
-DisableArchivingOnSubFolders -IgnoreVolumeRules
```

または

```
Set-EVFSAFolder -FileServerId '123...example.com' -VolumeId  
'456...example.com' -FolderRelativePath folder1 -PolicyId  
'789...example.com' -DisableArchivingOnFolder  
-DisableArchivingOnSubFolders -IgnoreVolumeRules
```

エントリ ID が「789...example.com」のフォルダポリシーを、エントリ ID が「123...example.com」のファイルサーバーに設定された、エントリ ID が「456...example.com」のファイルサーバーボリュームにあるフォルダ「folder1」に適用します。このコマンドは、指定したフォルダとそのサブフォルダでのアーカイブも無効にします。また、フォルダをアーカイブする際はボリュームポリシールールを無視します。

- Set-EVFSAFolder abc.example.com volume1 folder1 -UseVolumepolicy

または

```
Set-EVFSAFolder -FileServer abc.example.com -Volume volume1  
-FolderRelativePath folder1 -UseVolumepolicy
```

または

```
Set-EVFSAFolder -FileServerDNSName abc.example.com -VolumeName  
volume1 -FolderRelativePath folder1 -UseVolumepolicy
```

または

```
Set-EVFSFolder -FolderPath ¥¥abc.example.com¥volume1¥folder1  
-UseVolumePolicy
```

完全修飾ドメイン名が「**abc.example.com**」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「**volume1**」のフォルダ「**folder1**」にボリュームポリシーを適用します。

- `Set-EVFSFolder -FsaFolder $obj -UseVolumePolicy`  
入力した **FsaFolder** オブジェクトを使って識別されるフォルダにボリュームポリシーを適用します。

---

**メモ:** **FsaFolder** オブジェクトを作成するには、コマンド `Get-EVFSFolder` を実行します。`$obj = Get-EVFSFolder -Identifier ¥¥abc.example.com¥volume1¥folder1`

---

- `Get-EVFSFolder - Identifier ¥¥abc.example.com¥volume1¥folder1 | Set-EVFSFolder -UseVolumePolicy`  
**Get-EVFSFolder cmdlet** から取得した **FsaFolder** オブジェクトを **Set-EVFSFolder cmdlet** にパイプ処理して、フォルダのボリュームポリシーを適用します。
- `Set-EVFSFolder abc.example.com volume1 folder1 -IncludeRetentionFolders -DisableArchivingOnSubFolders`  
または  
`Set-EVFSFolder -FileServer abc.example.com -Volume volume1 -FolderRelativePath folder1 -IncludeRetentionFolders -DisableArchivingOnSubFolders`  
または  
`Set-EVFSFolder -FileServerDNSName abc.example.com -VolumeName volume1 -FolderRelativePath folder1 -IncludeRetentionFolders -DisableArchivingOnSubFolders`  
または  
`Set-EVFSFolder -FolderPath ¥¥abc.example.com¥volume1¥folder1 -IncludeRetentionFolders -DisableArchivingOnSubFolders`  
完全修飾ドメイン名が「**abc.example.com**」のファイルサーバーに設定されたファイルサーバーボリューム「**volume1**」にある保持フォルダ「**folder1**」のサブフォルダのアーカイブを無効にします。

## 出力

次の表に、利用可能な **Set-EVFSFolder** のプロパティを示します。

表 3-32 Set-EVFSAFolder properties

名前	種類	説明
FolderPath	文字列	ファイルシステムアーカイブ用に有効になるフォルダのフルパス。パスは <b>¥¥file server name¥¥volume name¥¥folder relative path</b> の形式にする必要があります。
FolderName	文字列	フォルダの相対パス。
IsRetentionFolder	ブール値	フォルダが保持フォルダであるかどうかを指定します。
FolderPolicyName	文字列	<b>Enterprise Vault</b> がフォルダからアイテムをアーカイブするのに使うフォルダポリシーの名前。
VolumePolicyName	文字列	<b>Enterprise Vault</b> がボリュームからアイテムをアーカイブするのに使うボリュームポリシーの名前。
IgnoreVolumeRules	文字列	<b>Enterprise Vault</b> がフォルダからアイテムをアーカイブする際にボリュームポリシールールを無視するように指定します。
ArchivingEnabledOnFolder	Boolean	ファイルシステムアーカイブをフォルダで有効にするかどうかを指定します。
ArchivingEnabledOnSubfolders	Boolean	ファイルシステムアーカイブをフォルダのサブフォルダで有効にするかどうかを指定します。
FileServerName	文字列	フォルダをホストするファイルサーバーの完全修飾 DNS 名。
FileServerId	文字列	フォルダをホストするファイルサーバーの ID。
VolumeName	文字列	フォルダをホストするボリュームの名前。
VolumeId	文字列	フォルダをホストするボリュームの ID。
FolderId	文字列	フォルダの ID。
FolderPolicyId	文字列	<b>Enterprise Vault</b> がフォルダからアイテムをアーカイブするのに使うフォルダポリシーの ID。

名前	種類	説明
VolumePolicyId	文字列	Enterprise Vault がボリュームからアイテムをアーカイブするのに使うボリュームポリシーの ID。

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.45 の「[Get-EVFSAFolder](#)」を参照してください。
- p.58 の「[New-EVFSAFolder](#)」を参照してください。
- p.68 の「[Remove-EVFSAFolder](#)」を参照してください。

## Set-EVFSAVolume

Set-EVFSAVolume は、既存のファイルサーバーボリュームの指定済み設定を更新します。Celerra 共有の場合にボリュームポリシーでパススルーと[ブレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを削除]の両方が有効になっていると、データが失われる可能性があるため、処理の確認メッセージが表示されます。

Set-EVFSAVolume は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

### 構文

```
Set-EVFSAVolume [-SiteId <String>] [-Name] <String> [-FileServerName]
<String> [[-TaskName] <String>] [[-PolicyName] <String>]
[-DisableArchiving [<SwitchParameter>]] [-PassthroughRecall
[<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]] [-Confirm
[<SwitchParameter>]] [<CommonParameters>]
```

```
Set-EVFSAVolume [-SiteId <String>] [-Name] <String> -FileServerId
<String> [-TaskId <String>] [-PolicyId <String>] [-DisableArchiving
[<SwitchParameter>]] [-PassthroughRecall [<SwitchParameter>]] [-WhatIf
[<SwitchParameter>]] [-Confirm [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 3-33 Set-EVFSAVolume パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	ファイルサーバーを設定している <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略すると、Set-EVFSAVolume はコマンドレットを実行している <b>Enterprise Vault</b> サーバーのサイトの ID を使用します。Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name (必須)	更新するボリュームの名前。
-FileServerName (必須)	<b>Enterprise Vault</b> サイトで設定されている、ボリュームをホストする対象ファイルサーバーの完全修飾 DNS 名またはエイリアス。
-FileServerId (必須)	ボリューム共有を提供する対象ファイルサーバーの ID。
-TaskName	ボリュームに使用するファイルシステムアーカイブタスクの名前。このタスクはボルトストアと同じコンピュータに存在する必要があります。
-TaskId	ボリュームに使用するファイルシステムアーカイブタスクの ID。このタスクはボルトストアと同じコンピュータに存在する必要があります。
-PolicyName	新しいボリュームに使用する <b>FSA</b> ボリュームポリシーの名前。
-PolicyId	新しいボリュームに使用する <b>FSA</b> ボリュームポリシーの ID。
-DisableArchiving	指定すると、ボリュームのファイルアーカイブが無効になります。
-PassthroughRecall	指定すると、ボリュームでパススルー呼び戻しが有効になります。このオプションは、 <b>Windows</b> ファイルサーバーで提供するボリューム共有にのみ設定できます。ファイルサーバーでパススルー呼び戻しを設定した場合にのみ利用可能です。

## 例

- Set-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -Name Sales -FileServerId 1FB...example.com -PolicyId 10C...example.com -TaskId 120...example.com  
ID が「1FB...example.com」のファイルサーバーで、ポリシーとタスクの ID 値を使用してボリューム「Sales」のポリシーとタスクを更新します。
- Set-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -Name Finance  
-FileServerName WindowsFiler.example.com -PolicyName 'FSA Volume Policy' -TaskName 'File System Archiving Task'



完全修飾 DNS 名が「WindowsFiler.example.com」のファイルサーバーで、name の値を使用してボリューム「Finance」のポリシーとタスクを更新します。

- Set-EVFSAVolume -SiteId 198...example.com -Name HumanResources -FileName ¥¥WindowsFiler -DisableArchiving -PassthroughRecall  
アーカイブを無効にして、ファイルサーバー「¥¥WindowsFiler」のボリューム「HumanResources」のパススルー呼び戻しを有効にします。

## 出力

表 3-34 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 3-34 Set-EVFSAVolume プロパティ

名前	種類	説明
VolumeName	文字列	FSA ボリュームの名前。
VolumeId	文字列	FSA ボリュームの ID。
FileName	文字列	Enterprise Vault サイトで設定されているボリュームをホストするファイルサーバーの名前。
FileServerId	文字列	ボリューム共有をホストするファイルサーバーの ID。
VaultStoreName	文字列	ボリュームからアーカイブしたファイルの格納に使用するボルトストアの名前。
VaultStoreId	文字列	ボリュームからアーカイブしたファイルの格納に使用するボルトストアの ID。
TaskName	文字列	ボリュームの処理に使用するファイルシステムアーカイブタスクの名前。
TaskId	文字列	ボリュームの処理に使用するファイルシステムアーカイブタスクの ID。
PolicyName	文字列	ボリュームからアーカイブするときに使用するファイルシステムのボリュームアーカイブポリシーの名前。
PolicyId	文字列	ボリュームからアーカイブするときに使用するファイルシステムのアーカイブポリシーの ID。
DisableArchiving	SwitchParameter	ボリュームのファイルアーカイブを無効にするかどうかを指定する。
PassthroughRecall	SwitchParameter	ボリュームのパススルー呼び戻しを有効にするかどうかを指定する。

名前	種類	説明
SiteId	文字列	ボリュームが設定されている Enterprise Vault サイトの ID。

## 関連コマンドレット

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。
- p.48 の「[Get-EVFSAVolume](#)」を参照してください。
- p.63 の「[New-EVFSAVolume](#)」を参照してください。
- p.70 の「[Remove-EVFSAVolume](#)」を参照してください。

# アーカイブ: Skype for Business

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)
- [New-EVSkypeForBusinessTarget](#)
- [Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)
- [Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)

## Get-EVSkypeForBusinessTarget

`Get-EVSkypeForBusinessTarget` は **Enterprise Vault** ディレクトリで設定されている **Skype for Business** アーカイブターゲットに関する情報を一覧表示します。`-SiteID` パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、`Get-EVSkypeForBusinessTarget` がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

特定の **Skype for Business** アーカイブターゲットの詳細を取得するには、**Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定します。

`Get-EVSkypeForBusinessTarget` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

### 構文

```
Get-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]  
[[[-TargetComputerFQDN] <String>] [<CommonParameters>]]
```

## パラメータ

表 4-1 Get-EVSkypeForBusinessTarget パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	Skype for Business アーカイブターゲットを含むサイトの ID。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-TargetComputerFQDN	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。

## 例

- Get-EVSkypeForBusinessTarget  
現在のサイトのすべての Skype for Business アーカイブターゲットを取得します。
- Get-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com"  
Skype for Business アーカイブターゲット skype01.example.com の詳細を取得します。次に例を示します。  
SiteId : 1ABBB8EF1474D034BB2D13C41C1275F591d10000EV01.example.com  
TargetComputerFQDN : skype01.example.com  
EVServer : EVServer.example.com  
SMTPTaskId : 5  
RetentionCategory : Default Retention Category  
RetentionCategoryId :  
19851E07EAEAF6442BE05ADC32C0CECED1b10000EV01.example.com  
ArchiveName : SMTP Archive 1  
ArchiveId :  
141517FB2DA3BD44CB280E09E9713C8C11110000EV01.example.com  
ArchiveType : SMTP  
ArchiveSamplingReady : True  
VaultStoreName : Express Vault Store  
Enabled : False  
ExportLogOnAccount : SMTP Archiving Task account (Vault Service account)

## 出力

Get-EVSkypeForBusinessTarget は、次のプロパティを備えるタイプ Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVSkypeForBusinessTarget のオブジェクトの配列を返します。

表 4-2 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SkypeForBusinessTarget のプロパティ

名前	種類	説明
SiteId	文字列	Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。
TargetComputerFQDN	文字列	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。
EVServer	文字列	SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。
SMTPTaskId	uint32	Skype for Business データをアーカイブする SMTP アーカイブタスクの ID。
RetentionCategory	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの名前。Enterprise Vault が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画はターゲットに関連付けられたアーカイブに適用されています。Enterprise Vault は保持計画で定義した保持カテゴリを会話に適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、ターゲットのプロパティで定義されている保持カテゴリになります。
RetentionCategoryId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。  ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。
ArchiveName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの名前。
ArchiveId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの ID。
ArchiveType	オブジェクト	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの種類。
ArchiveSamplingReady	Boolean	Skype for Business ターゲットに関連付けられているアーカイブが Compliance Accelerator のサンプリングと互換性があるか (True)、互換性がないか (False)。

名前	種類	説明
VaultStoreName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるボルトストアの名前。
Enabled	Boolean	保存フォルダへのデータのエクスポートで Skype for Business ターゲットが有効になっているか (True)、有効になっていないか (False)。
ExportLogOnAccount	文字列	Enterprise Vault が Skype for Business ターゲットにアクセスするために使用するアカウント。デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントが使用されます。必要に応じ、Set-EVSkypeforBusinessTarget を使用して、ターゲットごとに異なるアカウントを指定できます。

### 関連コマンドレット

- p.94 の「[New-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.101 の「[Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.103 の「[Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。

## New-EVSkypeForBusinessTarget

New-EVSkypeForBusinessTarget は新しい Skype for Business アーカイブターゲットを追加します。-SiteID パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、New-EVSkypeForBusinessTarget がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

New-EVSkypeForBusinessTarget は Skype for Business アーカイブターゲットに関する情報を Enterprise Vault ディレクトリに追加します。

新しい Skype for Business ターゲットを追加するには、次を指定します。

- Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。  
-TargetComputerFQDN. を使用します。

---

**メモ:** フロントエンドプールではなく、個々の Skype for Business コンピュータの完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。

---

- Skype for Business ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するかどうか。-Enabled を使います。

- ターゲットを処理する **Enterprise Vault** サーバー。-EVServer を使用します。
- **Skype for Business** アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。  
保持カテゴリには、-RetentionCategory または -RetentionCategoryId を使用します。保持計画には、-RetentionPlan を使用します。
- **Skype for Business** ターゲットに関連付けるアーカイブ。-ArchiveType で -ArchiveId または -ArchiveName を使用します。

既存の **Skype for Business** アーカイブターゲットを指定すると  
New-EVSkypeForBusinessTarget は失敗します。

-Enabled パラメータを指定してすぐにアーカイブを開始すると  
New-EVSkypeForBusinessTarget が失敗して、SMTP アーカイブタスクが停止します。

New-EVSkypeForBusinessTarget は、**Compliance Accelerator** のサンプリングと互換性がないアーカイブが指定された場合には警告を表示します。

New-EVSkypeForBusinessTarget は、スナップイン  
Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
New-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]  
[-TargetComputerFQDN] <String> [-Enabled <Boolean>] [-EVServer  
<String>] [-RetentionCategory <String>] [-RetentionCategoryId  
<String>] [-RetentionPlan <String>] [-ArchiveName <String>]  
[-ArchiveId <String>] [-ArchiveType <Object>] [-WhatIf] [-Confirm]  
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 4-3 New-EVSkypeForBusinessTarget パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	Skype for Business アーカイブターゲットを追加するサイトの ID。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-TargetComputerFQDN (必須)	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。

パラメータ	説明
-Enabled (必須)	<p>Skype for Business ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するか (\$True)、開始しないか (\$False)。</p> <p>-Enabled パラメータを \$False に設定してターゲットを作成する場合は、エクスポートを開始する前に Set-EVSkypeForBusinessTarget を使ってパラメータを \$True に設定する必要があります。</p>
-EVServer	<p>SMTP アーカイブタスクをホストする <b>Enterprise Vault</b> サーバー。このタスクは、<b>Skype for Business</b> のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。</p>
-RetentionCategory	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける既存の保持カテゴリの名前。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使うことができます。ただし、保持計画を指定する場合は、<b>SMTP</b> アーカイブのみを使うことができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategoryId パラメータを指定できます。</p>
-RetentionCategoryId	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使うことができます。ただし、保持計画を指定する場合は、<b>SMTP</b> アーカイブのみを使うことができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategory パラメータを指定できます。</p>
-RetentionPlan	<p>ターゲットに関連付ける既存の保持計画の名前。この計画で定義した保持カテゴリはターゲットの会話および <b>Enterprise Vault</b> が会話を格納するアーカイブに割り当てられます。このアーカイブに保持計画がすでにある場合は、New-EVSkypeForBusinessTarget は新しい計画をターゲットと関連付けられません。</p> <p>次のいずれも実行できませんので注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保持カテゴリと保持計画の両方を指定する</li> <li>■ 非 <b>SMTP</b> アーカイブに保持計画を割り当てる</li> </ul>



パラメータ	説明
-ArchiveName	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の名前。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveType パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>
-ArchiveId	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の ID。</p> <p>このパラメータの代わりに ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータを指定できます。</p>

パラメータ	説明
-ArchiveType	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の種類。</p> <p>有効なアーカイブの種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ DominoJournal</li><li>■ DominoMailbox</li><li>■ ExchangeJournal</li><li>■ ExchangeMailbox</li><li>■ ExchangePublicFolder</li><li>■ FileSystem</li><li>■ InternetMail</li><li>■ Shared</li><li>■ SharePoint</li><li>■ SharePointStructured</li><li>■ SMTP</li></ul> <p>さらに、Get-EVArchive cmdlet が返すアーカイブの種類も有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_JOURNAL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_MAILBOX</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_FILE_SYSTEM</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_INTERNETMAIL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_JOURNAL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_MAILBOX</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_PUBLIC_FOLDER</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SHARED</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SHAREPOINT</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SMTP</li></ul> <p>Compliance Accelerator と Skype for Business を一緒に使用する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveName パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>
-WhatIf	<p>指定すると、WhatIf がコマンドをテストモードで実行します。想定する変更を実装せずに確認できます。</p>
-Confirm	<p>cmdlet を実行する前に確認するように求められます。</p>

## 例

- `New-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -Enabled $True -EVServer 'EVServer.example.com' -RetentionCategory 'Standard retention' -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP`  
`skype01.example.com` を新しい **Skype for Business** アーカイブターゲットとして追加します。
- `$archiveType = (Get-EVArchive -ArchiveName "SkypeForBusiness Archive 2015_Target").ArchiveType;`  
`New-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -Enabled $True -EVServer 'EVServer.example.com' -RetentionCategory "SkypeForBusiness Retention" -ArchiveName "SkypeForBusiness Archive 2015_Target" -ArchiveType $archiveType`  
`Get-EVArchive` を使ってアーカイブの種類を取得して、その値を変数に保存します。保存したアーカイブの種類の値を使って新しい **Skype for Business** アーカイブターゲットを追加します。

## 出力

`New-EVSkypeForBusinessTarget` は、次のプロパティで構成されるタイプ `Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVSkypeForBusinessTarget` のオブジェクトを返します。

表 4-4 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SkypeForBusinessTarget のプロパティ

名前	種類	説明
SiteId	文字列	Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。
TargetComputerFQDN	文字列	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。
EVServer	文字列	SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。
SMTPTaskId	文字列	Skype for Business データをアーカイブする SMTP アーカイブタスクの ID。

名前	種類	説明
RetentionCategory	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの名前。Enterprise Vault が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画はターゲットに関連付けられたアーカイブに適用されています。Enterprise Vault は保持計画で定義した保持カテゴリを会話に適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、ターゲットのプロパティで定義されている保持カテゴリになります。
RetentionCategoryId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。  ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。
ArchiveName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの名前。
ArchiveId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの ID。
ArchiveType	オブジェクト	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの種類。
ArchiveSamplingReady	Boolean	Skype for Business ターゲットに関連付けられているアーカイブが Compliance Accelerator のサンプリングと互換性があるか (True)、互換性がないか (False)。
VaultStoreName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるボルトストアの名前。
Enabled	Boolean	保存フォルダへのデータのエクスポートで Skype for Business ターゲットが有効になっているか (True)、有効になっていないか (False)。
ExportLogOnAccount	文字列	Enterprise Vault が Skype for Business ターゲットにアクセスするために使用するアカウント。デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントが使用されます。必要に応じ、Set-EVSkypeforBusinessTarget を使用して、ターゲットごとに異なるアカウントを指定できます。

## 関連コマンドレット

- p.91 の「[Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.101 の「[Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.103 の「[Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。

# Remove-EVSkypeForBusinessTarget

`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` は、Enterprise Vault ディレクトリから Skype for Business アーカイブターゲットを削除します。`-SiteID` パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

Skype for Business アーカイブターゲットを削除するには、Skype for Business サーバーが実行されているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。

ターゲットを作成する場合は、Enterprise Vault サーバーのアカウントと関連付けます。このアカウントでは、Skype for Business ターゲットを処理するサーバーで、次の権限が必要です。

- ローカルの **Administrators** グループのメンバーシップ
- サービスとしてログオン権限
- SMTP 保存フォルダへのフルアクセス

デフォルトでは、`Remove-EVSkypeForBusinessTarget cmdlet` で権限を無効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。PowerShell スクリプトの一部として `cmdlet` を実行するときに、`-RevokePermission` パラメータを追加するとこのメッセージは表示されません。

---

**警告:** ターゲットを削除する前に、ターゲットを無効にして保存フォルダが空になるまで待機する必要があります。ターゲットを無効にしないと Enterprise Vault で削除できるようになりません。ターゲットを削除したら、SMTP アーカイブタスクを再起動する必要があります。この順序でこの操作を完了しないと、データが失われる可能性があります。

---

存在しない Skype for Business アーカイブターゲットを指定すると、`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` は失敗します。

`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

## 構文

```
Remove-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]  
[-TargetComputerFQDN] <String> [-RevokePermission <Boolean>] [-WhatIf]  
[-Confirm] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 4-5 Remove-EVSkypeForBusinessTarget パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	削除する <b>Skype for Business</b> アーカイブターゲットを含むサイトの ID。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-TargetComputerFQDN (必須)	<b>Skype for Business</b> サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。
-RevokePermission	<b>Enterprise Vault</b> で、ターゲットに関連付けられている <b>Enterprise Vault</b> サーバーのアカウントから該当の権限を削除できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>ローカルの <b>Administrators</b> グループのメンバーシップ</li><li>サービスとしてログイン権限</li><li>SMTP 保存フォルダへのフルアクセス</li></ul> このパラメータを \$True に設定すると、 <b>Enterprise Vault</b> は権限を自動的に削除します。\$False に設定すると、 <b>Enterprise Vault</b> は権限を削除しません。権限を手動で削除する必要があります。  このパラメータを設定すると、cmdlet で権限の削除を求めるメッセージが表示されません。このパラメータを省略すると、 <b>Enterprise Vault</b> で権限の削除を確認するメッセージが表示されます。
-WhatIf	指定すると、WhatIf がコマンドをテストモードで実行します。想定する変更を実装せずに確認できます。
-Confirm	デフォルトでは、削除操作が実行される前にプロンプトが表示されます。確認プロンプトが表示されないようにする場合は、-Confirm:\$false を使います。

## 例

- Remove-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com"  
ターゲットコンピュータ skype01.example.com に関連付けられている **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。

- `Get-EVSkypeForBusinessTarget | Remove-EVSkypeForBusinessTarget`  
現在のサイトのすべての **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。
- `Remove-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RevokePermission $false`  
ターゲットコンピュータ `skype01.example.com` に関連付けられている **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。このとき、ターゲットに関連付けられているアカウントから権限を削除しないようにします。

## 関連 cmdlet

- p.91 の「[Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.94 の「[New-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.103 の「[Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。

# Set-EVSkypeForBusinessTarget

`Set-EVSkypeForBusinessTarget` は、**Skype for Business** アーカイブターゲットのプロパティを設定または更新します。`-SiteId` パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、`Set-EVSkypeForBusinessTarget` がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

`Set-EVSkypeForBusinessTarget` は、**Enterprise Vault** ディレクトリの **Skype for Business** アーカイブターゲットの情報を設定または更新します。

**Skype for Business** ターゲットのプロパティを設定または更新するには、**Skype for Business Server** が実行されているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定します。`-TargetComputerFQDN` を使用します。

---

**メモ:** フロントエンドプールではなく、個々の **Skype for Business** コンピュータの完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。

---

新規または置換の設定がある場合は、それも指定します。次を含めることができます:

- **Enterprise Vault** サーバー。`-EVServer` を使用します。
- **Skype for Business** アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。  
保持カテゴリには、`-RetentionCategory` または `-RetentionCategoryId` を使用します。保持計画には、`-RetentionPlan` を使用します。
- **Skype for Business** ターゲットに関連付けるアーカイブ。`-ArchiveType` で `-ArchiveId` または `-ArchiveName` を使用します。

- -Enabled パラメータ。Skype for Business ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するには、\$True を使用します。エクスポートを停止するには \$False を使用します。
- Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するアカウントの詳細。アカウントの詳細を PSCredential オブジェクトとして指定するには、-ExportLogOnCredential を使用します。-ExportLogonAccount と -Password を使用して、文字列でユーザー名を指定し、安全を満たす文字列でパスワードを指定します。
- -RemoveExportLogonAccount パラメータ。このパラメータを指定すると、Enterprise Vault は Skype for Business ターゲットにアクセスするためにターゲットに割り当てられているアカウントの使用を停止します。Enterprise Vault は SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントの使用を開始します。

存在しない Skype for Business アーカイブターゲットを指定すると、Set-EVSkypeForBusinessTarget は失敗します。

-Enabled パラメータを指定してすぐにアーカイブを開始すると Set-EVSkypeForBusinessTarget が失敗して、SMTP アーカイブタスクが停止します。

-EVServer パラメータを使用して新しい Enterprise Vault サーバーを指定した場合に、次のいずれかに該当するときは、Set-EVSkypeForBusinessTarget は失敗します。

- 新しい Enterprise Vault サーバーはすでに Skype for Business ターゲットをホストしています。
- SMTP アーカイブタスクは、新しい Enterprise Vault サーバーにインストールされません。

Set-EVSkypeForBusinessTarget は、Compliance Accelerator のサンプリングと互換性がないアーカイブが指定された場合には警告を表示します。Compliance Accelerator と Skype for Business を一緒に使用する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。

Set-EVSkypeForBusinessTarget は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Set-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]  
[-TargetComputerFQDN] <String> [-Enabled <Boolean>] [-EVServer  
<String>] [-RetentionCategory <String>] [-RetentionCategoryId  
<String>] [-RetentionPlan <String>] [-ArchiveName <String>]  
[-ArchiveId <String>] [-ArchiveType <Object>] [-ExportLogOnCredential  
<PSCredential>] [-ExportLogonAccount <String>] [-Password  
<SecureString>]] [-RemoveExportLogonAccount] [-AssignPermission
```



```
<Boolean>] [-RevokePermission <Boolean>] [-WhatIf] [-Confirm]
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 4-6 Set-EVSkypeForBusinessTarget のパラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-TargetComputerFQDN (必須)	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。
-Enabled	Skype for Business ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを開始するか (\$True)、開始しないか (\$False)。  SMTP アーカイブタスクを実行している場合にターゲットを有効にすると、Enterprise Vault はターゲットのデータのエクスポートをすぐに開始します。ただし、この後ターゲットを無効にすると、Enterprise Vault はターゲットからの新しいデータのエクスポートを停止しますが、保存フォルダに残っているデータのアーカイブは続行します。
-EVServer	SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。  デフォルトでは、Enterprise Vault は、SMTP アーカイブタスク用に指定したユーザーアカウントを使用して Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータにアクセスします。別のユーザーアカウントを使う場合は、アカウントを -ExportLogOnCredential パラメータ、または -ExportLogonAccount パラメータで指定します。  新しい Enterprise Vault サーバーを使用するようにターゲットを更新する場合、Enterprise Vault は新しいサーバーで同じ名前のユーザーアカウントを使用して Skype for Business にアクセスします。そのため、新しいサーバーのこのユーザーアカウントには、適切な権限が必要です。

パラメータ	説明
-RetentionCategory	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける既存の保持カテゴリの名前。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使用することができます。ただし、保持計画を指定する場合は、SMTP アーカイブのみを使用することができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategoryId パラメータを指定できます。</p>
-RetentionCategoryId	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける既存の保持カテゴリの ID。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使用することができます。ただし、保持計画を指定する場合は、SMTP アーカイブのみを使用することができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategory パラメータを指定できます。</p>
-RetentionPlan	<p>ターゲットに関連付ける既存の保持計画の名前。この計画で定義した保持カテゴリはターゲットの会話および Enterprise Vault が会話を格納するアーカイブに割り当てられます。このアーカイブに保持計画がすでにある場合は、Set-EVSkypeForBusinessTarget は新しい計画をターゲットに関連付けられません。</p> <p>次のいずれも実行できませんので注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 保持カテゴリと保持計画の両方を指定する</li><li>■ 非 SMTP アーカイブに保持計画を割り当てる</li></ul>
-ArchiveName	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の名前。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveType パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>

パラメータ	説明
-ArchiveId	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の ID。</p> <p>このパラメータの代わりに ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータを指定できます。</p>
-ArchiveType	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の種類。有効なアーカイブの種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DominoJournal</li> <li>■ DominoMailbox</li> <li>■ ExchangeJournal</li> <li>■ ExchangeMailbox</li> <li>■ ExchangePublicFolder</li> <li>■ FileSystem</li> <li>■ InternetMail</li> <li>■ Shared</li> <li>■ SharePoint</li> <li>■ SharePointStructured</li> <li>■ SMTP</li> </ul> <p>さらに、Get-EVArchive cmdlet が返すアーカイブの種類も有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_JOURNAL</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_MAILBOX</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_FILE_SYSTEM</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_INTERNETMAIL</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_JOURNAL</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_MAILBOX</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_PUBLIC_FOLDER</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_SHARED</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_SHAREPOINT</li> <li>■ ARCHIVE_TYPE_SMTP</li> </ul> <p>Compliance Accelerator と Skype for Business を一緒に使用する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveName パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>

パラメータ	説明
-ExportLogOnCredential	<p>Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するログオン資格情報を含む PowerShell PSCredential オブジェクト。</p> <p>Get-Credential cmdlet を使用して PSCredential オブジェクトを作成できます。</p>
-ExportLogonAccount	<p>Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するユーザー名を含む文字列。このパラメータを指定する場合は、-Password パラメータも指定する必要があります。</p>
-Password	<p>Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するパスワードを含むセキュリティで保護された文字列。このパラメータは -ExportLogonAccount パラメータとともに使用します。</p>
-RemoveExportLogonAccount	<p>このパラメータを指定すると、Enterprise Vault は Skype for Business ターゲットにアクセスするためにターゲットに割り当てられているアカウントの使用を停止します。Enterprise Vault は SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントを使用します。デフォルトでは、ボルトサービスアカウントです。</p>
-AssignPermission	<p>Enterprise Vault で、ターゲットに関連付けられている Enterprise Vault サーバーのアカウントに必要な権限を追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカルの Administrators グループのメンバーシップ</li> <li>サービスとしてログオン権限</li> <li>SMTP 保存フォルダへのフルアクセス</li> </ul> <p>このパラメータを \$True に設定すると、Enterprise Vault は権限を自動的に追加します。\$False に設定すると、Enterprise Vault は権限を追加しません。手動で追加する必要があります。</p> <p>このパラメータを設定すると、cmdlet で権限の追加を確認するメッセージが表示されません。このパラメータを省略すると、Enterprise Vault で権限の追加を確認するメッセージが表示されます。</p> <p>このパラメータは、-ExportLogOnCredential、-ExportLogonAccount、-EVServer とともに使用します。</p>

パラメータ	説明
-RevokePermission	<p><b>Enterprise Vault</b> で、ターゲットに関連付けられている <b>Enterprise Vault</b> サーバーのアカウントから該当の権限を削除できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカルの <b>Administrators</b> グループのメンバーシップ</li> <li>サービスとしてログオン権限</li> <li><b>SMTP</b> 保存フォルダへのフルアクセス</li> </ul> <p>このパラメータを \$True に設定すると、<b>Enterprise Vault</b> は権限を自動的に削除します。\$False に設定すると、<b>Enterprise Vault</b> は権限を削除しません。権限を手動で削除する必要があります。</p> <p>このパラメータを設定すると、<b>cmdlet</b> で権限の削除を求めるメッセージが表示されません。このパラメータを省略すると、<b>Enterprise Vault</b> で権限の削除を確認するメッセージが表示されます。</p> <p>このパラメータは、-ExportLogOnCredential、-ExportLogonAccount、-RemoveExportLogonAccount、-EVServer とともに使用します。</p>
-WhatIf	<p>指定すると、WhatIf がコマンドをテストモードで実行します。想定する変更を実装せずに確認できます。</p>
-Confirm	<p><b>cmdlet</b> を実行する前に確認するように求められます。</p>

## 例

- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP
```

**Skype for Business** ターゲット "skype01.example.com" のアーカイブを更新します。
- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -Enabled $True
```

**Skype for Business** ターゲット "skype01.example.com" を更新して、保存フォルダにデータをエクスポートできるようにします。
- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -EVServer 'EVServer.example.com'
```

**Skype for Business** ターゲット "skype01.example.com" の **Enterprise Vault** サーバーを更新します。

- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com" -RetentionCategory 'Standard retention'  
-ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP
```

**Skype for Business** アーカイブターゲット `skype01.example.com` を新しい設定で更新します。
- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com" -RetentionCategoryId  
11B6...EV1004.example.com
```

**Skype for Business** ターゲット `"skype01.example.com"` の保持カテゴリを更新します。
- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com" -RetentionCategoryId  
11B6...EV1004.example.com -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP
```

**Skype for Business** ターゲット `"skype01.example.com"` の保持カテゴリとアーカイブを更新します。
- ```
$archiveType = (Get-EVArchive -ArchiveName "SkypeForBusiness  
Archive 2015_Target").ArchiveType;  
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com" -RetentionCategory "SkypeForBusiness  
Retention" -ArchiveName "SkypeForBusiness Archive 2015_Target"  
-ArchiveType $archiveType
```

`Get-EVArchive` を使ってアーカイブの種類を取得して、その値を変数に保存します。保存されているアーカイブタイプの値を使用して、**Skype for Business** アーカイブターゲットの設定を更新します。
- ```
$cred = Get-Credential  
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred
```

**Windows PowerShell** 資格情報ダイアログボックスを表示し、ユーザー名とパスワードを `$cred` 変数に保存します。**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。
- ```
$pwd = ConvertTo-SecureString "mypassword" -AsPlainText -Force  
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com" -ExportLogOnAccount example¥sfbadmin  
-Password $pwd
```

パスワードをセキュリティで保護された文字列に保存します。**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、指定したユーザー名とパスワードを使用するようにします。

- `Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RemoveExportLogonAccount`

**Skype for Business** ターゲットにアクセスするためにターゲットに割り当てられているアカウントの使用を停止します。**Enterprise Vault** は **SMTP** アーカイブタスクに割り当てられているアカウントを使用します。デフォルトでは、ボルトサービスアカウントです。

- `$cred = Get-Credential`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred`  
`-AssignPermission $true`

**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。**Enterprise Vault** は、**Enterprise Vault** サーバーのアカウントに必要な権限を自動的に追加します。**Enterprise Vault** では、新しいアカウントへの権限の割り当てに関するメッセージは表示されませんが、ターゲットに以前に関連付けられた古いアカウントからの権限の削除について確認するメッセージは表示されます。

- `$cred = Get-Credential`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred`  
`-RevokePermission $false`

**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。**Enterprise Vault** は、ターゲットに以前関連付けられた **Enterprise Vault** サーバーのアカウントから必要な権限を削除しません。**Enterprise Vault** は、新しいアカウントへの権限の割り当てに関するメッセージを表示しますが、古いアカウントからの権限の削除について確認するメッセージは表示しません。

- `$cred = Get-Credential`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred`  
`-AssignPermission $false -RevokePermission $true`

**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。**Enterprise Vault** は、**Enterprise Vault** サーバーのアカウントに必要な権限を追加しません。**Enterprise Vault** は、ターゲットに以前関連付けられた **Enterprise Vault** サーバーのアカウントから該当の権限を削除します。**Enterprise Vault** は、権限の追加または削除について確認するメッセージを表示しません。

- `Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -EVServer 'EVServer.example.com'`  
`-AssignPermission $false -RevokePermission $true`

Skype for Business アーカイブターゲットを更新して、新しい Enterprise Vault サーバーを使用するようにします。Enterprise Vault は、Skype for Business ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用します。また、ターゲットに以前関連付けられた Enterprise Vault サーバーのアカウントから該当の権限を削除します。新しい Enterprise Vault サーバーのアカウントに必要な権限を追加したり、権限の追加または削除について確認するメッセージを表示することはありません。

## 出力

Set-EVSkypeForBusinessTarget は、次のプロパティを持つタイプ `Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVSkypeForBusinessTarget` のオブジェクトを返します。

表 4-7 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SkypeForBusinessTarget のプロパティ

| 名前                  | 種類  | 説明                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SiteId              | 文字列 | Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                                              |
| TargetComputerFQDN  | 文字列 | Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。                                                                                                                                                                                          |
| EVServer            | 文字列 | SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。                                                                                                                                          |
| SMTPTaskId          | 文字列 | Skype for Business データをアーカイブする SMTP アーカイブタスクの ID。                                                                                                                                                                                        |
| RetentionCategory   | 文字列 | Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの名前。Enterprise Vault が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画はターゲットに関連付けられたアーカイブに適用されています。Enterprise Vault は保持計画で定義した保持カテゴリを会話に適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、ターゲットのプロパティで定義されている保持カテゴリになります。 |
| RetentionCategoryId | 文字列 | Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。<br><br>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。                                                                                                                    |



| 名前                   | 種類      | 説明                                                                                                                                                                           |
|----------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ArchiveName          | 文字列     | Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの名前。                                                                                                                                      |
| ArchiveId            | 文字列     | Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの ID。                                                                                                                                     |
| ArchiveType          | オブジェクト  | Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの種類。                                                                                                                                      |
| ArchiveSamplingReady | Boolean | Skype for Business ターゲットに関連付けられているアーカイブが Compliance Accelerator のサンプリングと互換性があるか (True)、互換性がないか (False)。                                                                      |
| VaultStoreName       | 文字列     | Skype for Business ターゲットに関連付けるボルトストアの名前。                                                                                                                                     |
| Enabled              | Boolean | 保存フォルダへのデータのエクスポートで Skype for Business ターゲットが有効になっているか (True)、有効になっていないか (False)。                                                                                            |
| ExportLogOnAccount   | 文字列     | Enterprise Vault が Skype for Business ターゲットにアクセスするために使用するアカウント。デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントが使用されます。必要に応じ、Set-EVSkypeforBusinessTarget を使用して、ターゲットごとに異なるアカウントを指定できます。 |

## 関連コマンドレット

- p.91 の「[Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.94 の「[New-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.101 の「[Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。

# アーカイブ: SMTP

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVSMTPHoldingFolder](#)
- [Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation](#)
- [Get-EVSMTPPolicy](#)
- [Get-EVSMTPServerSettings](#)
- [Get-EVSMTPTarget](#)
- [New-EVSMTPPolicy](#)
- [New-EVSMTPServerSettings](#)
- [New-EVSMTPTarget](#)
- [Remove-EVSMTPPolicy](#)
- [Remove-EVSMTPTarget](#)
- [Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation](#)
- [Set-EVSMTPPolicy](#)
- [Set-EVSMTPServerSettings](#)
- [Set-EVSMTPTarget](#)
- [Sync-EVSMTPServerSettings](#)

## Get-EVSMTPHoldingFolder

`Get-EVSMTPHoldingFolder` は、`cmdlet` を実行する場所の **Enterprise Vault** サーバー上で設定されている **SMTP 保存フォルダ**の詳細を表示します。SMTP アーカイブタスク

が設定されていない場合、Get-EVSMTPHoldingFolder は出力を生成しません。SMTP アーカイブタスクで保存フォルダを配置できない場合、Get-EVSMTPHoldingFolder によって表示される合計値は 0 です。

Get-EVSMTPHoldingFolder は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.dll によって提供されます。

## 構文

```
Get-EVSMTPHoldingFolder [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- Get-EVSMTPHoldingFolder  
cmdlet を実行する場所の Enterprise Vault サーバー上で設定されている SMTP 保存フォルダの詳細を表示します。

## 出力

Get-EVSMTPHoldingFolder は Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.SMTPHoldingFolder の種類のオブジェクトを返します。ここには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。

表 5-1 Get-EVSMTPHoldingFolder プロパティ

| 名前                         | 種類     | 説明                                       |
|----------------------------|--------|------------------------------------------|
| TaskName                   | 文字列    | 保存フォルダを使用する SMTP アーカイブタスクの名前。            |
| TaskEntryId                | 文字列    | 保存フォルダを使用する SMTP アーカイブタスクのディレクトリエントリ ID。 |
| Path                       | 文字列    | SMTP 保存フォルダへの絶対パス。                       |
| TotalQuotaGBBytesFree      | Double | 未使用の総容量 (GB)                             |
| TotalQuotaGBBytesUsed      | Double | 使用されている総容量 (GB)。                         |
| TotalQuotaGBBytesAvailable | Double | 利用可能な総容量 (GB)。                           |

# Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation

Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation は、指定したサイトの指定した Enterprise Vault SMTP サーバーにおけるメッセージ追跡ログファイルの場所を表示します。SMTP サーバーを指定しない場合、この cmdlet は指定したサイトの指定した Enterprise Vault SMTP サーバーすべてにおけるメッセージ追跡ログファイルの場所を表示します。サイト ID を指定しない場合、この cmdlet はローカルの Enterprise Vault サーバーが属しているサイトを使用します。

Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation [[-SiteId] <String>]
[[-Identifier] <String>] [
```

## パラメータ

表 5-2 Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation パラメータ

| パラメータ       | 説明                                                                                                                                                                                                      |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId     | SMTP 設定が属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                                   |
| -Identifier | メッセージ追跡ログファイルの場所を取得する SMTP サーバーのコンピュータ名、コンピュータの別名、コンピュータエントリ ID のいずれか。サイト内の SMTP サーバーの一覧を Enterprise Vault 管理コンソールの SMTP プロパティの[メッセージの追跡]タブに表示します。SMTP プロパティを開くには、[対象]の[SMTP]コンテナを右クリックして[プロパティ]を選択します。 |

## 例

- Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation  
ローカルの Enterprise Vault サーバーが属している Enterprise Vault サイトのすべての SMTP サーバーについてのメッセージ追跡ログファイルの場所を取得します。
- Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation -SiteId 198...example.com -Identifier abc.example.com  
指定した Enterprise Vault サイトの「abc.example.com」という名前の SMTP サーバーで、メッセージ追跡ログファイルの場所を取得します。
- Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation -Identifier 109...example.com  
ローカルの Enterprise Vault サーバーが属している Enterprise Vault サイトの SMTP サーバーでエントリ ID が「109...example.com」のメッセージ追跡ログファイルの場所を取得します。

## 出力

Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation は、Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings 型のオブジェクトを返します。これには、次の表にリストされているプロパティが含まれています。

表 5-3 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings プロパティ

| 名前              | 種類  | 説明                        |
|-----------------|-----|---------------------------|
| ComputerName    | 文字列 | SMTP サーバーをホストするコンピュータの名前。 |
| LogFileLocation | 文字列 | メッセージ追跡ログファイルの場所。         |

## 関連コマンドレット

- p.145 の「Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation」を参照してください。
- p.162 の「Sync-EVSMTPServerSettings」を参照してください。

# Get-EVSMTPPolicy

Get-EVSMTPPolicy は、指定する Enterprise Vault サイトのすべての SMTP ポリシーの詳細を取得します。-SiteID パラメータを使用してサイト ID を指定せず、Get-EVSMTPPolicy がサイトを判断できない場合は、サイト ID の入力を求めるメッセージが表示されます。また、-Name パラメータを使用して特定のポリシーのプロパティを取得することもできます。

Get-EVSMTPPolicy は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Get-EVSMTPPolicy [-SiteId] <String> [[-Name] <String>]
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 5-4 Get-EVSMTPPolicy パラメータ

| パラメータ        | 説明                 |
|--------------|--------------------|
| -SiteId (必須) | ポリシーを取得するサイトの ID。  |
| -Name        | 取得する SMTP ポリシーの名前。 |

例

- `Get-EVSMTPPolicy -SiteId 13E...example.com`  
指定した **Enterprise Vault** サイトで設定されたすべての **SMTP** ポリシーを取得します。

- `Get-EVSMTPPolicy -SiteId 13E...example.com -Name "SMTP policy"`  
または

`Get-EVSMTPPolicy "SMTP policy"`  
**SMTP** ポリシー「**SMTP policy**」のプロパティを取得します。次に例を示します。

```
SiteId           : 13E...example.com
Name             : SMTP policy
Description      : SMTP policy
IsADefaultPolicy : True
EntryId         : 125...example.com
```

- 次のコマンドシーケンスを使って **SMTP** ポリシーのプロパティとその **X-Header** の詳細を表示できます。

- `$sp = Get-EVSMTPPolicy 13E...example.com "SMTP policy"`  
`$sp` 変数に **SMTP** ポリシーを取り込みます。

- `$sp`  
`$sp` 変数に含まれている情報を表示します。次に例を示します。

```
SiteId           : 13E...example.com
Name             : SMTP policy
Description      :
IsADefaultPolicy : False
EntryId         : 170...example.com
```

- `$sp.XHeaders`  
**X-Header** を表示します。次に例を示します。

```
HeadersList
-----
{x-sender}
```

- `$sp.XHeaders.HeadersList`  
**X-Header** の詳しい一覧を表示します。次に例を示します。

| Name     | ValueType | Searchable | Retrievable |
|----------|-----------|------------|-------------|
| ----     | -----     | -----      | -----       |
| x-sender | 0         | 0          | 0           |

- 次のコマンドシーケンスを使って、指定された SMTP ポリシーに関連付けされた SMTP ターゲットを一覧表示できます。
  - `$sp = Get-EVSMTPPolicy 13E...example.com "SMTP policy"`  
`$sp` 変数に SMTP ポリシーを取り込みます。
  - `$sp.GetTargets()`  
ポリシーに関連付けられたすべての SMTP ポリシーを一覧表示します。次に例を示します。

```
user1@example.com
user2@example.com
user3@example.com
```

出力

Get-EVSMTPPolicy は、次のテーブルに一覧表示されたプロパティを持つ Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPPolicy 型のオブジェクトを返します。

表 5-5 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPPolicy プロパティ

| 名前               | 種類      | 説明                                                                                                                                                                 |
|------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Description      | 文字列     | SMTP ポリシーの説明。                                                                                                                                                      |
| EntryId          | 文字列     | SMTP ポリシーのディレクトリエントリ ID。                                                                                                                                           |
| IsADefaultPolicy | Boolean | SMTP ポリシーがデフォルトのポリシーの場合は \$true、そうでない場合は \$false。                                                                                                                  |
| Name             | 文字列     | SMTP ポリシーの名前。                                                                                                                                                      |
| SiteId           | 文字列     | SMTP ポリシーが属するサイト ID。                                                                                                                                               |
| XHeaders         | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPXHeaders: SMTP ポリシーに関連付けられた X-Header のリストを提供します。X-Header リストの詳細を表示するには、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPXHeaders と入力してください。 |

関連コマンドレット

- p.127 の「New-EVSMTPPolicy」を参照してください。
- p.143 の「Remove-EVSMTPPolicy」を参照してください。
- p.147 の「Set-EVSMTPPolicy」を参照してください。

# Get-EVSMTPServerSettings

Get-EVSMTPServerSettings は指定されたサイト内のすべての Enterprise Vault SMTP サーバーの設定を表示します。サイト ID を指定しない場合には、Get-EVSMTPServerSettings はローカルの Enterprise Vault サーバーが属しているサイトの ID を使います。

Get-EVSMTPServerSettings は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

Get-EVSMTPServerSettings [[-SiteId] <String>] [<CommonParameters>]

## パラメータ

表 5-6 Get-EVSMTPServerSettings パラメータ

| パラメータ   | 説明                    |
|---------|-----------------------|
| -SiteId | SMTP 設定が属しているサイトの ID。 |

## 例

- `Get-EVSMTPServerSettings -SiteId 13E...example.com`  
指定されたサイト内にあるすべての SMTP サーバーに適用される SMTP サーバー設定を返します。
- 次のコマンドシーケンスを使って、サイトの SMTP サーバー設定を表示できます。
  - `$sp = Get-EVSMTPServerSettings 13E...example.com`  
SMTP サーバー設定を \$sp 変数内に取り込みます。
  - `$sp`  
\$sp 変数に保持されている情報を表示します。次に例を示します。

```
SiteId                : 13E...example.com
Port                  : 25
MaxMessageSize        : 0
Authentication         : EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE
AuthenticationEmailAddress : user@example.com
AuthenticationAllowPlainText : EV_SMTP_AUTHENTICATION
                           _ALLOWPLAINTEXT_TLS
Tls                   : EV_SMTP_TLS_ENCRYPTED
TlsCertificateInfo     : Symantec.EnterpriseVault.Admin
                           .TlsCertificate
SMTPConnectionControl : Symantec.EnterpriseVault.Admin
```



```
.SMTPConnectionControlList
MessageTracking           : True
IncludeSubjectLineInLogs  : True
DaysToKeepMessageTrackingLogs: 30
```

- \$sp.SMTPConnectionControl.SMTPConnectionList  
接続制御リストを表示します。一覧には、Enterprise Vault SMTP サーバーへの接続を許可されているホストの名前と IP アドレスが含まれています。ホスト名は完全修飾ドメイン名である必要があります。

```
Connections
-----
{test.example.com}
```

- \$sp.SMTPConnectionControl.SMTPConnectionList.Connections  
接続制御の詳しいリストを表示します。そのタイプは、\_EV\_SMTP\_CONNECTION 列挙の値を示します。

```
Type           Value
----           -
_EV_SMTP_CONNECTION_HOSTNAME test.example.com
```

出力

Get-EVSMTPServerSettings は Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings の種類のオブジェクトを返します。ここには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。

表 5-7 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings プロパティ

| 名前                           | 種類     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Authentication               | オブジェクト | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION enumeration value: Specifies whether authentication is required for incoming connections. 列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。                              |
| AuthenticationAllowPlainText | オブジェクト | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT 列挙値: 受信接続にプレーンテキストの認証を許可するかどうかを指定します。認証が無効な場合は、この値は EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT NEVER に設定されます。列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。 |

| 名前                            | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| AuthenticationEmailAddress    | 文字列     | 認証が有効な場合、認証ユーザーの ID。                                                                                                                                                              |
| DaysToKeepMessageTrackingLogs | 整数      | サーバーで SMTP メッセージの追跡ログファイルを保持する日数。指定された日数より古いログファイルは削除されます。                                                                                                                        |
| IncludeSubjectLineInLogs      | Boolean | メッセージ追跡ログファイルおよび DTrace ログにメッセージの件名行を記録するかどうかを指定します。件名行をログに含める場合は \$true にし、件名行をログに記録しない場合は \$false にします。                                                                         |
| MaxMessageSize                | 整数      | 最大 SMTP メッセージサイズ (MB)。                                                                                                                                                            |
| MessageTracking               | Boolean | メッセージ追跡を有効にするかどうかを指定します。SMTP メッセージ追跡を有効にする場合は \$true にし、メッセージ追跡を無効にする場合は \$false にします。                                                                                            |
| Port                          | 整数      | SMTP サーバーがリッスンするポート番号。                                                                                                                                                            |
| SiteId                        | 文字列     | SMTP サーバー設定が属しているサイトの ID。                                                                                                                                                         |
| SMTPConnectionControl         | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPConnectionControlList: SMTP サーバーへの許可された接続の一覧を提供します。許可された接続の一覧の管理について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPConnectionControlList と入力してください。 |
| Tls                           | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_TLS 列挙値: 列挙値は、SMTP サーバーへの暗号化された接続および暗号化されていない接続のサポートを指定します。列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。       |
| TlsCertificateInfo            | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin.TlsCertificate: SMTP 接続に使われる TLS 証明書の情報を提供します。                                                                                                     |

関連コマンドレット

- p.129 の「[New-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.148 の「[Set-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.162 の「[Sync-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。

Get-EVSMTPTarget

Get-EVSMTPTarget は Enterprise Vault サイトで設定されているすべての SMTP ターゲットアドレスを返します。-SiteID パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、Get-EVSMTPTarget がサイトを判別できない場合、サイト ID を入力するよう求められます。SMTP ターゲットの名前を指定している場合、Get-EVSMTPTarget はそのターゲット

トアドレスのプロパティを取得します。プロパティの説明については New-EVSMTPTarget のヘルプを参照してください。

New-EVSMTPTarget、Set-EVSMTPTarget、または Remove-EVSMTPTarget を実行すると、Enterprise Vault によって Enterprise Vault ディレクトリ内と、サイトの内の各 Enterprise Vault SMTP サーバー上にある SMTP ターゲット情報が更新されます。Enterprise Vault がいずれかの SMTP サーバー上の SMTP ターゲットを更新できない場合、GetFailedEVServerList 機能で Enterprise Vault が更新できなかったサーバーを一覧表示できます。

Get-EVSMTPTarget は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Get-EVSMTPTarget [-SiteId] <String> [[-Name] <String>]
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 5-8 Get-EVSMTPTarget パラメータ

| パラメータ        | 説明                         |
|--------------|----------------------------|
| -SiteId (必須) | 取り込む SMTP ターゲットがあるサイトの ID。 |
| -Name        | 取り込む SMTP ターゲットのアドレス。      |

例

- `Get-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com`  
Enterprise Vault サイトで設定されているすべての SMTP ターゲットを返します。
- 次のコマンドシーケンスを使って、SMTP ターゲット `JohnDoe@example.com` に関する情報を返すことができます。
  - `$st = New-Object Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTarget`  
New-Object を使って、SMTPTarget オブジェクトを保持するための \$st という新しい変数を作成します。
  - `$st.Name = "JohnDoe@example.com"`  
取得対象のターゲット `JohnDoe@example.com` が、Name パラメータによって指定されます。
  - `$st.Read()`  
指定された SMTP ターゲットに関する情報が、Read メソッドによって \$st 変数内に取得されます。
  - `$st`

\$st 変数内に含まれているターゲット情報を表示します。次に例を示します。

```
Name                : JohnDoe@example.com
PolicyName           : Default SMTP Policy
PolicyId             : 138...example.com
RetentionCategory    : Default Retention Category (From Plan)
RetentionCategoryId  : 100...example.com
ArchivingEnabled     : true
TargetArchives       : {exchangearchive}
SiteId               : 13E...example.com
TargetType           : SMTPMailboxJournaling
```

この場合、コマンドレットは保持カテゴリ名に「(From Plan)」という語句を追加します。保持計画は SMTP ターゲットに関連付けられているアーカイブに適用されています。**Enterprise Vault** がアーカイブ済みアイテムに適用する保持カテゴリは、保持計画で定義された保持カテゴリになります。

次のコマンドのいずれかを使ってこの情報を表示することもできます。

- `Get-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name JohnDoe@example.com`
- `Get-EVSMTPTarget 13E...example.com JohnDoe@example.com`
- 次のコマンドシーケンスを使って、SMTP ターゲットに関する情報を返すことや、ターゲットが `New-EVSMTPTarget`、`Set-EVSMTPTarget`、または `Remove-EVSMTPTarget` のいずれによっても更新されていないサーバーの一覧を見つけることができます。
  - `$st = Get-EVSMTPTarget 13E...example.com JohnDoe@example.com`  
SMTP ターゲットを \$st 変数内に取り込みます。
  - `$st`  
\$st に保持されているターゲット情報を表示します。次に例を示します。

```
Name                : JohnDoe@example.com
PolicyName           : Default SMTP Policy
PolicyId             : 138...example.com
RetentionCategory    : Default Retention Category (From Plan)
RetentionCategoryId  : 100...example.com
ArchivingEnabled     : true
TargetArchives       : {exchangearchive}
SiteId               : 13E...example.com
TargetType           : SMTPMailboxJournaling
```

- `$st.TargetArchives`

\$st のターゲットに関連付けられているアーカイブの以下の詳細を表形式で表示します。

| 列のタイトル       | 値の例                 |
|--------------|---------------------|
| Name         | JohnDoe@example.com |
| ArchiveName  | exchangearchive     |
| ArchiveType  | ExchangeMailbox     |
| ArchivedId   | 128D...com          |
| VaultStore   | Express Vault Store |
| EVServerName | ev.example.com      |

- \$st.GetFailedEVServerList()  
ターゲットが更新されなかった Enterprise Vault サーバーの一覧を表示します。  
次に例を示します。  
  
EV1101, EVSMTPF11

出力

Get-EVSMTPTarget は Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTarget と Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtpTargetArchiveInformation の種類のオブジェクトを返します。ここには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。

表 5-9 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTarget プロパティ

| 名前               | 種類      | 説明                                                                      |
|------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------|
| ArchivingEnabled | Boolean | 現在アーカイブされている SMTP ターゲットによってメッセージが送信または受信される場合は \$true、そうでない場合は \$false。 |
| Name             | 文字列     | SMTP ターゲットのアドレス。                                                        |
| PolicyId         | 文字列     | SMTP ターゲットに関連付けされた SMTP ポリシーの ID。                                       |
| PolicyName       | 文字列     | SMTP ターゲットに関連付けされた SMTP ポリシー。                                           |

| 名前                  | 種類     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| RetentionCategory   | 文字列    | <p><b>Enterprise Vault</b> が新しくアーカイブされたアイテムに割り当てる保持カテゴリの名前。</p> <p><b>Enterprise Vault</b> が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画は <b>SMTP</b> ターゲットに関連付けされたアーカイブに適用されています。<b>Enterprise Vault</b> は保持計画で定義された保持カテゴリをアイテムに適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、<b>SMTP</b> ターゲットのプロパティで定義された保持カテゴリになります。</p> |
| RetentionCategoryId | 文字列    | <p><b>Enterprise Vault</b> が新しくアーカイブされたアイテムに割り当てる保持カテゴリの ID。</p> <p><b>RetentionCategory</b> と同様に、<b>Enterprise Vault</b> がアイテムを格納するアーカイブに保持計画が割り当てられているかどうかによって変わります。</p>                                                                                                                                      |
| SiteId              | 文字列    | ターゲットが属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| TargetArchives      | オブジェクト | <p><b>Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtpTargetArchiveInformation</b> <b>SMTP</b> ターゲットアドレスに関連付けられたアーカイブの一覧を提供します。<b>TargetArchives</b> について詳しくは、<b>PowerShell</b> プロンプトで <code>get-help about_SmtpTargetArchiveInformation</code> と入力してください。</p>                                                               |
| TargetType          | オブジェクト | ターゲットに関連付けられている <b>SMTP</b> ジャーナル設定の種類。                                                                                                                                                                                                                                                                         |

表 5-10 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtpTargetArchiveInformation  
プロパティ

| 名前           | 種類     | 説明                                         |
|--------------|--------|--------------------------------------------|
| ArchiveId    | 文字列    | <b>SMTP</b> ターゲットに関連付けされたアーカイブの ID。        |
| ArchiveName  | 文字列    | <b>SMTP</b> ターゲットに関連付けされたアーカイブの名前。         |
| ArchiveType  | オブジェクト | <b>SMTP</b> ターゲットに関連付けられているアーカイブの種類。       |
| EVServerName | 文字列    | ボルトストアをホストする <b>Enterprise Vault</b> サーバー。 |

| 名前             | 種類  | 説明                                    |
|----------------|-----|---------------------------------------|
| Name           | 文字列 | SMTP ターゲットのアドレス。                      |
| VaultStoreName | 文字列 | SMTP ターゲットに使用されるアーカイブを含んでいるボルトストアの名前。 |

関連 cmdlet

- p.135 の「New-EVSMTPTarget」を参照してください。
- p.144 の「Remove-EVSMTPTarget」を参照してください。
- p.154 の「Set-EVSMTPTarget」を参照してください。

# New-EVSMTPPolicy

New-EVSMTPPolicy は指定された名前、説明、X-Header 一覧で、新しい SMTP ポリシーを作成します。-SiteID パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合、New-EVSMTPPolicy がサイトを判別できない場合、サイト ID を入力するよう求められます。New-EVSMTPPolicy は、すでに存在するポリシー名を指定すると失敗します。

New-EVSMTPPolicy は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
New-EVSMTPPolicy [-SiteId] <String> [-Name] <String> [-Description <String>] [-XHeaders <Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPXHeaders>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 5-11 New-EVSMTPPolicy パラメータ

| パラメータ        | 説明                                                                                                                                |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId (必須) | 新しい SMTP ポリシーを追加するサイトの ID。                                                                                                        |
| -Name (必須)   | 新しい SMTP ポリシーの名前。                                                                                                                 |
| -Description | 新しい SMTP ポリシーの説明。                                                                                                                 |
| -XHeaders    | 新しい SMTP ポリシーに追加する X-Header。<br><br>X-Header の一覧の管理について詳しくは、PowerShell プロンプトで <code>get-help about_SMTPXHeaders</code> と入力してください。 |

## 例

- `New-EVSMTPPolicy -SiteId 13E...example.com -Name "SMTP policy" -Description "SMTP policy created using PowerShell"`  
「PowerShell で作成された SMTP」という説明を伴う、「SMTP policy」という新しい SMTP ポリシーを作成します。
- 次のコマンドシーケンスを使って、X-Header オブジェクトを作成し、2 つの X-Header をオブジェクトに追加してから、新しい SMTP ポリシーを作成できます。
  - `$xheaders = New-Object Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPXHeaders`  
X-Header オブジェクトを作成します。
  - `$xheaders.Add('x-code1')`  
`$xheaders.Add('x-code2')`  
これらのコマンドは、X-Header オブジェクトに X-Header として「x-code1」と「x-code2」を追加します。
  - `New-EVSMTPPolicy -Name "SMTP policy" -XHeaders $xheaders`  
「SMTP policy」という新しい SMTP ポリシーを作成し、そのポリシーに新しい X-Header を追加して次の出力を生成します。  
  
`SiteId : 13E...example.com`  
`EntryId : 11E...example.com`  
`IsADefaultPolicy : False`  
`XHeaders : Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPXHeaders`  
`Name : SMTP policy`  
`Description :`

## 出力

`New-EVSMTPPolicy` は `Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPPolicy` の種類のオブジェクトを返します。ここには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。

表 5-12 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPPolicy プロパティ

| 名前               | 種類      | 説明                                                |
|------------------|---------|---------------------------------------------------|
| Description      | 文字列     | SMTP ポリシーの説明。                                     |
| EntryId          | 文字列     | SMTP ポリシーのディレクトリエントリ ID。                          |
| IsADefaultPolicy | Boolean | SMTP ポリシーがデフォルトのポリシーの場合は \$true、そうでない場合は \$false。 |



| 名前       | 種類     | 説明                                                                                                                                                                 |
|----------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Name     | 文字列    | SMTP ポリシーの名前。                                                                                                                                                      |
| SiteId   | 文字列    | SMTP ポリシーが属するサイト ID。                                                                                                                                               |
| XHeaders | オブジェクト | Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPXHeaders: SMTP ポリシーに関連付けられた X-Header のリストを提供します。X-Header リストの詳細を表示するには、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPXHeaders と入力してください。 |

## 関連コマンドレット

- p.117 の「[Get-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。
- p.143 の「[Remove-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。
- p.147 の「[Set-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。

# New-EVSMTPServerSettings

New-EVSMTPServerSettings は指定されたサイト内にあるすべての Enterprise Vault SMTP サーバーの初期設定を作成します。-SiteID パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合に、New-EVSMTPServerSettings でサイトを判別できないときは、サイト ID を入力するよう求められます。

サイトの SMTP 設定がすでに存在する場合、この cmdlet は失敗します。

New-EVSMTPServerSettings は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
New-EVSMTPServerSettings [[-SiteId] <String>] -Port <Integer>
[-MaxMessageSize <Integer>] -Authentication
<Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION enumeration
value> [-AuthenticationCredentials
<System.Management.Automation.PSCredential>]
-AuthenticationAllowPlainText
<Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT
enumeration value> -Tls <Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_TLS
enumeration value> [-TlsCertificateFile <String>]
[-TlsSecurePassphrase <System.Security.SecureString>]
[-SMTPConnectionControl
<Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPConnectionControlList>]
```

```
[-MessageTracking <Boolean>] [-IncludeSubjectLineInLogs <Boolean>]  
[-DaysToKeepMessageTrackingLogs <Integer>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 5-13 New-EVSMTPServerSettings パラメータ

| パラメータ                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId                    | SMTP 設定が適用されるサイトの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| -Port (必要)                 | サイト内の SMTP サーバーによって使用されるポート番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| -MaxMessageSize            | SMTP サーバーが受け入れる最大メッセージサイズ (MB)。SMTP サーバーは指定されたサイズより大きいメッセージを拒否します。                                                                                                                                                                                                                                                |
| -Authentication (必要)       | 列挙値は、SMTP サーバーへの SMTP 接続の認証を有効にするかどうかを指定します。<br>EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE が指定されている場合、SMTP サーバーに接続するホストはパラメータ -AuthenticationCredentials によって指定される資格情報を提供する必要があります。EV_SMTP_AUTHENTICATION_DISABLE が指定されている場合、<br>-AuthenticationCredentials は必要ありません。使用する列挙について詳しくは、get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。 |
| -AuthenticationCredentials | サイト内で SMTP サーバーに接続するときにホストが使用する必要のある資格情報。このパラメータは、<br>-Authentication が<br>EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE に設定されている場合のみ必要です。                                                                                                                                                                                        |

| パラメータ                              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -AuthenticationAllowPlainText (必要) | <p>SMTP サーバーへの SMTP 接続のプレーンテキスト認証を有効にするかどうかを指定する列挙値。</p> <p>-Authentication が EV SMTP AUTHENTICATION_DISABLE に設定されると、この値は常に EV SMTP AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_NEVER に設定されます。</p> <p>EV SMTP AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_TLS が指定されている場合には、SMTP サーバーで TLS を有効化する必要があります。有効化しない場合には該当する例外メッセージが生成されます。</p> <p>使用する列挙について詳しくは、get-help about SMTPEnumerations と入力してください。</p> |
| -Tls (必要)                          | <p>列挙値は、SMTP サーバーへの暗号化された接続および暗号化されていない接続のサポートを指定します。暗号化された接続に対応するプロトコルは、TLS (Transport Layer Security) です。暗号化された接続がサポートされている場合、パラメータ -TlsCertificateFile と -TlsSecurePassphrase の値を指定する必要があります。使用する列挙について詳しくは、get-help about SMTPEnumerations と入力してください。</p>                                                                                                                  |
| -TlsCertificateFile                | <p>SMTP サーバーへの暗号化された接続に使用する TLS 証明書ファイルのパス。このパラメータは、暗号化されていない接続のみがサポートされている場合は必要ありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| -TlsSecurePassphrase               | <p>SMTP サーバーへの暗号化された接続に必要な TLS 証明書ファイルのセキュアパスフレーズ。このパラメータは、暗号化されていない接続のみがサポートされている場合は必要ありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| -SMTPConnectionControl             | <p>SMTP サーバーに接続できるホストの一覧。SMTPConnectionControlList オブジェクトについて詳しくは、get-help about SMTPConnectionControlList と入力してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                      |

| パラメータ                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -MessageTracking               | サイト内のすべての SMTP サーバーでメッセージ追跡を有効にするかどうかを指定します。SMTP メッセージ追跡を有効にするには、\$true に設定します。メッセージ追跡を無効にするには、\$false に設定します。メッセージ追跡を有効にした場合、各 SMTP サーバーが受信したメッセージの詳細が Enterprise Vault によってログに記録されます。デフォルトでは、メッセージ追跡ログファイルは各 SMTP サーバーの Enterprise Vault プログラムフォルダの Reports¥SMTP¥SMTPService に格納されます。メッセージ追跡ログファイルの場所は、Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation cmdlet を使用して変更できます。 |
| -IncludeSubjectLineInLogs      | メッセージ追跡ログファイルおよび DTrace ログにメッセージの件名行を記録するかどうかを指定します。件名行をログに記録するには、\$true に設定します。デフォルトでは、件名行はログに記録されません (\$false)。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| -DaysToKeepMessageTrackingLogs | サーバーに SMTP メッセージ追跡ログファイルを保存する日数を指定します。指定された日数より古いログファイルは削除されます。1 から 999 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 30 です。                                                                                                                                                                                                                                                                |

## 例

- `New-EVSMTPServerSettings -Port 25 -Authentication EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE -AuthenticationCredentials (New-Object System.Management.Automation.PSCredential -ArgumentList "user@example.com", ("admin@123" | ConvertTo-SecureString -AsPlainText -Force)) -AuthenticationAllowPlainText EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_TLS -Tls EV_SMTP_TLS_ENCRYPTED_AND_UNENCRYPTED -TlsCertificateFile "C:¥rsa.pl2" -TlsSecurePassphrase ("admin@123" | ConvertTo-SecureString -AsPlainText -Force) -MessageTracking $true -IncludeSubjectLineInLogs $true -DaysToKeepMessageTrackingLogs 45`  
指定したサイト内にあるすべての SMTP サーバーについて SMTP サーバーの初期設定を作成します。SMTP サーバーはポート 25 でリッスンし、認証の有効化、TLS でのテキスト形式の認証の有効化、暗号化された接続と暗号化されていない接続の両方のサポート、メッセージ追跡の有効化、各メッセージの件名のログへの記録を行い、ログファイルを作成日から 45 日間保持します。

```

■ C:¥PS> $xConnectionList = new-object
Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPConnectionControlList
C:¥PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_HOSTNAME", "Test")
C:¥PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_HOSTNAMESUFFIX",
"smtp.example.com")
C:¥PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_HOSTNAMEPATTERN",
"as-[a-z0-9]*-[a-z0-9]*.example.local")
C:¥PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV4",
"192.168.1.1")
C:¥PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV4INCIDR",
"192.168.1.1/24")
C:¥PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV6",
"0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0001")
C:¥PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV6INCIDR",
"0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0001/128")
C:¥PS> New-EVSMTPServerSettings -Port 25 -Authentication
EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE -AuthenticationCredentials
(New-Object System.Management.Automation.PSCredential -ArgumentList
"user@example.com", ("admin@123" | ConvertTo-SecureString
-AsPlainText -Force)) -Tls EV_SMTP_TLS_ENCRYPTED_AND_UNENCRYPTED
-TlsCertificateFile "C:¥rsa.pl2" -TlsSecurePassphrase ("admin@123"
| ConvertTo-SecureString -AsPlainText -Force)
-SMTPConnectionControl $xConnectionList -MessageTracking : $true
-IncludeSubjectLineInLogs $true -DaysToKeepMessageTrackingLogs 50

SiteId                        : 13E9...EV1101.example.com
Port                          : 25
MaxMessageSize                : 0
Authentication                : EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE
AuthenticationEmailAddress    : user@example.com
AuthenticationAllowPlainText  : EV_SMTP_AUTHENTICATION
                              _ALLOWPLAINTEXT_TLS
Tls                           :
EV_SMTP_TLS_ENCRYPTED_AND_UNENCRYPTED
TlsCertificateInfo            : Symantec.EnterpriseVault.Admin
                              .TlsCertificate
SMTPConnectionControl         : Symantec.EnterpriseVault.Admin
                              .SMTPConnectionControlList
MessageTracking                : True
IncludeSubjectLineInLogs      : True
DaysToKeepMessageTrackingLogs : 50

```

このコマンドシーケンスは、指定したサイト内にあるすべての SMTP サーバーについて SMTP サーバーの初期設定を作成します。SMTP サーバーはポート 25 でリスンし、認証の有効化、TLS でのテキスト形式の認証の有効化、暗号化された接続と暗号化されていない接続の両方のサポート、メッセージ追跡の有効化、各メッセージの件名のログへの記録を行い、ログファイルを作成日から 50 日間保持します。許可された接続が、異なるアドレス形式で SMTPConnectionControlList オブジェクトに追加されます。

## 出力

New-EVSMTPServerSettings は Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings の種類のオブジェクトを返します。ここには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。

**表 5-14** Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings プロパティ

| 名前                            | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Authentication                | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION enumeration value: Specifies whether authentication is required for incoming connections. 列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。                                                |
| AuthenticationAllowPlainText  | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT 列挙値: 受信接続にプレーンテキストの認証を許可するかどうかを指定する列挙値。<br><br>認証が無効な場合は、この値は EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_NEVER に設定されます。<br><br>列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。 |
| AuthenticationEmailAddress    | 文字列     | 認証が有効な場合、認証ユーザーの ID。                                                                                                                                                                                                                                                     |
| DaysToKeepMessageTrackingLogs | 整数      | サーバーで SMTP メッセージの追跡ログファイルを保持する日数。指定された日数より古いログファイルは削除されます。                                                                                                                                                                                                               |
| IncludeSubjectLineInLogs      | Boolean | メッセージ追跡ログファイルおよび DTrace ログにメッセージの件名行を記録するかどうかを指定します。件名行をログに含める場合は \$true にし、件名行をログに記録しない場合は \$false にします。                                                                                                                                                                |
| MaxMessageSize                | 整数      | 最大 SMTP メッセージサイズ (MB)。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| MessageTracking               | Boolean | メッセージ追跡を有効にするかどうかを指定します。SMTP メッセージ追跡を有効にする場合は \$true にし、メッセージ追跡を無効にする場合は \$false にします。                                                                                                                                                                                   |

| 名前                    | 種類     | 説明                                                                                                                                                                                |
|-----------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Port                  | 整数     | SMTP サーバーがリッスンするポート番号。                                                                                                                                                            |
| SiteId                | 文字列    | SMTP サーバー設定が属しているサイトの ID。                                                                                                                                                         |
| SMTPConnectionControl | オブジェクト | Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPConnectionControlList: SMTP サーバーへの許可された接続の一覧を提供します。許可された接続の一覧の管理について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPConnectionControlList と入力してください。 |
| Tls                   | オブジェクト | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_TLS 列挙値: 列挙値は、SMTP サーバーへの暗号化された接続および暗号化されていない接続のサポートを指定します。列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。       |
| TlsCertificateInfo    | オブジェクト | Symantec.EnterpriseVault.Admin.TlsCertificate: SMTP 接続に使われる TLS 証明書の情報を提供します。<br><br>TlsCertificate オブジェクトについて詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_TlsCertificate と入力してください。     |

関連コマンドレット

- p.120 の「[Get-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.148 の「[Set-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.162 の「[Sync-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。

New-EVSMTPTarget

New-EVSMTPTarget は指定された SMTP アドレスなどのプロパティを伴う新しい SMTP ターゲットを追加します。-SiteId パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、New-EVSMTPTarget がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

New-EVSMTPTarget は、ディレクトリと、サイト内の各 Enterprise Vault SMTP サーバーに SMTP ターゲット情報を追加します。

新しい SMTP ターゲットを追加するには、次の項目を指定する必要があります。

- ターゲット SMTP の電子メールアドレス(-Name を使用)
- 既存の SMTP ポリシー(-PolicyName または -PolicyId を使用)
- 既存の保持カテゴリ(-RetentionCategory または -RetentionCategoryId を使用) または保持計画 (-RetentionPlan を使用)。保持カテゴリと保持計画の両方を指定することはできません。

- ターゲットに関連付けるアーカイブのリスト。-ArchiveName または -ArchiveId を使用して、1 つのアーカイブに関連付けます。-ArchiveNames または -ArchiveIds を使用して、複数のアーカイブを追加します。アーカイブ ID とアーカイブ名の両方を指定することはできません。
- SMTP ジャーナル設定の種類 (-TargetType を使用)
- 使用するアーカイブの種類 (-ArchiveType を使用)

名前または ID、またはこれら両方によってポリシーと保持カテゴリを指定することができます。名前と ID の両方を使う場合、これら 2 つは同じポリシーまたは保持カテゴリに関連している必要があります。

ターゲットのアーカイブを有効にするには -ArchivingEnabled \$true を、アーカイブを無効にするには -ArchivingEnabled \$false を使用します。

すでに存在するターゲットを指定したり、サイト内に存在しない SMTP 設定を指定したりすると、New-EVSMTPTarget は失敗します。

New-EVSMTPTarget がいずれかの Enterprise Vault SMTP サーバー上の SMTP 設定を更新できない場合、GetFailedEVServerList 機能で更新されなかったサーバーを一覧表示できます。例については、Get-EVSMTPTarget のヘルプを参照してください。

New-EVSMTPTarget は、サイト内で SMTP サーバーがインストールまたは構成されていない場合には警告を表示します。Enterprise Vault サーバー上で SMTP サーバーと SMTP アーカイブタスクがインストールされて構成されていないと、Enterprise Vault ではターゲットメッセージをアーカイブできません。Enterprise Vault メディアから SMTP アーカイブコンポーネントをインストールする方法については、『インストール/設定』を参照してください。SMTP アーカイブを構成する方法については、『SMTP アーカイブの設定』を参照してください。

New-EVSMTPTarget は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
New-EVSMTPTarget [-SiteId] <String> [-Name] <String> [-PolicyId  
<String>] [-PolicyName <String>] [-RetentionCategoryId <String>]  
[-RetentionCategory <String>] [-RetentionPlan <String>] [-ArchiveId  
<String>] [-ArchiveName <String>] [-TargetType] <object>  
[-ArchiveType] <object> [-ArchivingEnabled <Boolean>] [-RetryCount  
<String>] [-Force <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

```
New-EVSMTPTarget [-SiteId] <String> [-Name] <String> [-PolicyId  
<String>] [-PolicyName <String>] [-RetentionCategoryId <String>]  
[-RetentionCategory <String>] [-RetentionPlan <String>] [-ArchiveIds  
<Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveIds>] [-ArchiveNames  
<Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveNames>] [-TargetType]
```



```
<object> [-ArchiveType] <object> [-ArchivingEnabled <Boolean>]
[-RetryCount <String>] [-Force <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 5-15 New-EVSMTPTarget パラメータ

| パラメータ                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId (必須)         | SMTP ターゲットを追加するサイトの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| -Name (必須)           | ターゲットの SMTP アドレス。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| -PolicyId            | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の SMTP ポリシーの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| -PolicyName          | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の SMTP ポリシーの名前。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| -RetentionCategoryId | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の保持カテゴリの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| -RetentionCategory   | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の保持カテゴリの名前。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| -RetentionPlan       | <p>SMTP ターゲットに関連付けされる既存の保持計画の名前。この計画で定義した保持カテゴリはターゲットのメッセージおよび Enterprise Vault がそれらを格納するアーカイブに割り当てられます。ターゲットのアーカイブが他のアーカイブに関連付けられている可能性のある 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドは影響を受けるすべてのアーカイブの保持計画を更新します。</p> <p>このアーカイブにすでに保持期間がある場合、New-EVSMTPTarget はその計画を保持し、新しい計画を適用しません。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保持カテゴリと保持計画の両方を指定することはできません。</li> <li>■ Exchange メールボックスとインターネットメールアーカイブに保持計画を割り当てることはできません。保持設定を変更する場合は、アーカイブのプロパティを編集する必要があります。</li> </ul> |

| パラメータ                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -ArchiveId<br>-ArchiveName<br>(必須)   | <p>ArchiveId または ArchiveName のいずれかを使用して、Enterprise Vault がターゲットのメッセージをアーカイブするアーカイブを指定します。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アーカイブ ID とアーカイブ名の両方を指定することはできません。</li> <li>■ 複数のアーカイブを SMTP ジャーナルまたは SMTP グループジャーナルのターゲットに関連付けるには、ArchiveIds または ArchiveNames を使用します。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                  |
| -ArchiveIds<br>-ArchiveNames<br>(必須) | <p>ArchiveIds または ArchiveNames のいずれかを使用して、複数のアーカイブを SMTP ジャーナルまたは SMTP グループジャーナルのターゲットに関連付けます。</p> <p>SMTPTargetArchiveIds オブジェクトについて詳しくは、<code>get-help about_SMTPTargetArchiveIds</code> と入力します。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アーカイブ ID とアーカイブ名の両方を指定することはできません。</li> <li>■ ターゲットに関連付けられているすべてのアーカイブで、保持設定が同じになっている必要があります。</li> <li>■ 1 つのアーカイブを SMTP ジャーナルまたは SMTP グループジャーナルのターゲットに関連付けるには、ArchiveId または ArchiveName を使用します。</li> <li>■ SMTP メールボックスジャーナルのターゲットを作成するときに、これらのパラメータは使用できません。</li> </ul> |
| -TargetType (必須)                     | <p>SMTP ジャーナル設定の種類。有効なターゲットの種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SMTPJournaling</li> <li>■ SMTPMailboxJournaling</li> <li>■ SMTPGroupJournaling</li> </ul> <p>ここで指定できる値は、SMTP サイトの設定、[選択したジャーナルのアーカイブ]を構成した方法によって決まります。ターゲットを、SMTP メールボックスジャーナルまたは SMTP グループジャーナルのターゲットとして追加するには、[選択したジャーナルのアーカイブ]が[包含]または[除外]になっていることを確認します。[選択したジャーナルのアーカイブ]が[非選択]に設定されている場合、このターゲットは SMTP ジャーナルとしてのみ追加できます。</p>                                                                                                                        |

| パラメータ             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -ArchiveType (必須) | <p>Enterprise Vault がターゲットからメッセージをアーカイブ化するアーカイブの種類。ここで指定できる値は、-TargetType で指定する値によって決まります。-TargetType が SMTPJournaling または SMTPGroupJournaling の場合は、1 つまたは複数のアーカイブの種類を指定することができます。有効なアーカイブの種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ DominoJournal</li><li>■ ExchangeJournal</li><li>■ Shared</li><li>■ SMTP</li></ul> <p>-TargetType が SMTPMailboxJournaling の場合は、次のアーカイブの種類のいずれかを指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ExchangeMailbox</li><li>■ InternetMail</li></ul> |
| -ArchivingEnabled | ターゲットのメッセージ (受信と送信) をアーカイブするには、\$true に設定します。ターゲットのアーカイブを無効にするには、\$false に設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| -RetryCount       | New-EVSMTPTarget がサイト内の Enterprise Vault SMTP サーバーに対してターゲット情報の更新を試行する最大回数。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| -Force            | 確認メッセージを表示することなく、-RetentionPlan で指定される保持計画を適用します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

例

- New-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name JohnDoe@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -ArchiveName SMTPLocal -TargetType SMTPMailboxJournaling -ArchiveType ExchangeMailbox  
指定されたプロパティで新しい SMTP メールボックスジャーナルのターゲット「JohnDoe@example.com」を追加します。
- C:¥PS> \$archIds = new-object Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveIDs  
C:¥PS> \$archIds.Add("12DB...110000MW-EV-1-A")  
C:¥PS> \$archIds.Add("15E1...210000MW-EV-1-A")  
C:¥PS> \$archIds.Add("132C...410000MW-EV-1-A")  
C:¥PS> New-EVSMTPTarget -SiteId 13E9...EV1101.example.com -Name Jrnl@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionCategory

```
'Standard retention' ArchiveIds $archIds -TargetType SMTPJournaling  
-ArchiveType SMTP -ArchivingEnabled $true
```

指定されたプロパティで新しい SMTP ターゲット「Jrnl@example.com」を追加し、指定したアーカイブを SMTP ターゲットに関連付けます。

- C:¥PS> \$archNames = new-object  
Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveNames  
C:¥PS> \$archNames.Add("Archive1")  
C:¥PS> \$archNames.Add("Archive2")  
C:¥PS> New-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name  
sales@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionPlan  
"Projects Retention Plan" ArchiveNames \$archNames -TargetType  
SMTPGroupJournaling -ArchiveType Shared  
保持計画「Projects Retention Plan」を新しい SMTP ターゲットに関連付けます。また、SMTP ターゲットにも指定したアーカイブを関連付けます。

- C:¥PS> \$archNames = new-object  
Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveNames  
C:¥PS> \$archNames.Add("SmtArchive")  
C:¥PS> \$archNames.Add("ExchJournal")  
C:¥PS> New-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name  
Jrnl@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionCategory  
'Standard retention' -ArchiveNames \$archNames -ArchiveType "SMTP,  
ExchangeJournal" -TargetType SMTPJournaling  
指定されたプロパティで新しい SMTP ジャーナルターゲット「Jrnl@example.com」を追加し、指定した SMTP アーカイブと ExchangeJournal アーカイブを SMTP ターゲットに関連付けます。

- C:¥PS> \$archNames = new-object  
Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveNames  
C:¥PS> \$archNames.Add("SmtArchive")  
C:¥PS> \$archNames.Add("ExchJournal")  
C:¥PS> New-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name  
Jrnl@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionPlan "Projects  
Retention Plan" -ArchiveNames \$archNames -ArchiveType "SMTP,  
ExchangeJournal" -TargetType SMTPJournaling  
保持計画「Projects Retention Plan」を新しい SMTP ジャーナルターゲットに関連付けます。種類が SMTP と ExchangeJournal のアーカイブと SMTP ターゲットも関連付けます。

- C:¥PS> New-EVSMTPTarget -SiteId 13E9...EV1101.example.com -Name  
Jrnl@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionCategory  
'Standard retention' -ArchiveId B2DE...EV1101.example.com

```
-ArchiveType SMTP -TargetType SMTPJournaling -ArchivingEnabled $true
```

指定されたプロパティで新しい SMTP ジャーナルターゲット「Jrnl@example.com」を追加し、指定した SMTP アーカイブを SMTP ターゲットに関連付けます。

- C:¥PS> New-EVSMTPTarget -SiteId 13E9...EV1101.example.com -Name JohnDoe@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionCategory 'Standard retention' -ArchiveName SMTPLocal -ArchiveType SMTP -TargetType SMTPGroupJournaling -ArchivingEnabled \$true  
指定されたプロパティで新しい SMTP グループジャーナルターゲット「JohnDoe@example.com」を追加します。

- C:¥PS> New-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name JohnDoe@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionCategory 'Standard retention' -ArchiveName ExchMbx -ArchiveType ExchangeMailbox -TargetType SMTPMailboxJournaling  
指定されたプロパティで新しい SMTP メールボックスジャーナルターゲット「JohnDoe@example.com」を追加し、指定した ExchangeMailbox アーカイブを SMTP ターゲットに関連付けます。

- C:¥PS> New-EVSMTPTarget -Name JohnDoe@example.com -TargetType SMTPJournaling -ArchiveNames \$arc -RetentionPlan "Projects Retention Plan" -PolicyName "Smtip Policy" -ArchiveType Smtip  
警告: ターゲットのアーカイブは、他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられています。このアーカイブの保持設定を変更すると、一覧表示されているアーカイブの保持設定が変更されます。

```
Express Vault Store¥A1
```

```
Express Vault Store¥A2
```

```
Express Vault Store¥A3
```

```
Confirm Do you want to continue? [Y] Yes [N] No [S] Suspend [?]
```

```
Help (default is "Y"): Y
```

ポリシー、保持計画、アーカイブを新しい SMTP ターゲット「JohnDoe@example.com」に適用します。ターゲットのアーカイブが他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドはまずアーカイブの一覧を表示し、続行の確認メッセージを表示します。「はい (Y)」を選択すると、コマンドは「Projects Retention Plan」と呼ばれる保持計画を一覧表示したアーカイブに適用します。「N」または「S」を選択すると、コマンドは変更を適用せずに終了します。

- New-EVSMTPTarget -Name JohnDoe@example.com -TargetType SMTPJournaling -ArchiveNames \$arc -RetentionPlan RtnForManagers -PolicyName "Smtip Policy" -ArchiveType Smtip -Force  
保持計画「RtnForManagers」を新しい SMTP ターゲット「JohnDoe@example.com」に適用します。このターゲットのアーカイブが他のアーカイブに関連付けられている

1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドは確認メッセージを表示することなく、これらのアーカイブの保持設定を更新します。

## 出力

New-EVSMTPTarget は `Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTarget` と `Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtpTargetArchiveInformation` の種類のオブジェクトを返します。ここには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。

**表 5-16** Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTarget プロパティ

| 名前                  | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ArchivingEnabled    | Boolean | 現在アーカイブされている SMTP ターゲットによってメッセージが送信または受信される場合は \$true、そうでない場合は \$false。                                                                                                                                                                                                                     |
| Name                | 文字列     | SMTP ターゲットのアドレス。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| PolicyId            | 文字列     | SMTP ターゲットに関連付けされた SMTP ポリシーの ID。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| PolicyName          | 文字列     | SMTP ターゲットに関連付けされた SMTP ポリシー。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| RetentionCategory   | 文字列     | <b>Enterprise Vault</b> が新しくアーカイブされたアイテムに割り当てる保持カテゴリの名前。<br><br><b>Enterprise Vault</b> が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画は SMTP ターゲットに関連付けされたアーカイブに適用されています。 <b>Enterprise Vault</b> は保持計画で定義された保持カテゴリをアイテムに適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、SMTP ターゲットのプロパティで定義された保持カテゴリになります。 |
| RetentionCategoryId | 文字列     | <b>Enterprise Vault</b> が新しくアーカイブされたアイテムに割り当てる保持カテゴリの ID。<br><br><b>RetentionCategory</b> と同様に、 <b>Enterprise Vault</b> がアイテムを格納するアーカイブに保持計画が割り当てられているかどうかによって変わります。                                                                                                                        |
| SiteId              | 文字列     | ターゲットが属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                         |

| 名前             | 種類     | 説明                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| TargetArchives | オブジェクト | <code>Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtTargetArchiveInformation</code> SMTP ターゲットアドレスに関連付けられたアーカイブの一覧を提供します。 <b>TargetArchives</b> について詳しくは、 <b>PowerShell</b> プロンプトで <code>get-help about_SmtTargetArchiveInformation</code> と入力してください。 |
| TargetType     | オブジェクト | ターゲットに関連付けられている SMTP ジャーナル設定の種類。                                                                                                                                                                                                          |

表 5-17

`Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtTargetArchiveInformation` プロパティ

| 名前             | 種類     | 説明                                         |
|----------------|--------|--------------------------------------------|
| ArchiveId      | 文字列    | SMTP ターゲットに関連付けされたアーカイブの ID。               |
| ArchiveName    | 文字列    | SMTP ターゲットに関連付けされたアーカイブの名前。                |
| ArchiveType    | オブジェクト | SMTP ターゲットに関連付けられているアーカイブの種類。              |
| EVServerName   | 文字列    | ボルトストアをホストする <b>Enterprise Vault</b> サーバー。 |
| Name           | 文字列    | SMTP ターゲットのアドレス。                           |
| VaultStoreName | 文字列    | SMTP ターゲットに使用されるアーカイブを含んでいるボルトストアの名前。      |

### 関連 cmdlet

- p.122 の「[Get-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。
- p.144 の「[Remove-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。
- p.154 の「[Set-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。

## Remove-EVSMTPPolicy

`Remove-EVSMTPPolicy` は指定の **SMTP** ポリシーを削除します。削除の確認を促すプロンプトが表示されます。`-SiteID` パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合、`Remove-EVSMTPPolicy` がサイトを判別できない場合、サイト ID を入力するよう求められます。

Remove-EVSMTPPolicy は、スナップイン  
Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Remove-EVSMTPPolicy [-SiteId] <String> [-Name] <String>  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 5-18 Remove-EVSMTPPolicy パラメータ

| パラメータ        | 説明                      |
|--------------|-------------------------|
| -SiteId (必須) | SMTP ポリシーが属しているサイトの ID。 |
| -Name (必須)   | 削除する SMTP ポリシーの名前。      |

## 例

- `Remove-EVSMTPPolicy -SiteId 13E...example.com -Name "SMTP policy"`  
「SMTP policy」という SMTP ポリシーを削除します。

## 出力

Remove-EVSMTPPolicy は出力を返しません。

## 関連コマンドレット

- p.117 の「[Get-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。
- p.127 の「[New-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。
- p.147 の「[Set-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。

# Remove-EVSMTPTarget

Remove-EVSMTPTarget は指定した SMTP ターゲットを削除します。ターゲットの削除を確認するよう促すプロンプトが表示されます。-SiteID パラメータを使用してサイト ID を指定しない場合で、Remove-EVSMTPTarget がサイトを判別できない場合、サイト ID を入力するよう求められます。

Enterprise Vault によって、ディレクトリ内と、サイト内の各 Enterprise Vault SMTP サーバー上にある SMTP ターゲット情報が削除されます。Remove-EVSMTPTarget がいずれかの Enterprise Vault SMTP サーバー上の SMTP 設定を更新できない場合、GetFailedEVServerList 機能で更新されなかったサーバーを一覧表示できます。例については、Get-EVSMTPTarget のヘルプを参照してください。



Remove-EVSMTPTarget は、スナップイン  
Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Remove-EVSMTPTarget [-SiteId] <String> [-Name] <String> [-RetryCount  
<String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 5-19 Remove-EVSMTPTarget パラメータ

| パラメータ        | 説明                                                                            |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId (必須) | SMTP ターゲットを削除するサイトの ID。                                                       |
| -Name (必須)   | 削除するターゲットの SMTP アドレスの名前。                                                      |
| -RetryCount  | Remove-EVSMTPTarget がサイト内の Enterprise Vault SMTP サーバーに対してターゲット情報の更新を試行する最大回数。 |

## 例

- `Remove-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name JohnDoe@example.com`  
SMTP ターゲットの「JohnDoe@example.com」を削除します。

## 出力

Remove-EVSMTPTarget は出力を返しません。

## 関連コマンドレット

- p.122 の「[Get-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。
- p.135 の「[New-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。
- p.154 の「[Set-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。

# Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation

Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation は、指定したサイトの指定した Enterprise Vault SMTP サーバーにおけるメッセージ追跡ログファイルの場所を更新します。サイト ID を指定しない場合、この cmdlet はローカルの Enterprise Vault サーバーが属しているサイトを使用します。

Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用でき  
ます。

## 構文

```
Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation [-SiteId <String>] [-Identifier]
<String> [-LogFileLocation] <String> [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 5-20 Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation パラメータ

| パラメータ                 | 説明                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId               | SMTP 設定が属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                                    |
| -Identifier (必須)      | メッセージ追跡ログファイルの場所を設定する SMTP サーバーのコンピュータ名、コンピュータの別名、コンピュータのエントリ ID のいずれか。サイト内の SMTP サーバーの一覧を Enterprise Vault 管理コンソールの SMTP プロパティの[メッセージの追跡]タブに表示します。SMTP プロパティを開くには、[対象]の[SMTP]コンテナを右クリックして[プロパティ]を選択します。 |
| -LogFileLocation (必須) | SMTP メッセージ追跡ログファイルを格納するフォルダのパス。このパスは、SMTP サーバーに対してローカルである必要があります。                                                                                                                                        |

## 例

- Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation -Identifier "EV1.Domain.com" -LogFileLocation "C:\MsgTrackingLogFileLocation"  
「EV1.Domain.com」という名前の SMTP サーバーでメッセージ追跡ログファイルの場所を更新します。サイトを指定していない場合は、cmdlet を実行する Enterprise Vault サーバーのサイトが使用されます。
- Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation -SiteId "13E...example.com" -Identifier "EV2" -LogFileLocation "C:\MsgTrackingLogFileLocation"  
指定した Enterprise Vault サイトの「EV2.」という名前の SMTP サーバーでメッセージ追跡ログファイルの場所を更新します。

## 出力

Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation は出力を返しません。

## 関連コマンドレット

- p.116 の「[Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation](#)」を参照してください。
- p.162 の「[Sync-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。

# Set-EVSMTPPolicy

Set-EVSMTPPolicy は、既存の SMTP ポリシーのプロパティを設定または更新します。  
-SiteId パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、Set-EVSMTPPolicy がサイトを判別できない場合、サイト ID を入力するよう求められます。X-Header を指定すると、Set-EVSMTPPolicy によってポリシー内の既存の X-Header が上書きされます。

Set-EVSMTPPolicy は、スナップイン  
Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Set-EVSMTPPolicy [-SiteId] <String> [-Name] <String> [-Description  
<String>] [-XHeaders <Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPXHeaders>]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 5-21 Set-EVSMTPPolicy パラメータ

| パラメータ        | 説明                                                                                                                                                                                      |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId (必須) | SMTP ポリシーが属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                 |
| -Name (必須)   | 更新する SMTP ポリシーの名前。                                                                                                                                                                      |
| -Description | SMTP ポリシーの新しい説明。                                                                                                                                                                        |
| -XHeaders    | SMTP ポリシーに追加する新しい X-Header の一覧。<br>Set-EVSMTPPolicy は、既存の X-Header を自動的に削除し、それらを新しい一覧で置換します。<br><br>X-Header の一覧の管理について詳しくは、PowerShell プロンプトで<br>get-help about_SMTPXHeaders と入力してください。 |

## 例

- Set-EVSMTPPolicy -SiteId '13E...example.com' -Name 'SMTP policy' -Description 'SMTP journal archiving policy'  
「SMTP policy」という SMTP ポリシーの説明を更新します。既存の X-Header は変更されません。
- 次のコマンドシーケンスを使って「SMTP policy」という SMTP ポリシーの X-Header リストを更新できます。
  - \$xh = New-Object Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPXHeader  
'x-Encoding'

X-Header 名が「x-Encoding」で他のすべてのプロパティがデフォルトの新しい X-Header オブジェクトを作成します: Type は 0 (文字列)、Searchable は 0 (検索可能でない)、Retrievable は 0 (取り込み可能でない)。

- Set-EVSMTPPolicy -SiteId '13E...example.com' -Name 'SMTP policy' -XHeaders \$xh

ポリシー「SMTP policy」の X-Header を前のコマンドで指定した内容で置き換えます。

## 出力

Set-EVSMTPPolicy は出力を返しません。

## 関連コマンドレット

- p.117 の「[Get-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。
- p.127 の「[New-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。
- p.143 の「[Remove-EVSMTPPolicy](#)」を参照してください。

# Set-EVSMTPServerSettings

Set-EVSMTPServerSettings は指定されたサイト内のすべての Enterprise Vault SMTP サーバーの設定を更新します。-SiteID パラメータを使用してサイト ID を指定しない場合で、Set-EVSMTPServerSettings がサイトを判別できない場合、サイト ID を入力するよう求められます。

サイトの SMTP サーバー設定が存在しない場合、この cmdlet は失敗します。

Set-EVSMTPServerSettings は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Set-EVSMTPServerSettings [[-SiteId] <String>] [-Port <Integer>]
[-MaxMessageSize <Integer>] [-Authentication
<Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION enumeration
value>] [-AuthenticationCredentials
<System.Management.Automation.PSCredential>]
[-AuthenticationAllowPlainText
<Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT
enumeration value>] [-Tls <Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_TLS
enumeration value>] [-TlsCertificateFile <String>]
[-TlsSecurePassphrase <System.Security.SecureString>]
[-SMTPConnectionControl
```

```
<Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPConnectionControlList>]
[-MessageTracking <Boolean>] [-IncludeSubjectLineInLogs <Boolean>]
[-DaysToKeepMessageTrackingLogs <Integer>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 5-22 Set-EVSMTPServerSettings パラメータ

| パラメータ                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId                    | SMTP 設定が適用されるサイトの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| -Port                      | サイト内の SMTP サーバーによって使用されるポート番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| -MaxMessageSize            | SMTP サーバーが受け入れる最大メッセージサイズ (MB)。SMTP サーバーは指定されたサイズより大きいメッセージを拒否します。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| -Authentication            | 列挙値は、SMTP サーバーへの SMTP 接続の認証を有効にするかどうかを指定します。<br>EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE が指定されている場合、SMTP サーバーに接続するホストはパラメータ -AuthenticationCredentials に よって指定される資格情報を提供する必要があります。EV_SMTP_AUTHENTICATION_DISABLE が指定されている場合、<br>-AuthenticationCredentials は必要ありません。使用する列挙について詳しくは、get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。 |
| -AuthenticationCredentials | サイト内にある SMTP サーバーの認証資格情報。このパラメータは、-Authentication が EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE に設定されている場合のみ必要です。                                                                                                                                                                                                                |

| パラメータ                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -AuthenticationAllowPlainText | <p>SMTP サーバーへの SMTP 接続のプレーンテキスト認証を有効にするかどうかを指定する列挙値。</p> <p>-Authentication が EV SMTP AUTHENTICATION_DISABLE に設定されると、この値は常に EV SMTP AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_NEVER に設定されます。</p> <p>EV SMTP AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_TLS が指定されている場合には、SMTP サーバーで -TLS を有効化する必要があります。有効化しない場合には該当する例外メッセージが生成されます。</p> <p>使用する列挙について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。</p> |
| -Tls                          | <p>列挙値は、SMTP サーバーへの暗号化された接続および暗号化されていない接続のサポートを指定します。暗号化された接続に対応するプロトコルは、TLS (Transport Layer Security) です。暗号化された接続がサポートされている場合、パラメータ -TlsCertificateFile と -TlsSecurePassphrase の値を指定する必要があります。使用する列挙について詳しくは、get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。</p>                                                                                                                                     |
| -TlsCertificateFile           | <p>SMTP サーバーへの暗号化された接続に使用する TLS 証明書ファイルのパス。このパラメータは、暗号化されていない接続のみがサポートされている場合は必要ありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| -TlsSecurePassphrase          | <p>SMTP サーバーへの暗号化された接続に必要な TLS 証明書ファイルのセキュアパスフレーズ。このパラメータは、暗号化されていない接続のみがサポートされている場合は必要ありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| -SMTPConnectionControl        | <p>SMTP サーバーに接続できるホストの一覧。SMTPConnectionControlList オブジェクトについて詳しくは、get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

| パラメータ                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -MessageTracking               | サイト内のすべての SMTP サーバーでメッセージ追跡を有効にするかどうかを指定します。SMTP メッセージ追跡を有効にするには、\$true に設定します。メッセージ追跡を無効にするには、\$false に設定します。メッセージ追跡を有効にした場合、各 SMTP サーバーが受信したメッセージの詳細が Enterprise Vault によってログに記録されます。デフォルトでは、メッセージ追跡ログファイルは各 SMTP サーバーの Enterprise Vault プログラムフォルダの Reports¥SMTP¥SMTPService に格納されます。メッセージ追跡ログファイルの場所は、Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation cmdlet を使用して変更できます。 |
| -IncludeSubjectLineInLogs      | メッセージ追跡ログファイルおよび DTrace ログにメッセージの件名行を記録するかどうかを指定します。件名行をログに記録するには、\$true に設定します。デフォルトでは、件名行はログに記録されません (\$false)。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| -DaysToKeepMessageTrackingLogs | サーバーに SMTP メッセージ追跡ログファイルを保存する日数を指定します。指定された日数より古いログファイルは削除されます。1 から 999 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 30 です。                                                                                                                                                                                                                                                                |

例

■

```
Set-EVSMTPServerSettings -SiteId 13E...example.com -Authentication
EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE -AuthenticationCredentials
(New-Object System.Management.Automation.PSCredential -ArgumentList
"user@example.com", ("admin@123" | ConvertTo-SecureString
-AsPlainText -Force)) -AuthenticationAllowPlainText
EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_TLS -Tls EV_SMTP_TLS_ENCRYPTED_AND_UNENCRYPTED -TlsCertificateFile "C:¥rsa.pl2"
-TlsSecurePassphrase ("admin@123" | ConvertTo-SecureString
-AsPlainText -Force) -MessageTracking $true
-IncludeSubjectLineInLogs $true -DaysToKeepMessageTrackingLogs 40
指定したサイト内のすべての SMTP サーバーの SMTP サーバー設定を更新します。SMTP サーバーは以前に設定したポートでリッスンし、認証の有効化、暗号化された接続と暗号化されていない接続の両方のサポート、メッセージ追跡の有効化、各メッセージの件名のログへの記録を行い、ログファイルを作成日から 40 日間保持します。
```

```
C:\PS> $xConnectionList = new-object Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPConnectionControlList
C:\PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_HOSTNAME", "Test")
C:\PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_HOSTNAMESUFFIX", "smtp.example.com")
C:\PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_HOSTNAMEPATTERN", "as-[a-z0-9]*-[a-z0-9]*.example.Local")
C:\PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV4", "192.168.1.1")
C:\PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV4INCIDR", "192.168.1.1/24")
C:\PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV6", "0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0001")
C:\PS> $xConnectionList.Add("EV_SMTP_CONNECTION_IPV6INCIDR", "0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0001/128")
C:\PS> Set-EVSMTPServerSettings -Port 25 -Authentication EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE -AuthenticationCredentials (New-Object System.Management.Automation.PSCredential -ArgumentList "user@example.com", ("admin@123" | ConvertTo-SecureString -AsPlainText -Force)) -AuthenticationAllowPlainText EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_NEVER -Tls EV_SMTP_TLS_ENCRYPTED_AND_UNENCRYPTED -TlsCertificateFile "C:\Yrsa.pl2" -TlsSecurePassphrase ("admin@123" | ConvertTo-SecureString -AsPlainText -Force) -SMTPConnectionControl $xConnectionList -MessageTracking $true -IncludeSubjectLineInLogs $true -DaysToKeepMessageTrackingLogs 45
C:\PS> Get-EVSMTPServerSettings
```

|                                       |                                                                 |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| SiteId                                | : 13E...example.com                                             |
| Port                                  | : 25                                                            |
| MaxMessageSize                        | : 0                                                             |
| Authentication                        | : EV_SMTP_AUTHENTICATION_ENABLE                                 |
| AuthenticationEmailAddress            | : user@example.com                                              |
| AuthenticationAllowPlainText          | : EV_SMTP_AUTHENTICATION<br>ALLOWPLAINTEXT_NEVER                |
| Tls                                   | :                                                               |
| EV_SMTP_TLS_ENCRYPTED_AND_UNENCRYPTED |                                                                 |
| TlsCertificateInfo                    | : Symantec.EnterpriseVault.Admin.<br>.TlsCertificate            |
| SMTPConnectionControl                 | : Symantec.EnterpriseVault.Admin.<br>.SMTPConnectionControlList |



```
MessageTracking           : True
IncludeSubjectLineInLogs  : True
DaysToKeepMessageTrackingLogs: 45
```

このコマンドのシーケンスは、指定されたサイト内にあるすべての SMTP サーバーについて SMTP サーバー設定を更新します。SMTP サーバーはポート 25 でリッスンし、認証の有効化、テキスト形式の認証の不許可、暗号化された接続と暗号化されていない接続の両方のサポート、メッセージ追跡の有効化、各メッセージの件名のログへの記録を行い、ログファイルを作成日から 45 日間保持します。許可された接続が、異なるアドレス形式で SMTPConnectionControlList オブジェクトに追加されます。

## 出力

Set-EVSMTPServerSettings は

Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings の種類のオブジェクトを返します。ここには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。

表 5-23 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPServerSettings プロパティ

| 名前                            | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Authentication                | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION enumeration value: Specifies whether authentication is required for incoming connections. 列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。                                              |
| AuthenticationAllowPlainText  | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT 列挙値: 受信接続にプレーンテキストの認証を許可するかどうかを指定します。<br><br>認証が無効な場合は、この値は EV_SMTP_AUTHENTICATION_ALLOWPLAINTEXT_NEVER に設定されます。<br><br>列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。 |
| AuthenticationEmailAddress    | 文字列     | 認証が有効な場合、認証ユーザーの ID。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| DaysToKeepMessageTrackingLogs | 整数      | サーバーで SMTP メッセージの追跡ログファイルを保持する日数。指定された日数より古いログファイルは削除されます。                                                                                                                                                                                                             |
| IncludeSubjectLineInLogs      | Boolean | メッセージ追跡ログファイルおよび DTrace ログにメッセージの件名行を記録するかどうかを指定します。件名行をログに含める場合は \$true にし、件名行をログに記録しない場合は \$false にします。                                                                                                                                                              |
| MaxMessageSize                | 整数      | 最大 SMTP メッセージサイズ (MB)。                                                                                                                                                                                                                                                 |

| 名前                    | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                |
|-----------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| MessageTracking       | Boolean | メッセージ追跡を有効にするかどうかを指定します。SMTP メッセージ追跡を有効にする場合は \$true にし、メッセージ追跡を無効にする場合は \$false にします。                                                                                            |
| Port                  | 整数      | SMTP サーバーがリッスンするポート番号。                                                                                                                                                            |
| SiteId                | 文字列     | SMTP サーバー設定が属しているサイトの ID。                                                                                                                                                         |
| SMTPConnectionControl | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPConnectionControlList: SMTP サーバーへの許可された接続の一覧を提供します。許可された接続の一覧の管理について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPConnectionControlList と入力してください。 |
| Tls                   | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin._EV_SMTP_TLS 列挙値: 列挙値は、SMTP サーバーへの暗号化された接続および暗号化されていない接続のサポートを指定します。列挙値について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_SMTPEnumerations と入力してください。       |
| TlsCertificateInfo    | オブジェクト  | Symantec.EnterpriseVault.Admin.TlsCertificate: SMTP 接続に使われる TLS 証明書の情報を提供します。<br><br>TlsCertificate オブジェクトについて詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_TlsCertificate と入力してください。     |

関連コマンドレット

- p.120 の「[Get-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.129 の「[New-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.162 の「[Sync-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。

Set-EVSMTPTarget

Set-EVSMTPTarget は、既存の SMTP ターゲットの指定されたプロパティを設定または更新します。-SiteID パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、Set-EVSMTPTarget がサイトを判別できない場合、サイト ID を入力するよう求められます。

Set-EVSMTPTarget は、ディレクトリと、サイト内の各 Enterprise Vault SMTP サーバーで SMTP ターゲット情報を設定します。

ターゲットのアーカイブを有効にするには -ArchivingEnabled \$true を、アーカイブを無効にするには -ArchivingEnabled \$false を使用します。

Set-EVSMTPTarget がいずれかの Enterprise Vault SMTP サーバー上の SMTP 設定を更新できない場合、GetFailedEVServerList 機能で更新されなかったサーバーを一覧表示できます。例については、Get-EVSMTPTarget のヘルプを参照してください。

Set-EVSMTPTarget は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Set-EVSMTPTarget [-SiteId] <String> [-Name] <String> [-PolicyId <String>] [-PolicyName <String>] [-RetentionCategoryId <String>] [-RetentionCategory <String>] [-RetentionPlan <String>] [-Force <Boolean>] [-ArchiveId <String>] [-ArchiveName <String>] [-ArchiveType <object>] [-ArchivingEnabled <Boolean>] [<CommonParameters>]

Set-EVSMTPTarget [-SiteId] <String> [-Name] <String> [-PolicyId <String>] [-PolicyName <String>] [-RetentionCategoryId <String>] [-RetentionCategory <String>] [-RetentionPlan <String>] [-Force <Boolean>] [-ArchiveIds <Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveIDs>] [-ArchiveNames <Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveNames>] [-ArchiveType <object>] [-ArchivingEnabled <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 5-24 Set-EVSMTPTarget パラメータ

| パラメータ                | 説明                                                                   |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------|
| -SiteId (必須)         | SMTP ターゲットを更新するサイトの ID。                                              |
| -Name (必須)           | ターゲットの SMTP アドレス。                                                    |
| -PolicyId            | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の SMTP ポリシーの ID。                                 |
| -PolicyName          | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の SMTP ポリシーの名前。                                  |
| -RetentionCategoryId | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の保持カテゴリの ID。                                     |
| -RetentionCategory   | SMTP ターゲットに関連付けされる既存の保持カテゴリの名前。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使うことができます。 |

| パラメータ                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -RetentionPlan             | <p><b>Enterprise Vault</b> がターゲットのメッセージをアーカイブするアーカイブに関連付けされる既存の保持計画の名前。この計画で定義した保持カテゴリはターゲットのメッセージに割り当てられます。</p> <p>ターゲットのアーカイブが他のアーカイブに関連付けられている可能性のある 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドは影響を受けるすべてのアーカイブの保持計画を更新します。</p> <p>このアーカイブにすでに保持期間がある場合、Set-EVSMTPTarget はその計画を保持し、新しい計画を適用しません。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保持カテゴリと保持計画の両方を指定することはできません。</li> <li>■ <b>Exchange</b> メールボックスとインターネットメールアーカイブに保持計画を割り当てることはできません。保持設定を変更する場合は、アーカイブのプロパティを編集する必要があります。</li> </ul> |
| -Force                     | <p>確認メッセージを表示することなく、-RetentionPlan で指定される保持計画を適用します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| -ArchiveId<br>-ArchiveName | <p>ArchiveId または ArchiveName のいずれかを使用して、<b>Enterprise Vault</b> がターゲットのメッセージをアーカイブするアーカイブを指定します。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アーカイブ ID とアーカイブ名の両方を指定することはできません。</li> <li>■ アーカイブの一覧を <b>SMTP</b> ジャーナルまたは <b>SMTP グループ</b> ジャーナルのターゲットに関連付けている場合、Set-EVSMTPTarget は、指定したアーカイブで既存のアーカイブの一覧を上書きします。</li> <li>■ 複数のアーカイブを <b>SMTP</b> ジャーナルまたは <b>SMTP グループ</b> ジャーナルのターゲットに関連付けるには、ArchiveIds または ArchiveNames を使用します。</li> </ul>                                          |

| パラメータ                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>-ArchiveIds</div> <div>-ArchiveNames</div> | <div>ArchiveIds または ArchiveNames のいずれかを使用して、複数のアーカイブを <b>SMTP</b> ジャーナルまたは <b>SMTP グループジャーナル</b> のターゲットに関連付けます。SMTPTargetArchiveIds オブジェクトについて詳しくは、get-help about_SMTPTargetArchiveIds と入力します。</div> <div>次の点に注意してください。</div> <div><div><div>■</div><div>アーカイブ ID とアーカイブ名の両方を指定することはできません。</div></div><div><div>■</div><div>ターゲットに関連付けられているすべてのアーカイブで、保持設定が同じになっている必要があります。</div></div><div><div>■</div><div>Set-EVSMTPTarget は既存のアーカイブの一覧を上書きします。Get-EVSMTPTarget を使用して、関連付けられたアーカイブの一覧を取得し、この情報を使用して Set-EVSMTPTarget でターゲットを更新します。</div></div><div><div>■</div><div>1 つのアーカイブを <b>SMTP</b> ジャーナルまたは <b>SMTP グループジャーナル</b> のターゲットに関連付けるには、ArchiveId または ArchiveName を使用します。</div></div><div><div>■</div><div>これらのパラメータを使用して、<b>SMTP</b> メールボックスジャーナルのターゲットを更新することはできません。</div></div></div> |
| <div>-ArchiveType (アーカイブを更新する場合は必須)</div>       | <div>Enterprise Vault がターゲットからメッセージをアーカイブ化するアーカイブの種類。ここで指定できる値は、New-EVSMTPTarget cmdlet を使用してこのターゲットを作成したときに -TargetType で指定した値によって決まります。-TargetType が <b>SMTPJournaling</b> または <b>SMTPGroupJournaling</b> の場合は、1 つまたは複数のアーカイブの種類を指定することができます。有効なアーカイブの種類は次のとおりです。</div> <div><div>■</div><div>DominoJournal</div></div> <div><div>■</div><div>ExchangeJournal</div></div> <div><div>■</div><div>Shared</div></div> <div><div>■</div><div>SMTP</div></div> <div>-TargetType が <b>SMTPMailboxJournaling</b> の場合は、次のアーカイブの種類のいずれかを指定することができます。</div> <div><div>■</div><div>ExchangeMailbox</div></div> <div><div>■</div><div>InternetMail</div></div>                                                                                                                                         |
| <div>-ArchivingEnabled</div>                    | <div>ターゲットのメッセージ (受信と送信) をアーカイブするには、\$true に設定します。ターゲットのアーカイブを無効にするには、\$false に設定します。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

## 例

- Set-EVSMTPTarget 13E9...EV1004.example.com -Name JohnDoe@example.com -PolicyId 162D...EV1004.example.com -RetentionCategoryId 11B6...EV1004.example.com -ArchiveName SMTPLocalPublic -ArchiveType InternetMail -ArchivingEnabled \$true  
指定されたプロパティでSMTPターゲット「JohnDoe@example.com」を更新します。
- C:¥PS> \$archNames = new-object Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveNames  
C:¥PS> \$archNames.Add("Archive1")  
C:¥PS> \$archNames.Add("Archive2")  
Set-EVSMTPTarget -SiteId 13E9...EV1101.example.com -Name SMTPjournal@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionCategory 'Standard retention' -ArchiveNames \$archNames -ArchiveType ExchangeJournal -ArchivingEnabled \$true  
指定されたプロパティで SMTP ターゲット「SMTPjournal@example.com」を更新し、指定したアーカイブを SMTP ターゲットに関連付けます。
- \$archIds = new-object Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTargetArchiveIDs  
C:¥PS> \$archIds.Add("12DB...110000MW-EV-1-A")  
C:¥PS> \$archIds.Add("15E1...210000MW-EV-1-A")  
C:¥PS> \$archIds.Add("132C...410000MW-EV-1-A")  
Set-EVSMTPTarget 13E9...EV1004.example.com -Name sales@example.com -PolicyId 162D...EV1004.example.com -RetentionCategoryId 11B6...EV1004.example.com -ArchiveIDs \$archIds -ArchiveType "Shared" -ArchivingEnabled \$true  
SMTP ターゲット sales@example.com の次の設定の詳細を更新します。
  - ポリシー (ID の値を使用)
  - 保持カテゴリ (ID の値を使用)
  - アーカイブの一覧
  - このターゲットのメッセージに対して許可されるアーカイブの種類
  - ターゲットのメッセージに対するアーカイブの有効化
- C:¥PS> \$target = Get-EVSMTPTarget -Name SMTPjournal2@example.com  
Get-EVSMTPTarget の出力を \$target という名前のオブジェクトに返します。  
C:¥PS> \$archNames = \$target.TargetArchives.ArchiveNames  
このターゲットに関連付けられているアーカイブ名の一覧を、\$archNames という名前のオブジェクトに返します。

```
C:\PS> $archNames.Remove("Archive1")
```

一覧から「**Archive1**」を削除します。

```
C:\PS> $archNames.Add("SharedArchive1")
```

一覧に「**SharedArchive1**」を追加します。

```
C:\PS> $archType = $target.TargetArchives.ArchiveType
```

このターゲットのメッセージに許可されるアーカイブの種類に関する情報を、\$archType という名前のオブジェクトに返します。

```
C:\PS> $archType = $archType.ToString() + ", Shared"
```

アーカイブの種類「**Shared**」を追加します。

```
C:\PS> Set-EVSMTPTarget -Name SMTPjournal2@example.com -PolicyId  
162D...EV1004.example.com -RetentionCategoryId  
11B6...EV1004.example.com -ArchiveType $archType -ArchiveNames  
$archNames
```

SMTP ターゲット **SMTPjournal2@example.com** の次の設定の詳細を更新します。

- ポリシー (ID の値を使用)
- 保持カテゴリ (ID の値を使用)
- アーカイブの一覧 (\$archNames オブジェクトを使用)
- このターゲットのメッセージに対して許可されるアーカイブの種類 (\$archType オブジェクトを使用)

- C:\PS> \$target = Get-EVSMTPTarget -Name marketing@example.com  
Get-EVSMTPTarget の出力を \$target という名前のオブジェクトに返します。

```
C:\PS> $archIds = $target.TargetArchives.ArchiveIDs
```

このターゲットに関連付けられているアーカイブ名の一覧を、\$archIds という名前のオブジェクトに返します。

```
C:\PS> $archIds.Remove("184D...110000MW-SQL-EV-2-A")
```

一覧から「**184D...110000MW-SQL-EV-2-A**」を削除します。

```
C:\PS> $archIds.Add("162D...110000MW-SQL-EV-2-A")
```

一覧に「**162D...110000MW-SQL-EV-2-A**」を追加します。

```
C:\PS> $archType = $target.TargetArchives.ArchiveType
```

このターゲットのメッセージに許可されるアーカイブの種類に関する情報を、\$archType という名前のオブジェクトに返します。

```
C:\PS> $archType = $archType.ToString() + ", Shared"
```

アーカイブの種類「**Shared**」を追加します。

```
C:\PS> Set-EVSMTPTarget -Name marketing@example.com -PolicyId  
162D...EV1004.example.com -RetentionCategoryId  
11B6...EV1004.example.com -ArchiveType $archType -ArchiveIDs  
$archIds
```

SMTP ターゲット **marketing@example.com** の次の設定の詳細を更新します。

- ポリシー (ID の値を使用)
  - 保持カテゴリ (ID の値を使用)
  - アーカイブの一覧 (\$archIds オブジェクトを使用)
  - このターゲットのメッセージに対して許可されるアーカイブの種類 (\$archType オブジェクトを使用)
- 
- `Set-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name JohnDoe@example.com -PolicyName 'SMTP policy' -RetentionPlan "Projects Retention Plan" -ArchiveId EA7...example.com -ArchiveType SMTP`

警告: ターゲットのアーカイブは、他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられています。このアーカイブの保持設定を変更すると、一覧表示されているアーカイブの保持設定が変更されます。

```
Express Vault Store¥A1
Express Vault Store¥A2
Express Vault Store¥A3

Confirm Do you want to continue? [Y] Yes [N] No [S] Suspend [?]
Help (default is "Y"): Y
```

ポリシー、保持計画、および SMTP ターゲット「JohnDoe@example.com」のアーカイブを更新します。ターゲットのアーカイブが他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドはまずアーカイブの一覧を表示し、続行の確認メッセージを表示します。「はい (Y)」を選択すると、コマンドは「Projects Retention Plan」と呼ばれる保持計画を一覧表示したアーカイブに適用します。「N」または「S」を選択すると、コマンドは変更を適用せずに終了します。
  - `Set-EVSMTPTarget -SiteId 13E...example.com -Name JohnDoe@example.com -RetentionPlan "RtnForManagers" -Force`

保持計画「RtnForManagers」を「JohnDoe@example.com」に適用します。このターゲットのアーカイブが他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドは確認メッセージを表示することなく、これらのアーカイブの保持設定を更新します。

## 出力

`Set-EVSMTPTarget` は `Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTarget` の種類のオブジェクトを返します。このオブジェクトには、次の表に一覧表示されているプロパティが含まれています。



表 5-25 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SMTPTarget プロパティ

| 名前                  | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ArchivingEnabled    | Boolean | 現在アーカイブされている SMTP ターゲットによってメッセージが送信または受信される場合は \$true、そうでない場合は \$false。                                                                                                                                                                                                      |
| Name                | 文字列     | SMTP ターゲットのアドレス。                                                                                                                                                                                                                                                             |
| PolicyId            | 文字列     | SMTP ターゲットに関連付けされた SMTP ポリシーの ID。                                                                                                                                                                                                                                            |
| PolicyName          | 文字列     | SMTP ターゲットに関連付けされた SMTP ポリシー。                                                                                                                                                                                                                                                |
| RetentionCategory   | 文字列     | <p>Enterprise Vault が新しくアーカイブされたアイテムに割り当てる保持カテゴリの名前。</p> <p>Enterprise Vault が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画は SMTP ターゲットに関連付けされたアーカイブに適用されています。Enterprise Vault は保持計画で定義された保持カテゴリをアイテムに適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、SMTP ターゲットのプロパティで定義された保持カテゴリになります。</p> |
| RetentionCategoryId | 文字列     | <p>Enterprise Vault が新しくアーカイブされたアイテムに割り当てる保持カテゴリの ID。</p> <p>RetentionCategory と同様に、Enterprise Vault がアイテムを格納するアーカイブに保持計画が割り当てられているかどうかによって変わります。</p>                                                                                                                        |
| SiteId              | 文字列     | ターゲットが属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| TargetArchives      | オブジェクト  | <del>Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtpTargetArchiveInformation</del><br>SMTP ターゲットアドレスに関連付けられたアーカイブの一覧を提供します。TargetArchives について詳しくは、PowerShell プロンプトで get-help about_Smtptargetarchiveinformation と入力してください。                                                              |
| TargetType          | オブジェクト  | ターゲットに関連付けられている SMTP ジャーナル設定の種類。                                                                                                                                                                                                                                             |

表 5-26 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SmtpTargetArchiveInformation  
プロパティ

| 名前             | 種類     | 説明                                    |
|----------------|--------|---------------------------------------|
| ArchiveId      | 文字列    | SMTP ターゲットに関連付けされたアーカイブの ID。          |
| ArchiveName    | 文字列    | SMTP ターゲットに関連付けされたアーカイブの名前。           |
| ArchiveType    | オブジェクト | SMTP ターゲットに関連付けられているアーカイブの種類。         |
| EVServerName   | 文字列    | ボルトストアをホストする Enterprise Vault サーバー。   |
| Name           | 文字列    | SMTP ターゲットのアドレス。                      |
| VaultStoreName | 文字列    | SMTP ターゲットに使用されるアーカイブを含んでいるボルトストアの名前。 |

## 関連 cmdlet

- p.122 の「[Get-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。
- p.135 の「[New-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。
- p.144 の「[Remove-EVSMTPTarget](#)」を参照してください。

# Sync-EVSMTPServerSettings

Sync-EVSMTPServerSettings は Enterprise Vault ディレクトリにある SMTP サーバー設定と指定する SMTP サーバーの設定を同期します。サーバーを指定しない場合には、Sync-EVSMTPServerSettings は cmdlet を実行するサーバーの設定と同期します。

-Recreate \$true を使った場合は、Sync-EVSMTPServerSettings によって Enterprise Vault ディレクトリに格納されている設定を使って指定したサーバー上のすべての SMTP サーバー設定が再作成されます。

Sync-EVSMTPServerSettings は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Sync-EVSMTPServerSettings [[-Server] <String>] [[-Recreate] <Boolean>]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 5-27 Sync-EVSMTPServerSettings パラメータ

| パラメータ     | 説明                                                                             |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|
| -Server   | SMTP サーバー設定を同期または再作成する SMTP サーバーの名前。完全修飾ドメイン名としてサーバーのホスト名またはエイリアスを指定する必要があります。 |
| -Recreate | 同期するのではなく、SMTP サーバー設定の再作成を強制します。                                               |

## 例

- `Sync-EVSMTPServerSettings cmdlet` を実行するサーバーの SMTP サーバー設定を同期します。
- `Sync-EVSMTPServerSettings -Server smtp.example.com`  
`smtp.example.com` の SMTP サーバー設定を同期します。
- `Sync-EVSMTPServerSettings -Recreate $true`  
`cmdlet` を実行するサーバー上の既存の SMTP サーバー設定を削除し、Enterprise Vault ディレクトリに格納されている SMTP サーバー設定から設定を再作成します。
- `Sync-EVSMTPServerSettings -Server smtp.example.com -Recreate $true`  
`smtp.example.com` 上の既存の SMTP サーバー設定を削除し、Enterprise Vault ディレクトリに格納されている SMTP サーバー設定からその設定を再作成します。

## 出力

`Sync-EVSMTPServerSettings` は出力を返しません。

## 関連コマンドレット

- p.120 の「[Get-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.129 の「[New-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。
- p.148 の「[Set-EVSMTPServerSettings](#)」を参照してください。

# バックアップ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Clear-IndexLocationBackupMode](#)
- [Clear-VaultStoreBackupMode](#)
- [Get-IndexLocationBackupMode](#)
- [Get-VaultStoreBackupMode](#)
- [Set-IndexLocationBackupMode](#)
- [Set-VaultStoreBackupMode](#)

## Clear-IndexLocationBackupMode

`Clear-IndexLocationBackupMode` は、1 つのインデックスの場所、サーバーと関連付けられているすべてのインデックスの場所、またはサイトのすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウントを減らします。

**Enterprise Vault** は、インデックスの場所ごとのバックアップモード要求数のカウントを管理します。たとえば、環境で並行バックアップスクリプトを使用する場合、バックアップモードのカウントは 1 より大きくなります。バックアップモードは、バックアップモードのカウントが 0 に減るまでクリアされません。

`Clear-IndexLocationBackupMode` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` スナップインから利用できません。

### 構文

```
Clear-IndexLocationBackupMode [-EVServerName] <String>  
[[[-IndexRootPath] <String>] [-EVSiteName <String>]]
```

```
[-ForceClearBackupMode <Boolean>] [-SuppressConfirm]
[<CommonParameters>]

Clear-IndexLocationBackupMode [-EntryId <String>]
[-ForceClearBackupMode <Boolean>] [-SuppressConfirm]
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 6-1 Clear-IndexLocationBackupMode パラメータ

| パラメータ                 | 説明                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -EVServerName (必須)    | インデックスの場所を所有する <b>Enterprise Vault</b> サーバー。ID ではなく名前でサイトまたはインデックスの場所を指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。これにより、Clear-IndexLocationBackupMode はサイトまたはインデックスの場所の ID を見つけることができます。 |
| -IndexRootPath        | インデックスの場所のルートパス。                                                                                                                                                        |
| -EVSiteName           | のサイトの名前。                                                                                                                                                                |
| -EntryId              | インデックスの場所、サービス、サーバー、またはサイトの ID。                                                                                                                                         |
| -ForceClearBackupMode | -ForceClearBackupMode:\$true を使用して、バックアップモードを強制的にクリアします。<br>Clear-IndexLocationBackupMode は既存のバックアップモードのカウントを無視し、0 に設定します。                                              |
| -SuppressConfirm      | -SuppressConfirm を使用して、<br>-ForceClearBackupMode:\$true の使用時に確認のメッセージが表示されないようにします。このパラメータは、<br>-ForceClearBackupMode:\$true の使用時にのみ利用可能です。                             |

## 例

- Clear-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3  
サーバー **EVServer-Win2k3** と関連付けられているすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウントを減らします。
- Clear-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3  
-ForceClearBackupMode:\$true  
サーバー **EVServer-Win2k3** と関連付けられているすべてのインデックスの場所からバックアップモードを強制的にクリアします。Clear-IndexLocationBackupMode は既存のバックアップモードのカウントを無視し、0 に設定します。この例では、

Windows PowerShell は `cmdlet` を実行する前に確認のためのメッセージを表示します。

- `Clear-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3 -ForceClearBackupMode:$true -SuppressConfirm`  
サーバー `EVServer-Win2k3` と関連付けられているすべてのインデックスの場所からバックアップモードを強制的にクリアします。`Clear-IndexLocationBackupMode` は既存のバックアップモードのカウントを無視し、`0` に設定します。この例では、Windows PowerShell は `cmdlet` を実行する前に確認のためのメッセージを表示しません。
- `Clear-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3 -IndexRootPath f:¥indexing¥index0`  
インデックスの場所 `f:¥indexing¥index0` のバックアップモードのカウントを減らします。
- `Clear-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3 -EVSiteName Site1`  
`Site1` のすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウントを減らします。
- `Clear-IndexLocationBackupMode -EntryId 1F3...Domain.local`  
指定済みの ID があるオブジェクトのバックアップモードのカウントを減らします。ID はインデックスの場所、サーバー、またはサイトのものである場合があります。インデックスの場所の ID を指定すると、バックアップモードはそのインデックスの場所で減少します。  
サーバーまたはサイトの ID を指定すると、そのサーバーと関連付けられているインデックスの場所、またはサイトで減少します。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

## 関連コマンドレット

- p.169 の「[Get-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.173 の「[Set-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.166 の「[Clear-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.171 の「[Get-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.174 の「[Set-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。

# Clear-VaultStoreBackupMode

`Clear-VaultStoreBackupMode` は、1 つのボルトストア、ボルトストアグループのすべてのボルトストア、サイトのすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを減らします。

Enterprise Vault は、ボルトストアごとのバックアップモード要求数のカウントを管理します。たとえば、環境で並行バックアップスクリプトを使用する場合、バックアップモードのカウントは 1 より大きくなります。バックアップモードは、バックアップモードのカウントが 0 に減るまでクリアされません。

Clear-VaultStoreBackupMode は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できません。

## 構文

```
Clear-VaultStoreBackupMode [-Name] <String> [-EVServerName] <String>
[-EvObjectType] <EVObjectType> [-ForceClearBackupMode <Boolean>]
[-SuppressConfirm] [<CommonParameters>]
```

```
Clear-VaultStoreBackupMode -EntryId <String> [-ForceClearBackupMode
<Boolean>] [-SuppressConfirm] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 6-2 Clear-VaultStoreBackupMode パラメータ

| パラメータ                 | 説明                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -Name (必須)            | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの名前。                                                                                                                                                                   |
| -EVServerName (必須)    | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを所有する Enterprise Vault サーバー。ID ではなく名前でボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。これにより、Clear-VaultStoreBackupMode はボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの ID を見つけることができます。 |
| -EvObjectType (必須)    | Name パラメータによって渡されるオブジェクトの種類。有効な値は、VaultStore、VaultStoreGroup、Site です。ID ではなく名前でボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。                                                            |
| -EntryId (必須)         | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの ID。                                                                                                                                                                  |
| -ForceClearBackupMode | -ForceClearBackupMode:\$true を使用して、バックアップモードを強制的にクリアします。<br>Clear-VaultStoreBackupMode は既存のバックアップモードのカウントを無視し、0 に設定します。                                                                        |

| パラメータ            | 説明                                                                                                                                          |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SuppressConfirm | -SuppressConfirm を使用して、<br>-ForceClearBackupMode:\$true の使用時に確認のメッセージが表示されないようにします。このパラメータは、<br>-ForceClearBackupMode:\$true の使用時にのみ利用可能です。 |

## 例

- `Clear-VaultStoreBackupMode VS1 EVServer-Win2k3 VaultStore`  
ボルトストア **VS1** のバックアップモードのカウントを減らします。
- `Clear-VaultStoreBackupMode VS1 EVServer-Win2k3 VaultStore -ForceClearBackupMode:$true`  
ボルトストア **VS1** からバックアップモードを強制的にクリアします。  
**Clear-VaultStoreBackupMode** は既存のバックアップモードのカウントを無視し、**0** に設定します。この例では、**Windows PowerShell** は **cmdlet** を実行する前に確認のためのメッセージを表示します。
- `Clear-VaultStoreBackupMode VS1 EVServer-Win2k3 VaultStore -ForceClearBackupMode:$true -SuppressConfirm`  
ボルトストア **VS1** からバックアップモードを強制的にクリアします。  
**Clear-VaultStoreBackupMode** は既存のバックアップモードのカウントを無視し、**0** に設定します。この例では、**Windows PowerShell** は **cmdlet** を実行する前に確認のためのメッセージを表示しません。
- `Clear-VaultStoreBackupMode VSG1 EVServer-Win2k3 VaultStoreGroup`  
ボルトストアグループ **VSG1** のすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを減らします。
- `Clear-VaultStoreBackupMode Site1 EVServer-Win2k3 Site`  
**Site1** のすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを減らします。
- `Clear-VaultStoreBackupMode -EntryId 1F3...Domain.local`  
指定済みの **ID** があるオブジェクトのバックアップモードのカウントを減らします。**ID** はボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトのものである場合があります。  
ボルトストアの **ID** を指定すると、バックアップモードのカウントがそのボルトストアで減少します。  
ボルトストアグループまたはサイトの **ID** を指定すると、バックアップモードカウントはグループまたはサイトに属するボルトストアで減少します。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。



## 関連コマンドレット

- p.164 の「[Clear-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.169 の「[Get-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.173 の「[Set-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.171 の「[Get-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.174 の「[Set-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。

# Get-IndexLocationBackupMode

Get-IndexLocationBackupMode は、1 つのインデックスの場所、サーバーと関連付けられているすべてのインデックスの場所、またはサイトのすべてのインデックスの場所における現在のバックアップモード設定を報告します。

Get-IndexLocationBackupMode は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できません。

## 構文

```
Get-IndexLocationBackupMode [-EVServerName] <String> [[-IndexRootPath] <String>] [-EVSiteName <String>] [<CommonParameters>]
```

```
Get-IndexLocationBackupMode [-EntryId <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 6-3 Get-IndexLocationBackupMode パラメータ

| パラメータ              | 説明                                                                                                                                                             |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -EVServerName (必須) | インデックスの場所を所有する Enterprise Vault サーバー。ID ではなく名前でサイトまたはインデックスの場所を指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。これにより、Get-IndexLocationBackupMode はサイトまたはインデックスの場所の ID を見つけることができます。 |
| -IndexRootPath     | インデックスの場所のルートパス。                                                                                                                                               |
| -EVSiteName        | のサイトの名前。                                                                                                                                                       |
| -EntryId           | インデックスの場所、サービス、サーバー、またはサイトの ID。                                                                                                                                |

## 例

- `Get-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3`

サーバー **EVServer-Win2k3** と関連付けられているすべてのインデックスの場所の現在のバックアップモード設定を報告します。

- `Get-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3 -IndexRootPath f:¥indexing¥index0`  
インデックスの場所 `f:¥indexing¥index0` の現在のバックアップモード設定を報告します。
- `Get-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3 -EVSiteName Site1 Site1`  
**Site1** のすべてのインデックスの場所の現在バックアップモード設定を報告します。
- `Get-IndexLocationBackupMode -EntryId 1F3...Domain.local`  
指定済みの ID があるオブジェクトの現在のバックアップモード設定を報告します。ID はインデックスの場所、サービス、サーバー、サイトのものである場合があります。インデックスの場所の ID を指定すると、そのインデックスの場所の現在のバックアップモード設定が報告されます。  
サービス、サーバーまたはサイトの ID を指定すると、サーバーまたはサイトと関連付けられているインデックスの場所の現在のバックアップモード設定が報告されます。

## 出力

表 6-4 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 6-4 Get-IndexLocationBackupMode プロパティ

| 名前                | 種類      | 説明                                                                                                          |
|-------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| BackupMode        | Boolean | インデックスの場所がバックアップモードであるかどうかを示します。設定可能な値: \$true (インデックスの場所がバックアップモードです)、\$false (インデックスの場所がバックアップモードではありません) |
| IndexingServiceId | 文字列     | IndexingServiceId。                                                                                          |
| IndexRootPath     | 文字列     | IndexRootPath。                                                                                              |
| IndexRootPathId   | 文字列     | IndexRootPathId。                                                                                            |

## 関連コマンドレット

- p.164 の「[Clear-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.173 の「[Set-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.166 の「[Clear-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.171 の「[Get-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.174 の「[Set-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。

# Get-VaultStoreBackupMode

Get-VaultStoreBackupMode は、1 つのボルトストア、ボルトストアグループのすべてのボルトストア、サイトのすべてのボルトストアにおける現在のバックアップモード設定を報告します。

Get-VaultStoreBackupMode は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-VaultStoreBackupMode [-Name] <String> [-EVServerName] <String>
[-EvObjectType] <EVOBJECTTYPE> [<CommonParameters>]

Get-VaultStoreBackupMode -EntryId <String> [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 6-5 Get-VaultStoreBackupMode パラメータ

| パラメータ              | 説明                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -Name (必須)         | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの名前。                                                                                                                                                                         |
| -EVServerName (必須) | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを所有する Enterprise Vault サーバー。<br><br>ID ではなく名前でボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。これにより、Get-VaultStoreBackupMode はボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの ID を見つけることができます。 |
| -EvObjectType (必須) | Name パラメータによって渡されるオブジェクトの種類。有効な値は、VaultStore、VaultStoreGroup、Site です。<br><br>ID ではなく名前でボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。                                                          |
| -EntryId (必須)      | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの ID。                                                                                                                                                                        |

## 例

- Get-VaultStoreBackupMode VS1 EVServer-Win2k3 VaultStore  
ボルトストア **VS1** の現在のバックアップモード設定を報告します。
- Get-VaultStoreBackupMode VSG1 EVServer-Win2k3 VaultStoreGroup  
ボルトストアグループ **VSG1** のすべてのボルトストアの現在のバックアップモード設定を報告します。

- `Get-VaultStoreBackupMode Site1 EVServer-Win2k3 Site`  
**Site1** のすべてのボルトストアの現在のバックアップモード設定を報告します。
- `Get-VaultStoreBackupMode -EntryId 1F3...Domain.local`  
指定済みの **ID** があるオブジェクトの現在のバックアップモード設定を報告します。  
**ID** はボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトのものである場合があります。  
ボルトストアの場所の **ID** を指定すると、そのボルトストアの現在のバックアップモード設定が報告されます。  
ボルトストアグループまたはサイトの **ID** を指定すると、グループまたはサイトに属するボルトストアの現在のバックアップモード設定が報告されます。
- `Get-VaultStoreBackupMode -EVServerName EVServer-Win2k3 -EVObjectType VaultStore -Name VS1`  
ボルトストア **VS1** の現在のバックアップモード設定を報告します。  
この例では、パラメータはデフォルトの順序ではないため、名前を付ける必要があります。

出力

表 6-6 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 6-6 Get-VaultStoreBackupMode プロパティ

| 名前                | 種類      | 説明                                                                                                                            |
|-------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| BackupMode        | Boolean | ボルトストアがバックアップモードであるかどうかを示します。設定可能な値: <code>\$true</code> (ボルトストアはバックアップモードです)、 <code>\$false</code> (ボルトストアはバックアップモードではありません) |
| VaultStoreEntryId | 文字列     | <b>VaultStoreEntryId</b> 。                                                                                                    |
| VaultStoreName    | 文字列     | ボルトストアの名前。                                                                                                                    |

関連コマンドレット

- p.164 の「[Clear-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.169 の「[Get-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.173 の「[Set-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.166 の「[Clear-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.174 の「[Set-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。

# Set-IndexLocationBackupMode

Set-IndexLocationBackupMode は、1 つのインデックスの場所、サーバーと関連付けられているすべてのインデックスの場所、またはサイトのすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウントを増やします。

Enterprise Vault は、インデックスの場所ごとのバックアップモード要求数のカウントを管理します。たとえば、環境で並行バックアップスクリプトを使用する場合、バックアップモードのカウントは 1 より大きくなります。バックアップモードは、バックアップモードのカウントが 0 に減るまでクリアされません。

Set-IndexLocationBackupMode は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できません。

## 構文

```
Set-IndexLocationBackupMode [-EVServerName] <String> [[-IndexRootPath] <String>] [-EVSiteName <String>] [<CommonParameters>]
```

```
Set-IndexLocationBackupMode [-EntryId <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 6-7 Set-IndexLocationBackupMode パラメータ

| パラメータ              | 説明                                                                                                                                                             |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -EVServerName (必須) | インデックスの場所を所有する Enterprise Vault サーバー。ID ではなく名前でサイトまたはインデックスの場所を指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。これにより、Set-IndexLocationBackupMode はサイトまたはインデックスの場所の ID を見つけることができます。 |
| -IndexRootPath     | インデックスの場所のルートパス。                                                                                                                                               |
| -EVSiteName        | サイトの名前。                                                                                                                                                        |
| -EntryId           | インデックスの場所、サービス、サーバー、またはサイトの ID。                                                                                                                                |

## 例

- Set-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3  
サーバー EVServer-Win2k3 と関連付けられているすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウントを増やします。
- Set-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3 -IndexRootPath f:¥indexing¥index0

インデックスの場所 `f:\indexing\index0` のバックアップモードのカウントを増やします。

- `Set-IndexLocationBackupMode EVServer-Win2k3 -EVSiteName Site1`  
**Site1** のすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウントを増やします。
- `Set-IndexLocationBackupMode -EntryId 1f3...Domain.local`  
指定済みの ID があるオブジェクトのバックアップモードのカウントを増やします。ID はインデックスの場所、サーバー、またはサイトのものである場合があります。インデックスの場所の ID を指定すると、バックアップモードのカウントはそのインデックスの場所で増加します。  
サーバーまたはサイトの ID を指定すると、サーバーと関連付けられているインデックスの場所、またはサイトでバックアップモードのカウントが増加します。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

## 関連コマンドレット

- p.164 の「[Clear-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.169 の「[Get-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.166 の「[Clear-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.171 の「[Get-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.174 の「[Set-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。

# Set-VaultStoreBackupMode

`Set-VaultStoreBackupMode` は、1 つのボルトストア、ボルトストアグループのすべてのボルトストア、サイトのすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを増やします。

**Enterprise Vault** は、ボルトストアごとのバックアップモード要求数のカウントを管理します。たとえば、環境で並行バックアップスクリプトを使用する場合、バックアップモードのカウントは 1 より大きくなります。バックアップモードは、バックアップモードのカウントが 0 に減るまでクリアされません。

`Set-VaultStoreBackupMode` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` スナップインから利用できません。

## 構文

```
Set-VaultStoreBackupMode [-Name] <String> [-EVServerName] <String>  
[-EvObjectType] <EVObjectType> [<CommonParameters>]
```

Set-VaultStoreBackupMode -EntryId <String> [<CommonParameters>]

パラメータ

表 6-8 Set-VaultStoreBackupMode パラメータ

| パラメータ              | 説明                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -Name (必須)         | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの名前。                                                                                                                                                                                |
| -EVServerName (必須) | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを所有する <b>Enterprise Vault</b> サーバー。<br><br>ID ではなく名前でボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。これにより、Set-VaultStoreBackupMode はボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの ID を見つけることができます。 |
| -EvObjectType (必須) | Name パラメータによって渡されるオブジェクトの種類。有効な値は、VaultStore、VaultStoreGroup、Site です。<br><br>ID ではなく名前でボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトを指定する場合、このパラメータを指定する必要があります。                                                                 |
| -EntryId (必須)      | ボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトの ID。                                                                                                                                                                               |

例

- Set-VaultStoreBackupMode VS1 EVServer-Win2k3 VaultStore  
ボルトストア **VS1** のバックアップモードのカウントを増やします。
- Set-VaultStoreBackupMode VSG1 EVServer-Win2k3 VaultStoreGroup  
ボルトストアグループ **VSG1** のすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを増やします。
- Set-VaultStoreBackupMode Site1 EVServer-Win2k3 Site  
**Site1** のすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを増やします。
- Set-VaultStoreBackupMode -EntryId 1F3...Domain.local  
指定済みの ID があるオブジェクトのバックアップモードのカウントを増やします。ID はボルトストア、ボルトストアグループ、またはサイトのものである場合があります。ボルトストアの ID を指定すると、バックアップモードカウントはそのボルトストアで増加します。  
  
ボルトストアグループまたはサイトの ID を指定すると、バックアップモードのカウントはそのグループまたはサイトに属するボルトストアで増加します。
- Set-VaultStoreBackupMode -EVServerName EVServer-Win2k3  
-EvObjectType VaultStore -Name VS1

ボルトストア **VS1** のバックアップモードのカウントを増やします。  
この例では、パラメータはデフォルトの順序ではないため、名前を付ける必要があります。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

## 関連コマンドレット

- p.164 の「[Clear-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.169 の「[Get-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.173 の「[Set-IndexLocationBackupMode](#)」を参照してください。
- p.166 の「[Clear-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。
- p.171 の「[Get-VaultStoreBackupMode](#)」を参照してください。



# 分類

この章では以下の項目について説明しています。

- [Disable-EVClassification](#)
- [Get-EVClassificationFCITags](#)
- [Get-EVClassificationPolicy](#)
- [Get-EVClassificationStatus](#)
- [Get-EVClassificationTestMode](#)
- [Get-EVClassificationVICTags](#)
- [Import-EVClassificationFCIRules](#)
- [Initialize-EVClassificationVIC](#)
- [New-EVClassificationPolicy](#)
- [Publish-EVClassificationFCIRules](#)
- [Remove-EVClassificationPolicy](#)
- [Set-EVClassificationPolicy](#)
- [Set-EVClassificationTestMode](#)

## Disable-EVClassification

`Disable-EVClassification` は、ファイル分類インフラストラクチャエンジンまたは **Veritas Information Classifier** エンジンを実効にします。この cmdlet で両方のエンジンを無効にすることはできません。Enterprise Vault サーバーで cmdlet を実行します。

分類エンジンを一度無効にし、あとで再び有効にする場合は、次のいずれかの cmdlet を使用して行うことができます。

- ファイル分類インフラストラクチャエンジンの場合は、`Import-EVClassificationFCIRules` または `Publish-EVClassificationFCIRules` を使用します。
- **Veritas Information Classifier** エンジンの場合は、`Initialize-EVClassificationVIC` を使用します。

`Disable-EVClassification` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` スナップインから利用できます。

## 構文

```
Disable-EVClassification [-FCI <SwitchParameter>] [-VIC  
<SwitchParameter>] [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 7-1 Disable-EVClassification のパラメータ

| パラメータ   | 説明                                                                                                                                                                                                 |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -FCI    | ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類を無効にします。                                                                                                                                                                |
| -VIC    | <b>Veritas Information Classifier</b> を使用する分類を無効にします。                                                                                                                                              |
| -SiteId | 指定した分類エンジンを無効にする <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID です。このパラメータを省略すると <code>Disable-EVClassification</code> は現在のサイトの ID を判別するためにレジストリを確認します。<br><br><code>Get-EVSite</code> を使用して、サイト ID を取得することができます。 |

## 例

- `Disable-EVClassification -FCI`  
ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類を無効にします。サイト ID を指定しないと、`cmdlet` はレジストリを確認して現在のサイトの ID を判別します。
- `Disable-EVClassification -VIC -SiteId 198...example.com`  
**Veritas Information Classifier** を使用する分類を、指定した **Enterprise Vault** サイト内で無効にします。

## 出力

この `cmdlet` は、次のプロパティを持つ

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationEngine` タイプのオブジェクトを返します。

表 7-2 Disable-EVClassification のプロパティ

| 名前              | 種類      | 説明                                                                                    |
|-----------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| SiteName        | 文字列     | 分類エンジンを無効にした Enterprise Vault サイトの名前です。                                               |
| FCIEnabled      | Boolean | ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。                                              |
| VICEnabled      | Boolean | Veritas Information Classifier エンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。                               |
| VICPoliciesPath | 文字列     | Veritas Information Classifier エンジンがポリシー情報を保持するフォルダのパスです。このエンジンを無効にした場合、このパスは空白になります。 |

# Get-EVClassificationFCITags

**メモ:** この cmdlet は、Enterprise Vault 12 で導入された分類機能でのみ使用します。この機能では、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用してアーカイブ済みコンテンツを分類します。この cmdlet は、以降の Veritas Information Classifier の分類方法で使用するようには設計されていません。

分類キャッシュフォルダ内の指定したプレーンテキスト (.txt) ファイルについて、Get-EVClassificationFCITags は、Enterprise Vault がファイルのタグ付けに使用した分類プロパティの詳細とプロパティ値を返します。

デフォルトでは、Enterprise Vault ができるだけ早い段階でキャッシュフォルダを空にします。ただし、管理コンソールで設定を選択することによって、キャッシュの内容を保持するように設定できます。

Get-EVClassificationFCITags は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

## 構文

Get-EVClassificationFCITags [-File] <String>

## パラメータ

表 7-3 Get-EVClassificationFCITags パラメータ

| パラメータ      | 説明                                                                            |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| -File (必須) | 分類の詳細を返すプレーンテキストファイルのパス。.txt ファイルのみが対象です。ドル記号 (\$) を含むファイル名は、一重引用符 (') で囲みます。 |

## 例

- `Get-EVClassificationFCITags -File`  
`E:¥EVCache¥Classification¥ClassificationFile.txt`  
`ClassificationFile.txt` ファイルの分類の詳細を返します。
- `Get-EVClassificationFCITags -File`  
`'E:¥EVCache¥Classification¥EV$9...EDB8.txt'`  
ファイル名にドル記号を含むファイルの分類の詳細を返します。そのため、完全パスを一重引用符で囲みます。

## 出力

この **cmdlet** は、以下のプロパティが設定された `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationProperty` 型のオブジェクトの配列を返します。

表 7-4 Get-EVClassificationFCITags プロパティ

| 名前                               | 種類   | 説明                                    |
|----------------------------------|------|---------------------------------------|
| <code>PolicyName</code>          | 文字列  | 一致する分類ルールまたはポリシー。                     |
| <code>Category</code>            | 文字列  | 一致する <code>evtag.category</code> の値。  |
| <code>Inclusion</code>           | 文字列  | 一致する <code>evtag.inclusion</code> の値。 |
| <code>Exclusion</code>           | 文字列  | 一致する <code>evtag.exclusion</code> の値。 |
| <code>Discard</code>             | ブール値 | アイテムが破棄されるかどうか。                       |
| <code>RetentionCategories</code> | 文字列  | 一致する保持カテゴリ。                           |

# Get-EVClassificationPolicy

`Get-EVClassificationPolicy` は、サイトで設定されるすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。`-Name` パラメータを使うと、特定の分類ポリシーのプロパティを返すこともできます。

Get-EVClassificationPolicy は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Get-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [[-Name] <String>]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 7-5 Get-EVClassificationPolicy パラメータ

| パラメータ   | 説明                                                                                                                                                                                                |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId | Enterprise Vault 分類ポリシーの詳細を返す対象サイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet でレジストリ内を検索して ID を特定できないときは、Get-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。<br><br>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |
| -Name   | プロパティを返す特定の Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。                                                                                                                                                           |

## 例

- Get-EVClassificationPolicy  
Enterprise Vault サイトで設定されているすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。サイト ID が指定されていないため、cmdlet はまずその ID をレジストリ内で検索し、ID が見つからなかった場合は、それを入力するためのメッセージが表示されます。
- Get-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com  
指定された Enterprise Vault サイトで設定されているすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。
- Get-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy"  
「Classification policy」という名前の Enterprise Vault 分類ポリシーのプロパティを返します。次に例を示します。

```
Name                : Classification policy  
EntryId             : 125...EV.example.com  
IsADefaultPolicy    : True  
DuringArchivingIndexing : True  
DetermineRC         : True  
RCDuringDeletion    : True  
RCDuringExpiry      : True  
PreventRCDuringMove : True
```

```
AllowRConRecTypeChange : True
Description              : Classification policy
SiteId                  : 13E...EV.example.com
```

## 出力

この cmdlet は、次のプロパティを持つタイプ

Symantec.EnterpriseVault.Admin.ClassificationPolicy のオブジェクトを返します。

表 7-6 Get-EVClassificationPolicy プロパティ

| 名前                      | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Name                    | 文字列     | Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。                                                                                                                                                                                                                     |
| EntryId                 | 文字列     | Enterprise Vault 分類ポリシーのディレクトリエントリ ID。                                                                                                                                                                                                          |
| IsADefaultPolicy        | Boolean | Enterprise Vault 分類ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。                                                                                                                                                                                                      |
| DuringArchivingIndexing | ブール値    | アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテムを分類するかどうか。                                                                                                                                                                                                               |
| DetermineRC             | Boolean | 保持カテゴリを判別するために分類を使うかどうか。                                                                                                                                                                                                                        |
| RCDuringDeletion        | Boolean | ユーザーによる削除時にアイテムが分類されるかどうか。                                                                                                                                                                                                                      |
| RCDuringExpiry          | Boolean | 自動期限切れ時にアイテムが分類されるかどうか。                                                                                                                                                                                                                         |
| PreventRCDuringMove     | Boolean | ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときに、これらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうか。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があります。 |

| 名前                     | 種類      | 説明                                                                                |
|------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| AllowRConRecTypeChange | Boolean | アイテムのレコードタイプが変更される場合に (Temporary から Permanent への変更など) 保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可するかどうか。 |
| Description            | 文字列     | Enterprise Vault 分類ポリシーの説明。                                                       |
| SiteId                 | 文字列     | Enterprise Vault 分類ポリシーが属するサイト ID。                                                |
| Identity               | 番号      | Enterprise Vault 分類ポリシーの ID 番号。                                                   |

## 関連 cmdlet

- p.192 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.200 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.201 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

# Get-EVClassificationStatus

Get-EVClassificationStatus は、すべてのサイトのファイル分類インフラストラクチャエンジンおよび Veritas Information Classifier エンジンの現在の状態を示します。  
-SiteId パラメータを使用して特定のサイトのエンジンの状態を示すこともできます。

Get-EVClassificationStatus は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVClassificationStatus [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 7-7 Get-EVClassificationStatus のパラメータ

| パラメータ   | 説明                                                                                           |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId | 両方の分類エンジンの現在の状態を示す Enterprise Vault サイトの ID です。<br><br>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |

例

- `Get-EVClassificationStatus`  
すべての **Enterprise Vault** サイト内の両方の分類エンジンの現在の状態を示します。
- `Get-EVClassificationStatus -SiteId 13E...EV.example.com`  
指定したサイト内の両方の分類エンジンの現在の状態を示します。

出力

この `cmdlet` は、以下のプロパティが設定された `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationEngine` 型のオブジェクトの配列を返します。

表 7-8                      Get-EVClassificationStatus のプロパティ

| 名前              | 種類      | 説明                                                                                           |
|-----------------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| SiteName        | 文字列     | 分類エンジンの状態を示す <b>Enterprise Vault</b> サイトの名前です。                                               |
| FCIEnabled      | Boolean | ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。                                                     |
| VICEnabled      | Boolean | <b>Veritas Information Classifier</b> エンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。                               |
| VICPoliciesPath | 文字列     | <b>Veritas Information Classifier</b> エンジンがポリシー情報を保持するフォルダのパスです。このエンジンを無効にした場合、このパスは空白になります。 |

Get-EVClassificationTestMode

`Get-EVClassificationTestMode` は、処理対象アーカイブにおいてテストモードで **Enterprise Vault** 分類機能が動作しているかどうかを報告します。テストモードでは、分類機能は、アーカイブのアイテムに分類タグやその他の変更を適用するのではなく、計画している変更を一覧表示するレポートを生成します。

`Get-EVClassificationTestMode` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` によって提供されます。

構文

`Get-EVClassificationTestMode [-ArchiveID] <string>`



## パラメータ

表 7-9 Get-EVClassificationTestMode パラメータ

| パラメータ           | 説明                                      |
|-----------------|-----------------------------------------|
| -ArchiveID (必須) | 分類のテストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの ID を指定します。 |

## 例

- `Get-EVClassificationTestMode -ArchiveID 19D...EVServer1`  
指定したアーカイブについて分類のテストモードの現在の状態を取得します。

## 出力

表 7-10 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 7-10 Get-EVClassificationTestMode プロパティ

| 名前          | 種類      | 説明                                                      |
|-------------|---------|---------------------------------------------------------|
| ArchiveID   | 文字列     | テストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの ID。                           |
| ArchiveName | 文字列     | テストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの名前。                            |
| TestMode    | Boolean | アーカイブについての分類のテストモードの現在の状態: 有効 (\$true) または無効 (\$false)。 |

## 関連コマンドレット

- p.204 の「[Set-EVClassificationTestMode](#)」を参照してください。

# Get-EVClassificationVICTags

**メモ:** この cmdlet は、Enterprise Vault 12.2 以降で Veritas Information Classifier とともにのみ使用します。Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用した分類など、以前のバージョンの Enterprise Vault の分類機能とともに使用することは想定していません。

分類キャッシュフォルダ内で指定したプレーンテキスト (.txt) ファイルのペアに対し、Get-EVClassificationVICTags は一致する Veritas Information Classifier ポリシーと関連する分類プロパティの詳細を返します。Enterprise Vault サーバーで cmdlet を実行します。

デフォルトでは、Enterprise Vault ができるだけ早い段階でキャッシュフォルダを空にします。ただし、管理コンソールで設定を選択することによって、キャッシュの内容を保持するように設定できます。

Get-EVClassificationVICTags は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVClassificationVICTags [-ContentFile] <String> [-MetadataFile]
<String> [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 7-11 Get-EVClassificationVICTags のパラメータ

| パラメータ                 | 説明                                                                                                  |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -ContentFile<br>(必須)  | 分類の詳細を返すプレーンテキストのコンテンツファイルへのパス (通常はテキストファイルで、ファイル名の末尾がVC.txt)。ドル記号 (\$) を含むファイル名は、一重引用符 (') で囲みます。  |
| -MetadataFile<br>(必須) | 分類の詳細を返すプレーンテキストのメタデータファイルへのパス (通常はテキストファイルで、ファイル名の末尾がVMD.txt)。ドル記号 (\$) を含むファイル名は、一重引用符 (') で囲みます。 |

## 例

- Get-EVClassificationVICTags -ContentFile  
'E:¥EVCACHE¥CLASSIFICATION¥EV\$9...B8VC.txt' -MetadataFile  
'E:¥EVCACHE¥CLASSIFICATION¥EV\$9...8VMD.txt'  
指定したプレーンテキストファイルについて分類の詳細を返します。

## 出力

この cmdlet は、以下のプロパティが設定された Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationProperty 型のオブジェクトの配列を返します。

表 7-12 Get-EVClassificationVICTags のプロパティ

| 名前         | 種類  | 説明                                        |
|------------|-----|-------------------------------------------|
| PolicyName | 文字列 | 一致する Veritas Information Classifier ポリシー。 |
| Category   | 文字列 | 一致する evtag.category の値。                   |
| Inclusion  | 文字列 | 一致する evtag.inclusion の値。                  |

| 名前                  | 種類   | 説明                                    |
|---------------------|------|---------------------------------------|
| Exclusion           | 文字列  | 一致する <code>evtag.exclusion</code> の値。 |
| Discard             | ブール値 | アイテムが破棄されるかどうか。                       |
| RetentionCategories | 文字列  | 一致する保持カテゴリ。                           |

## Import-EVClassificationFCIRules

**メモ:** この cmdlet は、Enterprise Vault 12 で導入された分類機能でのみ使用します。この機能では、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用してアーカイブ済みコンテンツを分類します。この cmdlet は、以降の Veritas Information Classifier の分類方法で使用するようには設計されていません。

Import-EVClassificationFCIRules は、ファイルから Enterprise Vault のすべての分類プロパティとルールをターゲットサーバーにインポートします。この処理を実行する前に、cmdlet はこれらのサーバーから既存のプロパティとルールを消去します。

この cmdlet は Publish-EVClassificationFCIRules cmdlet と似たような機能を実行します。2 つの違いは、Publish-EVClassificationFCIRules が分類プロパティとルールをターゲットサーバーに公開する前に XML ファイルにエクスポートするのに対して、Import-EVClassificationFCIRules は既存の XML ファイルを使って操作のインポート部分のみを実行することです。

次の点に注意してください。

- この cmdlet を実行するには、cmdlet を実行するサーバーとすべてのターゲットサーバーの両方でシステム管理者ロールが必要です。
- この cmdlet を実行するサーバーに Microsoft Data Classification Toolkit をインストールします。このツールキットは次の Web ページからダウンロードできます。  
<http://www.microsoft.com/download/details.aspx?id=27123>
- この cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行しない場合は、-SiteId パラメータまたは -Servers パラメータのいずれかを指定する必要があります。cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行し、これらのパラメータを省略する場合は、この cmdlet は現在のサーバーのサイトを使って、サイトのその他すべての Enterprise Vault サーバーに対する公開を行います。
- クラスタ構成 (Windows Server Failover Clustering または Veritas Cluster Server) では、分類プロパティとルールをいずれかのクラスタノードにインポートすると、その他のすべてのノードも更新されます。したがって、別のノードへのフェールオーバー後、以前と同じルールを使って分類が継続されます。

- Enterprise Vault ビルディングブロック環境では、この cmdlet は現在 Enterprise Vault のタスクとサービスをホストしているサーバーのみにインポートします。
- この cmdlet は各ターゲットサーバー上の Enterprise Vault ストレージサービスを停止し、分類プロパティとルールをインポートした後にそのサービスを再起動します。

**メモ:** 分類プロパティとルールを公開するその他の方法では、ストレージサービスが自動的に停止/再起動されないため、分類エラーが発生する場合があります。たとえば、Microsoft Data Classification Toolkit に付属する PowerShell cmdlet を使う場合がこれに該当します。したがって、分類プロパティとルールを公開する場合は、Import-EVClassificationFCIRules (または Publish-EVClassificationFCIRules) を使うことを強くお勧めします。

Import-EVClassificationFCIRules は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

構文

```
Import-EVClassificationFCIRules [-ImportRulesFile <String>] [-SiteId <String>] [-Servers <String>] [-TimeoutSecs <Integer>] [-Confirm <Boolean>]
```

パラメータ

表 7-13 Import-EVClassificationFCIRules パラメータ

| パラメータ                 | 説明                                                                                                                                                                                |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -ImportRulesFile (必須) | cmdlet が分類プロパティとルールをインポートする元のファイルを指定します。このファイルには .xml ファイル名拡張子が付いている必要があります。                                                                                                      |
| -SiteId               | 分類プロパティとルールの公開先のサイトを識別します。<br><br>このパラメータを設定する場合は、同時に -Servers パラメータを設定できません。                                                                                                     |
| -Servers              | 分類プロパティとルールのセットを受信するサーバーを指定します。各サーバーの NETBIOS 名、IP アドレス、完全修飾ドメイン名をカンマ区切りリストで入力します。ローカルコンピュータを指定するには、コンピュータ名 "localhost" を入力します。<br><br>このパラメータを設定する場合は、同時に -SiteId パラメータを設定できません。 |

| パラメータ        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -TimeoutSecs | この <b>cmdlet</b> が各ターゲットサーバーで <b>Enterprise Vault</b> ストレージサービスを停止または開始するときのタイムアウト値を秒単位で設定します。デフォルトは <b>300</b> 秒です。<br><br><b>メモ:</b> この <b>cmdlet</b> が指定した期間内にサービスを再起動できない場合は、失敗したサーバーで分類ルールとストレージサービスの状態を確認します。この <b>cmdlet</b> によって既存のルールが消去されて、新しいルールがインポートされない場合は、サーバーでは分類ルールが欠落したままになります。 |
| -Confirm     | \$true (デフォルト値) に設定すると、この <b>cmdlet</b> で分類プロパティとルールをインポートする前に確認を求めるメッセージが表示されます。<br>\$false に設定すると確認メッセージは表示されません。                                                                                                                                                                               |

## 例

- Import-EVClassificationFCIRules -ImportRulesFile  
c:¥Data¥RulesFile.xml  
指定したファイルにある分類プロパティとルールを、現在のサイト (すなわち、この **cmdlet** を実行するサーバーと同じサイト) にあるすべての **Enterprise Vault** サーバーにインポートします。
- Import-EVClassificationFCIRules -ImportRulesFile  
c:¥Data¥RulesFile.xml -SiteId 13E...EV.example.com  
指定したファイルにある分類プロパティとルールを、指定したサイトに存在するすべての **Enterprise Vault** サーバーにインポートします。
- Import-EVClassificationFCIRules -ImportRulesFile  
c:¥Data¥RulesFile.xml -Servers SERVER1,SERVER2.ABC.DEF.COM  
指定したファイルにあるすべての分類プロパティとルールを指定したすべてのサーバーにインポートします。

## 出力

この **cmdlet** は、以下のデフォルトプロパティが設定された `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ServerInfo` 型のオブジェクトを返します。

表 7-14 Import-EVClassificationFCIRules プロパティ

| 名前         | 種類  | 説明                                      |
|------------|-----|-----------------------------------------|
| ServerName | 文字列 | <b>Enterprise Vault</b> サーバーの名前。        |
| ServerFQDN | 文字列 | <b>Enterprise Vault</b> サーバーの完全修飾ドメイン名。 |

| 名前           | 種類  | 説明                                           |
|--------------|-----|----------------------------------------------|
| Result       | 文字列 | インポートの結果 (Succeeded/Failed/DuplicateServer)。 |
| ErrorMessage | 文字列 | サーバーへのインポートが成功しなかった場合は、エラーの原因。               |

## 関連 cmdlet

- p.196 の「[Publish-EVClassificationFCIRules](#)」を参照してください。

# Initialize-EVClassificationVIC

**メモ:** この cmdlet は、Enterprise Vault 12.2 以降で Veritas Information Classifier とともにのみ使用します。Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用した分類など、以前のバージョンの Enterprise Vault の分類機能とともに使用することは想定していません。

Initialize-EVClassificationVIC は、指定したサイトのすべての Enterprise Vault サーバーで Veritas Information Classifier を有効にします。また、これらのサーバーそれぞれに、cmdlet で Microsoft インターネットインフォメーションサービス (IIS) の Veritas Information Classifier の Web サイトを設定します。

Initialize-EVClassificationVIC を実行する権限は、Vault サービスアカウントに制限されます。たとえば、スタンドアロンの Vault 管理コンソールをインストールしている別のコンピュータではなく、Enterprise Vault サーバーでこの cmdlet を実行します。

初めて cmdlet を実行する場合は、まず次の操作を行います。

- Vault 管理コンソールの Enterprise Vault ディレクトリのプロパティで、データアクセスアカウントを設定します。Enterprise Vault は、このアカウントを使用して Veritas Information Classifier システムにアクセスします。
- すべての Enterprise Vault サーバーからアクセス可能な共有ネットワークドライブで、Veritas Information Classifier でポリシー情報を保持するフォルダを作成します。ポルトサービスアカウントとデータアクセスアカウントの両方に、このフォルダの読み取り/書き込みアクセス権が必要です。
- Enterprise Vault の自己署名 SSL 証明書が IIS にインストールされている場合は、信頼できる認証局から取得した証明書にできるだけ早く置換してください。そうしないと、この cmdlet が動作しない可能性があります。

cmdlet を実行したら、次の操作を行うことを推奨します。

- IIS にインストールした SSL 証明書を、Enterprise Vault のインストールフォルダにある Java Runtime Environment (JRE) キースタアにインポートします (まだインポートしていない場合)。
- Veritas Information Classifier ポリシーを少なくとも 1 つ有効にします。
- ポリシー情報フォルダを定期的にバックアップします。システムエラーが発生した場合は、作成したカスタムポリシーや、カスタムポリシーの有効化/無効化など、組み込みポリシーに加えた変更を元に戻すことができます。

Initialize-EVClassificationVIC は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

Initialize-EVClassificationVIC [-PoliciesPath <String>] [-SiteId <String>] [  
<CommonParameters>]

パラメータ

表 7-15 Initialize-EVClassificationVIC パラメータ

| パラメータ         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -PoliciesPath | <p>Veritas Information Classifier でポリシー情報を保持するフォルダの UNC パスを指定します。フォルダが作成されている必要があります。この cmdlet では作成されません。</p> <p>Initialize-EVClassificationVIC を初めて実行するときに、このパラメータを必ず指定します。以降の実行時に、以前に指定したフォルダパスを cmdlet で使用する場合はこのパラメータを省略できます。</p> <p>または、パラメータを再度指定して、別のフォルダパスを指定できます。異なるパスを指定した場合、Veritas Information Classifier を再び使用する前に、古いポリシーフォルダのコンテンツを新しいフォルダに移動します。</p> |
| -SiteId       | <p>Veritas Information Classifier を設定する Enterprise Vault サイトの ID を指定します。このパラメータを省略すると Initialize-EVClassificationVIC は現在のサイトの ID を判別するためにレジストリを確認します。この確認が何らかの理由で失敗した場合はエラーメッセージが表示されます。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>                                                                                                                           |

例

- Initialize-EVClassificationVIC -PoliciesPath %server1%VicPolicies

現在の **Enterprise Vault** サーバーで、指定したポリシーフォルダのパスを指定して **cmdlet** を実行します。サイト ID を指定しないと、**cmdlet** はレジストリを確認して現在のサイトの ID を判別します。

- `Initialize-EVClassificationVIC -Verbose -PoliciesPath  
¥¥server1¥VicPolicies -SiteId 198...example.com`

指定したポリシーフォルダのパスと **Enterprise Vault** サイトを使用して、詳細モードで **cmdlet** を実行します。

- `Initialize-EVClassificationVIC -Verbose`  
現在の **Enterprise Vault** サーバーで既存のポリシーフォルダのパスを使用して、詳細モードで **cmdlet** を実行します。以前にフォルダのパスを指定していない場合はエラーメッセージが表示されます。

## 出力

なし。

# New-EVClassificationPolicy

**New-EVClassificationPolicy** はサイトの **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。

**New-EVClassificationPolicy** は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

## 構文

```
New-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String>  
[-Description <String>] [-DuringArchivingIndexing <Boolean>]  
[-DetermineRC <Boolean>] [-RCDuringDeletion <Boolean>]  
[-RCDuringExpiry <Boolean>] [-PreventRCDuringMove <Boolean>]  
[-AllowRConRecTypeChange <Boolean>] [<CommonParameters>]
```



## パラメータ

表 7-16 New-EVClassificationPolicy パラメータ

| パラメータ                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId                  | <p>Enterprise Vault 分類ポリシーを作成する対象サイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet でレジストリ内を検索して ID を特定できないときは、New-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| -Name (必須)               | <p>Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。名前は一意である必要があり、最大 40 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| -Description             | <p>Enterprise Vault 分類ポリシーに対して設定する説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| -DuringArchivingIndexing | <p>Enterprise Vault がアーカイブまたはインデックス作成中にアイテムを分類すべきかどうかを指定します (\$true または \$false)。デフォルトは \$true です。</p> <p>この設定は、Enterprise Vault がインデックスを再構築するときにアイテムを再分類するかどうかも決定します。分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはないことに注意してください。これらのアイテムは、Enterprise Vault が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。</p> <p>たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに Enterprise Vault がアーカイブしたアイテムは、後から ProductNameShort; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。</p> |
| -DetermineRC             | <p>アイテムの保持カテゴリの更新を分類機能に対して許可するかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$true です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| パラメータ                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -RCDuringDeletion       | <p>DetermineRC が \$true である場合は、ユーザーによる削除の分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringDeletion を \$true に設定できません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |
| -RCDuringExpiry         | <p>DetermineRC が \$true である場合は、自動期限切れの分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定できません。</li> <li>■ DuringArchivingIndexing が \$false で、DetermineRC が \$true である場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定する必要があります。</li> </ul>                                                                                  |
| -PreventRCDuringMove    | <p>DetermineRC が \$true の場合に、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリを <b>Enterprise Vault</b> が更新しないようにするかどうかを指定します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に <b>Enterprise Vault Search</b> でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。</p> <p>PreventRCDuringMove のデフォルトは \$false です。<b>Enterprise Vault</b> は、サイトのアーカイブ設定に従い、アイテムの保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可します。</p> |
| -AllowRCOnRecTypeChange | <p><b>Enterprise Vault</b> レコード管理機能を使って、選択したアイテムをレコードとしてマーク付けする環境で使います。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$true の場合に (ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする)、AllowRCOnRecTypeChange は、アイテムのレコードタイプも変更されるときにこれらの更新を許可するかどうかを指定します。AllowRCOnRecTypeChange のデフォルトは \$true です。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$false の場合、AllowRCOnRecTypeChange は無効です。</p>                                                                                                               |

例

- `New-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy" -Description "Classification policy created using PowerShell"`  
指定した **Enterprise Vault** サイトに「**Classification policy**」という名前の **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。新しいポリシーには「**Classification policy created using PowerShell**」という説明があります。
- `New-EVClassificationPolicy -Name "Classification policy" -DuringArchivingIndexing $true -DetermineRC $false`  
「**Classification policy**」という名前の **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。このポリシーは、アーカイブ中またはインデックスの作成中にアイテムを分類しますが、保持カテゴリを判別するために分類をしません。
- `New-EVClassificationPolicy -Name "Classification policy" -PreventRCDuringMove $true`  
アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテムを分類し、分類機能によるアイテムの保持カテゴリの更新を許可する **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。このポリシーは、ユーザーがアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリが **Enterprise Vault** によって更新されないようにします。ただし、これによってアイテムのレコードタイプが変更される場合は除きます。

出力

この `cmdlet` は、次のプロパティを持つタイプ `Symantec.EnterpriseVault.Admin.ClassificationPolicy` のオブジェクトを返します。

表 7-17 New-EVClassificationPolicy プロパティ

| 名前                      | 種類      | 説明                                                       |
|-------------------------|---------|----------------------------------------------------------|
| Name                    | 文字列     | Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。                              |
| EntryId                 | 文字列     | Enterprise Vault 分類ポリシーのディレクトリエントリ ID。                   |
| IsADefaultPolicy        | Boolean | Enterprise Vault 分類ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。               |
| DuringArchivingIndexing | ブール値    | アーカイブ中またはインデックスの作成中にアイテムを分類するかどうか、インデックスの再構築時に再分類するかどうか。 |
| DetermineRC             | Boolean | 保持カテゴリを判別するために分類を使うかどうか。                                 |

| 名前                     | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| RCDuringDeletion       | Boolean | ユーザーによる削除時にアイテムが分類されるかどうか。                                                                                                                                                                                                                                    |
| RCDuringExpiry         | Boolean | 自動期限切れ時にアイテムが分類されるかどうか。                                                                                                                                                                                                                                       |
| PreventRCDuringMove    | Boolean | ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときに、これらの保持カテゴリを <b>Enterprise Vault</b> が更新しないようにするかどうか。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に <b>Enterprise Vault Search</b> でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があります。 |
| AllowRCONRecTypeChange | Boolean | アイテムのレコードタイプが変更される場合に ( <b>Temporary</b> から <b>Permanent</b> への変更など) 保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可するかどうか。                                                                                                                                                              |
| Description            | 文字列     | <b>Enterprise Vault</b> 分類ポリシーの説明。                                                                                                                                                                                                                            |
| SiteId                 | 文字列     | <b>Enterprise Vault</b> 分類ポリシーが属するサイト ID。                                                                                                                                                                                                                     |
| Identity               | 番号      | <b>Enterprise Vault</b> 分類ポリシーの ID 番号。                                                                                                                                                                                                                        |

## 関連 cmdlet

- p.180 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.200 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.201 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

# Publish-EVClassificationFCIRules

**メモ:** この cmdlet は、Enterprise Vault 12 で導入された分類機能でのみ使用します。この機能では、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用してアーカイブ済みコンテンツを分類します。この cmdlet は、以降の Veritas Information Classifier の分類方法で使用するようには設計されていません。

Publish-EVClassificationFCIRules は、指定したサーバーから Enterprise Vault のすべての分類プロパティとルールを指定した場所にある XML ファイルにエクスポートします。Enterprise Vault では、このファイルを使って、分類プロパティとルールがターゲットサーバーにインポートされます。この処理を実行する前に、cmdlet はこれらのサーバーから既存のプロパティとルールを消去します。

この cmdlet は Import-EVClassificationFCIRules cmdlet と似たような機能を実行します。ただし、Import-EVClassificationFCIRules では Enterprise Vault がその後対象サーバーにインポートする XML ファイルを作成しません。この cmdlet は既存の XML ファイルを使用して、操作のインポート部分のみを実行します。

次の点に注意してください。

- 分類のプロパティおよびルールを設定したサーバーとは異なるサーバーで cmdlet を実行できます。
- この cmdlet を実行するには、cmdlet を実行するサーバーとすべてのターゲットサーバーの両方でシステム管理者ロールが必要です。
- この cmdlet を実行するコンピュータに Microsoft Data Classification Toolkit をインストールする必要があります。このツールキットは次の Web ページからダウンロードできます。  
<http://www.microsoft.com/download/details.aspx?id=27123>
- この cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行しない場合は、-SiteId パラメータまたは -Servers パラメータのいずれかを指定する必要があります。cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行し、これらのパラメータを省略する場合は、この cmdlet は現在のサーバーのサイトを使って、サイトのその他すべての Enterprise Vault サーバーに対する公開を行います。
- クラスタ構成 (Windows Server Failover Clustering または Veritas Cluster Server) では、分類プロパティとルールをいずれかのクラスタノードに公開すると、その他のすべてのノードも更新されます。したがって、別のノードへのフェールオーバー後、以前と同じルールを使って分類が継続されます。
- Enterprise Vault ビルディングブロック環境では、この cmdlet は現在 Enterprise Vault のタスクとサービスをホストしているサーバーのみにインポートします。
- この cmdlet は各ターゲットサーバー上の Enterprise Vault ストレージサービスを停止し、分類プロパティとルールをインポートした後にそのサービスを再起動します。

---

**メモ:** 分類プロパティとルールを公開するその他の方法では、ストレージサービスが自動的に停止/再起動されないため、分類エラーが発生する場合があります。たとえば、Microsoft Data Classification Toolkit に付属する PowerShell cmdlet を使う場合がこれに該当します。したがって、分類プロパティとルールを公開する場合は、Publish-EVClassificationFCIRules (または Import-EVClassificationFCIRules) を使うことを強くお勧めします。

---

Publish-EVClassificationFCIRules は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

## 構文

```
Publish-EVClassificationFCIRules [-StagingServer <String>]
[-ExportRulesFile <String>] [-SiteId <String>] [-Servers <String>]
[-TimeoutSecs <Integer>] [-Confirm <Boolean>]
```

## パラメータ

表 7-18 Publish-EVClassificationFCIRules パラメータ

| パラメータ                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -StagingServer (必須)   | 分類プロパティとルールを設定したサーバーとエクスポート先のサーバーの名前を指定します。                                                                                                                                                                                                         |
| -ExportRulesFile (必須) | 対象サーバーにインポートする前に、cmdlet が分類プロパティとルールをエクスポートする宛先ファイルのパスを指定します。この cmdlet はファイルをローカルに作成するため、c:¥Data¥RulesFile.xml のようなローカルパスを指定する必要があります。ファイル名に .xml 拡張子が含まれていることを確認してください。                                                                            |
| -SiteId               | 分類プロパティとルールの公開先の Enterprise Vault サイトを識別します。<br><br>このパラメータを設定する場合は、同時に -Servers パラメータを設定できません。                                                                                                                                                     |
| -Servers              | 分類プロパティとルールのセットを受信するサーバーを指定します。1 つ以上のサーバーの NETBIOS 名、IP アドレス、完全修飾ドメイン名をカンマ区切りリストで入力します。ローカルコンピュータを指定するには、コンピュータ名 "localhost" を入力します。<br><br>このパラメータを設定する場合は、同時に -SiteId パラメータを設定できません。                                                              |
| -TimeoutSecs          | 各ターゲットサーバーで Enterprise Vault ストレージサービスを停止または開始するときのタイムアウト値を秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。<br><br><b>メモ:</b> この cmdlet が指定した期間内にサービスを再起動できない場合は、失敗したサーバーで分類ルールとストレージサービスの状態を確認します。この cmdlet によって既存のルールが消去されて、新しいルールがインポートされない場合は、サーバーでは分類ルールが欠落したままになります。 |

| パラメータ    | 説明                                                                                           |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| -Confirm | \$true (デフォルト値) に設定すると、この cmdlet で分類データを公開する前に確認をメッセージが表示されます。\$false に設定すると確認メッセージは表示されません。 |

## 例

- Publish-EVClassificationFCIRules -StagingServer SERVERXYZ  
-ExportRulesFile c:¥Data¥RulesFile.xml  
分類プロパティとルールをサーバー **SERVERXYZ** から指定したローカルファイルにエクスポートします。この cmdlet は、現在のサイト (すなわち、この cmdlet を実行するサーバーと同じサイト) にあるすべての **Enterprise Vault** サーバーにプロパティとルールを公開します。
- Publish-EVClassificationFCIRules -StagingServer SERVERXYZ  
-ExportRulesPath c:¥Data¥RulesFile.xml -SiteId 13E...EV.example.com  
指定したサイトにあるすべての **Enterprise Vault** サーバーに、エクスポートした分類プロパティとルールを公開します。
- Publish-EVClassificationFCIRules -StagingServer SERVERXYZ  
-ExportRulesPath c:¥Data¥RulesFile.xml -Servers  
SERVER1, SERVER2.ABC.DEF.COM  
指定したサーバーに対して、エクスポートした分類プロパティとルールを公開します。

## 出力

この cmdlet は、以下のデフォルトプロパティが設定された `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ServerInfo` 型のオブジェクトを返します。

表 7-19 Publish-EVClassificationFCIRules プロパティ

| 名前           | 種類  | 説明                                        |
|--------------|-----|-------------------------------------------|
| ServerName   | 文字列 | <b>Enterprise Vault</b> サーバーの名前。          |
| ServerFQDN   | 文字列 | <b>Enterprise Vault</b> サーバーの完全修飾ドメイン名。   |
| Result       | 文字列 | 公開の結果 (Succeeded/Failed/DuplicateServer)。 |
| ErrorMessage | 文字列 | サーバーへのインポートが成功しなかった場合は、エラーの原因。            |

## 関連 cmdlet

- p.187 の「[Import-EVClassificationFCIRules](#)」を参照してください。

# Remove-EVClassificationPolicy

Remove-EVClassificationPolicy は、指定した **Enterprise Vault** 分類ポリシーが使用中でなければ削除します。**cmdlet** により、分類ポリシーの削除を確認するためのメッセージが表示されます。

Remove-EVClassificationPolicy は、スナップイン  
Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Remove-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String>
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 7-20 Remove-EVClassificationPolicy パラメータ

| パラメータ      | 説明                                                                                                                                                                                              |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId    | Enterprise Vault 分類ポリシーが属しているサイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できないと、Remove-EVClassificationPolicy によって必要な ID の入力を求めるメッセージが表示されます。<br><br>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |
| -Name (必須) | 削除する Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。                                                                                                                                                                |

## 例

- Remove-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy"  
指定した **Enterprise Vault** サイトから「Classification policy」という Enterprise Vault 分類ポリシーを削除します。

## 出力

なし。

## 関連コマンドレット

- p.180 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.192 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.201 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。



# Set-EVClassificationPolicy

Set-EVClassificationPolicy は既存の Enterprise Vault 分類ポリシーのプロパティを設定または更新します。

Set-EVClassificationPolicy は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Set-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String>  
[-Description <String>] [-DuringArchivingIndexing <Boolean>]  
[-DetermineRC <Boolean>] [-RCDuringDeletion <Boolean>]  
[-RCDuringExpiry <Boolean>] [-PreventRCDuringMove <Boolean>]  
[-AllowRConRecTypeChange <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 7-21 Set-EVClassificationPolicy のパラメータ

| パラメータ        | 説明                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SiteId      | Enterprise Vault 分類ポリシーの詳細を設定または更新する対象サイトの ID。このパラメータを省略して、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、Set-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。<br><br>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |
| -Name (必須)   | 設定または更新対象のプロパティを持つ特定の Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。ポリシーの名前を変更する場合は、新しい名前を 40 文字までの英数字と空白文字を含んだ、重複しない名前にする必要があります。                                                                                      |
| -Description | Enterprise Vault 分類ポリシーに対して設定する説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。                                                                                                                          |

| パラメータ                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -DuringArchivingIndexing | <p><b>Enterprise Vault</b> がアーカイブまたはインデックス作成中にアイテムを分類すべきかどうかを指定します (\$true または \$false)。デフォルトは \$true です。</p> <p>この設定は、<b>Enterprise Vault</b> がインデックスを再構築するときにアイテムを再分類するかどうかを決定します。分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはないことに注意してください。これらのアイテムは、<b>Enterprise Vault</b> が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。</p> <p>たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに <b>Enterprise Vault</b> がアーカイブしたアイテムは、後から <b>ProductNameShort</b>; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。</p> |
| -DetermineRC             | <p>アイテムの保持カテゴリの更新を分類機能に対して許可するかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$true です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| -RCDuringDeletion        | <p>DetermineRC が \$true である場合は、ユーザーによる削除の分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringDeletion を \$true に設定できません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| -RCDuringExpiry          | <p>DetermineRC が \$true である場合は、自動期限切れの分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定できません。</li> <li>■ DuringArchivingIndexing が \$false で、DetermineRC が \$true である場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定する必要があります。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                 |

| パラメータ                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -PreventRCDuringMove    | <p>DetermineRC が \$true の場合に、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリを <b>Enterprise Vault</b> が更新しないようにするかどうかを指定します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に <b>Enterprise Vault Search</b> でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。</p> <p>PreventRCDuringMove のデフォルトは \$false です。<b>Enterprise Vault</b> は、サイトのアーカイブ設定に従い、アイテムの保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可します。</p> |
| -AllowRConRecTypeChange | <p><b>Enterprise Vault</b> レコード管理機能を使って、選択したアイテムをレコードとしてマーク付けする環境で使います。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$true の場合に (ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする)、AllowRConRecTypeChange は、アイテムのレコードタイプも変更されるときにこれらの更新を許可するかどうかを指定します。AllowRConRecTypeChange のデフォルトは \$true です。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$false の場合、AllowRConRecTypeChange は無効です。</p>                                                                                                               |

## 例

- ```
Set-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy" -Description "Classification example policy"
```

指定した **Enterprise Vault** サイトで「**Classification policy**」という名前が付いている既存の **Enterprise Vault** 分類ポリシーの説明を更新します。
- ```
Set-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy" -PreventRCDuringMove $true -AllowRConRecTypeChange $false
```

指定した **Enterprise Vault** 分類ポリシーが適用されるアーカイブ内にあるアイテムの保持カテゴリをユーザー操作が更新しないように、このポリシーを設定します。更新が禁止される例には、これによってレコードタイプが変更される場合も含まれます。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

関連コマンドレット

- p.180 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.192 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.200 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Set-EVClassificationTestMode

Set-EVClassificationTestMode は、処理対象アーカイブにおいてテストモードで Enterprise Vault の分類機能が動作するようにするかどうかを指定します。テストモードでは、分類機能は、アーカイブのアイテムに分類タグやその他の変更を適用するのではなく、計画している変更を一覧表示するレポートを生成します。次に、結果が十分であるか確認するために、同じアーカイブで Get-EVClassificationTestMode を実行できます。

Set-EVClassificationTestMode は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

構文

Set-EVClassificationTestMode [-ArchiveID] <String> [-Enabled <Boolean>]

パラメータ

表 7-22 Set-EVClassificationTestMode のパラメータ

| パラメータ           | 説明                                                           |
|-----------------|--------------------------------------------------------------|
| -ArchiveID (必須) | テストモードの状態を設定する対象となるアーカイブの ID を指定します。                         |
| -Enabled (必須)   | アーカイブについての分類のテストモードを有効にする (\$true) か無効にする (\$false) かを指定します。 |

例

- Set-EVClassificationTestMode -ArchiveID 1E...EVServer1 -Enabled \$true  
分類機能が処理対象アーカイブにおいてテストモードで動作するようにするかを指定します。

出力

エラーの場合に例外を返します。ただし、それ以外の場合は何も出力しません。

## 関連コマンドレット

- p.184 の「[Get-EVClassificationTestMode](#)」を参照してください。

# データベース

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVDatabase](#)
- [Get-EVDatabaseDetail](#)
- [Get-EVDatabaseFileInfo](#)
- [Get-EVStorageDatabase](#)
- [Set-EVDatabaseDetail](#)
- [Start-EVDatabaseUpgrade](#)

## Get-EVDatabase

`Get-EVDatabase` は Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault ディレクトリ、監視、監査データベースの詳細を返します。

`Get-EVDatabase` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` スナップインから利用できます。

### 構文

`Get-EVDatabase`

### パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

### 例

- `Get-EVDatabase`  
ディレクトリ、監視、監査データベースの詳細を返します。

## 出力

**Get-EVDatabase** は、次のプロパティがあるオブジェクトの種類

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.Database` を返します。

表 8-1 Get-EVDatabase プロパティ

| 名前               | 種類             | 説明                                                          |
|------------------|----------------|-------------------------------------------------------------|
| DBName           | 文字列            | Enterprise Vault データベースの名前。たとえば、"EnterpriseVaultDirectory"。 |
| IsClustered      | Boolean        | SQL Server がクラスタ化されるかどうかを示します。                              |
| SQLInstanceName  | 文字列            | ディレクトリデータベースをホストする SQL Server インスタンスの名前。                    |
| SQLServerName    | 文字列            | ディレクトリデータベースをホストする SQL Server コンピュータの名前。                    |
| SQLServerVersion | 文字列            | ディレクトリデータベースをホストする SQL Server コンピュータの SQL Server のバージョン。    |
| Type             | EVDatabaseType | 設定可能な値は「監査」、「ディレクトリ」、「監視」です。                                |

## 関連コマンドレット

- p.207 の「[Get-EVDatabaseDetail](#)」を参照してください。
- p.209 の「[Get-EVDatabaseFileInfo](#)」を参照してください。
- p.211 の「[Get-EVStorageDatabase](#)」を参照してください。

# Get-EVDatabaseDetail

**Get-EVDatabaseDetail** は、Enterprise Vault サーバーについて、Enterprise Vault ディレクトリ、監視、監査、レポート、ボルトストア、フィンガープリントのデータベースの詳細を取得します。

**Get-EVDatabaseDetail** は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.dll` によって提供されます。

## 構文

**Get-EVDatabaseDetail** [<CommonParameters>]

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- Get-EVDatabaseDetail  
Enterprise Vault サーバーについて、Enterprise Vault ディレクトリ、監視、監査、レポート、ボルトストア、フィンガープリントのデータベースの詳細を取得します。
- Get-EVDatabaseDetail | Where-Object {\$\_.Type -eq "Fingerprint" -and (\$\_.IsInAG -eq 0 -or \$\_.IsAccessible -eq 0)}  
可用性グループ (IsInAG=0) にない、またはアクセスできない (IsAccessible=0) すべての Enterprise Vault フィンガープリントデータベースを取得します。この情報は、可用性グループに追加する必要がある Enterprise Vault データベースの一覧を取得するために使うことができます。
- Get-EVDatabaseDetail | Where-Object {\$\_.IsCollationOK -eq 0}  
照合の問題がある Enterprise Vault データベースを見つけます。

## 出力

Get-EVDatabaseDetail は、次のプロパティを持つタイプ

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.DatabaseDetail のオブジェクトを返します。

表 8-2 Get-EVDatabaseDetail プロパティ

| 名前               | 種類             | 説明                                                                                                                   |
|------------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DBName           | 文字列            | Enterprise Vault データベースの名前。例: "EnterpriseVaultDirectory"                                                             |
| SQLInstanceName  | 文字列            | これはデータベースが存在する SQL Server インスタンスです。                                                                                  |
| SQLServerVersion | 文字列            | これは、SQL Server の製品バージョン (SERVERPROPERTY('ProductVersion')) です。                                                       |
| Type             | EVDatabaseType | これは、Enterprise Vault データベースの種類<br>の列挙です。可能な値は、ディレクトリ (0)、ボルト<br>ストア (1)、フィンガープリント (2)、監査 (3)、監<br>視 (4)、レポート (5) です。 |
| SQLServerName    | 文字列            | これはデータベースが存在する物理 SQL<br>Server の名前です。<br>(SERVERPROPERTY('MachineName'))                                             |



| 名前            | 種類      | 説明                             |
|---------------|---------|--------------------------------|
| IsClustered   | Boolean | SQL Server がクラスタ化されるかどうかを示します。 |
| IsInAG        | Boolean | データベースが可用性グループ内にあるかどうかを示します。   |
| IsAccessible  | Boolean | データベースが現在アクセス可能であるかどうかを示します。   |
| IsCollationOK | Boolean | False は、データベースの照合の問題を示します。     |

### 関連コマンドレット

- p.213 の「[Set-EVDatabaseDetail](#)」を参照してください。
- p.206 の「[Get-EVDatabase](#)」を参照してください。
- p.209 の「[Get-EVDatabaseFileInfo](#)」を参照してください。
- p.211 の「[Get-EVStorageDatabase](#)」を参照してください。

## Get-EVDatabaseFileInfo

Get-EVDatabaseFileInfo は、現在の Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault データベースに関するデータベースファイルおよびディスク容量の情報を返します。

Get-EVDatabaseFileInfo は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

### 構文

```
Get-EVDatabaseFileInfo [-DatabaseType] <String> [<CommonParameters>]  
  
Get-EVDatabaseFileInfo [-DatabaseType] <String> [-EntryId] <String>  
[-StorageServiceEntryId] <String> [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 8-3 Get-EVDatabaseFileInfo パラメータ

| パラメータ                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -DatabaseType          | 詳細が必要なデータベースの種類。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>Directory</b>. ディレクトリデータベースの詳細を返します。</li><li>■ <b>VaultStore</b>. ボルトストアデータベースの詳細を返します。</li><li>■ <b>Fingerprint</b>. フィンガープリントデータベースの詳細を返します。</li></ul> |
| -EntryId               | EntryId の値を見つけるには、Get-EVStorageDatabase コマンドレットを使用することができます。<br>p.211 の「 <a href="#">Get-EVStorageDatabase</a> 」を参照してください。                                                                                                         |
| -StorageServiceEntryId | StorageServiceEntryId の値を見つけるには、Get-EVStorageDatabase コマンドレットを使用することができます。<br>p.211 の「 <a href="#">Get-EVStorageDatabase</a> 」を参照してください。                                                                                           |

## 例

- `Get-EVDatabaseFileInfo -DatabaseType Directory`  
**Enterprise Vault** ディレクトリデータベースに関するデータベースファイルおよびディスク容量の情報を返します。
- `Get-EVDatabaseFileInfo -DatabaseType VaultStore -EntryId 21E...08002B30909D -StorageServiceEntryId 21E...08002B30309D`  
特定のボルトストアデータベースに関するデータベースファイルおよびディスク容量の情報を返します。コマンドは、ストレージサービスで情報を入手するように指定します。  
**EntryId** および **StorageServiceEntryId** の値を見つけるには、Get-EVStorageDatabase コマンドレットを使用することができます。

## 出力

表 8-4 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 8-4 Get-EVDatabaseFileInfo プロパティ

| 名前                        | 種類             | 説明                                                          |
|---------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------|
| DatabaseName              | 文字列            | Enterprise Vault データベースの名前。たとえば、"EnterpriseVaultDirectory"。 |
| FileType                  | EVDATABASETYPE | 次のいずれか: "Log"、"Data"                                        |
| HoursSinceLastBackup      | Int32          | ファイルが最後にバックアップされてから経過した時間数。                                 |
| LastBackupDate            | DateTime       | ファイルが最後にバックアップされた日時。この値はファイルが 1 回もバックアップされていない場合は NULL です。  |
| LogicalFileName           | 文字列            | 論理ファイル名。                                                    |
| PhysicalFileName          | 文字列            | 物理ファイルへの絶対パス。                                               |
| TotalQuotaGBytesAvailable | Double         | 利用可能な総容量 (GB)。この値は NULL である場合もあります。                         |
| TotalQuotaGBytesFree      | Double         | 未使用容量 (GB)。この値は NULL である場合もあります。                            |
| TotalQuotaGBytesUsed      | Double         | 使用されている容量 (GB)。この値は NULL である場合もあります。                        |

## 関連コマンドレット

- p.206 の「[Get-EVDatabase](#)」を参照してください。
- p.211 の「[Get-EVStorageDatabase](#)」を参照してください。

# Get-EVStorageDatabase

現在の Enterprise Vault サーバーのボルトストアとフィンガープリントデータベースの詳細を取得します。

Get-EVStorageDatabase は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVStorageDatabase [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- Get-EVStorageDatabase  
Enterprise Vault サーバーのボルトストアとフィンガープリントデータベースの詳細を取得します。

## 出力

表 8-5 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 8-5 Get-EVStorageDatabase のプロパティ

| 名前                    | 種類             | 説明                                   |
|-----------------------|----------------|--------------------------------------|
| DBName                | 文字列            | データベース名。                             |
| EntryId               | 文字列            | ボルトストアエントリ ID。                       |
| IsClustered           | Boolean        | SQL Server がクラスタ化されるかどうかを示します。       |
| SQLInstanceName       | 文字列            | データベースをホストする SQL インスタンスの名前。          |
| SQLServerName         | 文字列            | データベースをホストする SQL Server の名前。         |
| SQLServerVersion      | 文字列            | データベースをホストするサーバーの SQL Server のバージョン。 |
| StorageServiceEntryId | 文字列            | ストレージサービスエントリ ID。                    |
| Type                  | EVDATABASEType | 「VaultStore」、「Fingerprint」のいずれか。     |
| VaultStoreGroupName   | 文字列            | ボルトストアをホストするボルトストアグループの名前。           |
| VaultStoreName        | 文字列            | ボルトストアの名前。                           |

## 関連コマンドレット

- p.206 の「[Get-EVDatabase](#)」を参照してください。
- p.209 の「[Get-EVDatabaseFileInfo](#)」を参照してください。

# Set-EVDatabaseDetail

Set-EVDatabaseDetail は、Enterprise Vault データベースの SQL Server の接続情報で新しい SQL サーバー名に更新します。サーバー名、インスタンス名、リスナーまたは仮想ネットワーク名のいずれかを使って更新できます。

Set-EVDatabaseDetail は次の必須パラメータを使います。

- -ServerName:これは、インスタンス、リスナー、サーバーまたは仮想ネットワークの名前で、アクセスできる有効なサーバーである必要があります。
- -InputObject: これは、タイプ `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.DatabaseDetail` の DatabaseDetail オブジェクトです。

Set-EVDatabaseDetail は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.dll` によって提供されます。

## 構文

```
Set-EVDatabaseDetail -ServerName <String> -InputObject <String>
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 8-6 Set-EVDatabaseDetail パラメータ

| パラメータ             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -ServerName (必須)  | 移行先の SQL Server の名前。リスナー、インスタンス、サーバーまたは仮想ネットワークの名前を使うことができます。                                                                                                                                                                                                  |
| -InputObject (必須) | 有効な DatabaseDetail オブジェクト (タイプ <code>Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.DatabaseDetail</code> )。<br><br>このオブジェクトのプロパティについて詳しくは、 <code>Get-EVDatabaseDetail</code> のヘルプを参照してください。<br><br>p.207 の「 <a href="#">Get-EVDatabaseDetail</a> 」を参照してください。 |

## 例

- `Get-EVDatabaseDetail | where {$_.SQLInstanceName -eq 'SVR55¥SQL1' } | Set-EVDatabaseDetail -ServerName AGlistener`  
特定の SQL Server インスタンス「SVR55¥SQL1」上のすべてのデータベースの SQL Server 接続の詳細を「AGlistener」リスナーを使うように更新します。この例では、Set-EVDatabaseDetail cmdlet へのパイプライン入力として Get-EVDatabaseDetail cmdlet が使われています。

- `Get-EVDatabaseDetail | where {$_.type -eq 'directory'} | Set-EVDatabaseDetail -ServerName AGlistener`  
すべての Enterprise Vault サーバー上の  
「HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥KVS¥Enterprise Vault¥Directory¥DirectoryService」キーの「SQLServer Name」を「AGlistener」に更新します。この例では、Set-EVDatabaseDetail cmdlet へのパイプライン入力として Get-EVDatabaseDetail cmdlet が使われています。
- `New-Object -TypeName Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.DatabaseDetail("SVR33", "EnterpriseVaultDirectory", 0) | Set-EVDatabaseDetail -ServerName AGlistener`  
すべての Enterprise Vault サーバー上の  
「HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥KVS¥Enterprise Vault¥Directory¥DirectoryService」キーの「SQLServer Name」を「SVR33」から「AGlistener」に更新します。この例では、タイプ  
`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.DatabaseDetail` の新規オブジェクトを作成し、パイプライン入力として `SQLInstanceName`、`DBName`、`Type` の必須プロパティを設定します。EnterpriseVaultDirectory データベースサーバーがすでにアクセスできない場合に、この方法を使って接続の詳細を更新します。
- `Get-EVDatabaseDetail | where {$_.sqlservername -eq 'sql-svr1' -and $_.SQLInstanceName -ne 'AGlistener' -and $_.IsAccessible -eq 'true'} | Set-EVDatabaseDetail -ServerName AGlistener`  
現在リスナーを使っていない特定の SQL Server コンピュータ「sql-svr1」上にあるアクセス可能なすべてのデータベースの SQL Server 接続の詳細を「AGlistener」リスナーを使うように更新します。この例では、Set-EVDatabaseDetail cmdlet へのパイプライン入力として Get-EVDatabaseDetail cmdlet が使われています。

## 出力

なし。

## 関連コマンドレット

- p.207 の「[Get-EVDatabaseDetail](#)」を参照してください。
- p.206 の「[Get-EVDatabase](#)」を参照してください。
- p.209 の「[Get-EVDatabaseFileInfo](#)」を参照してください。
- p.211 の「[Get-EVStorageDatabase](#)」を参照してください。

# Start-EVDatabaseUpgrade

Start-EVDatabaseUpgrade は Enterprise Vault をアップグレードした後、すべての Enterprise Vault データベースをアップグレードして、各データベースの状態を返します。

このコマンドレットを実行するには、ボルトサービスアカウントを使ってログインする必要があります。アップグレードを開始する前にすべての Enterprise Vault サービスを停止して、コマンドレットを実行する前にアップグレードが実行されないようにします。

タイムアウトパラメータを使用すると、コマンドレットが SQL Server のコマンドやスクリプトを実行するために許可する時間を調整できます。長時間にわたるアップグレードを実行する際は、タイムアウト期間を延ばして、完了までの十分な猶予を設けることをお勧めします。ただし、何らかの理由でアップグレードが停止した場合は、タイムアウト期間を延ばしても意味がありません。

Start-EVDatabaseUpgrade は、スナップイン DBUpgraderPowerShell.dll によって提供されます。

## 構文

```
Start-EVDatabaseUpgrade [-CommandTimeoutSeconds <Integer>]  
[-ScriptTimeoutSeconds <Integer>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 8-7 Start-EVDatabaseUpgrade パラメータ

| パラメータ                  | 説明                                                                                                            |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -CommandTimeoutSeconds | このコマンドレットが SQL ステートメントやストアドプロシージャなどの SQL Server コマンドを実行する際のタイムアウト値を秒単位で指定します。デフォルトは 210 秒です。ゼロ以外の値である必要があります。 |
| -ScriptTimeoutSeconds  | このコマンドレットが SQL Server でスクリプトを実行する際のタイムアウト値を秒単位で指定します。デフォルトは 7200 秒です。ゼロ以外の値である必要があります。                        |

## 例

- Start-EVDatabaseUpgrade  
Enterprise Vault データベースのアップグレードを開始して各データベースの状態を返します。
- Start-EVDatabaseUpgrade -CommandTimeoutSeconds 420  
-ScriptTimeoutSeconds 14400

コマンドレットが **SQL Server** のコマンドやスクリプトを実行する時間を、これらのアクティビティのタイムアウト値を 2 倍にすることで増やします。



# IMAP アクセス

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVIMAPUsers](#)
- [Get-EVIMAPUserSettings](#)
- [Set-EVIMAPServerDisabled](#)
- [Set-EVIMAPServerEnabled](#)

## Get-EVIMAPUsers

Get-EVIMAPUsers は、IMAP アクセスが有効になっているユーザーのリストを取得します。

Get-EVIMAPUsers は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

### 構文

```
Get-EVIMAPUsers -ArchiveName -NTUserName [<CommonParameters>]
```

### パラメータ

表 9-1 Get-EVIMAPUsers パラメータ

| パラメータ        | 説明                                                                               |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| -ArchiveName | -ArchiveName を使用して、アーカイブ名が入力される値と一致する IMAP が有効になっているユーザーのみを表示します。                |
| -NTUserName  | -NTUserName を使用して、Active Directory ユーザー名が入力される値と一致する IMAP が有効になっているユーザーのみを表示します。 |

## 例

- `Get-EVIMAPUsers -ArchiveName John`  
アーカイブの名前 'John' と一致するユーザーを返します。
- `Get-EVIMAPUsers -NTUserName "Steve_B"`  
ユーザー名エントリ 'Steve\_B' と一致するユーザーを返します。

## 出力

表 9-2 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 9-2 Get-EVIMAPUsers プロパティ

| 名前             | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| EnabledForIMAP | Boolean | ユーザーが IMAP アクセスに対して有効になっているかどうかを示します。設定可能な値は次のとおりです: <code>\$true</code> (ユーザーは有効になっています)、 <code>\$false</code> (ユーザーは有効になっていません)                                                                                                          |
| MbxArchiveName | 文字列     | ユーザーのメールボックスアーカイブの名前。                                                                                                                                                                                                                      |
| MbxNTDomain    | 文字列     | Windows ドメイン。                                                                                                                                                                                                                              |
| MbxNTUser      | 文字列     | ユーザーのログイン名。                                                                                                                                                                                                                                |
| ReadyForIMAP   | Boolean | メタデータストアがアーカイブのために構築されたかどうかを示します。設定可能な値: <code>\$true</code> (メタデータストアは構築されました)、 <code>\$false</code> (メタデータストアはまだ構築されていません) インターネットメールアーカイブには常にメタデータストアがあります。そのため、 <code>ReadyForIMAP</code> はインターネットメールアーカイブに対して常に <code>True</code> です。 |
| SID            | 文字列     | Active Directory ユーザーの SID (セキュリティ識別子)。                                                                                                                                                                                                    |
| Type           | 文字列     | アーカイブの種類。設定可能な値は次のとおりです: "Exchange"、"Internet Mail"                                                                                                                                                                                        |

## 関連コマンドレット

- p.273 の「[Get-EVComputers](#)」を参照してください。
- p.221 の「[Set-EVIMAPServerDisabled](#)」を参照してください。
- p.222 の「[Set-EVIMAPServerEnabled](#)」を参照してください。
- p.219 の「[Get-EVIMAPUserSettings](#)」を参照してください。

# Get-EVIMAPUserSettings

Get-EVIMAPUserSettings は、指定したユーザー SID の IMAP/SMTP クライアント設定を取得します。

Get-EVIMAPUserSettings は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVIMAPUserSettings -SID [-FullFormatUserName [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 9-3 Get-EVIMAPUserSettings パラメータ

| パラメータ               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -SID (必須)           | IMAP 設定を表示する Active Directory ユーザーの SID (セキュリティ識別子)。                                                                                                                                                                                                                      |
| -FullFormatUserName | 指定すると、cmdlet からの出力に、ユーザーがアクセス可能な各アーカイブに対するユーザーのアカウント名の完全形式バージョンが示されます。この完全形式バージョンでは、EMEA¥JohnDoe¥1962 のようにユーザーのログオン名の後に識別子を追加します。パラメータを省略すると、出力で、ユーザーのデフォルトの IMAP アーカイブに対するログオン名からの識別子が省略されます。ただし、ユーザーがアクセス可能な他のアーカイブの識別子は表示されます。<br><br>詳しくは、『IMAP のセットアップガイド』を参照してください。 |

## 例

- Get-EVIMAPUserSettings S-1-5-21-750406912-2207124990-322363385-3682  
SID パラメータによって表されるユーザーにアクセス権があるアーカイブの IMAP/SMTP サーバー設定を返します。
- Get-EVIMAPUserSettings S-1-5-21-750406912-2207124990-322363385-3682  
-FullFormatUserName  
SID パラメータによって表されるユーザーにアクセス権があるアーカイブの IMAP/SMTP サーバー設定を返します。デフォルトの IMAP アーカイブの設定では、ユーザー名の一部として識別子が表示されます。-FullFormatUserName パラメータを使わない場合、識別子はデフォルトの IMAP アーカイブに表示されず、ユーザーがアクセスできる追加のアーカイブにのみ表示されます。ユーザー名の識別子について詳しくは、『IMAP のセットアップガイド』を参照してください。

## 出力

表 9-4 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 9-4 Get-EVIMAPUserSettings プロパティ

| 名前                       | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Archivename              | 文字列     | ユーザーのアーカイブの名前。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ArchiveOwner             | Boolean | ユーザーがアーカイブの所有者であるかどうかを示します。設定可能な値: \$true (ユーザーはアーカイブを所有します)、\$false (ユーザーはアーカイブを所有しません)                                                                                                                                                                                                                                       |
| ArchiveType              | 文字列     | アーカイブの種類。設定可能な値は次のとおりです: "Exchange"、"Internet Mail"                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| IMAP_Connection_Security | 文字列     | IMAP 接続に使用するセキュリティ。<br><br>STARTTLS と TLS プロトコルの両方がサポートされます。                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| IMAP_Password            | 文字列     | アーカイブへの接続時に使用するアカウントのパスワードを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| IMAP_Port                | Int32   | IMAP 接続に使用するポート番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| IMAP_Server              | 文字列     | 接続する IMAP サーバー。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| IMAP_UserName            | 文字列     | IMAP サーバーへの接続時に使用するアカウント名。<br><br>-FullFormatUserName パラメータを設定すると、デフォルトの IMAP アーカイブの設定で、ユーザー名の一部として識別子が表示されます。<br>-FullFormatUserName パラメータを使わない場合、識別子はデフォルトの IMAP アーカイブに表示されず、ユーザーがアクセスできる追加のアーカイブにのみ表示されます。<br><br><b>メモ:</b> デフォルトの IMAP アーカイブを削除した場合、別のアーカイブが新しいデフォルトとして選択されることはありません。他のアーカイブにログインする際のユーザー名には、常に識別子が含まれます。 |

| 名前                       | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ReadyForIMAP             | Boolean | メタデータストアがアーカイブのために構築されたかどうかを示します。設定可能な値: <code>\$true</code> (メタデータストアは構築されました)、 <code>\$false</code> (メタデータストアはまだ構築されていません) インターネットメールアーカイブには常にメタデータストアがあります。そのため、 <b>ReadyForIMAP</b> はインターネットメールアーカイブに対して常に <b>True</b> です。 |
| SMTP_Connection_Security | 文字列     | SMTP 接続に使用するセキュリティの種類。<br><br>STARTTLS と TLS プロトコルの両方がサポートされます。                                                                                                                                                                |
| SMTP_Password            | 文字列     | 設定可能な値: "SMTPアカウントユーザー名" (SMTPサーバーに認証が必要です)、"適用なし" (SMTP サーバーに認証は不要です)                                                                                                                                                         |
| SMTP_Port                | Int32   | SMTP 接続に使用するポート。                                                                                                                                                                                                               |
| SMTP_Server              | 文字列     | 接続する SMTP サーバー。                                                                                                                                                                                                                |
| SMTP_UserName            | 文字列     | SMTP サーバーで認証が必要な場合、この文字列には "SMTP アカウントユーザー名" が含まれています。                                                                                                                                                                         |
| WindowsUser              | 文字列     | IMAP サーバーへの接続に使用する Windows アカウント。                                                                                                                                                                                              |

## 関連コマンドレット

- p.273 の「[Get-EVComputers](#)」を参照してください。
- p.221 の「[Set-EVIMAPServerDisabled](#)」を参照してください。
- p.222 の「[Set-EVIMAPServerEnabled](#)」を参照してください。
- p.217 の「[Get-EVIMAPUsers](#)」を参照してください。

# Set-EVIMAPServerDisabled

Set-EVIMAPServerDisabled は、指定したサーバーで IMAP を無効化して、IMAP サーバーを停止します。

Set-EVIMAPServerDisabled は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Set-EVIMAPServerDisabled -ComputerNameAlternate [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 9-5 Set-EVIMAPServerDisabled パラメータ

| パラメータ                       | 説明                                              |
|-----------------------------|-------------------------------------------------|
| -ComputerNameAlternate (必須) | IMAP サーバーを停止し無効にする Enterprise Vault サーバーのエイリアス。 |

## 例

- `Get-EVComputers | Where-Object {$_.EnabledForIMAP -eq 1} | ForEach-Object {Set-EVIMAPServerDisabled $_.ComputerNameAlternate}`  
IMAP に有効なすべての Enterprise Vault サーバーを検索し、それぞれを順番に無効にして、そのプロセスで IMAP サーバーを停止します。
- `Set-EVIMAPServerDisabled ACME_LAB_1`  
コンピュータ名 'ACME\_LAB\_1' の Enterprise Vault サーバーを検索し、それを IMAP に対して無効にし、そのプロセスで IMAP サーバーを停止します。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

## 関連コマンドレット

- p.273 の「[Get-EVComputers](#)」を参照してください。
- p.222 の「[Set-EVIMAPServerEnabled](#)」を参照してください。
- p.217 の「[Get-EVIMAPUsers](#)」を参照してください。
- p.219 の「[Get-EVIMAPUserSettings](#)」を参照してください。

# Set-EVIMAPServerEnabled

Set-EVIMAPServerEnabled は、指定したサーバーで IMAP を有効化して、IMAP サーバーを開始します。

Set-EVIMAPServerEnabled は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Set-EVIMAPServerEnabled -ComputerNameAlternate [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 9-6 Set-EVIMAPServerEnabled パラメータ

| パラメータ                       | 説明                                              |
|-----------------------------|-------------------------------------------------|
| -ComputerNameAlternate (必須) | IMAP サーバーを有効にし起動する Enterprise Vault サーバーのエイリアス。 |

## 例

- `Get-EVComputers | Where-Object {$_.EnabledForIMAP -eq 0} | ForEach-Object {Set-EVIMAPServerEnabled $_.ComputerNameAlternate}`  
IMAP に有効でないすべての Enterprise Vault サーバーを検索し、それぞれを順番に有効にして、そのプロセスで IMAP サーバーを起動します。
- `Set-EVIMAPServerEnabled ACME_LAB_1`  
コンピュータ名 'ACME\_LAB\_1' の Enterprise Vault サーバーを検索し、それを IMAP に対して有効にし、そのプロセスで IMAP サーバーを開始します。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

## 関連コマンドレット

- p.273 の「[Get-EVComputers](#)」を参照してください。
- p.221 の「[Set-EVIMAPServerDisabled](#)」を参照してください。
- p.217 の「[Get-EVIMAPUsers](#)」を参照してください。
- p.219 の「[Get-EVIMAPUserSettings](#)」を参照してください。

# インデックス

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVIndexLocation](#)
- [Get-EVMDStatus](#)
- [Get-IndexServerForIndexLocation](#)
- [New-EVMDSTask](#)
- [Set-IndexMetadataSyncLevel](#)

## Get-EVIndexLocation

現在の Enterprise Vault サーバーに設定している Enterprise Vault インデックスの場所の詳細を取得します。

Get-EVIndexLocation は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

### 構文

```
Get-EVIndexLocation [<CommonParameters>]
```

### パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

### 例

- Get-EVIndexLocation  
現在の Enterprise Vault サーバーに設定している Enterprise Vault インデックスの場所の詳細を取得します。



## 出力

表 10-1 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 10-1 Get-EVIndexLocation のプロパティ

| 名前                        | 種類                      | 説明                                               |
|---------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------|
| BackupMode                | IndexLocationBackupMode | インデックスの場所のバックアップモード。<br><br>「On」または「Off」のいずれかです。 |
| ComputerName              | 文字列                     | インデックスの場所をホストするコンピュータの名前。                        |
| IndexingGroup             | 文字列                     | 場所が含まれるインデックスグループの名前 (存在する場合)。                   |
| IndexRootPath             | 文字列                     | インデックスのルートパス。たとえば、<br>E:¥EVStorage¥Index¥index8  |
| IndexRootPathEntryId      | 文字列                     | インデックスのルートパスエントリ ID。                             |
| IndexServiceEntryID       | 文字列                     | インデックスサービスエントリ ID。                               |
| Status                    | IndexLocationStatus     | インデックスの場所の状態。<br>「Open」、「Closed」のいずれかです。         |
| TotalQuotaGBytesAvailable | Double                  | 利用可能な合計領域 (GB)。この値は NULL である場合もあります。             |
| TotalQuotaGBytesFree      | Double                  | 未使用容量 (GB)。この値は NULL である場合もあります。                 |
| TotalQuotaGBytesUsed      | Double                  | 使用されている容量 (GB)。この値は NULL である場合もあります。             |

## Get-EVMDSStatus

Get-EVMDSStatus は、アーカイブのメタデータストアの現在の状態を取得します。cmdlet は、アーカイブのメタデータストアから欠落しているアイテム数の取得にも使用できます。

Get-EVMDSSStatus は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVMDSSStatus [[-ArchiveId] <String>] [[-VaultStoreId] <String>]  
[[[-SiteId] <String>] [-IncludeMissingItems [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 10-2 Get-EVMDSSStatus パラメータ

| パラメータ                | 説明                                                                                                 |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -ArchiveId (必須)      | アーカイブを識別します。これはデフォルトの操作です。                                                                         |
| -VaultStoreId (必須)   | ボルトストアを識別します。このパラメータを <b>ArchiveId</b> の代わりに使用すると、 <b>cmdlet</b> は指定したボルトストアのすべての適用可能なアーカイブで動作します。 |
| -SiteId (必須)         | サイトを識別します。このパラメータが使用されると、 <b>cmdlet</b> は指定されたサイトのすべての適切なアーカイブで動作します。                              |
| -IncludeMissingItems | アーカイブには存在しても、メタデータストアから欠落しているアイテム数を <b>cmdlet</b> が返すかどうか。このオプションは、多数のアーカイブを指定した場合は動作が遅くなることがあります。 |

## 例

- `Get-EVMDSSStatus -ArchiveId 14B...EVSERVER.LOCAL`  
指定されたアーカイブのメタデータストアの現在の状態を取得します。
- `Get-EVMDSSStatus -IncludeMissingItems -VaultStoreId 14B...EVSERVER.LOCAL`  
指定されたボルトストアのメタデータストアによってサポートされているすべてのアーカイブのメタデータストアの現在の状態を取得します。アーカイブには存在しても、メタデータストアから欠落しているアイテム数のカウントも含めます。
- `Import-CSV example.csv | Get-EVMDSSStatus`  
CSV ファイルで指定されているアーカイブごとのメタデータストアの現在の状態を取得します。
- `Import-CSV example.csv | Select VaultStoreEntryId | Get-EVMDSSStatus`  
レコードセットを CSV ファイルからインポートし、**VaultStoreEntryId** 列の値ごとに、メタデータストアでサポートされている各アーカイブのメタデータストアの現在の状態を返します。

- `Get-EVMDSSStatus -VaultStoreId 14B...EVSERVER.LOCAL -IncludeMissingItems | Where-Object {$_.MDSStatus -ne 'EV_MDS_DISABLED' -and $_.MDSMissingItems -gt 0} | New-EVMDSBuildTask -Mode Build -Force`  
アーカイブのメタデータストアから欠落しているアイテムがある場合、指定されたボルトストアの高速参照または **IMAP** が有効になっているアーカイブごとにメタデータストア構築タスクを作成します。

## 出力

MDSStatus

MDSMissingItems

表 10-3 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 10-3 Get-EVMDSSStatus プロパティ

| 名前        | 種類        | 説明                                                                                                                                |
|-----------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ArchiveId | 文字列       | Archived。                                                                                                                         |
| MDSStatus | MDSStatus | メタデータストアの現在の状態。設定可能な値:<br>"EV_MDS_DISABLED"、<br>"EV_MDS_BUILD_PENDING"、"EV_MDS_BUILDING"、<br>"EV_MDS_READY"、"EV_MDS_BUILD_FAILED" |

## 関連コマンドレット

- p.228 の「[New-EVMDSBuildTask](#)」を参照してください。

# Get-IndexServerForIndexLocation

`Get-IndexServerForIndexLocation` は、指定したインデックスの場所のインデックスサーバー名とサーバーエントリ ID を取得します。

`Get-IndexServerForIndexLocation` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` スナップインから利用できません。

## 構文

```
Get-IndexServerForIndexLocation -Location <String>  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 10-4 Get-IndexServerForIndexLocation パラメータ

| パラメータ          | 説明                               |
|----------------|----------------------------------|
| -Location (必須) | インデックスの場所のルートパスエントリ ID またはルートパス。 |

## 例

- `Get-IndexServerForIndexLocation -Location 10A...Domain.local`  
ルートパスエントリ ID として指定されたインデックスの場所に対するインデックスサーバー名およびサーバーエントリ ID を取得します。
- `Get-IndexServerForIndexLocation -Location "F:¥Test Index Location¥index7"`  
ルートパスとして指定されたインデックスの場所に対するインデックスサーバー名およびサーバーエントリ ID を取得します。

## 出力

表 10-5 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 10-5 Get-IndexServerForIndexLocation プロパティ

| 名前            | 種類  | 説明             |
|---------------|-----|----------------|
| ServerEntryId | 文字列 | ServerEntryId。 |
| ServerName    | 文字列 | ServerName。    |

## 関連コマンドレット

- p.230 の「[Set-IndexMetadataSyncLevel](#)」を参照してください。

# New-EVMDSBuildTask

New-EVMDSBuildTask は、アーカイブのメタデータストアを構築 (または再構築) するインデックスタスクを作成します。cmdlet は、インデックスの管理権限を持つユーザーが実行する必要があります。

New-EVMDSBuildTask は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
New-EVMDSBuildTask [-ArchiveId] <String> -Mode <MDSBuildTaskMode>  
[-VerifyIndex <MDSBuildTaskVerifyIndex>]] [-Force
```

```
[<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 10-6 New-EVMDSBuildTask パラメータ

| パラメータ           | 説明                                                                                                                                               |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -ArchiveId (必須) | Enterprise Vault アーカイブを識別します。                                                                                                                    |
| -Mode (必須)      | Build, Rebuild. Build を使用して、アーカイブの新しいメタデータストアを作成するか、既存のメタデータストアを補足します。Rebuild を使用して、アーカイブのメタデータストア全体を再作成し、既存データを上書きします。                          |
| -VerifyIndex    | Default, Verify, NoVerify. 場合によっては、メタデータストア構築タスクは、メタデータストアが完了していることを確認するためインデックス確認タスクをトリガすることがあります。このパラメータは、この動作を有効または無効にして、デフォルトを上書きするのに使用できます。 |
| -Force          | 確認を求められずにメタデータストア構築タスクを作成します。                                                                                                                    |
| -WhatIf         | 実際に cmdlet を実行せずに cmdlet を実行した場合の現象を説明します。                                                                                                       |

## 例

- `New-EVMDSBuildTask -Mode Build -ArchiveId 14B...EVSERVER.LOCAL`  
指定されたアーカイブのメタデータストアを構築するインデックス付けタスクを作成します。このアーカイブにすでにメタデータストアがある場合は、可能であれば不足しているアイテムが追加されますが、既存のデータは再作成されません。
- `New-EVMDSBuildTask -Mode Rebuild -ArchiveId 14B...EVSERVER.LOCAL`  
指定されているアーカイブのメタデータストアを再構築するインデックス付けタスクを作成します。アーカイブのメタデータストアにある既存のデータが上書きされます。
- `New-EVMDSBuildTask -Mode Build -VerifyIndex NoVerify -ArchiveId 14B...EVSERVER.LOCAL`  
指定されているアーカイブのメタデータストアを構築するインデックス付けタスクを作成しますが、タスクでアーカイブのインデックスの確認をトリガすることはできません。
- `Import-Csv c:\¥archives.csv | New-EVMDSBuildTask -Mode Build`  
アーカイブの一覧を CSV ファイルから読み取り、各アーカイブに対しメタデータストア構築タスクを作成します。CSV ファイルのいずれかの列が「ArchiveId」である必要があります。

- `Get-Content c:\¥archives.txt | New-EVMSBuildTask -Mode Build`  
アーカイブ ID の一覧をテキストファイルから読み取り(行ごとに 1 つ)、各アーカイブ  
に対しメタデータストア構築タスクを作成します。
- `New-EVMSBuildTask -Force -Mode Build -ArchiveId`  
`14B...EVSERVER.LOCAL`  
`-Force` パラメータを使って確認プロンプトが表示されないようにします。
- `New-EVMSBuildTask -WhatIf -Mode Build -ArchiveId`  
`14B...EVSERVER.LOCAL`  
`-WhatIf` パラメータを使用して、タスクを実際に作成せずに、`cmdlet` によって作成さ  
れるメタデータストア構築タスクを表示します。

出力

NewMDSBuildTaskResult

表 10-7 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 10-7 New-EVMSBuildTask プロパティ

| 名前          | 種類                      | 説明                                                                                                   |
|-------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ArchiveId   | 文字列                     | タスクが作成されたアーカイブの <code>ArchiveId</code> 。                                                             |
| ArchiveName | 文字列                     | タスクが作成されたアーカイブの名前。                                                                                   |
| Mode        | MDSBuildTaskMode        | アーカイブの構築時に使用されているモー<br>ド。設定可能な値: "Build"、"Rebuild"                                                   |
| VerifyIndex | MDSBuildTaskVerifyIndex | メタデータストアが完了していることを確認す<br>るためにインデックス確認タスクが作成される<br>かどうかを示します。設定可能な値:<br>"Default"、"Verify"、"NoVerify" |

関連コマンドレット

- p.225 の「[Get-EVMDSSStatus](#)」を参照してください。

Set-IndexMetadataSyncLevel

インデックスサービスの次の起動時に、ディレクトリデータベースのインデックスボリュー  
ムエントリとインデックスエンジンのメタデータに格納されているインデックスボリュームエ  
ントリ間の同期が実行されるように、`Set-IndexMetadataSyncLevel` によってインデック  
スのメタデータの同期フラグを設定します。

Set-IndexMetadataSyncLevel は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll スナップインから利用できません。

## 構文

```
Set-IndexMetadataSyncLevel -EntryId <String> -SyncLevel <String>  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 10-8 Set-IndexMetadataSyncLevel パラメータ

| パラメータ           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -EntryId (必須)   | インデックスサービスまたはそのインデックスサービスをホストする EV サーバーの ID。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| -SyncLevel (必須) | <p>インデックスサービスのスタートアップ時に実行される同期レベルの種類。同期はリンクされているすべてのインデックスボリュームに対して実行され、インデックスサービスエントリ ID が入力されます。</p> <p>これが 0 (EV_INDEX_METADATA_SYNC_NONE) に設定されると、インデックスボリュームエントリの同期は実行されません。</p> <p>これが 1 (EV_INDEX_METADATA_SYNC_BASIC) に設定されると、ディレクトリデータベースにあってインデックスエンジンのメタデータにはない欠損インデックスボリュームエントリがインデックスエンジンメタデータに追加されます。インデックスエンジンにあってディレクトリデータベースにない欠損インデックスボリュームエントリがインデックスエンジンメタデータから削除されます。</p> <p>これが 2 (EV_INDEX_METADATA_SYNC_CHECK_LOCATION_PATH) に設定されると、ディレクトリデータベース内のすべてのインデックスボリュームのインデックスの場所が、インデックスエンジンのメタデータに格納されているものと比較され、必要に応じて更新されます。</p> |

## 例

- ```
Set-IndexMetadataSyncLevel -EntryId 15B...Domain.local -SyncLevel 1
```

指定したエントリ ID があるインデックスサービスのインデックスのメタデータの同期レベルを 1 に設定します。これにより、ディレクトリデータベースのインデックスボリュームエントリと、インデックスエンジンのメタデータに格納されているインデックスボリュームエントリの同期が次のインデックスサービスの起動時に実行されます。

同期の結果として、ディレクトリデータベースにあってインデックスエンジンのメタデータにはない欠損インデックスボリュームエントリがインデックスエンジンメタデータに追加され、インデックスエンジンにあってディレクトリデータベースにない欠損インデックスボリュームエントリがインデックスエンジンメタデータから削除されます。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

## 関連コマンドレット

- p.227 の「[Get-IndexServerForIndexLocation](#)」を参照してください。



# レコード管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [Export-EVNARAArchive](#)
- [Get-EVRecordSettings](#)

## Export-EVNARAArchive

`Export-EVNARAArchive` は指定したアーカイブから **Enterprise Vault** が永続レコードとしてマーク付けしたアイテムのみをエクスポートします。指定した日付範囲内に収まるか、指定した検索基準に一致するレコードにエクスポート対象を制限できます。デフォルトでは、この `cmdlet` は以前エクスポートしなかった永続レコードのみをエクスポートします。ただし、以前エクスポートしたレコードを新しいレコードと一緒にエクスポートすることができます。

`Export-EVNARAArchive` は **Capstone** のレコード管理方法を実装する環境での使用を想定しています。**Capstone** の必要条件には、米国国立公文書館への永続レコードの定期的な転送が含まれます。レコードのバッチをエクスポートする以外に、`Export-EVNARAArchive` は、カンマで区切られた値 (.csv) の形式でロードファイルを作成します。このファイルは、アイテムとともに国立公文書記録管理局に送信できます。この `cmdlet` によって正常にエクスポートされた各アイテムに対して、ロードファイルは次の情報を提供します。

- エクスポートされたアイテムのファイル名。PST へのエクスポートの場合、ロードファイルには PST ファイルの名前が示されています。
- レコード ID。
- タイトル。メッセージの場合は件名行です。その他のアイテムの場合は、元のファイル名です。
- アイテムのインデックス付きコンテンツから取得された説明。  
デフォルトでは、**Enterprise Vault** は各アイテムのコンテンツ全体にインデックスを付けて、最初の 128 文字を検索結果に表示するプレビュー文字列として処理します。

ロードファイルに示されるのはこの文字列です。ただし、サイトまたはアーカイブレベルでインデックスを設定してプレビューの長さを大きくしたり、アイテムのコンテンツにインデックスを付けない簡易インデックスに切り替えたりできます。これらの設定に行った変更は、ロードファイルに示された説明に反映されています。

- アイテムの作成者。
- アイテムを作成した日付。
- PST フォルダ構造内のアイテムの場所 (PST へのエクスポートの場合のみ)。

Export-EVNARAArchive は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって指定されます。

## 構文

```
Export-EVNARAArchive [-ArchiveId] <String> [-OutputDirectory] <String>
[[-StartDate] <DateTime>] [[-EndDate] <DateTime>] [[-SearchString]
<String>]] [[-IncludePreviouslyExported] [<SwitchParameter>]]
[[-Format] [<ExportFormat>]] [[-MaxThreads] [<Integer>]]
[-MaxPSTSizeMB <Integer>] [-Confirm:<Boolean>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 11-1 Export-EVNARAArchive パラメータ

パラメータ	説明
-ArchiveId (必須)	アイテムのエクスポート元のアーカイブの ID を指定します。Get-EVArchive を使用して必要な ID を取得できます。
-OutputDirectory (必須)	cmdlet がエクスポートされたアイテムを配置するフォルダのパスを指定します。200 文字までの絶対パス、相対パス、また UNC パスを入力します。パスにスペースが含まれる場合は引用符で囲みます。  指定されたフォルダが存在しない場合、cmdlet は作成を試みます。

パラメータ	説明
-StartDate	<p>日付範囲の開始を指定します。この <b>cmdlet</b> は、日付範囲内の受信されたメッセージのみ、または作成されたファイルシステムのアイテムのみをエクスポートします。指定した日付は最上位レベルのメッセージのみに適用され、それらの添付ファイルには適用されません。たとえば、<b>2015</b> 年全体を含む日付範囲を指定すると、この <b>cmdlet</b> は <b>2016</b> 年に受信した、<b>2015</b> 年に作成された添付ファイルを持つメッセージを無視します。</p> <p>開始日を <b>PowerShell</b> が認識できる <b>mm/dd/yyyy</b>、<b>yyyy-mm-dd</b>、または <b>mm.dd.yyyy</b> のような形式で入力します。<b>Export-EVNARAArchive</b> は <b>04/03/2016</b> のような日付をコンピュータが動作している場所の地域と言語の設定に従って解釈します。たとえば、通常この日付を英語 (米国) のコンピュータでは <b>2016</b> 年 <b>4</b> 月 <b>3</b> 日として解釈しますが、英語 (英国) のコンピュータでは <b>2016</b> 年 <b>3</b> 月 <b>4</b> 日として解釈します。</p> <p>この <b>cmdlet</b> は日付に追記した時間はすべて無視して、指定した日が始まるとき (<b>EndDate</b> の場合は指定した日が終わるとき) から機能します。</p> <p>開始日と終了日の両方を指定する必要はありません。</p>
-EndDate	<p>日付範囲の終了を指定します。このパラメータには、<b>StartDate</b> の場合と同じ要件が適用されます。</p>
-SearchString	<p>エクスポートに選択したアイテムを識別する検索クエリーを指定します。検索条件に一致するが、<b>Enterprise Vault</b> が永続レコードとしてマーク付けしていないアイテムは無視されます。同様に、日付範囲を <b>StartDate</b> と <b>EndDate</b> パラメータを使って指定する場合、この <b>cmdlet</b> はまず範囲外になるすべてのアイテムを除外して、検索クエリーに一致するアイテムのみを検索します。</p> <p><b>Enterprise Vault Search</b> で特定のアイテムを検索する場合と同じクエリー構文を使用できます。たとえば、検索クエリー <b>"to:mike_smith"</b> はそのユーザーが受信者であったアイテムのみをエクスポート対象として選択します。クエリーにスペースが含まれる場合は引用符で囲みます。</p> <p>クエリー構文について詳しくは、<b>Enterprise Vault Search</b> のオンラインヘルプを参照してください。</p>
-IncludePreviouslyExported	<p>指定すると、このエクスポートの実行に、これまでにエクスポートしていないレコードに加えて以前の実行でエクスポートしたレコードも含めるようになります。</p>

パラメータ	説明
-Format	<p>アイテムをエクスポートする形式を指定します。指定可能な値は EML、NATIVE、および PST で、デフォルトは EML です。PST にエクスポートするには、ローカルサーバーと、指定したアーカイブ用の <b>Enterprise Vault</b> ストレージサービスをホストしているサーバーの両方で、<b>Microsoft Outlook</b> をインストールし、デフォルトの電子メールクライアントとして設定する必要があります。</p> <p>NATIVE 値を指定すると、各アイテムが元の形式でエクスポートされます。<b>Microsoft Exchange</b> アイテムの場合は MSG、SMTP アイテムの場合は EML、テキストファイルの場合は TXT などです。</p> <p>PST 値を指定すると、cmdlet はアイテムを MSG ファイルとしてエクスポートし、PST ファイルにまとめます。PST ファイル内のフォルダ構造はソースアーカイブのフォルダ構造と一致します。cmdlet は、次のいずれかが発生したときにすべてのエクスポートされたアイテムを保持するための追加の PST ファイルを自動的に作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ PST ファイル内のアイテムの数が 100,000 に到達する。</li> <li>■ PST ファイルのサイズが -MaxPSTSizeMB パラメータで指定した限度に到達する</li> </ul> <p>アイテムが 250 MB より大きい場合、cmdlet はそのアイテムをまず MSG ファイルとしてエクスポートしてから PST ファイルにまとめるのではなく、そのアイテムを PST ファイルと一緒に配置するスタンドアロンの EML ファイルとしてエクスポートします。</p>
-MaxThreads	<p>エクスポート処理に使用するスレッドの最大数を指定します。1 から 100 までの値を入力します。デフォルト値は 16 です。</p> <p>スレッド数を減らすことで、<b>Enterprise Vault</b> サーバーリソースの負荷を最小限に抑えることができます。逆に、分散型または高仕様の <b>Enterprise Vault</b> 環境では、スレッド数を増やすことでスループットを大きくできます。</p>
-MaxPSTSizeMB	<p>PST にエクスポートする場合のみ、各 PST ファイルの最大サイズを指定します (MB)。PST ファイルがこの制限に到達すると、cmdlet は残りのアイテムのために自動的に新しい PST ファイルを作成します。500 から 51200 までの値を入力します。デフォルト値は 20480 (20 GB) です。</p>

パラメータ	説明
-Confirm	指定されたアーカイブに 32 ビットのインデックスボリュームがあることが検出された場合、cmdlet の処理を先に進める前に確認を必要とするかどうかを指定します。デフォルトでは、このようなアーカイブが検出されると、cmdlet は処理を中断するので、処理を続行することを確認する必要があります。次の構文を使うと、確認のプロンプトの表示を抑止できます: -Confirm:\$false (コロンは必須)。

## 例

- `Export-EVNARAArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp`  
指定されたアーカイブから出力フォルダ `c:¥Temp` にすべての永続レコードをエクスポートする
- `Export-EVNARAArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory "c:¥Exported Items" -StartDate 01/01/2010 -EndDate 02/02/2015`  
エクスポートを **01/01/2010** から **02/02/2015** までの日付範囲内に収まる永続レコードに制限する
- `Export-EVNARAArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory "c:¥Exported Items" -StartDate 01/01/2016`  
エクスポートを **01/01/2016** から本日までの日付範囲内に収まる永続レコードに制限する
- `Export-EVNARAArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory "c:¥Exported Items" -SearchString "to:mike_smith"`  
**Mike Smith** が受信者であった永続レコードのみをエクスポートする
- `Export-EVNARAArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp -IncludePreviouslyExported`  
新しいものに加えて、以前エクスポートした永続レコードをエクスポートする
- `Export-EVNARAArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp -Format PST -MaxPSTSizeMB 51200`  
すべての永続的なレコードを **1** つ以上の **PST** ファイルにエクスポートします。各ファイルのサイズは最大 **50 GB** までです。
- `Export-EVNARAArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp -MaxThreads 100`  
指定したアーカイブからのすべての永続レコードのエクスポートに対して **100** 個のスレッドを割り当てる

- "19D...EVServer1","18F...EVServer2","14C...EVServer3" |  
Export-EVNARAArchive -OutputDirectory "c:¥Exported Items"  
すべての永続レコードのエクスポート元の 3 つのアーカイブの ID をパイプ処理する

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。さらに、**cmdlet** は次を作成します。

- カンマで区切られた値(.csv)の形式のロードファイル
- ExportReport\_datetime.txt の名前のレポートファイル。たとえば、  
ExportReport\_20160311125651.txt です。このファイルはエクスポートしたアイテムの数を示し、**cmdlet** でエクスポートに失敗したアイテムを識別します。何らかの理由でエクスポートが失敗した場合は、レポートに考えられる原因が示されます。

## 関連コマンドレット

- p.287 の「[Export-EVArchive](#)」を参照してください。
- p.291 の「[Get-EVArchive](#)」を参照してください。
- p.238 の「[Get-EVRecordSettings](#)」を参照してください。

# Get-EVRecordSettings

Get EVRecordSettings は、1 つ以上のアーカイブのレコード管理設定に関する情報を提供します。**Capstone** または同等のレコード管理システムを実装するには、レコードを簡単に分類、検索、エクスポート、および破棄できるように、アイテムをレコードとしてマーク付けする必要があります。レコードの管理に **Enterprise Vault** を使用する方法については、『**管理者ガイド**』を参照してください。

Get-EVRecordSettings は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

## 構文

```
Get-EVRecordSettings [-ArchiveId <String>] [-ArchiveName <String>]  
[-User <String>] [-RetentionPlan <String>] [-RecordType <String>]  
[-RetentionCategory <String>] [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 11-2 Get-EVRecordSettings パラメータ

パラメータ	説明
-ArchiveId	レコード管理設定を返すアーカイブの ID を指定します。 Get-EVArchive を使用して必要な ID を取得できます。

パラメータ	説明
-ArchiveName	レコード管理設定を返すアーカイブの名前を指定します。複数のアーカイブが同じ名前を共有する場合、 <b>cmdlet</b> は複数のアーカイブの設定を返すことがあります。
-User	ユーザー名を指定することで、そのユーザーが書き込み権限を持つすべてのアーカイブのレコード管理設定が返されます。ドメイン¥ユーザーの形式で名前を入力します。
-RetentionPlan	保持計画の名前を指定することで、その計画を適用したすべてのアーカイブのレコード管理設定が返されます。
-RecordType	レコードタイプ ( <b>Pernament</b> または <b>Temporary</b> ) を指定することで、それがデフォルトタイプとなっているすべてのアーカイブのレコード管理設定が返されます。アーカイブに適用した保持計画で指定された保持カテゴリにより、アーカイブのデフォルトのレコードタイプが決まります。
-RetentionCategory	保持カテゴリを指定することで、この保持カテゴリで保持計画を適用したすべてのアーカイブのレコード管理設定が返されます。
-SiteId	対象の <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID を指定します。Enterprise Vault サーバー以外の任意のコンピュータで <b>cmdlet</b> を実行する場合、このパラメータは必須です。ArchiveId パラメータと SiteId パラメータの両方を指定しないでください。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。

## 例

- `Get-EVRecordSettings -ArchiveId 19D...EVServer1`  
指定されたアーカイブのレコード管理設定を返す
- `Get-EVRecordSettings -ArchiveName msmith`  
「msmith」という名前のすべてのアーカイブのレコード管理設定を返す
- `Get-EVRecordSettings -User "ドメイン¥ユーザー"`  
ユーザー「ドメイン¥ユーザー」が書き込み権限を持つすべてのアーカイブのレコード管理設定を返す
- `Get-EVRecordSettings -RetentionPlan RetPlanForManagers`  
保持計画「RetPlanForManagers」を適用したすべてアーカイブのレコード管理設定を返す
- `Get-EVRecordSettings -RecordType Permanent`  
保持カテゴリにレコードタイプ **Pernament** が関連付けされている保持計画を適用したすべてアーカイブのレコード管理設定を返す
- `Get-EVRecordSettings -RetentionCategory "デフォルトの保持カテゴリ"`

保持カテゴリが「デフォルトの保持カテゴリ」の保持計画を適用したすべてのアーカイブのレコード管理設定を返す

- `Get-EVRecordSettings -ArchiveName msmith -SiteId 13E...EV.example.com`  
指定したサイト内の「msmith」という名前のすべてアーカイブのレコード管理設定を返す
- `Get-EVRecordSettings -RetentionPlan RetPlanForManagers | format-table -auto`  
保持計画「RetPlanForManagers」を適用したすべてのアーカイブのレコード管理設定を表形式で返す

出力

この cmdlet は、次のプロパティを持つタイプ `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.RecordSettings` のオブジェクトを返します。

表 11-3                      Get-EVRecordSettings プロパティ

名前	種類	説明
ArchiveName	文字列	アーカイブの名前。
RetentionPlan	文字列	アーカイブに適用した保持計画の名前。
RetentionCategory	文字列	保持計画に関連付けた保持カテゴリ。
RecordType	文字列	保持カテゴリに関連付けたレコードタイプ。
ArchiveId	文字列	アーカイブの ID。
RetentionCategoryId	文字列	保持カテゴリの ID。

関連コマンドレット

- p.287 の「Export-EVArchive」を参照してください。
- p.291 の「Get-EVArchive」を参照してください。
- p.233 の「Export-EVNARAArchive」を参照してください。
- p.277 の「Get-EVSite」を参照してください。



# 保持計画

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVRetentionPlan](#)
- [New-EVRetentionPlan](#)
- [Remove-EVRetentionPlan](#)
- [Set-EVRetentionPlan](#)

## Get-EVRetentionPlan

`Get-EVRetentionPlan` は、**Enterprise Vault** サイトで設定されるすべての保持計画の一覧を返します。返された保持計画の一覧を説明、保持カテゴリ、上書き保持フラグ、分類ポリシー別にフィルタ処理できます。

特定の保持計画とこの計画で定義した保持フォルダ情報のプロパティを返すこともできます。保持フォルダについて詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

`Get-EVRetentionPlan` は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

### 構文

```
Get-EVRetentionPlan [-SiteId <String>] [-Name <String>] [-Description  
<String>] [-RetentionCategory <String>] [-OverrideRetention  
[<SwitchParameter>]] [-ClassificationPolicy <String>]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 12-1 Get-EVRetentionPlan パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	保持計画詳細を返す <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略して、 <b>cmdlet</b> がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、 <b>Get-EVRetentionPlan</b> によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name	プロパティを返す特定の保持計画の名前。
-Description	返された計画の一覧をフィルタ処理する保持計画説明。
-RetentionCategory	返された保持計画の一覧をフィルタ処理する保持カテゴリの名前。
-OverrideRetention	指定されている場合、上書き保持フラグを設定した保持計画のみを返します。このフラグは <b>Enterprise Vault</b> に、保持計画で設定した保持カテゴリに従って、各アイテムを期限切れにするように指示します。この保持カテゴリは、アイテムの個々の保持カテゴリを上書きします。
-ClassificationPolicy	返された保持計画の一覧をフィルタ処理する分類ポリシーの名前。

## 例

- **Get-EVRetentionPlan**  
**Enterprise Vault** サイトで設定されているすべての保持計画の一覧を返します。サイト ID が指定されていないため、**cmdlet** はまずその ID をレジストリ内で検索し、ID が見つからなかった場合は、それを入力するためのメッセージが表示されます。
- **Get-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com**  
指定した **Enterprise Vault** サイトで設定されるすべての保持計画の一覧を返します。
- **Get-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com -Name ManagersPlan**  
"ManagersPlan" という名前の保持計画のプロパティを返します。
- **Get-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com -Description RetentionPlanForManagers**  
返された保持計画の一覧を "RetentionPlanForManagers" の説明を含むものに制限します。

- `Get-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com -RetentionCategory 3years`  
返された保持計画の一覧を「3years」という保持カテゴリを含むものに制限します。
- `Get-EVRetentionPlan -OverrideRetention`  
返された保持計画の一覧を上書き保持フラグを指定したものに制限します。
- `Get-EVRetentionPlan -ClassificationPolicy "Managers CP"`  
返された保持計画の一覧を "Managers CP" という分類ポリシー名を含むものに制限します。
- `Get-EVRetentionPlan -ClassificationPolicy ""`  
返された保持計画の一覧を分類ポリシーが指定されていない保持計画に制限します。
- `Get-EVRetentionPlan -Name "ManagersPlan" |select -expand Folders | Format-Table`  
「ManagersPlan」保持計画で定義されている保持フォルダの情報を返します。次に例を示します。

FolderPath	FolderName	RetentionCategory	Expiry	Inheritance	Language
-----	-----	-----	-----	-----	-----
¥Business	Business	2-year	Folder	ThisFolderAndAllSubfolders	en
¥Business¥2018	2018	5-year	Item	ThisFolderAndAllSubfolders	en
¥Business¥2020	2020	2-year	Folder	ThisFolderAndAllSubfolders	en
¥Inbox	Inbox	1-year	Item	ThisFolderOnly	en
¥Inbox¥Finance	Finance	2-year	Folder	ThisFolderAndAllSubfolders	en
¥Inbox¥Legal	Legal	5-year	Item	ThisFolderOnly	en

この保持計画の `OverrideRetention` 設定と `ClassificationPolicy` 設定では、`Expiry` (有効期限) の値を有効にするかどうかを決定します。

- `Get-EVRetentionPlan -Name "ManagersPlanWithAlternateLanguage" |select -expand Folders | Format-Table`  
「ManagersPlanWithAlternateLanguage」保持計画で定義されている保持フォルダの情報を返します。次に例を示します。

FolderPath	FolderName	RetentionCategory	Expiry	Inheritance
-----	-----	-----	-----	-----
¥Business	Business	2-year	Folder	ThisFolderAndAllSubfolders
en				
¥Forretning	Forretning	2-year	Folder	ThisFolderAndAllSubfolders
da-DK				
¥Business¥Legal	Legal	5-year	Item	ThisFolderAndAllSubfolders

```
en
¥Forretning¥Gyldige Gyldige      5-year      Item ThisFolderAndAllSubfolders
da-DK
```

保持計画は、デンマーク語 (da-DK) では別のフォルダ名で作成されました。この場合のデフォルト言語は英語 (en) です。

- `Get-EVRetentionPlan -Name "ManagersPlan" |select -expand FolderXml`  
「ManagersPlan」保持計画の保持フォルダの情報を XML 形式で返します。
- `Get-EVRetentionPlan -Name "ManagersPlan" |select -expand FolderXml  
| Out-File c:¥retention_plan_folders.xml`  
「ManagersPlan」保持計画の保持フォルダの情報を  
c:¥retention\_plan\_folders.xml ファイルにエクスポートします。このファイルを  
編集して、Set-EVRetentionPlan cmdlet で保持フォルダ情報を再送信できます。

出力

表 12-2 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 12-2                   Get-EVRetentionPlan プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	保持計画の名前。
Description	文字列	保持計画の説明。
RetentionCategory	文字列	保持計画と関連付けられている保持カテゴリの名前。
OverrideRetention	SwitchParameter	この保持計画に上書き保持フラグを指定したかどうか。
ClassificationPolicy	文字列	保持計画と関連付けられている分類ポリシーの名前。
HasFolders	Boolean	保持計画で、保持フォルダを定義するかどうか。 <b>true</b> に設定すると、Folders および FolderXml プロパティに保持フォルダの情報が含まれます。  Folders プロパティには、Format-Table を使用してフォーマットできる表形式の情報が含まれます。  FolderXml プロパティには、ファイルに出力できる XML 形式の情報が含まれます。このファイルを編集して、Set-EVRetentionPlan cmdlet で保持フォルダ情報を再送信できます。

名前	種類	説明
DisableStorageExpiry	SwitchParameter	保持フォルダに問題があるすべてのアーカイブで、ストレージの有効期限を無効にするように選択したかどうか。

保持計画を使用できない場合、または **cmdlet** によって指定の条件と一致する計画が見つからない場合は、適切なエラーメッセージが出力されます。

## 関連コマンドレット

- p.245 の「[New-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.250 の「[Remove-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.251 の「[Set-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。

# New-EVRetentionPlan

New-EVRetentionPlan は、Enterprise Vault サイトに対し保持計画を作成します。

New-EVRetentionPlan は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
New-EVRetentionPlan -SiteId <String> -Name <String> -Description  
<String> -RetentionCategory <String> [-OverrideRetention  
[<SwitchParameter>]] [-ClassificationPolicy <String>] [-FolderXmlPath  
<String>] [-DisableStorageExpiry [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

```
New-EVRetentionPlan -SiteId <String> -Name <String> -Description  
<String> -RetentionCategory <String> [-OverrideRetention  
[<SwitchParameter>]] [-ClassificationPolicy <String>] [-FolderXml  
<String>] [-DisableStorageExpiry [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 12-3 New-EVRetentionPlan パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	保持計画詳細を作成する <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。 このパラメータを省略して、 <b>cmdlet</b> がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、New-EVRetentionPlan によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name (必須)	保持計画の名前。名前は一意である必要があり、最大 <b>40</b> 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。
-Description (必須)	保持計画の説明。説明は、最大 <b>127</b> 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。
-RetentionCategory (必須)	保持計画と関連付ける保持カテゴリの名前。
-OverrideRetention	このパラメータを追加すると、影響を受けるアイテムの現在の保持カテゴリが、この計画に関連付けられている保持カテゴリで上書きされます。  <b>メモ:</b> 分類ルールによってアイテムの保持カテゴリを更新できるようにする分類ポリシーに計画が関連付けられている場合には、このパラメータを省略してください。この場合、 <b>Enterprise Vault</b> は分類ルールによって適用される保持カテゴリに従ってアイテムが期限切れになります。
-ClassificationPolicy	保持計画と関連付ける分類ポリシーの名前。これを指定すると、 <b>Enterprise Vault</b> は分類ポリシーで指定されたルールに従って、この保持計画を持つすべてのアーカイブ済みアイテムの分類に送信し、タグ付けします。  <b>メモ:</b> <b>Enterprise Vault</b> 保持機能のライセンスをインストールする必要がある場合、または既存のライセンスが期限切れになった場合、分類はテストモードで動作します。分類機能は、分類タグとその他の変更をアーカイブ済みアイテムに適用する代わりに、計画された変更をリストするレポートを生成します。

パラメータ	説明
-FolderXmlPath	<p>1 つ以上の保持フォルダのプロパティを定義する XML ファイルのパス。保持フォルダと必要な XML ファイルの準備方法のガイドラインについて詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>Enterprise Vault にはサンプルの XML ファイル RetentionFoldersSample.xml が用意されています。必要に応じて、このファイルをコピーしたり修正したりできます。このファイルは、Enterprise Vault インストールフォルダ (例: C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Modules\EnterpriseVault) の Modules\EnterpriseVault サブフォルダにあります。</p> <p>分類機能によって各アイテムの保持カテゴリを更新できるようにする分類ポリシーにこの保持計画を関連付けている場合は、保持フォルダについて Expiry を Item (Folder ではなく) に設定する必要があります。</p> <p>絶対パス、相対パス、または UNC パスを入力します。空白文字を含む場合は引用符で囲みます。</p>
-FolderXml	<p>このパラメータは、-FolderXmlPath パラメータと同じ機能を実行します。ただし、この場合は、保持フォルダのプロパティを外部ファイルで定義するのではなく、パラメータに追加する XML 文字列で定義します。</p> <p>バッククォート文字(`)を使用して、この文字列内の引用符をエスケープします。</p>
-DisableStorageExpiry	<p>保持フォルダに問題があるすべてのアーカイブでストレージの有効期限を無効にする場合に、このパラメータを追加します。</p>

## 例

- `New-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com -Name "Projects Retention Plan" -Description "Plan created for managing projects" -RetentionCategory "5 years"`  
指定されている Enterprise Vault サイトに "Projects Retention Plan" という名前の保持計画を作成します。新しい計画には、"Plan created for managing projects" という説明と、"5 years" という保持カテゴリがあります。
- `New-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -Description "Plan created for managing projects" -RetentionCategory "5 years" -OverrideRetention -ClassificationPolicy "Managers CP"`

指定された説明と保持カテゴリを含む保持計画を作成します。サイト ID が指定されていないため、cmdlet はまずその ID をレジストリ内で検索し、ID が見つからなかった場合は、それを入力するためのメッセージが表示されます。

アイテムが手動で削除された場合、または自動的に期限切れになった場合、「5 years」の保持カテゴリによってアイテムの現在の保持カテゴリが上書きされます。ただし、「Managers CP」分類ポリシーで各アイテムの保持カテゴリを分類によって更新できるようにしている場合は、-OverrideRetention パラメータを省略する必要があります。Enterprise Vault では、分類ルールによって適用される保持カテゴリに従ってアイテムが期限切れになります。

- `Get-EVRetentionPlan -Name "Existing Retention Plan" | New-EVRetentionPlan -Name "New Retention Plan" -RetentionCategory "1 year"`

既存の保持計画のすべての設定を新しい設定にパイプします。新しい計画では、既存の計画に設定した保持カテゴリではなく、「1 year」の保持カテゴリになります。

- `New-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -Description "Plan for adding retention folders" -RetentionCategory "5 years" -FolderXmlPath "c:¥My XML Files¥folders.xml" -DisableStorageExpiry`  
指定した XML ファイル folders.xml に保持計画を作成して、保持フォルダのプロパティを 1 つ以上定義します。XML ファイル内でこれらのフォルダに対して定義されている保持設定は、保持計画に関連付けられている「5 年間」の保持カテゴリを上書きします。また、このコマンドは、保持フォルダの問題があるアーカイブでストレージの有効期限を無効にします。

- `New-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -Description "Plan for New Projects" -RetentionCategory "5 years" -FolderXml "<?xml version='1.0' encoding='utf-16'?'><RetentionFolderRoot><RetentionFolder Name='Documents' RetentionCategory='5 years' Expiry='Folder' Inheritance='ThisFolderAndAllSubfolders' /></RetentionFolder></RetentionFolderRoot>"`

指定した名前、説明、保持カテゴリで保持計画を作成して、保持フォルダ「Documents」と関連付けます。次のコマンドを使用して、計画の保持フォルダ情報を取得できます。

```
Get-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" | select
-expand Folders | sort FolderPath | ft -AutoSize
```

このコマンドでは、次の出力が生成されます。

FolderPath	FolderName	RetentionCategory	Expiry	Inheritance
-----	-----	-----	-----	-----
¥Documents	Documents	5 years	Folder	ThisFolderAndAllSubfolders

- `New-EVRetentionPlan -Name "New Projects Plan" -Description "Plan for New Projects" -RetentionCategory "5 years" -FolderXml "<?xml`



```
version="1.0" encoding="utf-16"?><RetentionFolderRoot>
<Languages><Language>da-DK</Language><Language>zh-cn</Language>
</Languages><RetentionFolder Name="Documents"
RetentionCategory="5 years" Expiry="Folder"
Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders"><Name
lang="da-DK">Dokumenter</Name><Name lang="Zh-CN">文件
</Name></RetentionFolder></RetentionFolderRoot>
```

前述の例のコマンドと同じ機能を実行しますが、通常デンマーク語または簡体字中国語を使用するユーザー向けに、保持フォルダ名の各言語バージョンも提供します。

## 出力

表 12-4 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 12-4 New-EVRetentionPlan プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	保持計画の名前。
Description	文字列	保持計画の説明。
RetentionCategory	文字列	保持計画と関連付けられている保持カテゴリの名前。
OverrideRetention	SwitchParameter	この保持計画に上書き保持フラグを指定したかどうか。
ClassificationPolicy	文字列	保持計画が関連付けられている分類ポリシーの名前。
HasFolders	Boolean	保持計画で、保持フォルダを定義するかどうか。 <b>true</b> に設定すると、Folders および FolderXml プロパティに保持フォルダの情報が含まれます。  Folders プロパティには、Format-Table を使用してフォーマットできる表形式の情報が含まれます。  FolderXml プロパティには、ファイルに出力できる XML 形式の情報が含まれます。
DisableStorageExpiry	SwitchParameter	保持フォルダに問題があるすべてのアーカイブで、ストレージの有効期限を無効にするように選択したかどうか。

## 関連 cmdlet

- p.241 の「[Get-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.250 の「[Remove-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.251 の「[Set-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。

# Remove-EVRetentionPlan

Remove-EVRetentionPlan は、使用中でなければ、指定した保持計画を削除します。  
cmdlet により、保持計画の削除を確認するためのメッセージが表示されます。

次のいずれかに関連付けされた保持計画を削除できません。

- Exchange、Domino、IMAP、または SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループ
- FSA ボリュームまたはフォルダポリシー
- パブリックフォルダの対象
- SharePoint 対象またはサイトコレクション
- Set-EVArchive PowerShell cmdlet で保持計画を割り当てたアーカイブ

保持計画とこれらのエンティティの関連付けを解除してから、適切なプロビジョニングまたはアーカイブタスクを実行してターゲットアーカイブとの関連付けを削除する必要があります。

Remove-EVRetentionPlan は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Remove-EVRetentionPlan -SiteId <String> -Name <String>  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 12-5 Remove-EVRetentionPlan パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	保持計画が属する <b>Enterprise Vault</b> サイトの ID。このパラメータを省略して、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、Remove-EVRetentionPlan によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name (必須)	削除する保持計画の名前。

## 例

- Remove-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com -Name "PlanForCEOs"  
"PlanForCEOs" という名前の保持計画を削除します。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

## 関連コマンドレット

- p.241 の「[Get-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.245 の「[New-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.251 の「[Set-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.301 の「[Set-EVArchive](#)」を参照してください。
- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。

# Set-EVRetentionPlan

Set-EVRetentionPlan は、説明、関連付けられた保持カテゴリ、分類ポリシー、保持フォルダなど、既存の保持計画のプロパティを設定または更新します。

保持計画の設定を変更する場合は、適切なプロビジョニングタスクを実行するか、または対象のアーカイブに変更を適用するために適切なアーカイブタスクを再起動する必要があります。たとえば、保持計画を **SMTP** ターゲットのアーカイブに関連付けた場合は、**SMTP** アーカイブタスクを再起動する必要があります。**Exchange** 環境では、**Exchange** メールボックスアーカイブタスクを再起動し、メールボックスの同期も行う必要があります。

Set-EVRetentionPlan は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Set-EVRetentionPlan -SiteId <String> -Name <String> [-Description
<String>] [-RetentionCategory <String>] [-OverrideRetention
[<SwitchParameter>]] [-ClassificationPolicy <String>] [-FolderXmlPath
<String>] [-DisableStorageExpiry [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]

Set-EVRetentionPlan -SiteId <String> -Name <String> [-Description
<String>] [-RetentionCategory <String>] [-OverrideRetention
[<SwitchParameter>]] [-ClassificationPolicy <String>] [-FolderXml
<String>] [-DisableStorageExpiry [<SwitchParameter>]]
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 12-6 Set-EVRetentionPlan パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId (必須)	保持計画の詳細を設定または更新する Enterprise Vault サイトの ID。このパラメータを省略して、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、Set-EVRetentionPlan によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。  Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-Name (必須)	設定または更新対象のプロパティを持つ特定の保持計画の名前。
-Description	保持計画の設定の説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。
-RetentionCategory	保持計画と関連付ける保持カテゴリの名前。
-OverrideRetention	このパラメータを追加すると、影響を受けるアイテムの現在の保持カテゴリが、この計画に関連付けられている保持カテゴリで上書きされます。  <b>メモ:</b> 分類ルールによってアイテムの保持カテゴリを更新できるようにする分類ポリシーに計画に関連付けられている場合には、このパラメータを省略してください。この場合、Enterprise Vault は分類ルールによって適用される保持カテゴリに従ってアイテムが期限切れになります。

パラメータ	説明
-ClassificationPolicy	<p>保持計画と関連付ける分類ポリシーの名前。これを指定すると、<b>Enterprise Vault</b> は分類ポリシーで指定されたルールに従って、この保持計画を持つすべてのアーカイブ済みアイテムの分類に送信し、タグ付けします。</p> <p><b>メモ:</b> <b>Enterprise Vault</b> 保持機能のライセンスをインストールする必要がある場合、または既存のライセンスが期限切れになった場合、分類はテストモードで動作します。分類機能は、分類タグとその他の変更をアーカイブ済みアイテムに適用する代わりに、計画された変更をリストするレポートを生成します。</p>
-FolderXmlPath	<p>1 つ以上の保持フォルダのプロパティを定義する <b>XML</b> ファイルのパス。新しい保持フォルダを作成することも、既存の保持フォルダを更新または削除することもできます。保持フォルダと必要な <b>XML</b> ファイルの準備方法のガイドラインについて詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。</p> <p><b>Enterprise Vault</b> にはサンプルの <b>XML</b> ファイル <code>RetentionFoldersSample.xml</code> が用意されています。必要に応じて、このファイルをコピーしたり修正したりできます。このファイルは、<b>Enterprise Vault</b> インストールフォルダ (例: <code>C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Modules\EnterpriseVault</code>) の <code>Modules\EnterpriseVault</code> サブフォルダにあります。</p> <p>分類機能によって各アイテムの保持カテゴリを更新できるようにする分類ポリシーにこの保持計画を関連付けている場合は、保持フォルダについて <code>Expiry</code> を <code>Item</code> (Folder ではなく) に設定する必要があります。</p> <p>絶対パス、相対パス、または <b>UNC</b> パスを入力します。空白文字を含む場合は引用符で囲みます。</p>
-FolderXml	<p>このパラメータは、<code>-FolderXmlPath</code> パラメータと同じ機能を実行します。ただし、この場合は、保持フォルダのプロパティを外部ファイルで定義するのではなく、パラメータに追加する <b>XML</b> 文字列で定義します。新しい保持フォルダを作成することも、既存の保持フォルダを更新または削除することもできます。</p> <p>バッククォート文字 (') を使用して、この文字列内の引用符をエスケープします。</p>
-DisableStorageExpiry	<p>保持フォルダに問題があるすべてのアーカイブでストレージの有効期限を無効にする場合に、このパラメータを追加します。</p>

## 例

- `Set-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com -Name "Projects Retention Plan" -Description "Plan created for managing projects" -RetentionCategory "5 years"`

指定されている **Enterprise Vault** サイトで「**Projects Retention Plan**」という名前の既存の保持計画のプロパティを更新します。この計画には、「**Plan created for managing projects**」という説明と、「**5 years**」という保持カテゴリがあります。

- `Set-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -ClassificationPolicy CP`

指定した保持計画の分類ポリシーのプロパティを更新します。

- `Set-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -ClassificationPolicy CP -OverrideRetention`

指定した保持計画に上書き保持フラグを設定します。アイテムが手動で削除されるか、自動的に期限切れになる場合、計画で設定した保持カテゴリによって現在の保持カテゴリが上書きされます。ただし、分類ポリシーで各アイテムの保持カテゴリを分類によって更新できるようにしている場合は、`-OverrideRetention` パラメータを省略する必要があります。**Enterprise Vault** では、分類ルールによって適用される保持カテゴリに従ってアイテムが期限切れになります。

- `Set-EVRetentionPlan -SiteId 13E9...localdomain.com -Name "Projects Retention Plan" -Description "Plan updated for managing projects" -RetentionCategory "6 years" -OverrideRetention -ClassificationPolicy CP2`

指定されている **Enterprise Vault** サイトで「**Projects Retention Plan**」という名前の既存の保持計画のプロパティを更新します。この計画には、「**Plan updated for managing projects**」という説明と、「**6 years**」という保持カテゴリがあります。

- `Set-EVRetentionPlan -SiteId 13E...localdomain.com -Name "Projects Retention Plan" -ClassificationPolicy ''`

分類が発生しないように、以前に適用した分類ポリシーを削除します。

- `Set-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -FolderXmlPath c:\%RetentionFolders.xml -DisableStorageExpiry`

ファイル `c:\%RetentionFolders.xml` で定義されている保持フォルダの変更を保持計画「**Projects Retention Plan**」に適用します。また、このコマンドは、保持フォルダの問題があるアーカイブでストレージの有効期限を無効にします。たとえば、次の **XML** で保持フォルダの設定を定義していたとします。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-16"?>
<RetentionFolderRoot>
  <RetentionFolder Name="Inbox" RetentionCategory="1 Year"
    Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly" />
```

```
<RetentionFolder Name="Business" RetentionCategory="5 Years"
  Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly" />
</RetentionFolderRoot>
```

「Inbox」フォルダを削除し、「Business」フォルダの保持カテゴリを「1 Year」に変更して、「Business」フォルダのサブフォルダとして新しいフォルダ「Unit」を作成するには、次を c:¥RetentionFolders.xml として保存し、上記のコマンドで送信します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-16"?>
<RetentionFolderRoot>
  <RetentionFolder Name="Business" RetentionCategory="1 Year"
    Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly">
    <RetentionFolder Name="Unit" RetentionCategory="5 Years"
      Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders" />
  </RetentionFolder>
</RetentionFolderRoot>
```

次のコマンドを使用して、計画の保持フォルダ情報を取得できます。

```
Get-EVRetentionPlan -Name "New Projects Plan" | select -expand
Folders | sort FolderPath | ft -AutoSize
```

このコマンドでは、次の出力が生成されます。

FolderPath	FolderName	RetentionCategory	Expiry	Inheritance
-----	-----	-----	-----	-----
¥Business	Business	1 year	Item	ThisFolderOnly
¥Business¥Unit	Unit	5 years	Item	ThisFolderAndAllSubfolders

- Set-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -FolderXml  
" <?xml version="1.0"  
encoding="utf-16"><RetentionFolderRoot><RetentionFolder  
Name="Business" RetentionCategory="1 Year" Expiry="Item"  
Inheritance="ThisFolderOnly"><RetentionFolder Name="Unit"  
RetentionCategory="5 Years" Expiry="Item"  
Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders"  
/></RetentionFolder></RetentionFolderRoot>" -DisableStorageExpiry  
前の例のコマンドと同じ機能を実行します。ただし、今度は、保持フォルダの変更を  
XML ファイルで定義するのではなく、コマンドに追加する XML 文字列で定義してい  
ます。
- Set-EVRetentionPlan -Name "New Projects Plan" -FolderXmlPath  
C:¥RetentionFolders.xml  
ファイル c:¥RetentionFolders.xml で定義されている保持フォルダの変更を保持  
計画「Projects Retention Plan」に適用します。このコマンドを使用すると、以前に作

成した保持フォルダに、他の言語で別名を指定できます。たとえば、次の XML で保持フォルダの設定を定義していたとします。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-16"?>
<RetentionFolderRoot>
  <RetentionFolder Name="Business" RetentionCategory="1 Year"
    Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly" />
  <RetentionFolder Name="Unit" RetentionCategory="5 Years"
    Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly" />
</RetentionFolderRoot>
```

次の内容を C:\¥RetentionFolders.xml として保存し、前述のコマンドで送信すると、デンマーク語ユーザー用にフォルダの別名を提供することができます。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-16"?>
<RetentionFolderRoot>
  <Languages>
    <Language>DA-DK</Language>
  </Languages>
  <RetentionFolder Name="Business" RetentionCategory="1 Year"
    Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly">
    <Name lang="DA-DK">Forretning</Name>
  </RetentionFolder>
  <RetentionFolder Name="Unit" RetentionCategory="5 Years"
    Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly">
    <Name lang="DA-DK">Enhed</Name>
  </RetentionFolder>
</RetentionFolderRoot>
```

<Languages> ノードで、フォルダの別名を提供する言語を指定できます (デンマーク語の場合は「DA-DK」)。各 <RetentionFolder> ノード内で、フォルダの別名 (「Business」に「Forretning」、「Unit」に「Enhed」) を入力できます。複数の言語で保持フォルダの代替名を指定する方法について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

出力

表 12-7 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 12-7 Set-EVRetentionPlan プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	保持計画の名前。
Description	文字列	保持計画の説明。



名前	種類	説明
RetentionCategory	文字列	保持計画と関連付けられている保持カテゴリの名前。
OverrideRetention	SwitchParameter	この保持計画に上書き保持フラグを指定したかどうか。
ClassificationPolicy	文字列	保持計画が関連付けられている分類ポリシーの名前。
HasFolders	Boolean	保持計画で、保持フォルダを定義するかどうか。 <b>true</b> に設定すると、Folders および FolderXml プロパティに保持フォルダの情報が含まれます。  Folders プロパティには、Format-Table を使用してフォーマットできる表形式の情報が含まれます。  FolderXml プロパティには、ファイルに出力できる XML 形式の情報が含まれます。
DisableStorageExpiry	SwitchParameter	保持フォルダに問題があるすべてのアーカイブで、ストレージの有効期限を無効にするように選択したかどうか。

## 関連 cmdlet

- p.241 の「[Get-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.245 の「[New-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.250 の「[Remove-EVRetentionPlan](#)」を参照してください。
- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。

# 役割ベースの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [Add-EVRBARoleMember](#)
- [Get-EVRBAAzStoreXml](#)
- [Get-EVRBARole](#)
- [Get-EVRBARoleMember](#)
- [Remove-EVRBARoleMember](#)
- [Set-EVRBAAzStoreXml](#)

## Add-EVRBARoleMember

`Add-EVRBARoleMember` は、1 つ以上の **Active Directory** ユーザー、グループまたは組み込みセキュリティプリンシパルを **Enterprise Vault RBA** ロールの新メンバーとして追加します。

`-Identity` パラメータはアクセスする **Enterprise Vault RBA** ロールを指定します。RBA ロールはその名前または **GUID** で識別できます。パイプラインを使ってロールオブジェクトを渡すことでロールを指定することもできます。たとえば、`Get-EVRBARole` を使ってロールオブジェクトを取得し、そのオブジェクトをパイプラインを介して `Add-EVRBARoleMember` に渡すことができます。`-Identity` または `-InputObject` パラメータを指定しない場合は、`-Identity` の値を入力するように求められます。

`-Members` パラメータでロールに追加する新メンバーを指定します。新メンバーはそのセキュリティ ID (SID) または **SAM** アカウント名で識別できます。複数の新メンバーを指定する場合は、カンマ区切りのリストを使います。この **cmdlet** には、パイプラインを介してメンバーオブジェクトを渡すことができません。`-Members` パラメータを指定しない場合は、`-Members` の値を入力するように求められます。

Enterprise Vault ディレクトリサーバーは、-EVDirectoryServer パラメータを使って指定できます。-EVDirectoryServer パラメータを指定しない場合に Add-EVRBARoleMember がディレクトリを判別できない場合は、Enterprise Vault ディレクトリサーバーを入力するように求められます。

この cmdlet を実行する権限は Vault サービスアカウントに制限されています。

Add-EVRBARoleMember は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Add-EVRBARoleMember [-Identity] <String> [-Members] <String[]>
-EVDirectoryServer <String> [-PassThru <Switch>] [-Confirm <Switch>]
[-WhatIf <Switch>] [<CommonParameters>]

Add-EVRBARoleMember [-InputObject]
<Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole> [-Members] <String[]>
-EVDirectoryServer <String> [-PassThru <Switch>] [-Confirm <Switch>]
[-WhatIf <Switch>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 13-1 Add-EVRBARoleMember パラメータ

パラメータ	説明
-Identity (必須)	名前または GUID を使って Enterprise Vault RBA ロールを指定します。
-InputObject (必須)	Enterprise Vault RBA ロールオブジェクトを指定します。 このパラメータでパイプラインを介してこのオブジェクトを取得できます。または、このパラメータをオブジェクトに設定できます。

パラメータ	説明
-Members (必須)	<p><b>Active Directory</b> ユーザー、グループまたは組み込みセキュリティプリンシパルの設定をカンマ区切りのリストで指定してロールに追加します。</p> <p>各オブジェクトを識別するには、次のプロパティ値のいずれかを使います。括弧内の識別子は <b>LDAP</b> 表示名です。このパラメータの受け入れ可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ セキュリティ ID (objectSid)</li> <li>■ SAM アカウント名 (sAMAccountName)</li> </ul> <p>このパラメータの指定方法を次の例に示します。この例では、<b>SAM</b> アカウント名プロパティを使ってユーザーとグループを指定し、<b>SID</b> プロパティを使って別のユーザーを指定します。</p> <pre>-Members "fsaAdmin@example.com", "NT AUTHORITY¥This Organization", "S-1-5-21-1529523603-1500826627-74573220-1119"</pre> <p>このパラメータにはオブジェクトを提供できません。このパラメータには、パイプラインを介してオブジェクトを渡すことができません。</p>
-EVDirectoryServer (必須)	<p><b>Enterprise Vault</b> ディレクトリサーバーのホスト名、完全修飾ドメイン名または <b>DNS</b> エイリアスを指定します。このパラメータは必須パラメータですが、可能な場合は <b>cmdlet</b> によって自動的に判別されます。</p>
-PassThru	<p>操作対象のロールを表すオブジェクトを返します。デフォルトでは、この <b>cmdlet</b> は出力を生成しません。</p>
-Confirm	<p><b>cmdlet</b> を実行する前に確認するように求められます。</p>
-WhatIf	<p><b>cmdlet</b> の実行結果のプレビューが表示されます。<b>cmdlet</b> は実際には実行されません。</p>

## 例

- `Add-EVRBARoleMember -Identity "ファイルサーバー管理者" -Members "fsaAdmin@example.com", "example¥fsaGroup", "S-1-5-21-1529523603-1500826627-74573220-1119"`  
指定した **Active Directory** メンバーを“ファイルサーバー管理者”という **Enterprise Vault RBA** ロールに追加します。
- `Add-EVRBARoleMember "File Server Administrator"`  
追加するメンバーを求めて、“**File Server Administrator**”という **Enterprise Vault RBA** ロールに追加します。パラメータ `-Identity` は位置決定されたパラメータ(ポジション 0)であるため、この例では指定しなくても問題ありません。

- さらに、-EVDirectoryServer パラメータを指定して、任意の Enterprise Vault ディレクトリに接続できます。

```
Add-EVRBARoleMember "ファイルサーバー管理者" -EVDirectoryServer
evs2.example.com
```

メンバーを追加するように求めて、-EVDirectoryServer パラメータで識別した Enterprise Vault ディレクトリ内の“ファイルサーバー管理者”という Enterprise Vault RBA ロールにメンバーを追加します。

- -InputObject の使い方の例:

```
$r = Get-EVRBARole "file server administrator"
```

```
Add-EVRBARoleMember -InputObject $r
```

追加するメンバーを求めて、現在の Enterprise Vault ディレクトリにある“File Server Administrator”という Enterprise Vault RBA ロールにそのメンバーを追加します。パラメータ -InputObject は位置決定されたパラメータ (ポジション 0) であるため、この例では指定しなくても問題ありません。

- 文字列のパイプ処理の例:

```
"file server administrator" | Add-EVRBARoleMember
```

追加するメンバーを求めて、現在の Enterprise Vault ディレクトリにある“File Server Administrator”という Enterprise Vault RBA ロールにそのメンバーを追加します。

- EVRbaRole のパイプ処理の例:

```
Get-EVRBARole "file server administrator" -EVDirectoryServer
evs2.example.com | Add-EVRBARoleMember -Members "fsaAdmin1",
"fsaAdmin2" -EVDirectoryServer evs2.example.com
```

Get-EVRBARole cmdlet から取得した EVRbaRole オブジェクトを

Add-EVRBARoleMember cmdlet にパイプ処理して、指定したメンバーをそのロールに追加します。パラメータ -EVDirectoryServer では、使う各 cmdlet の Enterprise Vault ディレクトリも指定します。

## 出力

Add-EVRBARoleMember は、-PassThru パラメータを指定する場合、出力またはタイプ Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole の変更済みオブジェクトを返しません。Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole のプロパティを次に示します。

**表 13-2** Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	Enterprise Vault RBA ロールの名前。
RoleGuid	文字列	Enterprise Vault RBA ロールの GUID。
TaskLinkDescription	文字列	関連付けられた TaskLink の説明。

名前	種類	説明
TaskLinkGuid	文字列	関連付けられた TaskLink の GUID。

## 関連コマンドレット

- p.263 の「[Get-EVRBARole](#)」を参照してください。
- p.265 の「[Get-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。
- p.268 の「[Remove-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。

# Get-EVRBAAzStoreXml

Get-EVRBAAzStoreXml は、Enterprise Vault ディレクトリデータベースから指定したフォルダ内にある EvAzStore.xml というファイルに RBA ストアをダウンロードします。

Enterprise Vault ディレクトリデータベースは -EVDirectoryServer パラメータを使って指定します。指定したフォルダに EvAzStore.xml というファイルがすでに含まれている場合は、Get-EVRBAAzStoreXml はそれを上書きします。

適切なエディタを使って EvAzStore.xml を編集し、Set-EVRBAAzStoreXml を使って Enterprise Vault ディレクトリにアップロードできます。

この cmdlet を実行する権限は Vault サービスアカウントに制限されています。

Enterprise Vault サーバー以外のサーバーから Get-EVRBAAzStoreXml を実行すると、-EVDirectoryServer パラメータが求められます (-EVDirectoryServer をパラメータとしてすでに指定している場合を除く)。

Get-EVRBAAzStoreXml は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Get-EVRBAAzStoreXml [-FolderPath] <String> -EVDirectoryServer <String>  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 13-3 Get-EVRBAAzStoreXml パラメータ

パラメータ	説明
-FolderPath (必須)	EvAzStore.xml のダウンロード先のフォルダを指定します。

パラメータ	説明
-EVDirectoryServer (必須)	Enterprise Vault ディレクトリサーバーのホスト名、完全修飾ドメイン名または DNS エイリアスを指定します。このパラメータは必須パラメータですが、可能な場合は cmdlet によって自動的に判別されます。

## 例

- `Get-EVRBAzStoreXml "C:¥EvAzStoreXmlLocation"`  
ローカルでインストールされた Enterprise Vault サーバーから `C:¥EvAzStoreXmlLocation` に `EvAzStore.xml` をダウンロードします。
- `Get-EVRBAzStoreXml "C:¥EvAzStoreXmlLocation" -EVDirectoryServer "evserver.example.com"`  
`evserver.example.com` から `C:¥EvAzStoreXmlLocation` に `EvAzStore.xml` をダウンロードします。
- `Get-EVRBAzStoreXml -FolderPath "C:¥EvAzStoreXmlLocation" -EVDirectoryServer "evserver.example.com"`  
`evserver.example.com` から `C:¥EvAzStoreXmlLocation` に `EvAzStore.xml` をダウンロードします。名前付きのパラメータの使用を書き留めます。

## 出力

なし。

## 関連コマンドレット

- p.271 の「[Set-EVRBAzStoreXml](#)」を参照してください。

# Get-EVRBARole

`Get-EVRBARole` は Enterprise Vault ディレクトリからすべての Enterprise Vault RBA ロールを取得します。`-Name` パラメータを使って完全または部分的なロール名を指定することにより、特定の RBA ロールを取得することもできます。

Enterprise Vault ディレクトリは `-EVDirectoryServer` パラメータを使って指定できます。`-EVDirectoryServer` パラメータを指定しない場合に、`Get-EVRBARole` がディレクトリを判別できない場合は、`-EVDirectoryServer` の値を入力するように求められます。

この cmdlet を実行する権限は Vault サービスアカウントに制限されています。

`Get-EVRBARole` は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

構文

```
Get-EVRBARole [[-Name] <String>] -EVDirectoryServer <String>
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 13-4 Get-EVRBARole パラメータ

パラメータ	説明
-Name	Enterprise Vault RBA ロールの名前のすべてまたは一部を識別します。
-EVDirectoryServer (必須)	Enterprise Vault ディレクトリサーバーのホスト名、完全修飾ドメイン名または DNSエイリアスを指定します。このパラメータは必須パラメータですが、可能な場合は cmdlet によって自動的に判別されます。

例

- `Get-EVRBARole`  
現在の Enterprise Vault ディレクトリからすべての Enterprise Vault RBA ロールを取得します。
- `Get-EVRBARole -Name "ファイルサーバー管理者"`  
現在の Enterprise Vault ディレクトリから “ファイルサーバー管理者” という名前の Enterprise Vault RBA ロールを取得します。
- `Get-EVRBARole ex*`  
ワイルドカード検索を実行し、“ex” で始まる名前の Enterprise Vault RBA ロールオブジェクトを取得します。次に例を示します。
  - Exchange 管理者
  - 拡張コンテンツプロバイダの管理者
  - 拡張コンテンツプロバイダアプリケーションパラメータ -Name は位置決定されたパラメータ (ポジション 0) であるため、この例では指定しなくても問題ありません。
- 上記の例では、-EVDirectoryServer パラメータを使って、指定した Enterprise Vault ディレクトリに接続することもできます。
  - `Get-EVRBARole -EVDirectoryServer evs2.example.com`  
-EVDirectoryServer パラメータによって識別された Enterprise Vault ディレクトリからすべての Enterprise Vault RBA ロールを取得します。
  - `Get-EVRBARole ex* -EVDirectoryServer evs2.example.com`



-EVDirectoryServer パラメータによって識別された Enterprise Vault ディレクトリにある「ex」で始まる名前の Enterprise Vault RBA ロールオブジェクトを取得します。

- 文字列のパイプ処理の例:  
"ex\*", "ファイルサーバー管理者" | Get-EVRBARole  
一致する Enterprise Vault RBA ロールオブジェクトを取得します。

## 出力

Get-EVRBARole は、次のプロパティを持つタイプ  
Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole のオブジェクトを返します。

表 13-5 Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	Enterprise Vault RBA ロールの名前。
RoleGuid	文字列	Enterprise Vault RBA ロールの GUID。
TaskLinkDescription	文字列	関連付けられた TaskLink の説明。
TaskLinkGuid	文字列	関連付けられた TaskLink の GUID。

## 関連コマンドレット

- p.258 の「[Add-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。
- p.265 の「[Get-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。
- p.268 の「[Remove-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。

# Get-EVRBARoleMember

Get-EVRBARoleMember は Enterprise Vault ディレクトリから Enterprise Vault RBA ロールのメンバーを取得します。メンバーには、Active Directory ユーザー、ユーザー、グループまたは組み込みセキュリティプリンシパルが含まれます。

-Identity パラメータはアクセスする Enterprise Vault RBA ロールを指定します。RBA ロールはその名前または GUID で識別できます。パイプラインを使ってロールオブジェクトを渡すことでロールを指定することもできます。たとえば、Get-EVRBARole を使ってロールオブジェクトを取得して、そのオブジェクトをパイプラインを介して Get-EVRBARoleMember に渡すことができます。-Identity または -InputObject パラメータを指定しない場合は、-Identity の値を入力するように求められます。

Enterprise Vault ディレクトリは -EVDirectoryServer パラメータを使って指定できます。-EVDirectoryServer パラメータを指定しない場合に Get-EVRBARoleMember が

ディレクトリを判別できない場合は、-EVDirectoryServer の値を入力するように求められます。

Enterprise Vault サーバー以外のサーバーから Get-EVRBARoleMember を実行すると、-EVDirectoryServer パラメータが求められます (-EVDirectoryServer をパラメータとしてすでに指定している場合を除く)。

この cmdlet を実行する権限は Vault サービスアカウントに制限されています。

Get-EVRBARoleMember は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Get-EVRBARoleMember [-Identity] <String> -EVDirectoryServer <String>
[<CommonParameters>]

Get-EVRBARoleMember [-InputObject]
<Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole> -EVDirectoryServer <String>
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 13-6 Get-EVRBARoleMember パラメータ

パラメータ	説明
-Identity (必須)	名前または GUID を使って Enterprise Vault RBA ロールを指定します。
-InputObject (必須)	Enterprise Vault RBA ロールオブジェクトを指定します。このパラメータでパイプラインを介してこのオブジェクトを取得できます。または、このパラメータをオブジェクトに設定できます。
-EVDirectoryServer (必須)	Enterprise Vault ディレクトリサーバーのホスト名、完全修飾ドメイン名または DNSエイリアスを指定します。このパラメータは必須パラメータですが、可能な場合は cmdlet によって自動的に判別されます。

例

- Get-EVRBARoleMember -Identity "File Server Administrator"  
現在の Enterprise Vault ディレクトリから「File Server Administrator」という名前の Enterprise Vault RBA ロールのメンバーを取得します。
- Get-EVRBARoleMember "File Server Administrator"  
現在の Enterprise Vault ディレクトリから「File Server Administrator」という名前の Enterprise Vault RBA ロールのメンバーを取得します。-Identity は位置決定されたパラメータ (ポジション 0) であるため、この例では指定しなくても問題ありません。

- さらに、-EVDirectoryServer パラメータを指定して、任意の Enterprise Vault ディレクトリに接続できます。

```
Get-EVRBARoleMember "ファイルサーバー管理者" -EVDirectoryServer
evs2.example.com

-EVDirectoryServer パラメータによって識別される Enterprise Vault ディレクトリ
から“ファイルサーバー管理者”という Enterprise Vault RBA ロールのメンバーを取
得します。
```

- 文字列のパイプ処理の例:  
"ファイルサーバー管理者" | Get-EVRBARoleMember  
現在の Enterprise Vault ディレクトリから「File Server Administrator」という名前の Enterprise Vault RBA ロールのメンバーを取得します。

- -InputObject の使い方の例:  
\$r = Get-EVRBARole "file server administrator"  
C:¥PS> Get-EVRBARoleMember -InputObject \$r  
入力オブジェクト \$r によって指定される Enterprise Vault ロールのメンバーを現在  
の Enterprise Vault ディレクトリから取得します。パラメータ -InputObject は位置  
決定されたパラメータ(ポジション 0)であるため、この例では指定しなくても問題あり  
ません。

- EVRbaRole のパイプ処理の例:  
Get-EVRBARole "ファイルサーバー管理者" | Get-EVRBARoleMember  
Get-EVRBARole cmdlet から取得した EVRbaRole オブジェクトを  
Get-EVRBARoleMember cmdlet にパイプ処理して、指定した ID のロールメンバー  
を取得します。

出力

Get-EVRBARoleMember は、次のプロパティを持つタイプ Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRoleMember のオブジェクトを返します。

表 13-7 Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRoleMember プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	メンバーの NTAccount 名。
SID	文字列	メンバーのセキュリティ ID (SID)
MemberOf	文字列	メンバーが属するロールの名前。

関連コマンドレット

- p.263 の「Get-EVRBARole」を参照してください。
- p.258 の「Add-EVRBARoleMember」を参照してください。

- p.268 の「[Remove-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。

## Remove-EVRBARoleMember

Remove-EVRBARoleMember は、1 つ以上の **Active Directory** ユーザー、グループまたは組み込みセキュリティプリンシパルを **Enterprise Vault RBA** ロールから削除します。

-Identity パラメータはアクセスする **Enterprise Vault RBA** ロールを指定します。RBA ロールはその名前または **GUID** で識別できます。パイプラインを使ってロールオブジェクトを渡すことでロールを指定することもできます。たとえば、Get-EVRBARole を使ってロールオブジェクトを取得して、そのオブジェクトをパイプラインを介して Remove-EVRBARoleMember に渡すことができます。-Identity または -InputObject パラメータを指定しない場合は、-Identity の値を入力するように求められます。

-Members パラメータでロールから削除するメンバーを指定します。メンバーはそのセキュリティ ID (SID) または **SAM** アカウント名で識別できます。複数のメンバーを指定する場合は、カンマ区切りのリストを使います。この cmdlet には、パイプラインを介してメンバーオブジェクトを渡すことができません。-Members パラメータを指定しない場合は、-Members の値を入力するように求められます。

**Enterprise Vault** ディレクトリは -EVDirectoryServer パラメータを使って指定できます。

-EVDirectoryServer パラメータを指定しない場合に Remove-EVRBARoleMember がディレクトリを判別できない場合は、**Enterprise Vault** ディレクトリサーバーを入力するように求められます。

**Enterprise Vault** サーバー以外のサーバーから Remove-EVRBARoleMember を実行すると、-EVDirectoryServer パラメータが求められます (-EVDirectoryServer をパラメータとしてすでに指定している場合を除く)。

この cmdlet を実行する権限は **Vault** サービスアカウントに制限されています。

Remove-EVRBARoleMember は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

### 構文

```
Remove-EVRBARoleMember [-Identity] <String> [-Members] <String[]>  
-EVDirectoryServer <String> [-PassThru] [-Confirm] [-WhatIf]  
[<CommonParameters>]
```

```
Remove-EVRBARoleMember [-InputObject]  
<Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole> [-Members] <String[]>  
-EVDirectoryServer <String> [-PassThru] [-Confirm] [-WhatIf]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 13-8 Remove-EVRBARoleMember パラメータ

パラメータ	説明
-Identity (必須)	名前または GUID を使って Enterprise Vault RBA ロールを指定します。
-InputObject (必須)	Enterprise Vault RBA ロールオブジェクトを指定します。このパラメータでパイプラインを介してこのオブジェクトを取得できます。または、このパラメータをオブジェクトに設定できます。
-Members (必須)	<p>Active Directory ユーザー、グループまたは組み込みセキュリティプリンシパルの設定をカンマ区切りのリストで指定してロールから削除します。</p> <p>各オブジェクトを識別するには、次のプロパティ値のいずれかを使います。括弧内の識別子は LDAP 表示名です。このパラメータの受け入れ可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ セキュリティ ID (objectSid)</li><li>■ SAM アカウント名 (sAMAccountName)</li></ul> <p>このパラメータの指定方法を次の例に示します。この例では、SAM アカウント名プロパティを使ってユーザーとグループを指定し、SID プロパティを使って別のユーザーを指定します。</p> <pre>-Members "fsaadmin1@example.com", "NT AUTHORITY¥This Organization", "S-1-5-21-1529523603-1500826627-74573220-1119"</pre> <p>このパラメータにはオブジェクトを提供できません。このパラメータには、パイプラインを介してオブジェクトを渡すことができません。</p>
-EVDirectoryServer (必須)	Enterprise Vault ディレクトリサーバーのホスト名、完全修飾ドメイン名または DNS エイリアスを指定します。このパラメータは必須パラメータですが、可能な場合は cmdlet によって自動的に判別されます。
-PassThru	操作対象のロールを表すオブジェクトを返します。デフォルトでは、この cmdlet は出力を生成しません。
-Confirm	cmdlet を実行する前に確認するように求められます。
-WhatIf	cmdlet の実行結果のプレビューが表示されます。cmdlet は実際には実行されません。

## 例

- `Remove-EVRBARoleMember -Identity "ファイルサーバー管理者" -Members "fsaAdmin1@example.com", "example¥fsaGroup1", "S-1-5-21-1529523603-1500826627-74573220-1119"`  
指定した **Active Directory** メンバーを“ファイルサーバー管理者”という **Enterprise Vault RBA** ロールから削除します。
- `Remove-EVRBARoleMember "File Server Administrator"`  
削除するメンバーを求めて、“**File Server Administrator**”という **Enterprise Vault RBA** ロールから削除します。パラメータ `-Identity` は位置決定されたパラメータ (ポジション 0) であるため、この例では指定しなくても問題ありません。
- さらに、`-EVDirectoryServer` パラメータを指定して、任意の **Enterprise Vault** ディレクトリに接続できます。  
`Remove-EVRBARoleMember "ファイルサーバー管理者" -EVDirectoryServer evs2.example.com`  
削除するメンバーを求めて、`-EVDirectoryServer` パラメータで識別した **Enterprise Vault** ディレクトリ内の“ファイルサーバー管理者”という **Enterprise Vault RBA** ロールからそのメンバーを削除します。
- `-InputObject` の使い方の例:  
`$r = Get-EVRBARole "file server administrator"`  
`Remove-EVRBARoleMember -InputObject $r`  
削除するメンバーを求めて、現在の **Enterprise Vault** ディレクトリにある“**File Server Administrator**”という **Enterprise Vault RBA** ロールからそのメンバーを削除します。パラメータ `-InputObject` は位置決定されたパラメータ (ポジション 0) であるため、この例では指定しなくても問題ありません。
- 文字列のパイプ処理の例:  
`"file server administrator" | Remove-EVRBARoleMember`  
削除するメンバーを求めて、現在の **Enterprise Vault** ディレクトリにある“**File Server Administrator**”という **Enterprise Vault RBA** ロールからそのメンバーを削除します。
- `EVRbaRole` のパイプ処理の例:  
`Get-EVRBARole "file server administrator" -EVDirectoryServer evs2.example.com | Remove-EVRBARoleMember -Members "fsaAdmin1", "fsaAdmin2" -EVDirectoryServer evs2.example.com`  
`Get-EVRBARole cmdlet` から取得した `EVRbaRole` オブジェクトを  
`Remove-EVRBARoleMember cmdlet` にパイプ処理して、指定したメンバーをそのロールから削除します。パラメータ `-EVDirectoryServer` では、使う各 `cmdlet` の **Enterprise Vault** ディレクトリも指定します。

## 出力

Remove-EVRBARoleMember は、-PassThru パラメータを指定する場合、出力またはタイプ Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole の変更済みオブジェクトを返しません。Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole のプロパティを次に示します。

表 13-9 Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole プロパティ

名前	種類	説明
Name	文字列	Enterprise Vault RBA ロールの名前。
RoleGuid	文字列	Enterprise Vault RBA ロールの GUID。
TaskLinkDescription	文字列	関連付けられた TaskLink の説明。
TaskLinkGuid	文字列	関連付けられた TaskLink の GUID。

## 関連コマンドレット

- p.263 の「[Get-EVRBARole](#)」を参照してください。
- p.258 の「[Add-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。
- p.265 の「[Get-EVRBARoleMember](#)」を参照してください。

# Set-EVRBAzStoreXml

Set-EVRBAzStoreXml は指定したフォルダから Enterprise Vault ディレクトリデータベースに RBA ストアをアップロードします。Set-EVRBAzStoreXml では、RBA ストアが EvAzStore.xml というファイルに存在し、そのファイルが指定したフォルダに存在している必要があります。

Enterprise Vault ディレクトリは -EVDirectoryServer パラメータを使って指定します。

この cmdlet を実行する権限は Vault サービスアカウントに制限されています。

Enterprise Vault サーバー以外のサーバーから cmdlet を実行すると、-EVDirectoryServer パラメータが求められます (-EVDirectoryServer をパラメータとしてすでに指定している場合を除く)。

EvAzStore.xml の最新バージョンに対する変更のみをアップロードできます。Enterprise Vault に新しいバージョンの EvAzStore.xml がある場合は、Get-EVRBAzStoreXml を使って最新の RBA ストアを取得し、変更を行って、EvAzStore.xml を再びアップロードする必要があります。

Set-EVRBAzStoreXml は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Set-EVRBAAzStoreXml [-FolderPath] <String> -EVDirectoryServer <String>
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 13-10 Set-EVRBAAzStoreXml パラメータ

パラメータ	説明
-FolderPath (必須)	EvAzStore.xml のアップロード先のフォルダを指定します。
-EVDirectoryServer (必須)	Enterprise Vault ディレクトリサーバーのホスト名、完全修飾ドメイン名または DNS エイリアスを指定します。このパラメータは必須パラメータですが、可能な場合は cmdlet によって自動的に判別されます。

## 例

- `Set-EVRBAAzStoreXml "C:¥EvAzStoreXmlLocation"`  
C:¥EvAzStoreXmlLocation からローカルでインストールされている Enterprise Vault サーバーに EvAzStore.xml をアップロードします。
- `Set-EVRBAAzStoreXml "C:¥EvAzStoreXmlLocation" -EVDirectoryServer "evserver.example.com"`  
C:¥EvAzStoreXmlLocation から **evserver.example.com** に EvAzStore.xml をアップロードします。
- `Set-EVRBAAzStoreXml -FolderPath "C:¥EvAzStoreXmlLocation" -EVDirectoryServer "evserver.example.com"`  
C:¥EvAzStoreXmlLocation から **evserver.example.com** に EvAzStore.xml をアップロードします。名前付きのパラメータの使用を書き留めます。

## 出力

なし。

## 関連コマンドレット

- p.262 の「[Get-EVRBAAzStoreXml](#)」を参照してください。



# サイトおよびサーバー

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVComputers](#)
- [Get-EVFileLocation](#)
- [Get-EVIISWebsite](#)
- [Get-EVServer](#)
- [Get-EVSite](#)
- [Get-EVSiteInfo](#)

## Get-EVComputers

`Get-EVComputers` は、ディレクトリデータベースの `ComputerEntry` テーブルにリストされているコンピュータのコレクションを返します。

`Get-EVComputers` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` スナップインから利用できます。

### 構文

```
Get-EVComputers [<CommonParameters>]
```

### パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

### 例

- `Get-EVComputers`  
ディレクトリデータベースの `ComputerEntry` テーブルにリストされるコンピュータのコレクションを返します。

- `Get-EVComputers | Where-Object {$_.EnabledForIMAP -eq 1} | ForEach-Object {Set-EVIMAPServerDisabled $_.ComputerNameAlternate}`  
IMAP に有効なすべての Enterprise Vault サーバーを検索し、それぞれを順番に無効にして、そのプロセスで IMAP サーバーを停止します。

出力

表 14-1 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 14-1 Get\_EVComputers プロパティ

名前	種類	説明
ComputerIdentity	Int32	このサーバーに対する Enterprise Vault 固有の識別子。
ComputerName	文字列	コンピュータ名。
ComputerNameAlternate	文字列	コンピュータの代替名。
EnabledForIMAP	Boolean	サーバーが IMAP に対し有効になっているかどうかを示します。設定可能な値: <code>\$true</code> (サーバーが IMAP に有効になっています)、 <code>\$false</code> (サーバーが IMAP に有効になっていません)、 <code>null</code> (サーバーが IMAP に有効になったことはありません)
IMAPEndPointEntryId	文字列	IMAP エンドポイントエントリ ID。
IMAPEndpointName	文字列	IMAP エンドポイント名。

関連コマンドレット

- p.221 の「[Set-EVIMAPServerDisabled](#)」を参照してください。
- p.222 の「[Set-EVIMAPServerEnabled](#)」を参照してください。
- p.217 の「[Get-EVIMAPUsers](#)」を参照してください。
- p.219 の「[Get-EVIMAPUserSettings](#)」を参照してください。

Get-EVFileLocation

現在の Enterprise Vault サーバーに設定されている Enterprise Vault ファイルの場所の詳細を取得します。

Get-EVFileLocation は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVFileLocation [[-Type] <String>] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 14-2 Get-EVFileLocation パラメータ

パラメータ	説明
-Type	詳細が必要な Enterprise Vault ファイルの場所。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Application. Enterprise Vault プログラムフォルダへのパスを取得します。</li><li>■ Cache. Enterprise Vault キャッシュの場所へのパスを取得します。</li><li>■ Temporary. Enterprise Vault で一時ファイルに使用されるフォルダへのパスを取得します。</li></ul>

## 例

- Get-EVFileLocation  
現在のサーバーで設定されている Enterprise Vault ファイルの場所の詳細を取得します。

## 出力

表 14-3 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 14-3 Get-EVFileLocation プロパティ

名前	種類	説明
Path	文字列	フォルダの場所へのパス。
TotalQuotaGBytesAvailable	Double	場所で利用可能な総領域 (GB)。
TotalQuotaGBytesFree	Double	場所の空き容量 (GB)。
TotalQuotaGBytesUsed	Double	場所で使用される領域 (GB)。
Type	FileLocation	次のいずれか: "Application"、"Cache"、"Temporary"

# Get-EVILSWebsite

現在の Enterprise Vault サーバーに設定されている Enterprise Vault 仮想ディレクトリの詳細を取得します。

Get-EVIISWebsite は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

Get-EVIISWebsite [**<CommonParameters>**]

パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

例

- Get-EVIISWebsite  
現在の Enterprise Vault サーバーで設定されている Enterprise Vault 仮想ディレクトリの詳細を取得します。

出力

表 14-4 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 14-4                      Get-EVIISWebsite プロパティ

名前	種類	説明
EnterpriseVaultModule	EVWebsiteModule	次のいずれか: "EVMOD_ENTERPRISEVAULT", "EVMOD_FSAREPORTING", "EVMOD_EVINDEXING", "EVMOD_ENTERPRISEVAULTAPI", "EVMOD_EVSEARCHCLIENT", "EVMOD_EVSEARCHSERVER"
WebAddress	文字列	Enterprise Vault URL。

Get-EVServer

現在の Enterprise Vault サーバーについての情報を取得します。

Get-EVServer は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

Get-EVServer [**<CommonParameters>**]

パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

例

- `Get-EVServer`  
現在の **Enterprise Vault** サーバーの詳細を取得します。

出力

`Get-EVServer` は、次のプロパティを含む `Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Core.Output.Server` 型のオブジェクトを返します。

表 14-5            `Get-EVServer` のプロパティ

名前	種類	説明
Aliases	リスト<文字列>	<b>Enterprise Vault</b> サーバーのエイリアスの名前。
ComputerEntryIds	リスト<文字列>	サーバー ID。
Name	文字列	サーバー名。
Version	文字列	サーバーの <b>Enterprise Vault</b> のバージョン。

Get-EVSite

現在の **Enterprise Vault** サーバーの **Enterprise Vault** サイト情報を取得します。

`Get-EVSite` は、`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` スナップインから利用できます。

構文

`Get-EVSite` [`<CommonParameters>`]

パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

例

- `Get-EVSite`  
現在のサーバーがメンバーである **Vault Site** の詳細を取得します。

出力

表 14-6 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 14-6 Get-EVSite のプロパティ

名前	種類	説明
DirectorySQLServer	文字列	ディレクトリデータベースをホストする SQL Server コンピュータの名前。
ID	文字列	サイト ID。
Name	文字列	Enterprise Vault サイトの名前。

## 関連 cmdlet

- p.278 の「[Get-EVSiteInfo](#)」を参照してください。

# Get-EVSiteInfo

**メモ:** この cmdlet は非推奨です。Enterprise Vault のサイト情報を取得するには、Get-EVSite cmdlet を使用します。

現在の Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault サイト情報を取得します。

Get-EVSiteInfo は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

## 構文

```
Get-EVSiteInfo [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- Get-EVSiteInfo  
現在のサーバーがメンバーである Vault Site の詳細を取得します。

## 出力

表 14-7 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 14-7 Get-EVSiteInfo プロパティ

名前	種類	説明
Identity	文字列	サイト ID。

名前	種類	説明
ComputerName	文字列	ディレクトリデータベースをホストする SQL Server コンピュータの名前。

関連 cmdlet

- p.277 の「[Get-EVSite](#)」を参照してください。

# タスクおよびサービス

この章では以下の項目について説明しています。

- [Get-EVDependencyService](#)
- [Get-EVDependencyServiceState](#)
- [Get-EVService](#)
- [Get-EVServiceState](#)
- [Get-EVTask](#)
- [Get-EVTaskState](#)

## Get-EVDependencyService

現在の Enterprise Vault サーバーにあるすべての Enterprise Vault サービスに関する依存関係サービス情報を取得します。

Get-EVDependencyService は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

### 構文

```
Get-EVDependencyService [<CommonParameters>]
```

### パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

### 例

- `Get-EVDependencyService`



現在の Enterprise Vault サーバーにあるすべての Enterprise Vault サービスに関する依存情報を取得します。

## 出力

表 15-1 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 15-1 Get-EVDependencyService プロパティ

名前	種類	説明
DisplayName	文字列	"Message Queuing"、"World Wide Publishing Service" などの依存サービスの名前。
EntryID	文字列	この値は常に空です。
Name	文字列	"MSMQ"、"W3SVC" などの依存名。
Type	ServiceType	「MSMQService」、「IISService」のいずれか。

## 関連コマンドレット

- p.281 の「[Get-EVDependencyServiceState](#)」を参照してください。

# Get-EVDependencyServiceState

指定されている依存サービスの現在の状態を取得します。状態は "Running" または "Stopped" のいずれかです。

Get-EVDependencyServiceState は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVDependencyServiceState [-ServiceName] <String>
```

## パラメータ

表 15-2 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 15-2 Get-EVDependencyServiceState パラメータ

パラメータ	説明
-ServiceName	詳細が必要なサービスの名前。  Get-EVDependencyService コマンドレットを使用して、サービス名を取得することができます。

## 例

- `Get-EVDependencyServiceState msmq`  
メッセージキューサービスの状態を取得します。
- `Get-EVDependencyServiceState W3SVC`  
World Wide Web Publishing サービス (IIS) の状態を取得します。

## 出力

表 15-3 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 15-3 Get-EVDependencyServiceState プロパティ

名前	種類	説明
Value	ServiceControllerStatus	次のいずれか: "Stopped"、"StartPending"、 "StopPending"、"Running"、"ContinuePending"、 "PausePending"、"Paused"

## 関連コマンドレット

- p.280 の「[Get-EVDependencyService](#)」を参照してください。

# Get-EVService

現在の Enterprise Vault サーバーに設定されている Enterprise Vault サービスの詳細を取得します。

Get-EVService は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVService [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- `Get-EVService`  
現在の Enterprise Vault サーバーで設定している Enterprise Vault サービスの詳細を表示します。

## 出力

表 15-4 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 15-4 Get-EVService のプロパティ

名前	種類	説明
DisplayName	文字列	管理コンソールに表示されるサービス表示名。「Enterprise Vault Directory Service」など。
EntryID	文字列	サービスエントリ ID。
Name	文字列	サービス名。「EnterpriseVaultAdminService」など。
Type	ServiceType	「DirectoryService」、「AdminService」、「ShoppingService」、「IndexingService」、「StorageService」、「TaskControllerService」のいずれか。

## Get-EVServiceState

指定済みの Enterprise Vault サービスの現在の状態を取得します。状態は "Running" または "Stopped" のいずれかです。

Get-EVServiceState は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

### 構文

```
Get-EVServiceState [-ServiceName] <String> [<CommonParameters>]
```

### パラメータ

表 15-5 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 15-5 Get-EVServiceState のプロパティ

パラメータ	説明
-ServiceName	詳細が必要なサービスの名前。

### 例

- `Get-EVServiceState -ServiceName EnterpriseVaultShoppingService`  
EnterpriseVaultShoppingService の現在の状態を返します。Get-EVServiceState を使って Enterprise Vault サービスの名前を見つけることができます。

### 出力

表 15-6 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 15-6 Get-EVServiceState のプロパティ

名前	種類	説明
Value	サービスコントローラの状態	「Stopped」、「StartPending」、「StopPending」、「Running」、「ContinuePending」、「PausePending」、「Paused」のいずれか。

## 関連コマンドレット

- p.282 の「[Get-EVService](#)」を参照してください。

# Get-EVTask

現在の Enterprise Vault サーバーに設定されている Enterprise Vault タスクの詳細を取得します。

Get-EVTask は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVTask [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- Get-EVTask  
現在のサーバーで設定している Enterprise Vault タスクの詳細を取得します。

## 出力

[表 15-7](#) は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 15-7 Get-EVTask のプロパティ

名前	種類	説明
Description	文字列	管理コンソールのタスクのプロパティに表示されるタスクの説明。
EntryID	文字列	タスクのエントリ ID。
Name	文字列	管理コンソールに表示されるタスクの名前。

名前	種類	説明
Type	文字列	「EV_TASK_TYPE_ARCHIVING」、 「EV_TASK_TYPE_CLIENTACCESS_POLICY_SYNC」、 「EV_TASK_TYPE_DOMINO_MAILBOX_ARCHIVING」、 「EV_TASK_TYPE_DOMINO_MAILBOX_POLICY_SYNC」、 「EV_TASK_TYPE_EXCHANGE_POLICY_SYNC」、 「EV_TASK_TYPE_FSA」、 「EV_TASK_TYPE_INDEXING」、 「EV_TASK_TYPE_JOURNALING」、 「EV_TASK_TYPE_MOVE_ARCHIVE」、 「EV_TASK_TYPE_NOTES_JOURNALING」、 「EV_TASK_TYPE_PSTCOLLECTOR」、 「EV_TASK_TYPE_PSTLOCATOR」、 「EV_TASK_TYPE_PSTMIGRATOR」、 「EV_TASK_TYPE_PUBLICFOLDER」、 「EV_TASK_TYPE_SHAREPOINT」のいずれか。

## 関連コマンドレット

- p.285 の「[Get-EVTaskState](#)」を参照してください。

# Get-EVTaskState

指定した Enterprise Vault タスクの現在の状態を取得します。

Get-EVTaskState は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVTaskState [-TaskEntryID] <String> [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 15-8 Get-EVTaskState のパラメータ

パラメータ	説明
-TaskEntryID	詳細が必要なタスクの TaskEntryID。TaskEntryID の取得には Get-EVTask コマンドレットを使うことができます。

## 例

- `Get-EVTask | foreach{$_.EntryID;Get-EVTaskState $_.EntryID}`  
Get-EVTask を使って現在の Enterprise Vault の各タスクに設定された TaskEntryID を取得します。

## 出力

表 15-9 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

**表 15-9** Get-EVTaskState のプロパティ

名前	種類	説明
(なし)	文字列	タスクの現在の状態を記述するテキスト文字列。有効値は、「Stopping」、「Stopped」、「Running」、「Refreshing」、「Paused」、「Loading」、「Failed」、「Disabled」、「CntrSvcNotRunning」、「Error」、「Processing」、「Invalid」。

## 関連 cmdlet

- p.284 の「[Get-EVTask](#)」を参照してください。

# ボルトストアおよびアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Export-EVArchive](#)
- [Get-EVArchive](#)
- [Get-EVVaultStore](#)
- [Get-EVVaultStorePartition](#)
- [Remove-EVArchive](#)
- [Set-EVArchive](#)
- [Start-PartitionRollover](#)

## Export-EVArchive

`Export-EVArchive` は指定したアーカイブからアイテムをエクスポートします。エクスポート対象を指定した検索条件に一致するアイテムに制限できます。

---

**メモ:** Capstone レコード管理システムの必要条件を満たすアイテムをエクスポートする場合は、`Export-EVNARAArchive cmdlet` を実行すると便利です。`Export-EVNARAArchive` には `Export-EVArchive` と同じ機能が多いですが、**Enterprise Vault** が永続レコードとしてマーク付けしたアイテムのみがエクスポートされます。

---

`Export-EVArchive` は、スナップイン

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` によって提供されます。

構文

```
Export-EVArchive [-ArchiveId] <String> [-OutputDirectory] <String>
[[-SearchString] [<String>]] [[-Format] [<ExportFormat>]]
[[-MaxThreads] [<Integer>]] [-Retry <SwitchParameter>] [-MaxPSTSizeMB
<Integer>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 16-1 Export-EVArchive パラメータ

パラメータ	説明
-ArchiveId (必須)	アイテムのエクスポート元のアーカイブの ID を指定します。 Get-EVArchive を使用して必要な ID を取得できます。
-OutputDirectory (必須)	<b>cmdlet</b> がエクスポートされたアイテムを配置するフォルダのパスを指定します。200 文字までの絶対パス、相対パス、また UNC パスを入力します。パスにスペースが含まれる場合は引用符で囲みます。  指定されたフォルダが存在しない場合、 <b>cmdlet</b> は作成を試みます。
-SearchString	エクスポートに選択したアイテムを識別する検索クエリーを指定します。 <b>Enterprise Vault Search</b> で特定のアイテムを検索する場合と同じクエリー構文を使用できます。たとえば、検索クエリー "to:mike_smith" はそのユーザーが受信者であったアイテムのみをエクスポート対象として選択します。クエリーにスペースが含まれる場合は引用符で囲みます。  クエリー構文について詳しくは、 <b>Enterprise Vault Search</b> のオンラインヘルプを参照してください。



パラメータ	説明
-Format	<p>アイテムをエクスポートする形式を指定します。指定可能な値は EML、NATIVE、および PST で、デフォルトは NATIVE です。PST にエクスポートするには、ローカルサーバーと、指定したアーカイブ用の Enterprise Vault ストレージサービスをホストしているサーバーの両方で、Microsoft Outlook をインストールし、デフォルトの電子メールクライアントとして設定する必要があります。</p> <p>NATIVE 値を指定すると、各アイテムが元の形式でエクスポートされます。Microsoft Exchange アイテムの場合は MSG、SMTP アイテムの場合は EML、テキストファイルの場合は TXT などです。</p> <p>PST 値を指定すると、cmdlet はアイテムを MSG ファイルとしてエクスポートし、PST ファイルにまとめます。PST ファイル内のフォルダ構造はソースアーカイブのフォルダ構造と一致します。ただし、ソースフォルダが 100,000 を超えるアイテムを含んでいる場合は、cmdlet が PST ファイルに超過アイテムを保持するための追加フォルダを自動的に作成します。</p> <p>エクスポートされたアイテムが 250 MB より大きい場合は、cmdlet はそのアイテムを PST ファイル内に収集せずに外に放置します。アイテムが 2 GB を超える場合は、cmdlet はそのアイテムを MSG としてではなくネイティブ形式でエクスポートします。</p>
-MaxThreads	<p>エクスポート処理に使用するスレッドの最大数を指定します。1 から 100 までの値を入力します。デフォルト値は 16 です。</p> <p>スレッド数を減らすことで、Enterprise Vault サーバーリソースの負荷を最小限に抑えることができます。逆に、分散型または高仕様の Enterprise Vault 環境では、スレッド数を増やすことでスループットを大きくできます。</p>
-Retry	<p>指定すると、前回の実行時にエクスポートされなかったアイテムをエクスポートするように cmdlet を再実行します。たとえば、前回の実行が完了する前に何らかの理由によって停止した場合や、前回の実行が完了したものの、特定のアイテムをエクスポートできなかった場合に、この操作が必要になる可能性があります。</p> <p>前回の実行で指定したものと同じ ArchiveId と OutputDirectory パラメータ値を指定するよう注意してください。cmdlet は前回指定した値を自動的に使用するの、SearchString と Format パラメータ値を改めて指定する必要はありません。</p>
-MaxPSTSizeMB	<p>PST にエクスポートする場合のみ、各 PST ファイルの最大サイズを指定します (MB)。PST ファイルがこの制限に到達すると、cmdlet は残りのアイテムのために自動的に新しいファイルを作成します。500 から 51200 までの値を入力します。デフォルト値は 20480 (20 GB) です。</p>

## 例

- `Export-EVArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp`  
指定されたアーカイブから出力フォルダ `c:¥Temp` にすべてのアイテムをエクスポートする
- `Export-EVArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory "c:¥Exported Items" -SearchString "to:mike_smith"`  
**Mike Smith** が受信者であったアイテムのみをエクスポートする
- `Export-EVArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp -Format PST -MaxPSTSizeMB 51200`  
すべてのアイテムを **1** つ以上の **PST** ファイルにエクスポートします。各ファイルのサイズは最大 **50 GB** までです。
- `Export-EVArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp -MaxThreads 100`  
指定したアーカイブからのすべてのアイテムのエクスポートに対して **100** 個のスレッドを割り当てる
- `Export-EVArchive -ArchiveId 19D...EVServer1 -OutputDirectory c:¥Temp -Retry`  
指定したアーカイブで、前回すべての必要なアイテムのエクスポートに失敗したエクスポート実行を再試行します。指定した出力フォルダは前回の実行時と同じです。**cmdlet** は前回の実行で指定したものと同じ検索文字列とフォーマット値を自動的に使います。
- `"19D...EVServer1","18F...EVServer2","14C...EVServer3" | Export-EVArchive -OutputDirectory "c:¥Exported Items"`  
すべてのアイテムのエクスポート元の **3** つのアーカイブの **ID** をパイプ処理する

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

さらに、**cmdlet** は `ExportReport_datetime.txt` という名前のレポートファイル、たとえば、`ExportReport_20160311125651.txt` を作成します。このファイルはエクスポートしたアイテムの数を示し、**cmdlet** でエクスポートに失敗したアイテムを識別します。何らかの理由でエクスポートが失敗した場合は、レポートに考えられる原因が示されます。

## 関連コマンドレット

- p.291 の「[Get-EVArchive](#)」を参照してください。
- p.233 の「[Export-EVNARAArchive](#)」を参照してください。
- p.238 の「[Get-EVRecordSettings](#)」を参照してください。

# Get-EVArchive

Get-EVArchive は **Enterprise Vault** サイト内の一部またはすべてのアーカイブの一覧を返します。この一覧をフィルタ処理して次を示すようにすることができます。

- 指定したユーザーがさまざまな権限を直接保有、または **Active Directory** グループのメンバーシップを介して保有しているアーカイブ
- 指定した名前と完全に一致する名前のアーカイブ

さまざまなアーカイブプロパティによって一覧をさらにフィルタ処理できます。たとえば、指定したユーザーがアーカイブアイテムを削除する権限を持っているアーカイブのみ、またはリーガルホールドの状態であるアーカイブのみを一覧表示するように選択できます。

Get-EVArchive は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

## 構文

```
Get-EVArchive [-User] <String> [[-Server] <String>] [-DeleteProtected  
[<Boolean>]] [-DeleteExpiredItems [<Boolean>]] [-OnHold [<Boolean>]]  
[-Permissions [<String>]] [<CommonParameters>]
```

```
Get-EVArchive [[-ArchiveName] <String>] [[-Server] <String>]  
[-DeleteProtected [<Boolean>]] [-DeleteExpiredItems [<Boolean>]]  
[-OnHold [<Boolean>]] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 16-2 Get-EVArchive パラメータ

パラメータ	説明
-User (構文セクションで設定した最初のパラメータを使う場合に必須)	アーカイブ一覧の取得対象のユーザーを指定します。ユーザーの <b>Windows</b> ログオン名、ユーザープリンシパル名、または <b>Domino</b> ユーザー ID を入力します。例: user@domain.com、domain¥user。
-ArchiveName	詳細を取り込む対象のアーカイブの名前を指定します。
-Server	アーカイブ一覧の取得対象の <b>Enterprise Vault</b> サーバーを指定します。例: localhost、evserver.domain.com。  このパラメータを省略すると、cmdlet はレジストリを調べて、 <b>Enterprise Vault Directory Service</b> コンピュータを識別します。

パラメータ	説明
-DeleteProtected	アーカイブ内のアイテムを手動で削除できるかどうかに応じてアーカイブ一覧をフィルタ処理します。ユーザーがアイテムを手動で削除できるアーカイブを一覧表示するには <code>\$false</code> に設定します。アイテムを削除できないアーカイブを一覧表示するには <code>\$true</code> に設定します。
-DeleteExpiredItems	保持期間が切れているアーカイブアイテムを <b>Enterprise Vault</b> が自動的に削除できるかどうかに応じてアーカイブ一覧をフィルタ処理します。 <b>Enterprise Vault</b> が期限切れアイテムを削除しないアーカイブを一覧表示するには <code>\$false</code> に設定します。そのようなアイテムを削除するアーカイブを一覧表示するには <code>\$true</code> に設定します。
-OnHold	アーカイブのリーガルホールドの状態に応じて一覧をフィルタ処理します。ユーザーと <b>Enterprise Vault</b> のいずれかまたは両方がアイテムを削除できるアーカイブを一覧表示するには <code>\$false</code> に設定します。リーガルホールドの状態のアーカイブを一覧表示するには <code>\$true</code> に設定します。  リーガルホールドは <code>DeleteProtected</code> を <code>\$true</code> に設定した場合と <code>DeleteExpiredItems</code> を <code>\$false</code> に設定した場合と同じです。
-権限	アーカイブに対するユーザーの権限に応じて一覧をフィルタ処理します。権限を <code>r</code> (読み取り)、 <code>w</code> (書き込み)、 <code>d</code> (削除) の組み合わせとして、たとえば <code>rw</code> と <code>rwd</code> のように指定します。空白の値 ( ) は任意の権限を示します。指定されていない場合、デフォルトの権限は <code>d</code> (削除) です。  このパラメータは、 <code>-User</code> パラメータも指定した場合にのみ設定できます。

## 例

- `Get-EVArchive`  
**Enterprise Vault** サイト内のすべてのアーカイブを一覧表示します。
- `Get-EVArchive -DeleteProtected $false`  
**Enterprise Vault** サイト内のアーカイブの一覧をフィルタ処理して、ユーザーが手動でアイテムを削除できるアーカイブのみを表示するようにします。
- `Get-EVArchive -User Domain¥User`  
ユーザー `Domain¥User` が削除の権限を持つアーカイブを一覧表示します。
- `Get-EVArchive -User user@domain -DeleteProtected $false  
-DeleteExpiredItems $false -Permissions rw`

ユーザー `user@domain.com` が読み取りおよび書き込みの両方の権限を持つアーカイブを一覧表示します。Get-EVArchive は、ユーザーが手動でアイテムを削除でき、Enterprise Vault が期限切れアイテムを自動的に削除できないアーカイブのみを表示するように一覧をフィルタ処理します。

- `Get-EVArchive -User Domain¥User -OnHold $false | format-table -auto`  
ユーザー `Domain¥User` が削除の権限を持つアーカイブを一覧表示します。  
Get-EVArchive は、リストからリーガルホールドにあるすべてのアーカイブを除外して、出力を `format-table` に書き込みます。
- `Get-EVArchive -ArchiveName msmith | format-table -auto`  
「msmith」という名前を持つアーカイブを一覧表示します。
- `Get-EVArchive | where-object {$_.ArchiveName -ilike "*journal*"}`  
大文字と小文字を区別する文字列「journal」を含んでいる名前のアーカイブを一覧表示します。

## 出力

表 16-3 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 16-3 Get-EVArchive プロパティ

名前	種類	説明
ArchiveId	文字列	指定したユーザーにアクセス権があるアーカイブの ID。
ArchiveName	文字列	指定したユーザーにアクセス権があるアーカイブの名前。
ArchiveType	EV_STG_API_ARCHIVE_TYPE	Enterprise Vault アーカイブの種類の列挙。設定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_JOURNAL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_MAILBOX</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_FILE_SYSTEM</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_INTERNETMAIL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_JOURNAL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_MAILBOX</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_PUBLIC_FOLDER</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SHARED</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SHAREPOINT</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SMTTP</li></ul>

名前	種類	説明
DeleteExpiredItems	EV_STG_API_EXPIRE_ITEMS	Enterprise Vault の期限切れアイテムの列挙。設定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ DONT_EXPIRE_ITEMS</li><li>■ EXPIRE_ITEMS</li></ul>
DeleteProtected	Boolean	ユーザーが手動でアイテムをアーカイブから削除できる (\$false) かできないか (\$true) を示します。
OnHold	Boolean	アーカイブにリーガルホールドにあるアイテムが含まれる (\$true) か含まれない (\$false) かを示します。
Status	EV_STG_API_STATUS	Enterprise Vault アーカイブの状態の列挙。設定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ STS_AVAILABLE</li><li>■ STS_INBACKUPMODE</li><li>■ STS_TEMPORARILY_UNAVAILABLE</li><li>■ STS_UNAVAILABLE</li></ul>
RetentionPlanName	文字列	アーカイブに適用した保持計画の名前。

## 関連 cmdlet

- p.298 の「[Remove-EVArchive](#)」を参照してください。
- p.301 の「[Set-EVArchive](#)」を参照してください。

# Get-EVVaultStore

現在の Enterprise Vault サーバーがホストするボルトストアに関する情報を取得します。

Get-EVVaultStore は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

```
Get-EVVaultStore [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- Get-EVVaultStore

現在の Enterprise Vault サーバーに存在するボルトストアすべての詳細を返します。

## 出力

表 16-4 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 16-4 Get-EVVaultStore のプロパティ

名前	種類	説明
BackupMode	Boolean	「True」(バックアップモードはオン)、「False」(バックアップモードはオフ)のいずれか。
Computer	文字列	ボルトストアをホストするサーバーの名前。
DatabaseName	文字列	ボルトストアデータベースの名前。
EntryId	文字列	ボルトストアエントリ ID。
Indexed	Boolean	このプロパティはボルトストアでインデックス付けが有効な場合は「True」。インデックス付けが無効な場合は「False」。
Name	文字列	ボルトストアの名前。
RemovalStatus	RemovalStatus	セーフコピーの削除設定。「Never」、「Immediately」、「AfterBackup」、「AfterBackupImmediateForJournaling」のいずれか。
SharingLevel	VaultStoreSharingLevel	「ShareWithinVaultStore」、「ShareWithinGroup」、「NoSharing」のいずれか。
SQLServer	文字列	ボルトストアをホストする SQL Server。
Status	VaultStoreStatus	「Available」、「MarkedForDeletion」、「BackupMode」、「BeingCreated」のいずれか。
VaultStoreGroupName	文字列	ボルトストアが属するボルトストアのグループの名前。

# Get-EVVaultStorePartition

ボルトストアパーティションの情報を取得します。

Get-EVVaultStorePartition は、  
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

## 構文

Get-EVVaultStorePartition [<CommonParameters>]

## パラメータ

PowerShell 共通パラメータのみ。

## 例

- Get-EVVaultStorePartition  
現在のサーバーに存在するすべてのボルトストアパーティションに関するデータベースの詳細を返します。

## 出力

表 16-5 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 16-5 Get-EVVaultStorePartition のプロパティ

名前	種類	説明
CollectorType	文字列	コレクションソフトウェアの種類の表示。
Computer	文字列	パーティションをホストするサーバーの名前。
CreationDate	DateTime	パーティションを作成した日時。
DeviceType	文字列	パーティションが存在するデバイスの種類。「NTFSボリューム」など。
EntryId	文字列	ボルトストアパーティションエントリ ID。
HoursSinceLastBackup	Int32	パーティションの前のバックアップから経過した時間。
InterfaceType	VaultStorePartition InterfaceType	「Unknown」、「NonWorm」、 「VolumeLevelRetPolicy」、「Snaplock」、 「Snaplike」、「Atime」、「Streamer」、 「Max」のいずれかです。
IsSmartPartition	ブール値	パーティションがスマートパーティション (True) または標準のボルトストアパーティ ション (False) のどちらであるか。



名前	種類	説明
LastBackupDate	DateTime	パーティションのバックアップを最後に作成した日時。この値はパーティションのバックアップを作成していない場合は Null です。
LastOpenedDate	DateTime	パーティションが最後に開かれた状態だった日時。この値はパーティションを開いたことがない場合は NULL です。
Location	文字列	パーティションのパス。
MigratorType	文字列	移行の種類の表示。
Name	文字列	パーティションの名前。
RollOver	RolloverType	「NotEnabled」、 「EnabledBasedOnVolumeSize」、 「EnabledBasedOnVolumePercentage」、 「EnabledBasedOnDateTime」、 「EnabledBasedOnVolume SizeAndDateTime」、 「EnabledBasedOnVolume PercentageAndDateTime」、 「EnabledBasedOnTimerAfter」、 「EnabledBasedOnVolume SizeAndTimerAfter」、 「EnabledBasedOnVolume PercentageAndTimerAfter」のいずれか。
Status	PartitionState	「Undefined」、「Closed」、「Open」、 「Standby」、「BeingDeleted」、「Ready」 のいずれか。
Tags	文字列	スマートパーティションの場合のみ、パー ティションに関連付けた分類タグ。
TotalQuotaGBBytesAvailable	Double	利用可能な合計領域 (GB)。この値は NULL の場合もあります。
TotalQuotaGBBytesFree	Double	合計空き領域 (GB)。この値は NULL の 場合もあります。
TotalQuotaGBBytesUsed	Double	使用されている容量 (GB)。この値は NULL の場合もあります。
VaultStoreEntryId	文字列	ボルトストアエントリ ID。
VaultStoreGroupName	文字列	ボルトストアのグループ名。

名前	種類	説明
VaultStoreName	文字列	ボルトストアの名前。

## Remove-EVArchive

Remove-EVArchive は、指定されたアーカイブとそのアーカイブに含まれているアイテムを削除します。

Remove-EVArchive は、以下の状況ではアーカイブを削除しません。

- アーカイブにすでに削除のマークが付いている
- アーカイブに関連付けられているボルトストアがバックアップモードになっている
- アーカイブが削除されないように保護されている
- アーカイブが[利用可能]または[クローズ]以外の状態
- アーカイブを移動中
- 1 つ以上の **Exchange** ジャーナルメールボックス、**Exchange** パブリックフォルダ、**SharePoint** サイトコレクション、**Domino** ジャーナルの場所、**SMTP** アーカイブ対象、**Skype for Business** アーカイブ対象、**SMTP** グループジャーナルプロビジョニンググループに、アーカイブが関連付けられている

この **cmdlet** により、アーカイブの削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

---

**注意:** 削除プロセスを停止したり、削除を取り消したりすることはできません。

---

Remove-EVArchive は WhatIf スイッチをサポートするため、変更を適用することなく変更後の状態を表示できます。

デフォルトでは、Remove-EVArchive は出力を生成しません。PassThru スイッチを使用すると、削除したアーカイブの詳細を表示する ArchiveInfo オブジェクトを返すことができます。

Remove-EVArchive は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

## 構文

```
Remove-EVArchive [-ArchiveId] <String> [-PassThru [<SwitchParameter>]]  
[-Confirm [<SwitchParameter>]] [-WhatIf [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 16-6 Remove-EVArchive パラメータ

パラメータ	説明
-ArchiveID (必須)	削除するアーカイブの ID。ID は Get-EVArchive cmdlet を使って取得できます。
-PassThru	削除するアーカイブの詳細を表示する ArchiveInfo オブジェクトを返します。デフォルトでは、この cmdlet は出力を生成しません。
-Confirm	cmdlet を実行する前に確認するように求められます。確認プロンプトを表示しないようにするには、-Confirm:\$False 構文を使います。構文にコロンの (:) を含める必要があります。
-WhatIf	cmdlet の実行結果のプレビューが表示されます。cmdlet は実際には実行されません。  WhatIf スイッチは、コマンドの実行時に発生する可能性があるエラーや警告も表示します。

## 例

- `Remove-EVArchive -ArchiveId "123...example.com"`  
「123...example.com」という ID のアーカイブを削除します。
- `Get-EVArchive -ArchiveName "ArchiveToBeDeleted" | Remove-EVArchive`  
`Get-EVArchive` で取得した `ArchiveInfo` オブジェクトを `Remove-EVArchive` にパイプして、アーカイブを削除します。
- `Remove-EVArchive -ArchiveId "123...example.com" -PassThru`  
「123...example.com」という ID のアーカイブを削除します。削除したアーカイブの詳細を表示する `ArchiveInfo` オブジェクトも返します。
- `Get-EVArchive -ArchiveName "ArchiveToBeDeleted" | Remove-EVArchive -WhatIf`  
`Get-EVArchive` で取得した `ArchiveInfo` オブジェクトを `Remove-EVArchive` にパイプします。コマンドの実行時にエラーや警告が発生する可能性を確認できます。エラーや警告が表示されない場合は、次のメッセージが表示されます。  
「この操作によってアーカイブ「ArchiveToBeDeleted」とこれに格納されるすべてのアイテムが完全に削除されます。この処理を実行すると、保持カテゴリオプション[このカテゴリの期限切れのアイテムが自動的に削除されないようにする]が上書きされます。この操作はキャンセルできません。」
- `Get-EVArchive -DeleteProtected:$false | Remove-EVArchive -Confirm:$false`

Get-EVArchive を使用して、削除から保護されていないすべてのアーカイブを取得し、Remove-EVArchive を使用して、それらのアーカイブを削除します。このコマンドは確認プロンプトも抑制します。

## 出力

Remove-EVArchive は何も出力しないか、-PassThru パラメータを指定すると修正された Veritas.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole タイプのオブジェクトを返します。Veritas.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole のプロパティを次に示します。

表 16-7 Symantec.EnterpriseVault.Admin.ArchiveInfo のプロパティ

名前	種類	説明
ArchiveId	文字列	削除するアーカイブの ID。
ArchiveName	文字列	削除するアーカイブの名前。
ArchiveType	EV_STG_API_ARCHIVE_TYPE	Enterprise Vault アーカイブの種類の列挙。設定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_JOURNAL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_MAILBOX</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_FILE_SYSTEM</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_INTERNETMAIL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_JOURNAL</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_MAILBOX</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_PUBLIC_FOLDER</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SHARED</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SHAREPOINT</li><li>■ ARCHIVE_TYPE_SMTF</li></ul>
DeleteExpiredItems	EV_STG_API_EXPIRE_ITEMS	Enterprise Vault の期限切れアイテムの列挙。設定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ DONT_EXPIRE_ITEMS</li><li>■ EXPIRE_ITEMS</li></ul>
DeleteProtected	ブール値	ユーザーが手動でアイテムをアーカイブから削除できる (\$false) かできないか (\$true) を示します。
OnHold	ブール値	アーカイブにリーガルホールドのアイテムを含める (\$true) か含めない (\$false) かを示します。

名前	種類	説明
Status	EV_STG_API_STATUS	Enterprise Vault アーカイブの状態の列挙。設定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ STS_AVAILABLE</li><li>■ STS_INBACKUPMODE</li><li>■ STS_TEMPORARILY_UNAVAILABLE</li><li>■ STS_UNAVAILABLE</li></ul>
RetentionPlanName	文字列	アーカイブに適用した保持計画の名前。

## 関連 cmdlet

- p.291 の「[Get-EVArchive](#)」を参照してください。
- p.301 の「[Set-EVArchive](#)」を参照してください。

# Set-EVArchive

Set-EVArchive は、ユーザーがアーカイブのアイテムを手動で削除できるかどうか、Enterprise Vault が保持期間の切れたアーカイブアイテムを自動的に削除できるかどうかなど、対象アーカイブのさまざまなプロパティを設定できます。管理コンソールで表示するアーカイブの説明と管理用のメモを指定することもできます。アーカイブに適用する保持計画を指定することもできます。-RetentionPlanName の値を空の文字列で指定すると、Set-EVArchive はアーカイブから既存の保持計画を削除します。

Set-EVArchive は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

## 構文

```
Set-EVArchive [[-ArchiveID] <String>] [-DeleteProtected [<Boolean>]]  
[-DeleteExpiredItems [<Boolean>]] [-Description [<String>]]  
[-AdminNote [<String>]] [-RetentionPlanName [<String>]] [-Force  
[<Boolean>]] [<CommonParameters>]
```

## パラメータ

表 16-8 Set-EVArchive パラメータ

パラメータ	説明
-ArchiveID (必須)	プロパティを設定するアーカイブの ID を指定します。必要な ID は Get-EVArchive cmdlet を使って取得できます。

パラメータ	説明
-DeleteProtected	ユーザーがアーカイブのアイテムを手動で削除することを許可するかどうかを指定します。ユーザーによるアイテムの削除を許可するには <code>\$false</code> に設定します。削除を許可しない場合は <code>\$true</code> に設定します。
-DeleteExpiredItem	保持期間の期限切れ後に、 <b>Enterprise Vault</b> にアーカイブ済みアイテムの自動削除を許可するかどうかを指定します。削除を許可しない場合は <code>\$false</code> に設定します。 <b>Enterprise Vault</b> による期限切れアイテムの削除を許可する場合は <code>\$true</code> に設定します。
-Description	管理コンソールのアーカイブプロパティに表示する簡潔な説明を入力します。
-AdminNote	管理コンソールのアーカイブプロパティに表示する管理用のメモを入力します。
-RetentionPlanName	<p>アーカイブに適用する保持計画の名前を指定します。</p> <p>アーカイブが他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドは影響を受けるすべてのアーカイブの保持計画を更新します。</p> <p><b>-RetentionPlanName</b> の値を空の文字列で指定すると、<b>Set-EVArchive</b> はアーカイブから既存の保持計画を削除します。</p> <p><b>Exchange</b> やインターネットメールアーカイブで、<b>Set-EVArchive</b> は、保持計画で定義した保持フォルダを作成または更新します。<b>Cmdlet</b> はまずアーカイブの使用する言語を判断し、この言語で保持フォルダ名を指定した場合は、それに応じてフォルダに名前を付けます。使用する言語が <b>Enterprise Vault</b> でサポートされていない場合、または <b>Enterprise Vault</b> で言語がサポートされているがそこにフォルダ名を指定していない場合、<b>Enterprise Vault</b> のデフォルト言語のフォルダ名が使用されます。</p> <p>アーカイブタスクが次にメールボックスの同期を実行するときに、指定した保持計画を適切なプロビジョニンググループの保持設定で上書きする場合があることに注意してください。<b>Exchange</b> メールボックスのアーカイブでは、これは <b>Exchange</b> メールボックスポリシーの設定の[全体ロック]オプションのチェックマークをはずした場合のみに該当します。</p>
-Force	確認メッセージを表示することなく、 <b>-RetentionPlanName</b> で指定した保持計画を適用します。

## 例

- `Set-EVArchive 14B...EVSERVER.LOCAL -DeleteProtected:$true -DeleteExpiredItems:$false`

ユーザーと **Enterprise Vault** による対象アーカイブのアイテムの削除を停止して、そのアーカイブをリーガルホールドに設定します。

- `Set-EVArchive 14B...EVSERVER.LOCAL -DeleteProtected:$false -AdminNote "Item deletion allowed $(get-date) by $(gc env:username) "`

ユーザーによる対象アーカイブのアイテムの手動削除を許可し、その管理用のメモを変更します。

- `Get-EVArchive localhost Domain¥User -OnHold $false | Set-EVArchive -DeleteProtected $true -DeleteExpiredItems $false -Description "Archive placed on hold $(get-date) by $(gc env:username) from $(gc env:computername) "`

`Get-EVArchive` は、リーガルホールドの状態ではなく、ユーザー `Domain¥User` が削除の権限を持つローカル **Enterprise Vault** サーバー上のアーカイブの一覧を生成します。`Get-EVArchive` は、アーカイブをホールドに設定し、それに応じてアーカイブの説明を設定する `Set-EVArchive` にその一覧を渡します。

- `Set-EVArchive 14B...EVSERVER.LOCAL -RetentionPlanName RPFForManagers`  
警告: このアーカイブは他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられています。このアーカイブの保持設定を変更すると、一覧表示されているアーカイブの保持設定が変更されます。

```
Express Vault Store¥A1
```

```
Express Vault Store¥A2
```

```
Express Vault Store¥A3
```

```
Confirm Do you want to continue? [Y] Yes [N] No [S] Suspend [?]
```

```
Help (default is "Y"): Y
```

処理対象アーカイブに保持計画「**RPFForManagers**」を適用します。アーカイブが他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドはまずアーカイブの一覧を表示し、続行の確認メッセージを表示します。「はい」を選択すると、コマンドは「**RPFForManagers**」と呼ばれる保持計画を一覧表示したアーカイブに適用します。「**N**」または「**S**」を選択すると、コマンドは変更を適用せずに終了します。

- `Set-EVArchive 14B...EVSERVER.LOCAL -RetentionPlanName RPFForManagers -Force`

「**RPFForManagers**」と呼ばれる保持計画を処理対象アーカイブに適用します。このアーカイブが他のアーカイブに関連付けられている 1 つ以上のターゲットに関連付けられている場合、このコマンドは確認メッセージを表示することなく、影響を受けるすべてのアーカイブの保持計画の更新に続行します。

- `Set-EVArchive 14B...EVSERVER.LOCAL -RetentionPlanName ""`  
処理対象アーカイブに以前適用された保持計画を削除します。保持計画を削除すると、アーカイブターゲットの有効な保持カテゴリが使用されます。

出力

表 16-9 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 16-9 Set-EVArchive プロパティ

名前	種類	説明
ArchiveId	文字列	変更するアーカイブの <code>ArchiveId</code> 。
ArchiveName	文字列	変更するアーカイブの名前。
Updated	Boolean	アーカイブが <code>cmdlet</code> によって更新されたかどうかを示します。設定可能な値は、 <code>\$true</code> (アーカイブは更新されました)、 <code>\$false</code> (アーカイブは更新されませんでした) です。

関連 cmdlet

- p.291 の「[Get-EVArchive](#)」を参照してください。
- p.298 の「[Remove-EVArchive](#)」を参照してください。

Start-PartitionRollover

`Start-PartitionRollover` は、指定されているボルトストアのオープンパーティションを強制的にクローズし、準備完了状態の最初のパーティションがある場合はそれをオープンします。パーティションロールオーバーを強制的に行うボルトストアに対してストレージサービスを実行するサーバーも指定する必要があります。

`Start-PartitionRollover` は、  
`Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` スナップインから利用できません。

構文

```
Start-PartitionRollover [-EVServerName] <String> [-VaultStore]
<String> [<CommonParameters>]
```



## パラメータ

表 16-10 Start-PartitionRollover パラメータ

パラメータ	説明
-EVServerName (必須)	パーティションロールオーバーを強制的に行うボルトストアに対してストレージサービスを実行する Enterprise Vault サーバー。
-VaultStore (必須)	強制的にパーティションロールオーバーを行うボルトストアの名前または ID。

## 例

- Start-PartitionRollover EVServer-Win2k3 VS1  
Enterprise Vault サーバー EVServer-Win2k3 に接続して、ボルトストア VS1 でこのサーバー上のストレージサービスが使われていることを確認します。使われている場合、Start-PartitionRollover によって、強制的にボルトストア VS1 のパーティションロールオーバーが行われます。

## 出力

完了時に確認メッセージが表示されます。